鹿児島県

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(109)

山ノ田遺跡B地点・松ヶ尾遺跡
蕨野B遺跡・谷ヶ迫遺跡

二〇〇七年三月　鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（109）

一般県道飯野松山都城線改修（地域高規格道路建設）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（I）

YAMANODA
山ノ田遺跡B地点

WARABINO
蕨野B遺跡

MATSUGAO
松ヶ尾遺跡

TANIGASAKO
谷ヶ迫遺跡

2007年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

山ノ田遺跡Ｂ地点

蕨　野　B　遺　跡

松　ヶ　尾　遺　跡

谷　ヶ　迫　遺　跡

序　　文

この報告書は，一般県道飯野松山都城線改修に伴って，平成12年度から平成16年度にかけて実施した山ノ田遺跡Ｂ地点，蕨野Ｂ遺跡，松ヶ尾遺跡，谷ヶ迫遺跡の４遺跡の発掘調査の記録です。

山ノ田遺跡Ｂ地点，蕨野Ｂ遺跡は志布志市松山町（旧曽於郡松山町）に，松ヶ尾遺跡，谷ヶ迫遺跡は志布志市有明町（旧曽於郡有明町）に所在し，台地上に位置しています。

それぞれの遺跡で縄文時代の遺物が出土し，集石遺構などが発見されました。特に蕨野Ｂ遺跡では縄文時代早期の土器が多く出土し，加えて石器の製作跡も確認されています。

本報告書が，県民の皆様はじめ多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に，調査にあたりご協力いただいた県土木部道路建設課並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚くお礼申し上げます。

平成19年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　　宮　原　景　信

報告書抄録

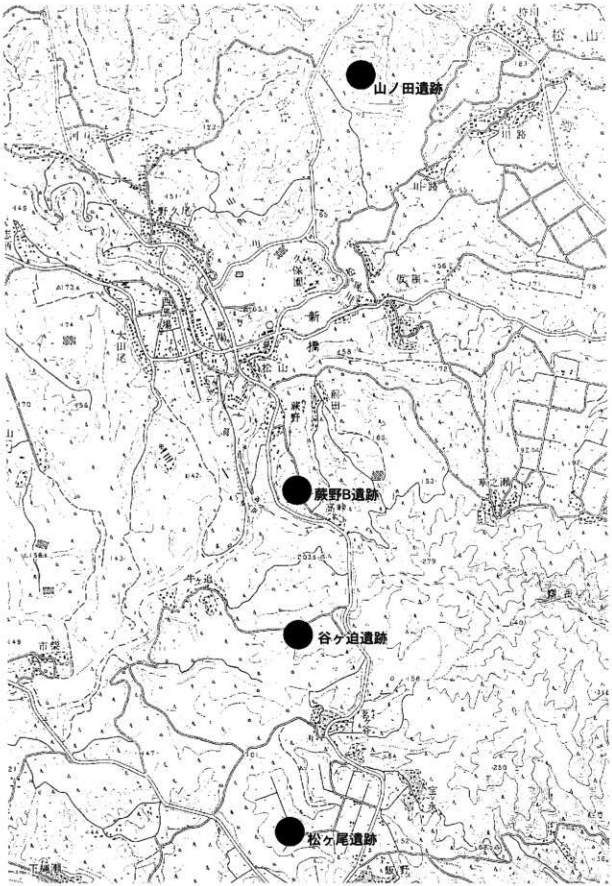
ふりがな	やまのだいせきぴーちてん・わらびのびーいせき・まつがおいせき・たにがさこいせき
書名	山ノ田遺跡Ｂ地点・蕨野Ｂ遺跡・松ヶ尾遺跡・谷ヶ迫遺跡
副書名	一般県道飯野松山都城線改修（地域高規格道路建設）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅰ
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	109
編著者名	久保田昭二・宗岡克英・湯之前尚・山崎克之
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899－4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号　℡0995－48－5811
発行年月日	2007年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査起因
山ノ田遺跡Ｂ地点 （やまのだいせきぴーちてん）	鹿児島県 志布志市 （しぶしし）	462217	67-26-0	31° 35′ 17″	131° 03′ 00″	20001211～ 20010126	1,000	一般県道飯野松山都城線改修（地域高規格道路建設）
蕨野Ｂ遺跡 （わらびのびーいせき）	松山町 （まつやまちょう）		67-93-0	31° 33′ 28″	131° 02′ 52″	20031201～ 20040213 20040506～ 20050128	5,000 12,000	
松ヶ尾遺跡 （まつがおいせき）	鹿児島県 志布志市 （しぶしし）		69-2-0	31° 35′ 17″	131° 02′ 37″	20031104～ 20040109	2,000	
谷ヶ迫遺跡 （たにがさこいせき）	有明町 （ありあけちょう）		69-125-0	31° 35′ 17	131° 02′ 17	20030820～ 20031010	450	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山ノ田遺跡Ｂ地点	散布地	縄文早期	集石　６基 土坑　１基	吉田式土器・塞ノ神式土器 石鏃・石匙・磨石・剥片など	
蕨野Ｂ遺跡	散布地	旧石器 縄文早期	礫群　５基 ブロック　15基 集石　38基 ブロック　18基 土坑　２基	ナイフ形石器・三稜尖頭器 台形石器・剥片など 吉田式土器・石坂式土器 下剥峯式土器・塞ノ神式土器・石鏃・打製石斧・磨製石斧・磨石・叩石・礫器など	
		縄文中・後期	集石　１基	阿高式土器・指宿式土器 磨石など	
		弥生中期		入来式土器	
松ヶ尾遺跡	散布地	縄文早期	集石　９基	前平式土器・石坂式土器 塞ノ神式土器・石鏃・磨製石斧・剥片など	
		縄文晩期	土坑　１基	黒川式土器・石鏃・石斧 剥片など	
		古代	掘立柱建物跡　１棟 溝状遺構　３条 道跡遺構　１条		
谷ヶ迫遺跡	散布地	縄文後期 縄文晩期		指宿式土器・剥片など 黒川式土器・夜臼式土器 磨石・剥片など	

概要

山ノ田遺跡Ｂ地点では，縄文時代早期の集石が集中して検出された。
蕨野Ｂ遺跡は，旧松山町においては最初の本格的な旧石器時代の遺跡で，ブロックや礫群等が検出された。縄文時代早期では，多くの集石や，石鏃の製作ブロックが検出された。特に，石坂式土器の存在が特筆される。
松ヶ尾遺跡では，縄文時代早期の集石，縄文時代晩期の土器が発見され，古代の総柱建物跡が１棟検出された。
谷ヶ迫遺跡では，縄文時代後・晩期の土器細片が出土した。



本報告書の遺跡の位置

例　　言

1　本書は，一般県道飯野松山都城線改修（地域高規格道路建設）に伴う山ノ田遺跡Ｂ地点，蔵野Ｂ遺跡，松ヶ尾遺跡，谷ヶ迫遺跡の発掘調査報告書である。

2　山ノ田遺跡Ｂ地点，蔵野Ｂ遺跡は，鹿児島県志布志市松山町（旧曽於郡松山町）に所在する。松ヶ尾遺跡，谷ヶ迫遺跡は，鹿児島県志布志市有明町（旧曽於郡有明町）に所在する。

3　発掘調査及び報告書作成（整理作業）は，県土木部道路建設課から鹿児島県教育委員会が依頼を受け，鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。

4　山ノ田遺跡Ｂ地点の発掘調査は，平成12年12月11日から13年１月26日まで，蔵野Ｂ遺跡の発掘調査は，平成15年12月１日から16年２月13日，平成16年５月６日から17年１月28日まで，松ヶ尾遺跡の発掘調査は，平成15年11月４日から16年１月９日まで，谷ヶ迫遺跡の発掘調査は，平成15年８月20日から15年10月10日まで実施し，整理作業・報告書作成は，平成17・18年度に実施した。

5　遺物番号は，遺跡ごとに通し番号とし，本文・挿図表・図版の番号は一致する。

6　挿図の縮尺は，各図面に示した。

7　本書で用いたレベル数値は，県土木部が提示した工事計画図面に基づく海抜絶対高である。

8　発掘調査における図面の作成，写真の撮影は，調査担当者が行った。

9　土器の実測・トレースは，整理作業員の協力を得て整理担当者が行った。

10　石器の実測・トレースは，整理作業員の協力を得て整理担当者が行った。一部は，大成エンジニアリング株式会社に委託し，監修は宗岡克英が行った。

11　蔵野Ｂ遺跡から出土した炭化物の放射性炭素年代測定は，株式会社加速器分析研究所に委託した。

12　遺物の写真撮影は，西園勝彦が行った。

13　本書の執筆・編集は，山ノ田遺跡Ｂ地点を久保田昭二が，蔵野Ｂ遺跡を宗岡と山崎克之が，松ヶ尾遺跡を宗岡が，谷ヶ迫遺跡を湯之前尚が担当した。

14　遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示・活用する予定である。なお，山ノ田遺跡Ｂ地点，蔵野Ｂ遺跡，松ヶ尾遺跡，谷ヶ迫遺跡の遺物注記の略号は，それぞれ山Ｂ，ＷＢ，ＭＧＯ，ＴＧＳである。

総目次

序文
報告書抄録
例言
目次
Ⅰ　発掘調査の経緯 …… 2
第１章　調査に至るまでの経緯 …… 2
第２章　調査の組織 …… 2
第３章　調査の経緯 …… 3
第１節　確認調査 …… 3
第２節　本調査 …… 3
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 5
第１章　地理的・自然的環境 …… 5
第２章　歴史的環境 …… 5
Ⅲ　層序 …… 9
Ⅳ　山ノ田遺跡Ｂ地点 …… 15
第１章　調査の概要 …… 15
第２章　縄文時代早期の調査 …… 17
第１節　概要 …… 17
第２節　遺構 …… 17
第３節　遺物 …… 17
Ⅴ　蕨野Ｂ遺跡 …… 33
第１章　調査の概要 …… 33
第２章　旧石器時代の調査 …… 35
第１節　概要 …… 35
第２節　遺構 …… 35
第３節　遺物 …… 37
第３章　縄文時代早期の調査 …… 45
第１節　概要 …… 45
第２節　遺構 …… 45
第３節　遺物 …… 71
第４章　縄文時代後期・晩期の調査 …… 136
第１節　概要 …… 136
第２節　遺構 …… 136
第３節　遺物 …… 136
第５章　弥生時代・古代の調査 …… 140
第１節　概要 …… 140
第２節　土器 …… 140
第６章　小結 …… 142
Ⅵ　松ヶ尾遺跡 …… 143
第１章　調査の概要 …… 143
第２章　縄文時代早期の調査 …… 143
第１節　概要 …… 143
第２節　遺構 …… 143
第３節　遺物 …… 150
第３章　縄文時代晩期の調査 …… 161
第１節　概要 …… 161
第２節　遺構 …… 161
第３節　遺物 …… 161
第４章　古代以降の調査 …… 172
第１節　概要 …… 172
第２節　遺構 …… 172
第３節　遺物 …… 175
第５章　小結 …… 176
Ⅶ　谷ヶ迫遺跡 …… 177
第１章　調査の概要 …… 177
第２章　縄文時代早期の調査 …… 179
第３章　縄文時代後期の調査 …… 179
第４章　縄文時代晩期の調査 …… 183
第５章　Ⅲ層出土石器 …… 186
第６章　小結 …… 188
Ⅷ　まとめ …… 189

挿図目次

第１図　周辺遺跡位置図 …… 7
第２図　山ノ田遺跡Ｂ地点土層断面図 …… 10
第３図　蕨野Ｂ遺跡土層断面図(1) …… 11
第４図　蕨野Ｂ遺跡土層断面図(2) …… 12
第５図　松ヶ尾遺跡土層断面図 …… 13
第６図　谷ヶ迫遺跡土層断面図 …… 14

山ノ田遺跡Ｂ地点

第７図　山ノ田遺跡周辺地形図 …… 15
第８図　山ノ田遺跡グリッド配置図 …… 16
第９図　縄文時代早期遺構配置図 …… 17
第10図　縄文時代早期集石実測図(1) …… 18
第11図　縄文時代早期集石実測図(2) …… 19
第12図　縄文時代早期集石・土坑実測図 …… 20
第13図　縄文時代早期土器出土状況図 …… 21
第14図　第Ⅰ・Ⅱ類土器実測図 …… 22
第15図　第Ⅲ・Ⅳ類土器実測図 …… 23
第16図　第Ⅴ類土器実測図 …… 24
第17図　第Ⅵ類土器実測図 …… 25
第18図　第Ⅶ類土器実測図(1) …… 26
第19図　第Ⅶ類土器実測図(2) …… 27
第20図　第Ⅷ類土器実測図 …… 28
第21図　縄文時代早期石器実測図(1) …… 29
第22図　縄文時代早期石器出土状況図 …… 30
第23図　縄文時代早期石器実測図(2) …… 31
第24図　縄文時代早期石器実測図(3) …… 32

蕨野Ｂ遺跡

第25図　蕨野Ｂ遺跡周辺地形図 …… 33
第26図　蕨野Ｂ遺跡グリッド配置図 …… 34
第27図　礫群出土状況図 …… 35

第28図　旧石器時代礫群実測図 …… 36
第29図　旧石器時代石器出土状況図 …… 37
第30図　旧石器時代石器実測図(1) …… 38
第31図　旧石器時代石器実測図(2) …… 39
第32図　旧石器時代石器実測図(3) …… 40
第33図　旧石器時代石器実測図(4) …… 41
第34図　旧石器時代石器実測図(5) …… 42
第35図　旧石器時代石器実測図(6) …… 43
第36図　旧石器時代石器実測図(7) …… 44
第37図　1・4エリア遺構配置図 …… 47
第38図　2a・2b・3エリア遺構配置図 …… 48
第39図　1エリア（1～4号）集石実測図 …… 49
第40図　1エリア（5号）・2aエリア（6・7号）
集石実測図 …… 50
第41図　2aエリア（8・9号）集石実測図(1) …… 51
第42図　2aエリア（10・11号）集石実測図(2) …… 52
第43図　2aエリア（12・13号）集石実測図(3) …… 53
第44図　2aエリア（14号）集石実測図(4) …… 54
第45図　2aエリア（15号）集石実測図(5) …… 55
第46図　2aエリア（16号）集石実測図(6) …… 56
第47図　2aエリア（17号）集石実測図(7) …… 57
第48図　2aエリア（18～21号）集石実測図(8) …… 58
第49図　2aエリア（22～24号）集石実測図(9) …… 59
第50図　2bエリア（25～27号）集石実測図(1) …… 60
第51図　2bエリア（28号）集石実測図(2) …… 61
第52図　2bエリア（29号）集石実測図(3) …… 62
第53図　2bエリア（30号）集石実測図(4) …… 63
第54図　2bエリア（31号）集石実測図(5) …… 64
第55図　3エリア（32号）・4エリア（33号）
集石実測図 …… 65
第56図　4エリア（34・35号）集石実測図(1) …… 66
第57図　4エリア（36・37号）集石実測図(2) …… 67
第58図　4エリア（38号）集石実測図(3) …… 68
第59図　土坑実測図 …… 69
第60図　第Ⅰ類土器出土状況図 …… 70
第61図　第Ⅰ類土器実測図 …… 71
第62図　第Ⅱa、Ⅱb類土器出土状況図 …… 72
第63図　第Ⅱa類土器実測図(1) …… 73
第64図　第Ⅱa類土器実測図(2) …… 74
第65図　第Ⅱa類土器実測図(3) …… 75
第66図　第Ⅱa類土器実測図(4) …… 77
第67図　第Ⅱb類土器実測図 …… 78
第68図　第Ⅱc類土器出土状況図 …… 79
第69図　第Ⅱc類土器実測図 …… 80
第70図　第Ⅲ類土器出土状況図 …… 81
第71図　第Ⅲ類土器実測図 …… 82
第72図　第Ⅳa類土器出土状況図 …… 83
第73図　第Ⅳa類土器実測図(1) …… 84
第74図　第Ⅳa類土器実測図(2) …… 85
第75図　第Ⅳb類土器出土状況図 …… 86
第76図　第Ⅳb類土器実測図(1) …… 87
第77図　第Ⅳb類土器実測図(2) …… 88
第78図　第Ⅳb類土器実測図(3) …… 89
第79図　第Ⅳb類土器実測図(4) …… 90
第80図　第Ⅳb類土器実測図(5) …… 91
第81図　第Ⅳb類土器実測図(6) …… 92
第82図　第Ⅳc類土器出土状況図 …… 94
第83図　第Ⅳc類土器実測図(1) …… 95
第84図　第Ⅳc類土器実測図(2) …… 96
第85図　第Ⅳd、Ⅳe類土器出土状況図 …… 97
第86図　第Ⅳd類土器実測図(1) …… 98
第87図　第Ⅳd類土器実測図(2) …… 99
第88図　第Ⅳe類土器実測図(1) …… 101
第89図　第Ⅳe類土器実測図(2) …… 102
第90図　第Ⅴ～Ⅶ類土器出土状況図 …… 104
第91図　第Ⅴ類土器実測図 …… 105
第92図　第Ⅵ類土器実測図 …… 105
第93図　第Ⅶ類土器実測図 …… 106
第94図　第Ⅷ、Ⅸ類土器出土状況図 …… 107
第95図　第Ⅷ類土器実測図 …… 108
第96図　第Ⅸ類土器実測図 …… 109
第97図　第Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、ⅩⅢa、ⅩⅢb類
土器出土状況図 …… 111
第98図　第Ⅹ類土器実測図 …… 112
第99図　第Ⅺ類土器実測図(1) …… 113
第100図　第Ⅺ類土器実測図(2) …… 114
第101図　第Ⅺ類土器実測図(3) …… 115
第102図　第Ⅻ類土器実測図 …… 115
第103図　第ⅩⅢa類土器実測図 …… 117
第104図　第ⅩⅢb類土器実測図 …… 117
第105図　1・4エリア石器出土状況図 …… 118
第106図　2・3エリア石器出土状況図 …… 119
第107図　1エリア出土石器実測図 …… 120
第108図　2エリア出土石器実測図(1) …… 122
第109図　2エリア出土石器実測図(2) …… 123
第110図　2エリア出土石器実測図(3) …… 124
第111図　2エリア出土石器実測図(4) …… 125
第112図　2エリア出土石器実測図(5) …… 126
第113図　2エリア出土石器実測図(6) …… 127
第114図　2エリア出土石器実測図(7) …… 128
第115図　2エリア出土石器実測図(8) …… 129
第116図　3エリア出土石器実測図(1) …… 130
第117図　3エリア出土石器実測図(2) …… 131
第118図　4エリア出土石器実測図(1) …… 133
第119図　4エリア出土石器実測図(2) …… 134
第120図　4エリア・その他出土石器実測図 …… 135

第121図　縄文時代後期集石実測図 …… 136
第122図　縄文時代後期・晩期土器実測図 …… 137
第123図　縄文時代後期・晩期土器・石器出土状況図 …… 138
第124図　縄文時代後期・晩期出土石器実測図 …… 139
第125図　弥生時代・古代土器出土状況図 …… 140
第126図　弥生時代・古代土器実測図 …… 141

松ヶ尾遺跡

第127図　松ヶ尾遺跡周辺地形図 …… 143
第128図　松ヶ尾遺跡グリッド配置図 …… 144
第129図　松ヶ尾遺跡縄文時代早期集石位置図 …… 145
第130図　縄文時代早期集石実測図(1) …… 146
第131図　縄文時代早期集石実測図(2) …… 147
第132図　縄文時代早期集石実測図(3) …… 148
第133図　縄文時代早期集石実測図(4) …… 149
第134図　第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類土器出土状況図 …… 151
第135図　第Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ類土器出土状況図 …… 152
第136図　第Ⅰ・Ⅱ類土器実測図 …… 153
第137図　第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類土器実測図 …… 154
第138図　第Ⅶ類土器実測図 …… 155
第139図　第Ⅷ類土器実測図(1) …… 156
第140図　第Ⅷ類土器実測図(2) …… 157
第141図　縄文時代石器出土状況図 …… 159
第142図　縄文時代早期石器実測図 …… 160
第143図　縄文時代晩期遺構配置図 …… 161
第144図　縄文時代晩期遺構実測図 …… 162
第145図　遺構内遺物実測図(1) …… 162
第146図　土器集中部実測図 …… 162
第147図　縄文時代晩期土器出土状況図 …… 163
第148図　縄文時代晩期土器実測図(1) …… 164
第149図　縄文時代晩期土器実測図(2) …… 165
第150図　縄文時代晩期土器実測図(3) …… 166
第151図　縄文時代晩期土器実測図(4) …… 167
第152図　Ⅲａ層出土石器実測図(1) …… 169
第153図　Ⅲａ層出土石器実測図(2) …… 170
第154図　Ⅲａ層出土石器出土状況図 …… 171
第155図　古代以降遺構配置図 …… 172
第156図　遺構断面図 …… 173
第157図　遺構内遺物実測図(2) …… 173
第158図　掘立柱建物跡実測図 …… 174
第159図　柱穴内遺物実測図 …… 174
第160図　古代以降遺物実測図 …… 175

谷ヶ迫遺跡

第161図　谷ヶ迫遺跡周辺地形図 …… 177
第162図　谷ヶ迫遺跡グリッド配置図 …… 178
第163図　縄文時代早期土器実測図 …… 179
第164図　縄文時代後期土器実測図(1) …… 179
第165図　縄文時代後期土器出土状況図 …… 180
第166図　縄文時代後期土器実測図(2) …… 181
第167図　縄文時代晩期土器出土状況図 …… 182
第168図　縄文時代晩期土器実測図(1) …… 183
第169図　縄文時代晩期土器実測図(2) …… 184
第170図　Ⅲ層出土石器 …… 186
第171図　Ⅲ層石器出土状況図 …… 187

表目次

第１表　周辺遺跡地名表 …… 8

山ノ田遺跡Ｂ地点

第２表　縄文時代早期集石観察表(1) …… 18
第３表　縄文時代早期集石観察表(2) …… 19
第４表　縄文時代早期集石観察表(3) …… 20
第５表　縄文時代早期土器観察表(1) …… 22
第６表　縄文時代早期土器観察表(2) …… 24
第７表　縄文時代早期土器観察表(3) …… 25
第８表　縄文時代早期土器観察表(4) …… 27
第９表　縄文時代早期石器観察表 …… 30

蕨野Ｂ遺跡

第10表　旧石器時代礫群観察表 …… 36
第11表　旧石器時代石器観察表(1) …… 40
第12表　旧石器時代石器観察表(2) …… 40
第13表　旧石器時代石器観察表(3) …… 41
第14表　旧石器時代石器観察表(4) …… 41
第15表　旧石器時代石器観察表(5) …… 43
第16表　旧石器時代石器観察表(6) …… 43
第17表　縄文時代早期集石観察表(1) …… 54
第18表　縄文時代早期集石観察表(2) …… 61
第19表　縄文時代早期土器観察表(1) …… 71
第20表　縄文時代早期土器観察表(2) …… 76
第21表　縄文時代早期土器観察表(3) …… 78
第22表　縄文時代早期土器観察表(4) …… 85
第23表　縄文時代早期土器観察表(5) …… 91
第24表　縄文時代早期土器観察表(6) …… 92
第25表　縄文時代早期土器観察表(7) …… 93
第26表　縄文時代早期土器観察表(8) …… 96
第27表　縄文時代早期土器観察表(9) …… 100
第28表　縄文時代早期土器観察表(10) …… 103
第29表　縄文時代早期土器観察表(11) …… 106
第30表　縄文時代早期土器観察表(12) …… 110
第31表　縄文時代早期土器観察表(13) …… 116
第32表　縄文時代早期石器観察表(1) …… 121
第33表　縄文時代早期石器観察表(2) …… 128

第34表　縄文時代早期石器観察表(3) …… 129
第35表　縄文時代早期石器観察表(4) …… 132
第36表　縄文時代石器　器種別出土数 …… 135
第37表　縄文時代早期石器石材別出土数 …… 135
第38表　縄文時代後期・晩期土器観察表 …… 138
第39表　縄文時代後期・晩期石器観察表 …… 138
第40表　弥生時代・古代土器観察表 …… 140

松ヶ尾遺跡

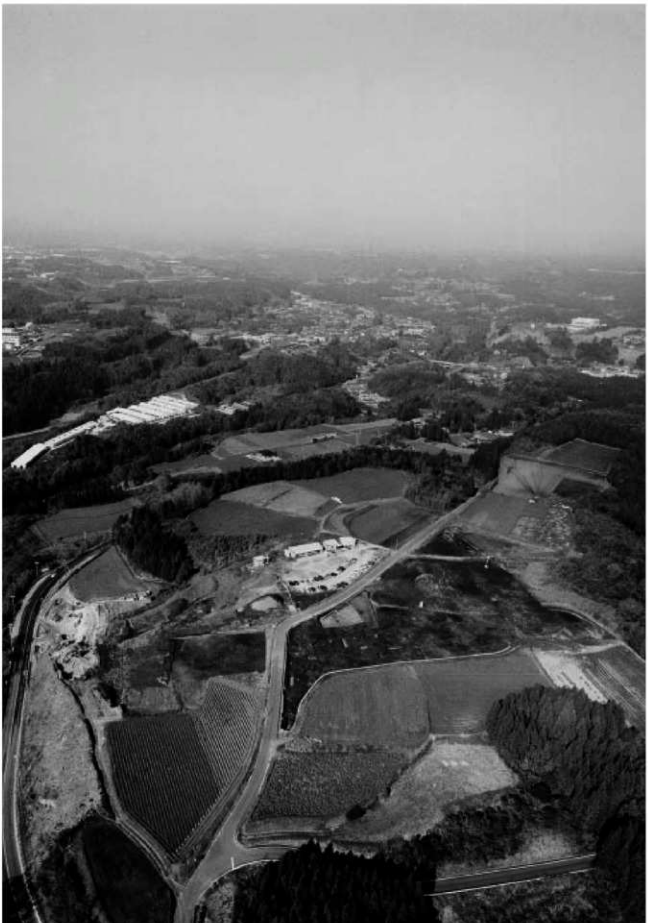
第41表　縄文時代早期集石観察表 …… 149
第42表　縄文時代早期土器観察表(1) …… 152
第43表　縄文時代早期土器観察表(2) …… 155
第44表　縄文時代早期土器観察表(3) …… 157
第45表　縄文時代早期土器観察表(4) …… 158
第46表　縄文時代早期石器観察表 …… 159
第47表　遺構内遺物観察表(1) …… 162
第48表　縄文時代晩期土器観察表(1) …… 167
第49表　縄文時代晩期土器観察表(2) …… 168
第50表　Ⅲａ層出土石器観察表 …… 171
第51表　遺構内遺物観察表(2) …… 173
第52表　掘立柱建物跡計測表 …… 175
第53表　柱穴内埋土注記 …… 175
第54表　古代以降土器観察表 …… 176

谷ヶ迫遺跡

第55表　縄文時代早期・後期土器観察表 …… 181
第56表　縄文時代晩期土器観察表 …… 185
第57表　Ⅲ層石器観察表 …… 187

図版目次

蕨野Ｂ遺跡遠景 …… 1
山ノ田遺跡Ｂ地点図版 …… 191
集石・土坑 …… 図版１
縄文時代土器(1) …… 図版２
縄文時代土器(2) …… 図版３
縄文時代石器 …… 図版４
蕨野Ｂ遺跡図版 …… 195
調査風景ほか …… 図版５
３号集石ほか …… 図版６
集石ほか …… 図版７
旧石器時代石器 …… 図版８
縄文時代土器(1) …… 図版９
縄文時代土器(2) …… 図版10
縄文時代土器(3) …… 図版11
縄文時代土器(4) …… 図版12
縄文時代土器(5) …… 図版13
縄文時代土器(6) …… 図版14
弥生時代・古代土器 …… 図版15
縄文時代石器(1) …… 図版16
縄文時代石器(2) …… 図版17
松ヶ尾遺跡図版 …… 208
３号集石ほか …… 図版18
縄文時代土器(1) …… 図版19
縄文時代土器(2) …… 図版20
縄文時代土器(3) …… 図版21
古代以降土器・石器 …… 図版22
縄文時代石器 …… 図版23
谷ヶ迫遺跡図版 …… 214
縄文時代土器・石器 …… 図版24



蕨野Ｂ遺跡遠景

Ⅰ　発掘調査の経緯

第１章　調査に至るまでの経過

県土木部（大隅土木事務所）は，「一般県道飯野松山都城線改修事業」の計画実施に先立って，対象地域内における埋蔵文化財の有無について，県教育委員会文化財課（以下文化財課）に照会した。これを受けて，文化財課が平成９年度に分布調査を実施したところ，事業区域内に原村Ⅰ・Ⅱ遺跡，西原遺跡，牧ノ原Ｂ遺跡，山ノ田遺跡，蕨野Ｂ遺跡，松ヶ尾遺跡，谷ヶ迫遺跡の存在が判明した。

分布調査の結果を受けて，県土木部道路建設課（以下道路建設課）・末吉町教育委員会・松山町教育委員会・文化財課により協議した結果，対象地域内の遺跡の範囲と性格を把握するために当該地域内において確認調査を実施することとした。

平成11年度に原村Ⅰ・Ⅱ，西原，牧ノ原Ｂ，山ノ田，蕨野Ｂ遺跡の確認調査を実施し（蕨野Ｂ遺跡の確認調査は松山町（現志布志市）教育委員会が実施），平成14・15年度に松ヶ尾，谷ヶ迫遺跡の確認調査を実施した。

山ノ田遺跡については，Ａ地点とＢ地点の２か所遺跡の存在が確認された。今回の調査において，Ｂ地点については本調査を実施し該当地区の調査を終了した。

確認調査の結果，西原遺跡は13年度，原村Ⅰ・Ⅱ遺跡・牧ノ原Ｂ遺跡は14年度に本調査を実施し，谷ヶ迫遺跡・松ヶ尾遺跡は15年度に，蕨野Ｂ遺跡は15・16年度にそれぞれ本調査を実施した。山ノ田遺跡については，Ａ地点の調査を12年度に松山町（現志布志市）教育委員会が調査を実施した。また，原村Ⅱ遺跡についても一部を末吉町（現曽於市教育委員会）が調査を実施した。報告書は，原村Ⅱ遺跡については15年度に刊行済みであり，山ノ田遺跡Ａ地点については志布志市が刊行予定である。

第２章　調査の組織

平成11・12年度（確認調査）

事業主体　鹿児島県土木部大隅土木事務所

調査主体

県立埋蔵文化財センター　所長　吉永　和人

調査企画

次長兼総務課長　黒木　友幸

調査課長（平成11年度）　戸崎　勝洋

調査課長補佐兼第一調査係長

（平成12年度より調査課長）　新東　晃一

調査課長補佐（平成12年度）　立神　次郎

主任文化財主事兼第一調査係長　青崎　和憲

主任文化財主事　中村　耕治

調査担当

文化財主事　鵜田　靜彦

文化財主事　西郷　吉郎

文化財研究員　宗岡　克英

文化財研究員　西園　勝彦

調査事務

総務係長　有村　資

主　事　溜池　佳子

平成13・14・15・16年度（確認・本調査）

事業主体　鹿児島県土木部大隅土木事務所

調査主体

県立埋蔵文化財センター所長

（平成13・14年度）　井上　明文

（平成15・16年度）　木原　俊孝

調査企画

次長兼総務課長

（平成13年度）　黒木　友幸

（平成14・15年度）　田中　文雄

（平成16年度）　賞雅　彰

主任文化財主事兼調査課長　新東　晃一

調査課長補佐　立神　次郎

主任文化財主事兼第一調査係長

（平成13年度）　青崎　和憲

（平成14～16年度）　池畑　耕一

主任文化財主事　中村　耕治

調査担当

文化財主事（平成14年度）　鵜田　靜彦

文化財主事（平成14年度）　堂込　秀人

文化財主事（平成16年度）　湯之前　尚

文化財主事（平成13～15年度）　松尾　勉

文化財主事（平成13～15年度）　宗岡　克英

文化財主事（平成16年度）　山崎　克之

文化財主事（平成14年度）　三垣　恵一

文化財主事（平成14年度）　黒川　忠広

文化財研究員（平成15年度）　川元　禎久

文化財研究員（平成13年度）　横手浩二郎

文化財研究員（平成13・15年度）　上床　真

調査事務

総務係長（平成13・14年度）　前田　昭信

（平成15・16年度）　平野　浩二

主　査（平成13・14年度）　栗山　和己

（平成15・16年度）　福山恵一郎

調査指導

平成16年11月18日

鹿児島大学法文学部助教授　本田　道輝

平成17年1月13日

鹿児島大学法文学部教授　森脇　広

労務管理委託

（平成15年度蕨野B遺跡）

新和技術コンサルタント株式会社

（平成16年度８月まで蕨野B遺跡）

国際航業株式会社

（平成16年度９月から蕨野B遺跡）

大成エンジニアリング株式会社

平成18年度（報告書作成）

事業主体　鹿児島県土木部大隅土木事務所

調査主体

県立埋蔵文化財センター　所長

（平成18年７月31日まで）　上今　常雄

（平成18年８月１日から）　宮原　景信

調査企画

次長兼総務課長　有川　昭人

次長兼南の縄文調査室長　新東　晃一

調査第一課長　池畑　耕一

主任文化財主事兼調査第一課第一調査係長

兼南の縄文調査室長補佐　長野　眞一

報告書作成担当

文化財主事　宗岡　克英

報告書作成事務

総務係長　寄井田正秀

主　事　田之畑美幸

第３章　調査の経緯

第１節　確認調査

確認調査は，原村Ⅰ・Ⅱ，西原，牧ノ原遺跡について平成11年11月８日から12年１月21日まで実施した。結果，旧石器時代から縄文時代早期・晩期の包含層が確認された。

12年度は，山ノ田遺跡の確認調査を平成12年12月11日から13年１月26日まで実施した。確認調査の結果，旧石器時代から縄文時代早期の包含層が確認された。また，蕨野B遺跡の確認調査は松山町教育委員会が平成13年２月２日から３月22日まで実施した。その結果，旧石器時代から縄文時代早期・後期の包含層が確認された。

14年度は松ヶ尾遺跡の確認調査が実施され，縄文時代早期・後期の包含層が確認された。

15年度は谷ヶ迫遺跡の確認調査が実施された。その結果，縄文時代後期・晩期の包含層が確認されたが，その面積が狭かったため，本調査まで実施した。

第２節　本調査

各遺跡の本調査の状況について簡単に触れておく。また，本報告書記載の遺跡については，併せて日誌抄も載せておく。

原村Ⅰ遺跡（平成14年９月９日～11月28日）

縄文時代早期後葉に該当する集石が１基検出された。その他には該当する時期の遺構は存在しなかった。早期時期の遺物は中葉に位置付けされる石坂式土器，後葉に位置づけされる塞ノ神式土器が出土している。石器に関しては石鏃・磨石等が出土した。

縄文時代晩期については，該当する土器片が出土した。

時期不明の遺構として掘立柱建物跡１棟・土坑５基・古道５条がある。いずれもⅢ層上面で検出された。古代の内黒土師器が出土しているので古代の時期が考えられるが，それ以後の可能性もある。

原村Ⅱ遺跡（平成14年11月５日～11月27日）

縄文時代早期前葉の前平式土器と後葉の平栫式土器が出土した。集石も１基検出したが，時期は不明である。

原村Ⅱ遺跡については，確認補充トレンチを設定して遺跡範囲の絞り込みを行い本調査を実施した。その結果，今回の調査において調査必要面積が10,500㎡から3,100㎡に減少し，そのうち500㎡を今回埋蔵文化財センターが調査し，残った2,600㎡については末吉町教育委員会が調査を実施した。

西原遺跡（平成13年10月９日～14年３月６日）

旧石器時代のブロックが２か所検出された。三稜尖頭器と近くで出土したフレーク・チップが接合したため，三稜尖頭器製作場所と考えられる。

縄文時代早期に関しては，集石20基と土坑４基が検出された。これらの遺構に伴って前葉から後葉までの土器が出土した。そのため，遺構の時期ははっきりしなかった。そのほかに遺物としては，石鏃・磨石・石匙等が出土したが，やはり時期は不明である。

縄文時代後期から晩期の包含層から竪穴住居跡１軒・土坑19基が検出された。住居跡の埋土から後期に該当する中岳式土器が出土していることから後期の住居跡と考えられる。そのほかに，包含層中から晩期の黒川式土器も出土しているため土坑の時期は限定できなかった。

古代から中世に該当する包含層は残存状態がよくなく調査区全体には残っていなかった。遺構は，竪穴状遺構・溝状遺構等が検出された。遺物としては土師器・須恵器・陶磁器等が出土した。

牧ノ原B遺跡（平成14年６月３日～８月28日）

旧石器時代から縄文時代晩期までの遺物が出土したが，数量は非常に少なかった。遺構としては，縄文時代前期～中期の時期に該当すると思われる落とし穴１基を検出した。

山ノ田遺跡（平成12年12月11日～平成13年１月26日）

山ノ田遺跡はA地点・B地点の２か所に分かれて調査を実施した。A地点については，旧石器時代及び縄文時代早期の遺構・遺物を検出した。B地点においても確認調査を実施した結果，縄文時代早期の遺構・遺物が出土した。B地点については対象面積が1,000㎡であったので，そのまま本調査を実施し，集石６基・土坑１基・焼土跡などを検出した。遺物は，土器片・石鏃・石匙・剥片類等であった。A地点については，松山町教育委員会が調査を実施した。

日誌抄

12月　トレンチ設定（1T～7T），重機・機材搬入，発掘調査開始，2T～4T遺物出土状況実測，5及び6T掘り下げ及び遺物出土状況実測，1T～5T遺跡範囲実測土層断面実測

1月　2T～6T土層断面実測，B地点確認調査開始，8T・9T掘り下げ，9Tを拡大し，本調査へ切り替え，遺物検出，集石遺構検出，9Tを拡大し，グリッド配置遺物出土状況及び1号集石～6号集石実測，土層断面及び遺跡範囲図，コンタ実測重機・機材撤収

蕨野B遺跡（平成15年12月1日～平成16年2月13日，平成16年5月6日～平成17年1月28日）

旧石器時代～中世までの遺構・遺物が出土した。旧石器時代の遺構としては，礫群5基・ブロック15か所を検出した。遺物としては三稜尖頭器が多く出土した。

縄文時代早期に関しては，集石38基・石器製作所18か所が検出された。遺物は前葉から後葉までの土器片と石器類が出土した。土器片に関しては，前葉の後半に位置づけされる前平式土器（加栗山タイプ）と中葉前半に位置づけられる石坂式土器の占める割合が多かった。遺構・石器類に関してもこの時期と共伴する可能性が高いと考えられる。

縄文時代中・後期は集石1基が検出された。土器片をみると中期末から後期前半に位置づけられる土器片が出土しているが，遺跡が立地していたと考えられる部分は包含層が削平されていた。遺物の多くは谷状の地形の部分で出土した。

時期不明の土坑1基も検出された。

弥生時代の遺構は発見されなかった。土器片がやはり谷の底の部分で出土した。

古代・中世の時期は溝状遺構が4条検出されたが，包含層がほとんど削平されたため遺物の出土はなかった。

日誌抄

【平成15年度】

12月　1～21トレンチ調査，A・G－8～14区Ⅵ層，D・E・F－8～14区，E・F－4区，C－2区Ⅴ～Ⅵ層掘り下げ，D－11区土器集中部，F－11区チャートフレーク，21トレンチ南壁写真撮影，縄文時代早期調査

1月　C・F－10～14区Ⅵ層，B～D－11～13区Ⅲ層，I・J－23区，G・K－21～40区遺跡範囲確認トレンチⅦ層調査，E－11区Ⅵ層集石遺構2・4・5・6号実測，遺跡範囲確認トレンチ調査（27，31～35トレンチ）縄文時代草創期調査

2月　Ⅷ層（サツマ層）掘り下げ，集石7・8号実測，旧石器時代調査　　調査終了

【平成16年度】

5月　A区H～K－21～23区Ⅳ～Ⅵ層掘り下げ，H区I～M－1～3区掘り下げ，集石・土坑実測，G区表土剥ぎ，縄文時代早期発掘調査

6月　A・H区調査終了，B・F区Ⅱ～Ⅲ層調査・G区Ⅴ～Ⅵ層掘り下げ，A・B・F・G・H区Ⅵ層掘り下げ，集石遺構・ピット実測

7月　B・F・G区遺物取り上げ，D・E地点確認トレンチ（Ⅴ層～）設定及び調査，D地点7トレンチまで調査，E地点Ⅱ～Ⅴ層調査，F地点集石遺構実測

8月　E地点調査完了，D地点縄文時代早期調査，C地点Ⅴ層調査，集石遺構実測

9月　D地点Ⅴ～Ⅵ層調査，集石遺構8・9・10号実測，縄文時代早期調査

10月　D地点Ⅴ～Ⅵ層調査，集石遺構20～25号実測及び写真撮影，I－13区Ⅸ～Ⅹ層調査

11月　縄文時代早期調査完了，集石遺構実測，H・I－12～13区旧石器時代トレンチ調査

12月　H～K区Ⅸ層旧石器時代調査，礫群検出

1月　旧石器時代調査，礫群実測，集石遺構実測，作業終了

松ヶ尾遺跡（平成15年11月4日～平成16年1月9日）

縄文時代早期の集石が9基検出された。前葉時期の集石が4基・中葉から後葉にかけての集石が5基存在する。石器はそれぞれの時期ともに石鏃・磨石・石斧などが出土している。

縄文時代晩期については，土坑1基が検出されたが，用途は不明である。遺物は黒川式土器を中心に出土した。石器は石鏃・磨石・石斧などが出土している。

古代の遺構として総柱建物跡1棟が出土している。総柱建物跡の柱穴から土師器が出土していることから古代の遺構と判断した。溝状遺構3条・道路状遺構1条も検出されているが，時期についてははっきりしない。

日誌抄

11月　重機・機材搬入，グリッド範囲確定，A～E－2～6区Ⅳ層掘り下げ，溝状遺構，縄文時代早期の土器及び石器出土

12月　集石・土坑及び掘立柱建物跡実測

谷ヶ迫遺跡（平成15年8月20日～平成15年10月10日）

範囲確認調査と本調査を実施した。17,000㎡を確認した結果，本調査が必要な部分は450㎡となり，そのまま本調査を実施して調査を終了した。本調査の結果，遺構は検出されず縄文時代後期の土器・及び晩期土器が出土した。石器は出土量は少なかった。

日誌抄

8月　重機及び器材搬入，グリッド配置及びトレンチ設定，1～14T設定及び掘り下げ，古代のピット検出，縄文時代晩期土器片検出

9月　15～25T設定及び掘り下げ，調査拡張及び本調査へ移行（C～D－6～9区），縄文時代後期～晩期の調査

10月　全面調査（C～D－6～9区），縄文時代後期～晩期調査及び調査終了

Ⅱ　遺跡の位置と環境

高規格道路は宮崎県都城市から鹿児島県志布志市（計画当時は志布志町）をつなぐ道路であるが，今回の報告書に関係するのは調査時点においては，曽於郡松山町・有明町であったのでそれぞれについて記述を行う。

第１章　地理的・自然的環境

志布志市松山町（調査当時は曽於郡松山町）は，大隅半島旧曽於郡の中央部に位置し東西に長い地形である。南北に丘陵地帯を持ち，東西もまた台地になっている。特に西部一帯は火山灰台地が広がっている。これらの火山灰地は浸食による開析が進み，大小の谷が形成された結果，各台地はいわゆる「八つ手状」を呈する独立丘陵となっている。このような地形であることから，有史以前においては，尾根部分を中心とした生活が営まれたことが想定される。

気候は温暖であるが，冬場は冷え込みが厳しい。基幹産業は農業で畜産・野菜等が盛んである。

平成18年に隣接する曽於郡志布志町・曽於郡有明町と合併し志布志市になった。志布志市は，2006．1．1現在で面積28,947㎢・人口34,777人である。

麓野Ｂ遺跡は，志布志市松山町新橋字麓野・供養段に所在する。「八つ手状」を呈する独立丘陵上に立地している。遺跡から西側を眺めると，高隈山地の向こうに桜島の頂上付近が頭を出している様子が伺える。

志布志市有明町（調査当時は曽於郡有明町）は大隅半島南東部に位置する。海岸線は狭く内陸に広い地形をなす。南側は比較的なだらかな台地になるが，北側は台地と浸食谷を形成し，複雑な地形をなす。県内でも珍しい「飛び地」を隣接する大崎町に持っている。

全体的に志布志湾に緩やかに傾斜する地形で，町の中央部を菱田川が流れ，その両岸にシラス台地が広がる。南側は比較的なだらかな台地が広がるが，北側は小さな谷が，シラス台地を削った結果として，松山町でも述べたのと同様に各台地はいわゆる「八つ手状」を呈する複雑な地形をなす。

気候は温暖である。基幹産業は農業で，稲作・茶・野菜が盛んである。

平成18年に隣接する曽於郡志布志町・曽於郡松山町と合併し志布志市となった。

松ヶ尾遺跡は，志布志市有明町伊崎田字松ヶ尾に所在する。麓野Ｂ遺跡と同様に，「八つ手状」を呈する独立丘陵上に立地している。遺跡周辺は，殺々畑になっており，台地の縁にわずかに遺跡が残存しているような状況である。

第２章　歴史的環境

志布志市松山町における周知の遺跡は大隅地区埋蔵文化財分布調査によって急増した。その多くは，縄文時代に属する。しかし，発掘調査された遺跡は多くない。

また，これまで旧石器時代の遺跡の存在がなかったが，今回の麓野Ｂ遺跡において礫群を伴う後期旧石器時代ナイフ形石器文化期の遺物が出土した。今後，周辺地域から出土する可能性も高い。

縄文時代中期では，松山町を代表する遺跡でもある前谷遺跡がある。ここでは縄文時代中期前半の春日式土器を伴う住居跡が５軒発見されている。他地域では，当該時期でこれだけの遺構が発見された例はなく，注目されている。

弥生時代の遺跡としても，弥生時代の円形周溝墓20基などが発見された京ノ峯遺跡がある。現在は，京ノ峯遺跡は公園整備され，遺構などが現地保存されている。

古代・中世についても，京ノ峯遺跡が注目される。ここでは，中世の方形周溝墓２基が発見されており，県内においても中世に方形周溝墓が存在することが明らかになった。

志布志市有明町においては，町内はとんど全域で遺跡が発見されている。仕明遺跡では，後期旧石器時代ナイフ形石器文化期の遺物が発見されており，現在のところ町内最古の遺跡である。縄文時代については，縄文時代早期から晩期にかけての遺跡が多い。

縄文時代中期の遺跡には，飯野Ａ遺跡・本村遺跡などがある。飯野Ａ遺跡では，阿高式土器が出土している。本村遺跡では，深浦式土器・春日式土器が出土している。

縄文時代後期では，飯野Ａ遺跡から中岳Ⅱ式土器が出土している。この土器は，大隅半島から宮崎県南部でしか出土しないものであり注目される。

縄文時代晩期の遺跡は，山原遺跡・黒葛遺跡・牧原遺跡などで発見されている。特に黒葛遺跡では，土器を伴う３基の土坑が発見されており，注目される。

松山町に比べると弥生時代・古墳時代の遺跡が多い。有明町においては，緑資源公団関係の発掘調査が多く行われ，長田遺跡・仕明遺跡などにおいて，古墳時代の住居跡が数多く検出されている。今後も，海岸線が近いところは同様の遺跡が見つかる可能性が高い。

古代では，松ヶ尾遺跡において，２間×３間の掘立柱建物跡が発見されている。

古代の記録としては「大隅国の吉多・野神の二牧を廃す。馬が多く蕃息して，百姓の作業を害するによる」という記事が「日本三代実録」貞観２年（860年）にみられる。この「野神牧」を「延喜式」兵部省所載の日向国６か所の牛牧・馬牧のうちの「野波野牧跡」にあて，有明町野神に比定する説もある。

ただし，『三国名勝図会』によれば，野神牧跡は瓶村（現在の姶良町北山）にあって，のち北山牧と称されたとされる。また，吉多牧跡は北野と称され，野神牧跡から南南西一里半にあったと推測されている。どちらにしても，現段階では該当する地域を特定することは困難である。

中世では，長田遺跡で11世紀後半期～12世紀初め頃の玉縁口縁白磁と土師器鍋を伴う土坑墓や，掘立柱建物跡などが発見されている。

近世においては調査事例が少なく，明らかでない部分が多い。

明治４（1871）年７月の廃藩置県によって，現志布志市の範囲は一旦は鹿児島県諸県郡となったが，同年11月には都城県に，明治６（1873）年には宮崎県の所管へと移された。明治９（1876）年には再び鹿児島県の所管となり，明治16（1883）年の宮崎県再置の際には鹿児島県南諸県郡に属した。

戦時中，曽於市大隅町岩川八合原には岩川飛行場があったが，これは夜間爆撃専用の飛行場であった。この飛行場は旧松山町との境界近くにあったので，官舎などの軍事関係施設も旧松山町内にもあった。

旧有明町牛ヶ迫にも，戦時中に「積８部隊」の兵舎があった。旧松山町新橋の麓には本部があった。

平成18年１月１日には，曽於郡志布志町・曽於郡松山町・曽於郡有明町の３町が合併して志布志市が誕生した。

現在では「九州唯一の中核国際港湾」を持つ海の玄関・経済の中心地区としての旧志布志町，「やっちくのまち」として野菜と畜産が盛んな旧松山町，「日本一豊かな田舎暮らしのさと」を目指してきた志布志市役所の置かれる旧有明町として旧３町それぞれが役割を担い，日々新たな歴史を刻んでいる。

参考文献

① 1998『鹿児島県の地名』日本歴史地名大系第47巻　平凡社
② 「角川日本地名大辞典」編纂委員会（竹内理三）編　1983『角川地名大辞典46　鹿児島県』　角川書店
③ 河口貞徳『日本の古代遺跡38鹿児島』　保育社　1988
④ 松山町郷土史編纂委員会　1969『松山町郷土史』松山町役場【2005年に『松山町郷土史総合版』として復刊】から引用）
⑤ 有明町郷土史編さん委員会　1980『有明町誌』

第１図　周辺遺跡位置図

第１表　周辺遺跡地名表

曽於郡松山町（現志布志市松山町）

	遺跡名	所　在　地	地形	時　　代	遺　物　等	備　　考
1	堀口	新橋字堀口	台地	縄文(後)・歴史	御領式・石鏃・青磁	
2	河床	新橋字河床	台地	縄文(後)		
3	構溝	新橋字垂門・構溝	台地	縄文(晩)・歴史	磨製石斧・土師器	
4	牧ノ段	新橋字牧ノ段	台地	縄文(早・前)		
5	大坂	新橋字大坂	台地	古墳		平成９年度分布
6	井手間	新橋字井手間	台地	弥生・古墳		
7	山ノ田	新橋字山ノ田	台地	縄文(早・後)・歴史	松山式・土師器・石鏃	本報告書
8	前ノ谷	新橋後谷	台地	縄文		
9	後谷Ａ	新橋字後谷	台地	縄文(後)	指宿式	
10	後谷Ｂ	新橋字後谷	台地	縄文		
11	後谷Ｃ	新橋字後谷	台地			
12	後ノ谷	新橋字後谷	台地	縄文(晩)・歴史	土師器	
13	前谷	新橋字前谷	台地	縄文		
14	砂田Ａ	新橋字砂田	台地	縄文(早)	石坂式・押型文・黒曜石・石鏃	
15	川路	新橋字川路	台地	弥生	打製石斧・石彈	
16	上ノ原	新橋字上ノ原	台地	縄文(後)	綾式・岩崎上層式	
17	香ノ田	新橋字香ノ田	台地	縄文・歴史	土器片	
18	松山城跡	新橋字松尾	台地	中世	昭和49年３月町指定史跡	
19	入道久保Ｂ	新橋字仮屋	台地	縄文(晩)・歴史	土師器・須恵器	
20	麻野	新橋字麻野	台地	縄文(晩)・歴史	土師器・打製石斧	
21	麻野Ｂ	新橋字麻野	台地	縄文(後)	土器片・スクレイパー	本報告書
22	清水迫	新橋字清水迫	台地	歴史	土師器	
23	仮屋	新橋字仮屋	台地	縄文(後・晩)・歴史	土師器	
24	稗ヶ迫Ａ	新橋字稗ヶ迫	台地	縄文(後)・歴史	御領式・土師器	
25	稗ヶ迫Ｂ	新橋字稗ヶ迫	台地	縄文(晩)・弥生(中)	磨製石斧	
26	稗ヶ迫Ｃ	新橋字稗ヶ迫	台地	縄文(前)・弥生(中)・歴史	轟式・土師器	
27	栗須田	新橋字栗須田	台地	弥生		
28	中山Ａ	新橋字中山	台地	縄文(後)	黒曜石	
29	中山Ｂ	新橋字中山	台地	縄文(晩)・弥生(中)	入来式	

曽於郡有明町（現志布志市有明町）

	遺跡名	所　在　地	地形	時　　代	遺　物　等	備　　考
1	牛ヶ迫	伊崎田字牛ヶ迫	台地	縄文(晩)・弥生	石鏃	
2	松ヶ尾	伊崎田字松ヶ尾	台地	縄文(早・晩)・中世	前平式・打製石斧・土師器	本報告書
3	松ヶ尾Ｂ	伊崎田字松ヶ尾	台地	縄文(早)・古墳	平栫式	Ｈ11分布
4	大迫	伊崎田字大迫	台地	縄文(早・晩)	塞ノ神式・入佐式	Ｈ７分布
5	イセンボ	伊崎田字社ヶ迫	台地	縄文(後・晩)・弥生	磨製石斧・土器片	
6	社ヶ段Ａ	伊崎田字社ヶ迫	台地	縄文(後)	土器片	Ｈ11分布
7	前田	伊崎田字前田	台地	弥生	土器片・石器	
8	谷ヶ迫	伊崎田字谷ヶ迫	台地	縄文		本報告書
9	向段	伊崎田字向段	台地	古墳	土器片・石器	
10	谷ヶ迫Ａ	伊崎田字谷ヶ迫	台地	古墳		Ｈ11分布
11	飯野Ｂ	伊崎田字宝永	台地	縄文		Ｈ７分布

Ⅲ 層　　序

基本層序		松ヶ尾遺跡層位
Ⅰa層	灰褐色土（現耕作土層）	Ⅰa層
Ⅰb層	軽石粒混在黒色土	Ⅰb層
Ⅱa層	黒色土	Ⅱb層
Ⅱb層	茶褐色土	Ⅱc層
Ⅲa層	暗茶褐色（縄文時代後期から晩期にかけての包含層）	Ⅲa層
Ⅲb層	黄褐色細粒軽石混灰褐色土（御池軽石層）	Ⅲb層
Ⅳa層	褐色腐食火山灰層	Ⅲc層
Ⅳb層	明褐色火山灰層（アカホヤ火山灰）	Ⅲd層 Ⅲe層（アカホヤ豆石）
Ⅴ層	黄褐色軽石混灰褐色土（縄文時代早期の包含層）	Ⅳ層
Ⅵ層	暗褐色土（縄文時代早期の包含層）	Ⅴ層
Ⅶ層	黄褐色ローム層（薩摩火山灰）	Ⅵ層
Ⅷ層	暗褐色ローム層	Ⅶ層
Ⅸ層	褐色弱粘質層	
Ⅹ層	茶褐色粘質層	
XIa層	暗褐色粘質層（旧石器時代の包含層）	
XIb層	橙色パミス混暗褐色粘質層	
XII層	明褐色土（二次シラス）	Ⅷ層
XIII層	黄白色砂質層（シラス）	

山ノ田遺跡の層序

本遺跡の層序は，地域高規格道路遺跡群の基準層位と変わらない。

第２図は，Ｅ－１～４区，西側の土層断面図である。表土は畑作等の耕作土でⅠ～Ⅲ層まではほとんど攪乱されていた。Ⅳ層は，アカホヤと呼ばれる約6,400年前の火山灰層で0.3～0.4m，Ⅴ層は桜島噴出物Ｐ－11で0.2～0.3m堆積していた。Ⅵ層は，下部にＰ－13を含む約9,300年前の層で0.3～0.4m堆積している。本調査は，Ⅴ層，縄文時代早期の調査を行った。

蔵野遺跡Ｂ地点の層序

台地上の基本層序は上記模式図のとおりである。遺跡の多くの場所で，Ⅱ層は開発等により削平を受けて，残存状態は非常に悪かった。浅い谷の部分にわずかに堆積しているだけであった。遺物は谷部の底の部分にわずかにみられるところもあった。表土中にも古代に相当する遺物が表採されているところもあるので，残存しているところは注意が必要である。

また，Ⅲ層部分に関しても遺跡の多くの場所で削平を受けていて，斜面から谷にかけての部分でしか残存がみられなかった。谷底へ落ちていくように出土している遺跡もみられたので，台地上で残存しているところは注意が必要である。

Ⅴ層以下は遺跡の多くの場所で残存していて，そのほとんどが遺物包含層となっていた。遺構も多くともなっていたので，縄文時代早期に関しては，比較的生活するのに適した場所であった可能性も高いが，住居跡は検出されなかった。

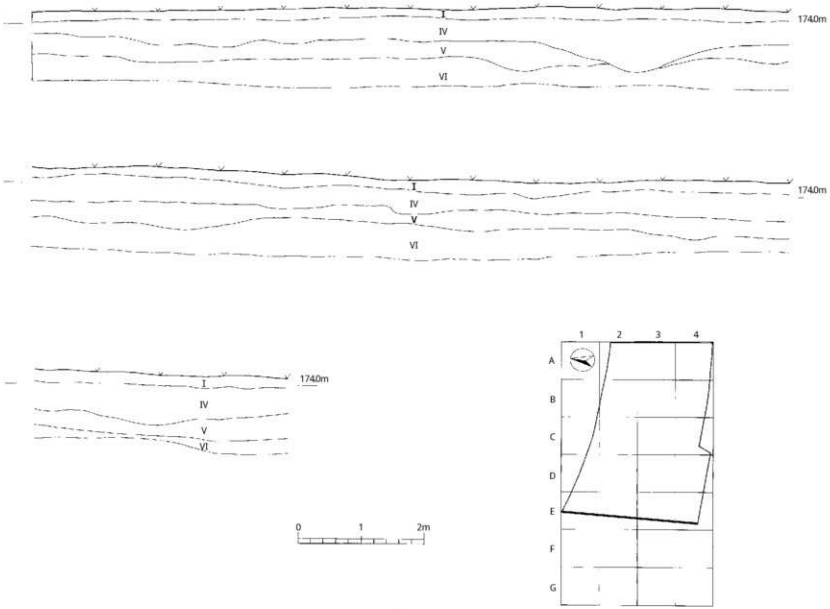
旧石器以下の層序も全体的に同じであるが，火山灰の混入についてははっきりしない遺跡もある。

松ヶ尾遺跡の層序

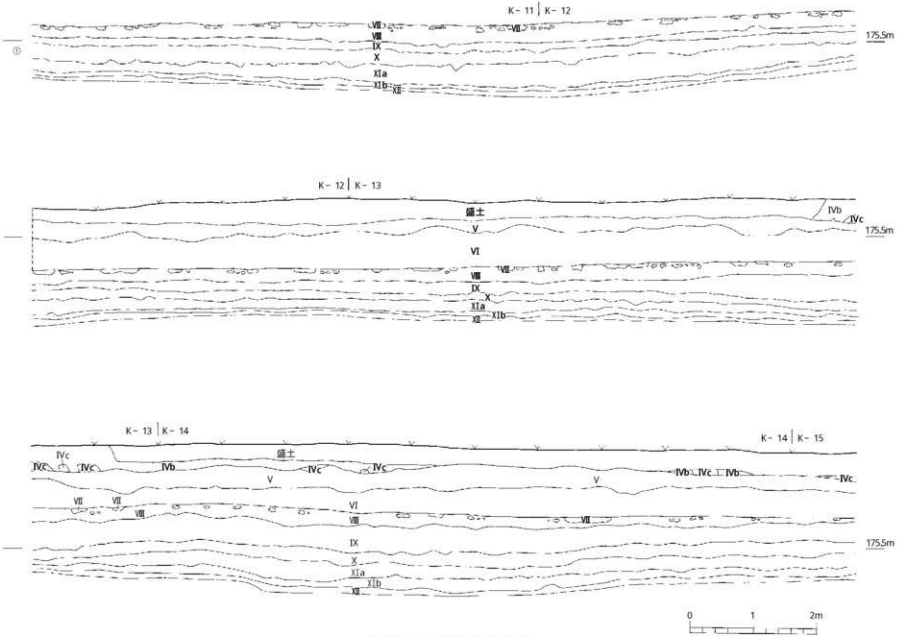
松ヶ尾遺跡の層序は，地域高規格道路遺跡群の基準層位と変わらない。但し，調査時の層位名が異なるため，基本層位との対応関係を左の模式図に示しておく。Ⅲｅ層はアカホヤ火山豆石層である。

谷ヶ迫遺跡の層序

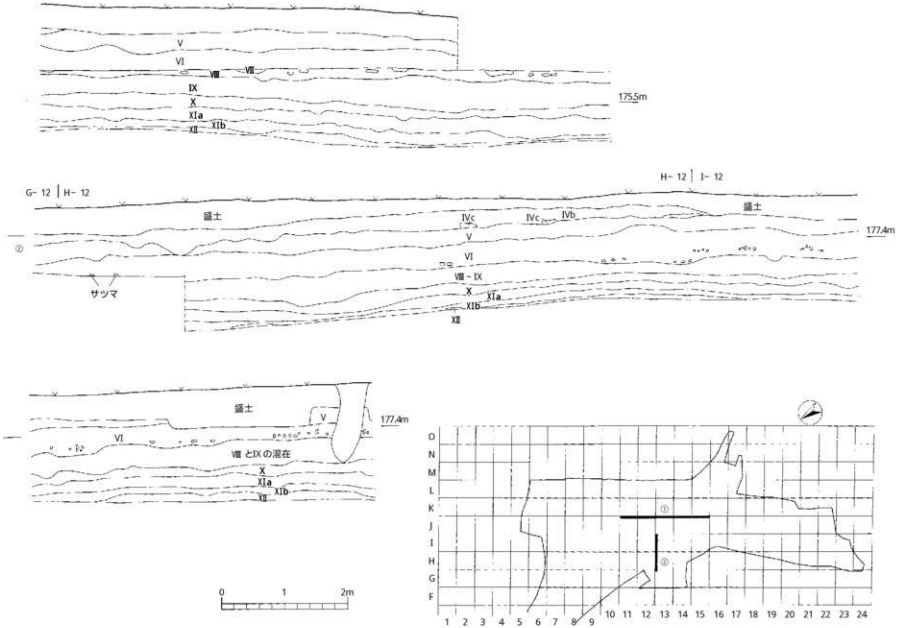
谷ヶ迫遺跡の層序は，地域高規格道路遺跡群の基準層位と変わらない。但し，戦後の開発等により包含層であるⅢ層は多くの場所で削平を受けていた。場所によっては表土下がシラスというところも多かった。



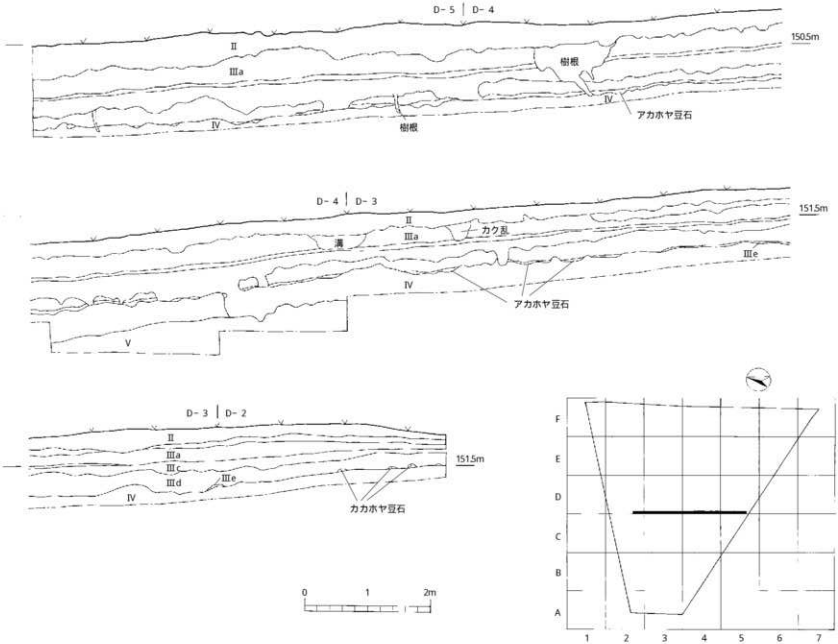
第２図　山ノ田遺跡Ｂ地点土層断面図



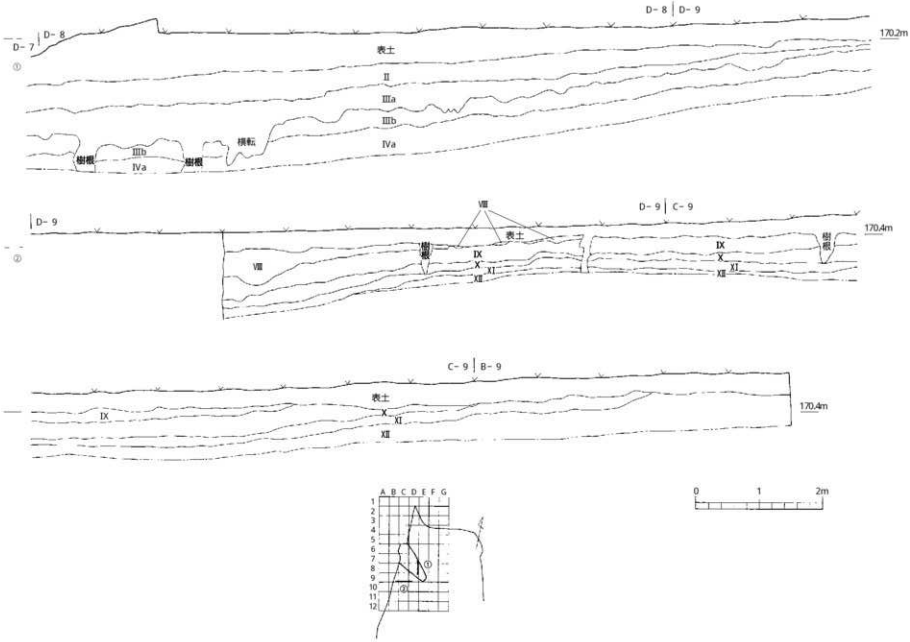
第３図　蕨野Ｂ遺跡土層断面図(1)



第４図　蕨野Ｂ遺跡土層断面図(2)



第５図　松ヶ尾遺跡土層断面図



第６図　谷ケ迫遺跡土層断面図

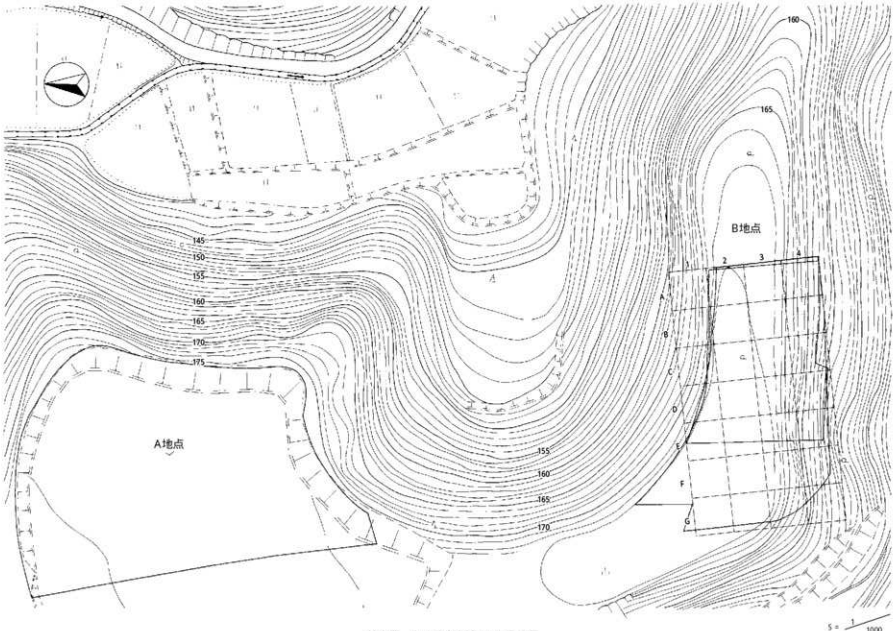
Ⅳ　山ノ田遺跡Ｂ地点

第１章　調査の概要

本遺跡は，志布志市松山町新橋字山ノ田に所在する。平成12年度に県道飯野松山都城線改良工事の計画に伴い，確認調査を行った。本遺跡は，松山町の中心部から北北東約25kmの地点に位置し，緩やかな丘陵上（標高約170m）に遺跡が広がり，丘陵上は果樹園，周辺は畑地が広がる地帯である。（第７図参照）本遺跡は，２か所に分けて確認調査を行った。便宜上北側をＡ地点，南側をＢ地点と呼ぶ。（第８図参照）発掘調査は，Ａ地点に関しては，松山町（現志布志市）が主体となり，Ｂ地点は県立埋蔵文化財センターが主体となり行った。Ｂ地点は遺物量が少なく，調査範囲も狭くなったことから確認調査を本調査に切り替え，調査を続行した。本報告書は山ノ田遺跡Ｂ地点の報告書であるが，以下名称として山ノ田遺跡と統一して記載する。

本遺跡は，確認のため２か所のトレンチ（８トレンチ，９トレンチ）を配し調査を行ったが，８トレンチはほとんど削平され遺物は出土しなかった。９トレンチにおいては，縄文時代早期の遺構や遺物が発見された。Ⅴ層の縄文時代早期の層のみに遺構・遺物が発見され，遺構は，黄褐色土を埋土とする集石６基，土坑１基が検出され，遺物は約350点という少ないながらも土器や石器が出土した。土器は，吉田式・石坂式・下剥峯式・桑ノ丸式・押型文・平栫式・塞ノ神式といった土器が，石器は，敲石，磨石，石皿，石鏃，石匙が出土している。

第７図　山ノ田遺跡周辺地形図



第8図　山ノ田遺跡グリッド配置図

第２章　縄文時代早期の調査

第１節　概要

縄文時代早期の遺構・遺物は，Ⅳ層（アカホヤ層）直下のⅤ層で発見されている。遺構としては集石遺構が検出され，土器，石器が出土した。Ⅴ層上面のⅣ層及びⅤ層下面からは遺構・遺物は発見されなかった。遺物量は356点と少ないが，縄文時代早期の特徴的な土器が出土している。

第２節　遺構

遺構は，集石遺構が6基，土坑1基が検出された。集石遺構に関しては検出順に１～６号とした。調査区のほぼ中央，Ｂ～Ｄ－２～３区のⅤ層上面で検出された。１号及び３～６号集石遺構は少量の礫を配しているが，２号集石は礫が集中して幾重にも重ねた状態で検出された。周辺に，集落を構成する竪穴住居跡等の遺構は検出されなかった。

１号集石遺構

Ｂ－３区で検出された。長径約110cm，短径約105cmの範囲に41個の礫で構成されており，平均10cmほどのこぶし大の礫が散逸している。掘り込みは見られなかった。

２号集石遺構

Ｂ－３区で１号集石に隣接して検出された。長径約100cm，短径約90cmの範囲で，深さが約30cmのほぼ楕円形に広がる形をした集石遺構である。大小合わせて504個の礫が幾重にも重なりあっている。礫は，大きいもので約20cm，平均10cm大の角礫で構成されている。掘り込み部分は長径100cm，短径90cm，深さ46cmである。

３号集石遺構

Ｃ－３区の西側で検出された。長径約150cm，短径約120cmの範囲に礫が散在していた。こぶし大ほどの角礫80個で構成されている。掘り込みは見られなかったが，礫のほとんどが被熱されているのが確認できた。礫は，ほとんどが凝灰岩で，中心部より約20cmのところに若干黒く変色した炭化物が確認できた。

４号集石遺構

Ｃ－３区の南側で検出された。長径約120cm，短径約80cmの範囲に角礫37個が散在して検出された。約10cmのこぶし大の礫６個ほどが２か所に集中し，北方向に一列に配置されている部分もある。

５号集石遺構

Ｄ－２区の南側で検出された。長径約130cm，短径約120cmの範囲に検出されているが，その北側の径約60cmほどのほぼ円形状の集中部分もある。ほぼ平坦に置かれているが，底部に最大長45.5cm，最大幅27cm，厚さ2.7cm，重さ5,100ｇの敷石が置かれ，その上や周辺部に角礫が積まれていた。ほぼ全ての礫が被熱していた。掘り込み部分に関しては確認できなかった。

６号集石遺構

Ｃ－３区で３号集石に隣接して検出された。長径約60cm，短径約50cmの範囲に角礫及び丸礫21個で構成されていた。ほぼ平坦に置かれている。

１号土坑

Ｂ・Ｃ－３・４区でグリッド境上で検出された。長径約110cm，短径約100cmのほぼ円形をしており，深さ約25cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。長軸は南北方向に向いている。遺構内において遺物の検出等は確認されなかった。

第３節　遺物

遺物は，土器，石器が出土した。遺物総数356点あり，土器片154点，石鏃12点，石匙１点，磨石５点，敲石２点，石皿１点という内訳である。土器に関しては，早期の代表的な土器が出土しているが，出土量が少なく，全容は明確にされていない。

１　土器

器形及び文様の特徴から８類に分類した。また，土器片に特徴がなかったり細かい土器片のため全体がつかめなかったものも資料化した。

土器は下記のとおりに分類した。

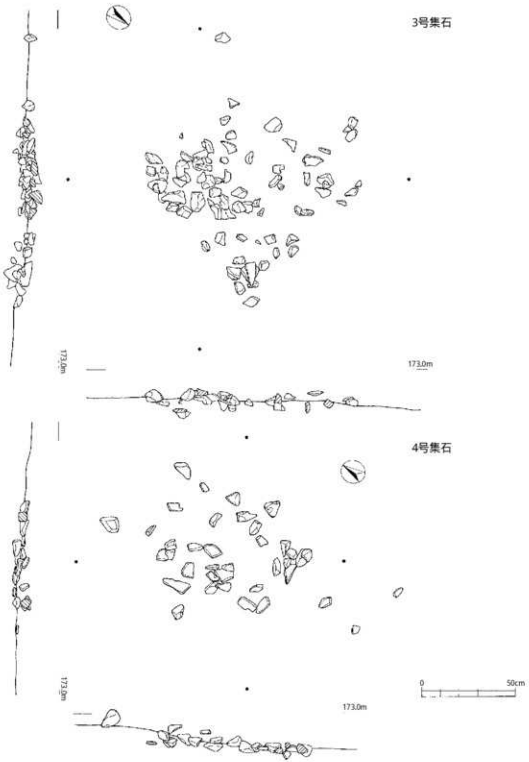
第Ⅰ類　吉田式土器
第Ⅱ類　石坂式土器
第Ⅲ類　下剥峯式土器
第Ⅳ類　桑ノ丸式土器
第Ⅴ類　押型文土器
第Ⅵ類　平栫式土器
第Ⅶ類　塞ノ神式土器
第Ⅷ類　不明

第９図　縄文時代早期遺構配置図

第10図　縄文時代早期集石実測図(1)

第２表　縄文時代早期集石観察表(1)

挿図番号	図番号	区	総個数	大きさ		構成礫				備考
				長径(cm)	短径(cm)	総重量(g)	重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	
10	1	B－3	41	110	105	－	－	－	－	H12－1
	2	B－3	504	100	90	－	－	－	－	H12－2



第11図　縄文時代早期集石実測図(2)

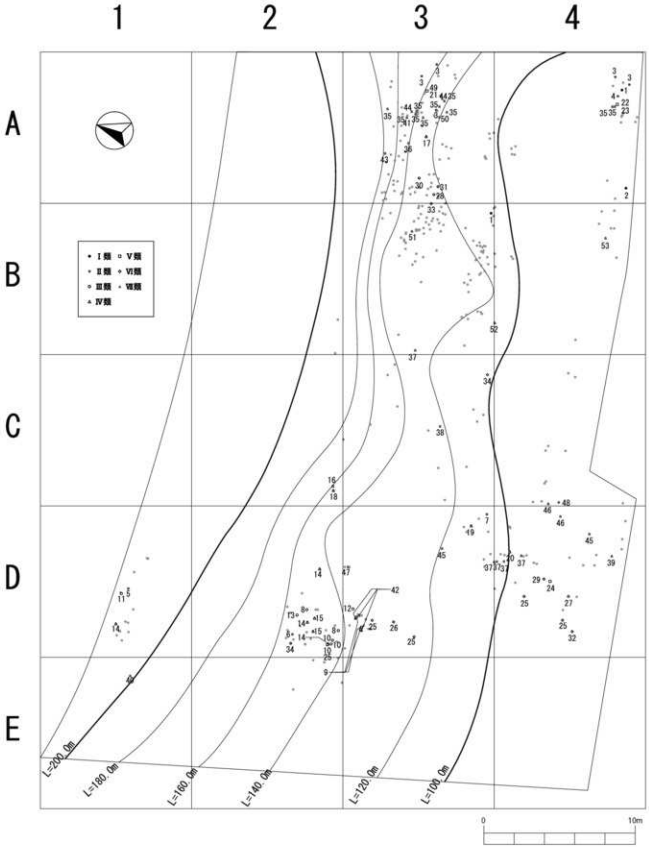
第３表　縄文時代早期集石観察表(2)

挿図番号	図番号	区	総個数	大きさ		構成礫				備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	破砕率（%）	
11	3	C－3	80	150	120	－	－	96.25	100	H12－3
	4	C－3	37	120	80	－	－	100	70.27	H12－4

第12図　縄文時代早期集石・土坑実測図

第４表　縄文時代早期集石観察表(3)

挿図番号	図番号	区	総個数	大きさ		構成礫				備考
				長径(cm)	短径(cm)	総重量(g)	重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	
12	5	D－2	66	130	120	－	－	96.96	69.69	H12－5
	6	C－3	21	60	50	－	－	－	－	H12－6



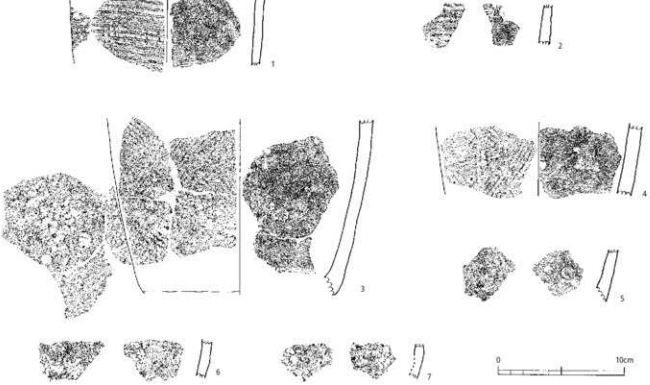
第13図　縄文時代早期土器出土状況図

第Ⅰ類土器（第14図１・２）

第Ⅰ類土器は，吉田式土器である。胴部のみの出土である。胴部は直線的でやや外傾を呈する円筒形土器である。胴部に横方向の貝殻押引文を施し，調整方法は，丁寧なヘラケズリである。胎土中鉱物は，粒度が細やかで石英，角閃石で構成されていることが観察できる。出土数が少なく，口縁部や底部といった部分がなく全体的な器形及び文様は不明である。

第Ⅱ類土器（第14図３～７）

第Ⅱ類土器は，石坂式土器である。全体的に風化が進み，施文状況や調整状況等明確ではなかった。３は，底部から胴部にかけての部位である。底部からやや外傾しながらほぼ直行する。胴部中央部の直径が10.5㎝，底部の直径が８㎝ある円筒形の土器である。４～７は，胴部の一部であり全体的な器形は明らかでない。施文は，３～５が綾杉状の貝殻条痕文を施し，６は連点文，７は斜位の貝殻条痕文を施す。調整方法は，横位及び斜位のヘラナデである。胎土中鉱物は，粒度が比較的大きく石英，長石，角閃石が観察される。３の土器の内部にはススと思われる炭化物が付着している。



第14図　第Ⅰ・Ⅱ類土器実測図

第５表　縄文時代早期土器観察表(1)

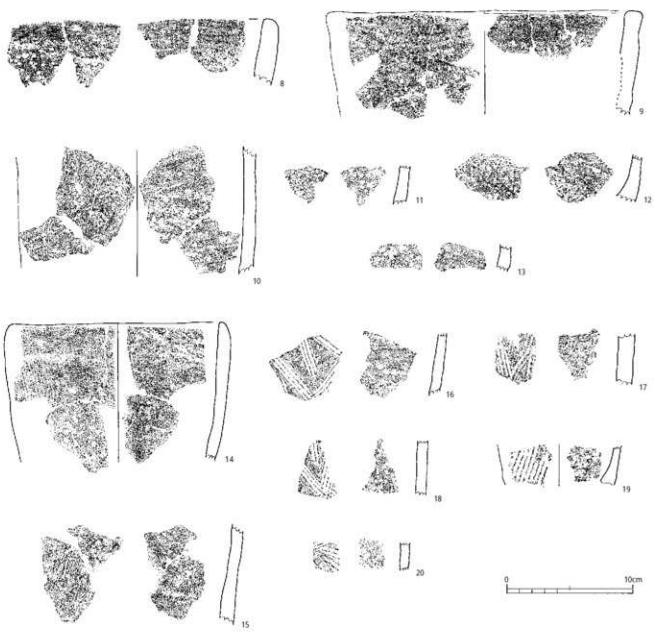
挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外	色調 内	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
14	1	5 133	A－4 B－3	V	赤褐色	赤褐色	○		○		良	ナデ	丁寧な斜位のナデ	
	2	17	A－4	V	赤褐色	赤褐色	○		○		良	ナデ	丁寧な斜位のナデ	
	3	1 4 152 153 304	A－3 A－4	V	明赤褐色	赤褐色	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	4	7	A－4	V	赤褐色	暗赤褐色	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	5	344	D－1	V	赤褐色	灰褐色	○	○	○		良	条痕	ヘラナデ	
	6	281	D－2	V	赤褐色	暗赤褐色	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	7	79	D－3	V	赤褐色	暗赤褐色	○	○	○		良	ナデ	ヘラナデ	
15	8	267 293	D－2	V	暗灰色	黒褐色	○	○			荒い	ナデ	横位のナデ	

第Ⅲ類土器（第15図８～13）

第Ⅲ類土器は，下剥筆式土器である。８と９は口唇部・口縁部で，８は口縁部がやや内弯し舌状を呈する。９は口縁部にかけやや外傾し，口唇部が平坦面を呈する。10・11は胴部で口唇部にかけ直行する器形を呈する。12・13は胴部下部で，底部との接合部分である。底部からやや外傾して立ち上がる器形を呈する。施文は，斜位方向に貝殻刺突文を施す。10・12は，斜位方向の刺突文を施す前に縦位方向に１～２本の細い条線を施してある。調整方法としては，胴部から口縁部にかけて横位のナデ調整，底部はナデ上げる調整が観察できる。胎土中鉱物は粒度が大きく，石英，長石を含む。

第Ⅳ類土器（第15図14～20）

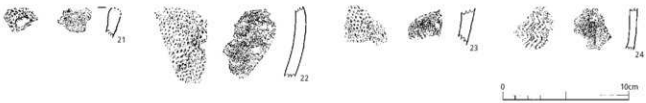
第Ⅳ類土器は，桑ノ丸式土器である。14が胴部から口縁部，16～18，20は胴部，19は胴部下部である。器形としては，口唇部が舌状を呈し，やや内弯する。胴部から口縁部へは，底部からやや外傾しながら直行し，胴部中央から口縁部に対してやや内傾を呈する。胴部から胴部下部へはすぼまる器形を呈する。施文は，14は口縁部から縦位の櫛目文を施し，15は縦位の櫛目文を施した後，貝殻刺突文を施してある。16～20は貝殻条痕文を４条，不規則に施したり，縦位または斜位に施してある。調整方法としては，胴部は横位のヘラナデを，胴部下部はナデ上がるようなナデ調整が観察できる。胎土中鉱物は，粒度が大きく，石英，長石，角閃石で構成されている。



第15図　第Ⅲ・Ⅳ類土器実測図

第Ⅴ類土器（第16図21～24）

第Ⅴ類土器は，押型文土器である。遺物量が少ない上に土器片が小さく，器形の全容ははっきりとしない。21は口縁部でやや外傾し，口唇部は平坦部を呈し，22～24は胴部で，丸みを呈した器形である。21～23が楕円の回転押型文を，24が山形押型文を施してある。調整方向のヘラナデが観察できる。胎土中鉱物は，粒度の細かい長石，角閃石が含まれている。



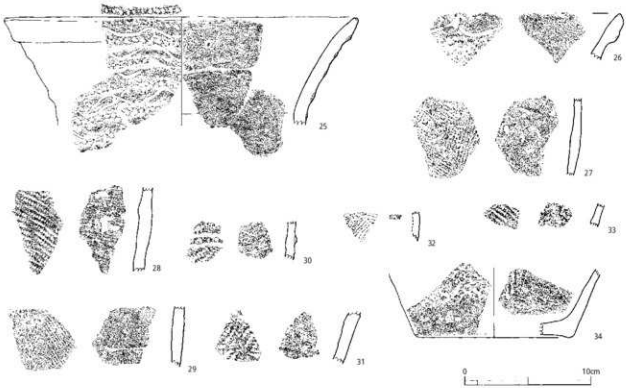
第16図　第Ⅴ類土器実測図

第６表　縄文時代早期土器観察表(2)

挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外	色調 内	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
15	9	256 305 306	D－3	Ⅴ	暗灰色	暗灰褐色	○	○			荒い	ナデ	横位のナデ	
	10	270 271 307	D－2	Ⅴ	赤褐色	暗赤褐色	○	○			荒い	条痕	ナデ	
	11	346	D－1	Ⅴ	暗赤褐色	灰褐色	○	○	○		荒い	ナデ	ナデ	
	12	264	D－3	Ⅴ	暗赤褐色	明灰褐色	○	○	○		荒い	条痕	上位のナデ	
	13	294	D－2	Ⅴ	暗灰褐色	灰褐色	○	○	○		荒い	ナデ	ナデ	
	14	272 289 302 305	D－2 D－3	Ⅴ	暗赤褐色	灰褐色	○	○	○		良	ナデ	ヘラナデ	
	15	287 290	D－2	Ⅴ	赤褐色	暗赤褐色	○		○		良	ナデ	ナデ	
	16	248	C－2	Ⅴ	暗赤褐色	明赤褐色	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	17	179	C－2	Ⅴ	暗赤褐色	暗茶褐色	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	18	247	A－3	Ⅴ	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	19	77	D－3	Ⅴ	暗赤褐色	暗茶褐色	○	○	○		良	条痕	ヘラナデ	
	20	70	D－4	Ⅴ	赤褐色	明茶褐色	○	○	○		良	条痕	ナデ	
16	21	155	A－3	Ⅴ	暗灰白色	暗灰白色	○				良	ナデ	ヘラナデ	
	22	8	A－4	Ⅴ	暗灰白色	黒褐色	○		○		良	ナデ	ヘラナデ	
	23	8	A－4	Ⅴ	暗灰白色	暗灰白色	○		○		良	ナデ	ヘラナデ	
	24	56	A－3	Ⅴ	明褐色	暗褐色	○	○	○		良	ナデ	ヘラナデ	
17	25	54 64 251 253 307	D－2 D－3 D－4	Ⅴ	明茶褐色	茶褐色	○	○	○		良	ナデ	ヘラナデ	
	26	252	D－3	Ⅴ	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○		良	ナデ	ヘラナデ	
	27	51	D－4	Ⅴ	赤褐色	暗赤褐色	○		○		普	ナデ	ヘラナデ	
	28	303	A－3	Ⅴ	赤褐色	暗茶褐色	○		○		普	ナデ	ヘラナデ	
	29	57	D－4	Ⅴ	暗赤褐色	暗赤褐色	○		○		普	ナデ	ヘラナデ	
	30	192	A－3	Ⅴ	赤褐色	赤褐色	○	○	○		普	ナデ	ヘラナデ	
	31	188	A－3	Ⅴ	赤褐色	暗茶褐色	○		○		普	ナデ	ヘラナデ	
	32	55	D－4	Ⅴ	赤褐色	赤褐色	○		○		普	ナデ	ナデ	
	33	299	B－3	Ⅴ	赤褐色	赤褐色	○		○		普	ナデ	ナデ	
	34	239 279	C－3 D－3	Ⅴ	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
18	35	9 10 172	A－3 A－4	Ⅴ	黄橙色	黄橙色		○	○		良	ナデ	ナデ	
	36	320	A－3	Ⅴ	暗茶褐色	明灰褐色	○		○		良	条痕	ヘラナデ	
	37	62 66 67 68 98	B－3 D－3 D－4	Ⅴ	明灰褐色	明灰褐色			○		良	ナデ	ヘラナデ	
	38	244	C－3	Ⅴ	暗茶褐色	暗茶褐色	○		○		良	ナデ	ナデ	
	39	47	D－4	Ⅴ	暗灰褐色	明灰褐色			○		良	条痕	丁寧なナデ	
	40	355	E－1	Ⅴ	暗茶褐色	暗茶褐色	○		○		良	ナデ	丁寧なナデ	

第Ⅵ類土器（第17図25～34）

第Ⅵ類土器は，平椿式土器である。当遺跡においては，出土量が多い部類で，完形品はないが，口縁部，胴部，底部と観察することができた。25・26は口縁部，27～33は口縁部から胴部，34は底部である。器形は，頭部から口縁部にかけてが大きく外反し，底部にかけて直行してすぼむようにして底部に向かう。25・26は平口縁を呈し，三角形状に肥厚する。25の直径は口唇部が10.5cm，頭部が6.5cmである。27～33は胴部で，胴部から頭部にかけて粘土を付け足した形跡のものもある。34の底部は上げ底を呈し，胴部へ外傾した器形を呈する。施文としては，25・26とも口唇部に刻目文を施す。25では，口縁部の肥厚帯下部にも刻目文を，さらに頭部にかけ4条の刻目文突帯文を施し，その間に波状及び蝶旋状の貝殻条痕文を施す。胴部文様帯では，羽状の撚糸文（27），右下がりの縄文（28・30），左下がり縄文（31），及び縦位方向に撚糸文（29）を施す。34の胴部下部は，底部の直径が6.3cm，胴部下部の直径が8.3cmあり，回転押型文が観察できる。調整方法としては，横位のヘラナデを施す。施文後はナデ調整を施してある。胎土中鉱物は，粒度が大きく石英，長石，角閃石が含まれている。



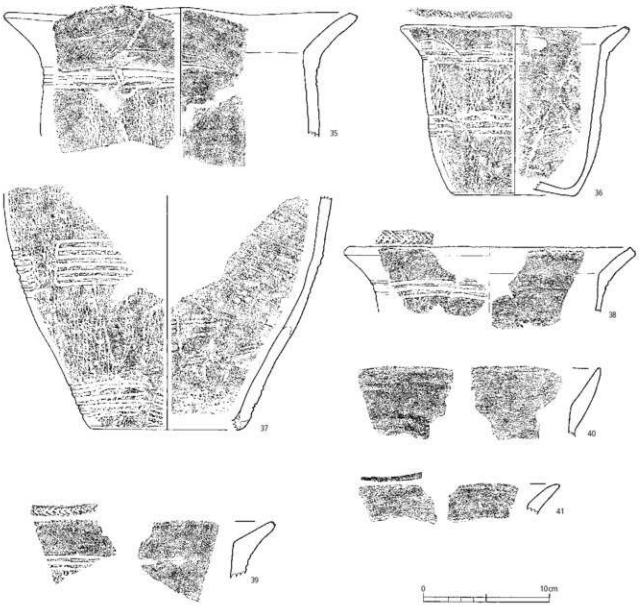
第17図　第Ⅵ類土器実測図

第７表　縄文時代早期土器観察表(3)

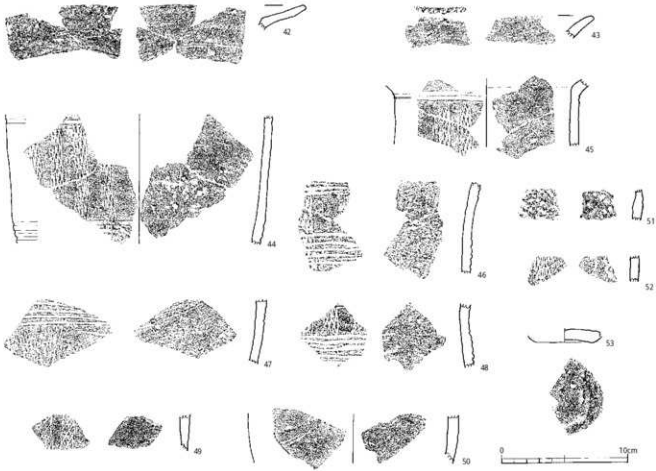
挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
18	41	163	A－3	V	明灰褐色	明灰褐色			○		良	ナデ	丁寧なナデ	
19	42	261 263 283	D－3	V	暗灰褐色	灰褐色			○		良	ヘラナデ	ヘラナデ	
	43	326	A－3	V	赤褐色	暗赤褐色		○	○		良	ナデ	丁寧なヘラナデ	
	44	161 171	A－3	V	明灰褐色	赤褐色			○		良	条痕	ヘラナデ	
	45	41 250	D－4	V	暗灰褐色	暗灰褐色			○		良	ナデ	ヘラナデ	
	46	38 40	C－4 D－4	V	赤褐色	明灰褐色		○	○		良	条痕	ヘラナデ	
	47	299	D－3	V	明灰褐色	明灰褐色	○				良	条痕	ヘラナデ	
	48	39	C－4	V	暗茶褐色	明灰褐色	○		○		良	条痕	ヘラナデ	
	49	155	A－3	V	赤褐色	黒褐色		○	○		良	ナデ	ヘラナデ	
	50	176	A－3	V	明灰褐色	暗灰褐色			○		良	ヘラナデ	ヘラナデ	
	51	85	B－3	V	明灰褐色	明灰褐色			○		良	ナデ	ナデ	
	52	234	B－3	V	明灰褐色	明灰褐色			○		良	ナデ	ナデ	
	53	24	B－4	V	灰褐色	灰褐色	○		○		良	ナデ	ナデ	
20	54	291	D－2	V	明灰褐色	明灰褐色			○		普	条痕	ヘラナデ	

第Ⅶ類土器（第18・19図35～53）

第Ⅶ類土器は，塞ノ神式土器である。19点資料化した。そのうち，35は深鉢で頸部から口縁部，36は壺，37は深鉢の頸部から胴部下部であり，器形及び施文的特徴をつかむことができる。器形としては，口唇形態が波状口縁を呈し，口縁部はラッパ状に屈曲するもの（35）と，口唇部が平口縁を呈し，口縁部がラッパ状に屈曲するもの（36・38～43）とがある。頸部から底部にかけては，頸部から底部にかけ緩やかにすぼむタイプ（36・44・45・47）や，頸部から底部にかけ胴部がふくらみ，底部にかけ内傾するタイプ（37・46）がある。底部は上げ底を呈する（36・53）。大きさは，次の通りである。35の土器は，口唇部径14cm，頸部径11cm，胴部最大径11cmある。36の土器は，口唇部径約9cm，胴部最大径約8cm，底部径5cmある。37は，胴部最大径13cm，底部径6cm，38は，口唇部径11.5cm，頸部径9.5cmである。施文的特徴としては，口唇部に羽状の刻目文を施すもの（35・36・38・39）や無文のものがある。頸部と胴部底部に，数条の貝殻条痕文を施し，頸部より胴部文様帯にかけて縦位の撚糸文を施す。中には，斜位方向に縄文を巡らすものや条線を施すものもある。前者の施文では，撚糸文を施した後条痕文を施すパターンが多かった。調整方法としては，全体的にミガキに近い丁寧なヘラナデやナデ調整が観察できる。胎土中鉱物には，粒度の細かい胎土と粒度の細かい石英や長石，角閃石が含まれている。



第18図　第Ⅶ類土器実測図(1)



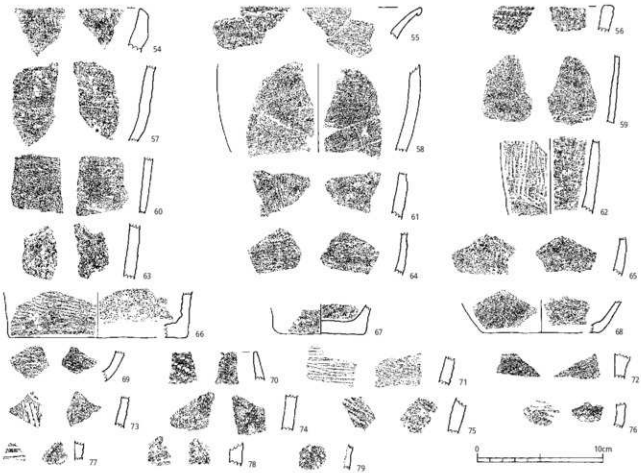
第19図　第Ⅶ類土器実測図(2)

第８表　縄文時代早期土器観察表(4)

挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
20	55	257 258	D－3	Ⅴ	灰褐色	灰褐色	○		○		良	ヘラナデ	ヘラナデ	
	56	28	C－4	Ⅴ	明灰褐色	明灰褐色			○		良	ナデ	丁寧なヘラナデ	
	57	284	D－2	Ⅴ	暗赤褐色	暗灰褐色	○		○		良	ヘラナデ	ヘラナデ	
	58	167	A－3	Ⅴ	明灰褐色	暗灰褐色			○		普	ヘラナデ	ヘラナデ	
	59	262	D－3	Ⅴ	灰褐色	灰褐色	○	○	○		良	ヘラナデ	丁寧なヘラナデ	
	60	265	D－3	Ⅴ	暗灰褐色	明灰褐色		○	○		良	丁寧なナデ	丁寧なナデ	
	61	308	D－2	Ⅴ	灰褐色	暗灰褐色		○			良	条痕	ナデ	
	62	245	C－3	Ⅴ	茶褐色	暗灰褐色	○	○	○		良	条痕	ヘラナデ	
	63	156	A－3	Ⅴ	赤褐色	赤褐色	○	○	○		良	ナデ	丁寧なナデ	
	64	140	A－3	Ⅴ	暗灰褐色	暗灰褐色	○		○		良	ヘラナデ	ヘラナデ	
	65	6	A－4	Ⅴ	灰褐色	黒褐色	○	○	○		良	ナデ	ヘラナデ	
	66	138	A－3	Ⅴ	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	67	49 42	D－4	Ⅴ	明灰褐色	暗茶褐色		○	○		普	ヘラナデ	ナデ	
	68	12	A－4	Ⅴ	明灰褐色	明灰褐色			○		良	ヘラナデ	ヘラナデ	
	69	72	D－3	Ⅴ	明茶褐色	明灰褐色	○		○		良	ヘラナデ	ヘラナデ	
	70	211	B－3	Ⅴ	明灰褐色	明灰褐色			○		良	ナデ	丁寧なナデ	
	71	73	D－3	Ⅴ	灰褐色	明灰褐色		○	○		普	条痕	ヘラナデ	
	72	164	A－3	Ⅴ	明灰褐色	明灰褐色	○		○		良	ヘラナデ	ヘラナデ	
	73	150	A－3	Ⅴ	明灰褐色	茶褐色		○	○		良	条痕	ヘラナデ	
	74	347	D－1	Ⅴ	灰褐色	暗灰褐色	○		○		良	条痕	ヘラナデ	
	75	18	A－4	Ⅴ	赤褐色	赤褐色	○		○		良	ナデ	横位のナデ	
	76	314	A－3	Ⅴ	暗赤褐色	暗茶褐色	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	77	278	D－2	Ⅴ	暗茶褐色	黒褐色	○	○	○		普	条痕	ヘラナデ	
	78	277	E－2	Ⅴ	茶褐色	明茶褐色	○	○	○	雲母	普	ナデ	ヘラナデ	
	79	266	D－2	Ⅴ	茶褐色	明茶褐色	○		○		普	ナデ	－	

第Ⅷ類土器（第20図54～79）

第Ⅷ類土器は，土器片が小さく，全体的な施文的特徴が見られず，土器分類が難しい土器片であるが，遺物量が少ないこともあり資料化した。口縁部４点，胴部19点，底部３点である。口縁部形態では，舌状をし外反するものや口唇部を丸く肥厚させ外反するもの，平口縁を呈し，口唇部が平坦なものがある。底部は，径７㎝の平底を呈するものや径3.5㎝の上げ底を呈するものとがある。施文的特徴として胴部文様帯に縦位の貝殻条痕文，口縁部に刺突文，右下がり条痕文，不規則な条痕文，左下がりの撚糸文，右下がりの押引文，逆U字の刺突文等々特徴的な施文が見受けられる。これらの土器片は，いずれも吉田式土器や下剥峯式土器，塞ノ神式土器とに分類できるのではないかと考える。



第20図　第Ⅷ類土器実測図

2　石器

石器は，打製石鏃，磨製石鏃，石匙，敲石，磨石，石皿が出土している。

石鏃（第21図）

石鏃は，未製品を含めて12点出土している。素材は，黒曜石が6点，チャート2点，安山岩・流紋岩・めのう・頁岩が各1点である。中には，北部九州産の黒曜石のもの（87）が1点あった。形状は二等辺三角形状のものが6点，正三角形状3点である。

石鏃は10点が打製で，ほとんどのものが入念な交互剥離により調整されている。1点のみ磨製石鏃（91）が見られる。

石匙（第21図）

石匙は，1点のみの出土である。素材は安山岩である。長さ3.3cm，幅3.2cm，厚さ0.8cm大で，交互剥離により調整されている。

磨石（第23・24図）

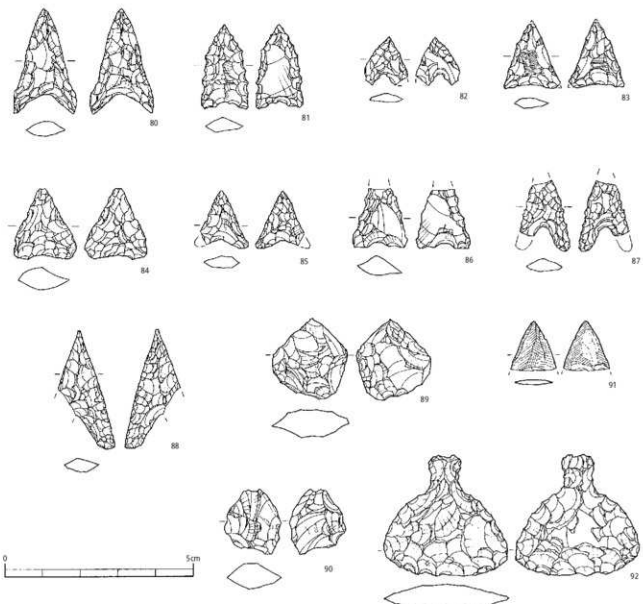
5点出土した。その内，4点には敲打痕がある。素材は，全て砂岩である。

敲石（第23図）

2点出土した。素材は，砂岩である。

石皿（第24図）

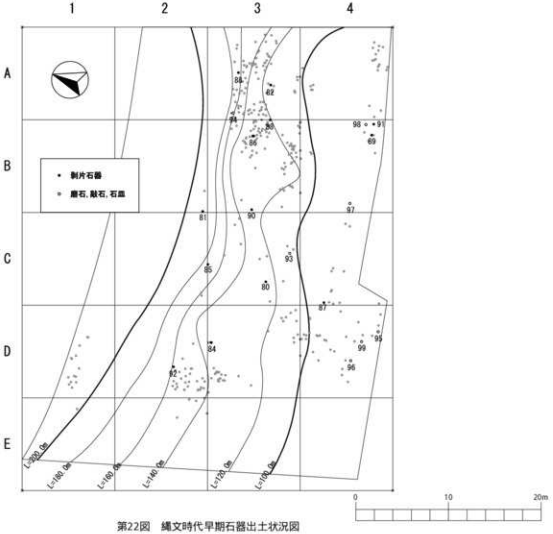
5号集石の敷石にあったものである。素材は砂岩である。



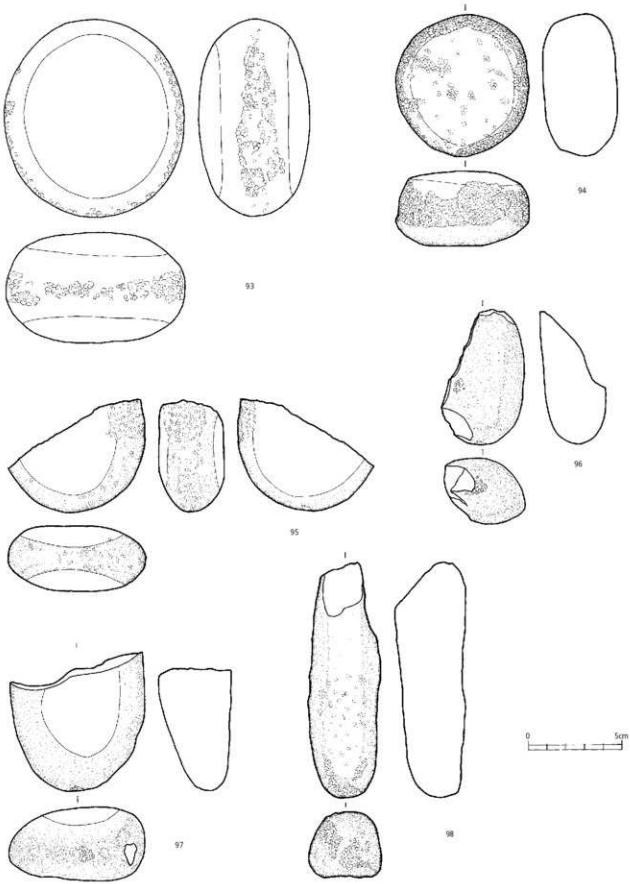
第21図　縄文時代早期石器実測図(1)

第９表　縄文時代早期石器観察表

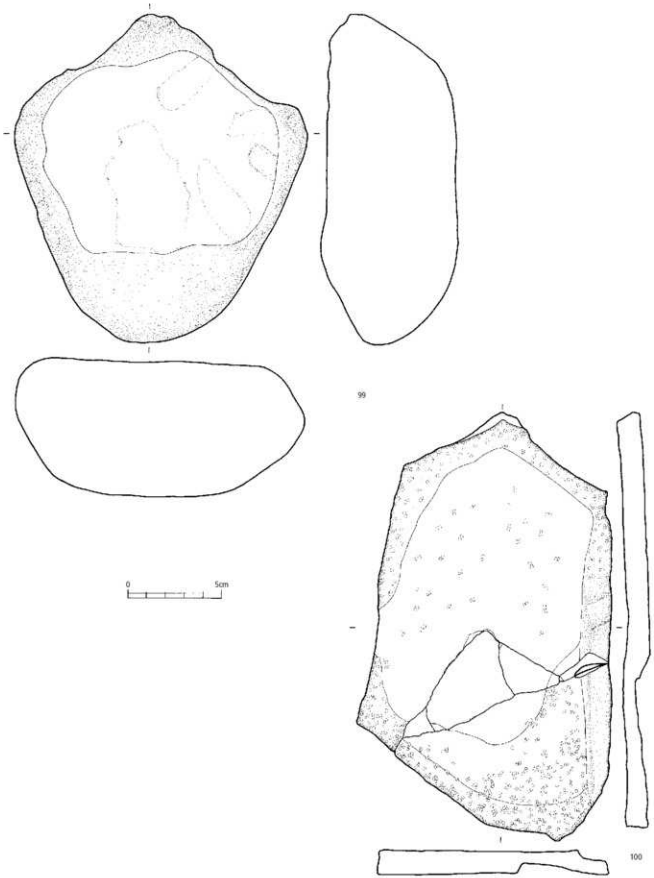
挿図番号	図番号	器種	取上番号	出土区	層位	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
21	80	石鏃	246	C－3	V	安山岩	2.8	1.65	0.4	1.34	
	81	石鏃	340	B－2	V	チャート	2.3	1.45	0.4	0.93	
	82	石鏃	181	A－3	V	黒曜石（桑ノ木津留）	1.3	1.3	0.25	0.26	
	83	石鏃	227	B－3	V	流紋岩	1.75	1.5	0.35	0.69	
	84	石鏃	309	D－3	V	チャート	1.9	1.65	0.6	1.43	
	85	石鏃	103	C－3	V	黒曜石（桑ノ木津留）	1.55	1.3	0.35	0.38	脚部欠損
	86	石鏃	84	B－3	V	黒曜石（桑ノ木津留）	1.6	1.45	0.5	0.93	先端部欠損
	87	石鏃	36	C－4	V	黒曜石（北部九州）	1.9	1.35	0.35	0.62	脚，先端部欠損
	88	石鏃	316	A－3	V	めのう	3.15	1.5	0.4	1.16	片脚欠損
	89	石鏃未製品	22	B－4	V	黒曜石（桑ノ木津留）	2.15	2	0.8	2.52	
	90	石鏃未製品	98	B－3	V	黒曜石（桑ノ木津留）	1.75	1.5	0.7	1.27	
	91	磨製石鏃	19	B－4	V	頁岩	1.35	1.2	0.1	0.21	
	92	石匙	296	D－2	V	安山岩	3.3	3.2	0.8	6.42	
23	93	磨石	242	C－3	V	砂岩	10.5	9.5	5.9	840	
	94	磨石	335	A－3	V	砂岩	7.6	7.1	4	300	
	95	磨石	46	D－4	V	砂岩	4.7	6.5	3.5	183	
	96	磨石	52	D－4	V	砂岩	7.2	4.4	3.5	105	
	97	敲石	26	B－4	V	砂岩	7.2	7.1	3.9	241	
	98	敲石	20	B－4	V	砂岩	12.4	3.8	3.4	208	
24	99	磨石	48	D－4	V	砂岩	17.5	15.5	7.2	2400	
	100	石皿	－	D－2	V	砂岩	45.5	27	2.7	5100	５号集石内



第22図　縄文時代早期石器出土状況図



第23図　縄文時代早期石器実測図(2)



第24図　縄文時代早期石器実測図(3)

Ⅴ　蕨野Ｂ遺跡

第１章　調査の概要

蕨野Ｂ遺跡遺跡は，松山町（現志布志市松山町）と有明町（現志布志市）との境に存在する。遺跡は東北側の丘陵からのびる尾根に立地し，現況は圃場整備によりきれいに段々畑に整備されている。本来は，谷と尾根が入り組む複雑な地形であったと思われる。

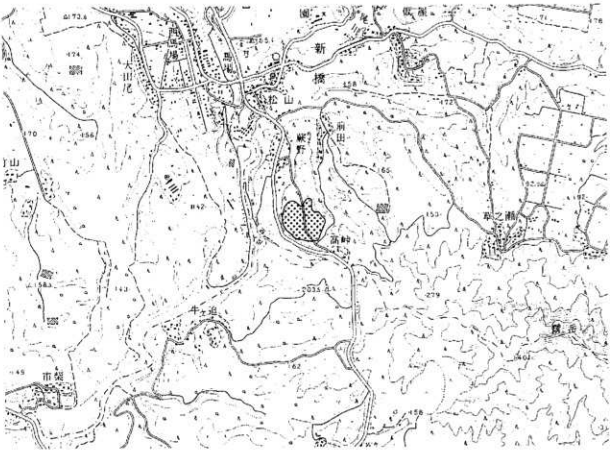
調査は，１辺10mの調査グリッドを設定して掘り下げをおこなった。確認調査の結果から，表土を重機により除去し，Ⅱ・Ⅲ層は山鍬・ねじり鎌などを使用し人力で掘り下げを行った。Ⅲ層まで人力で調査後，Ⅳ層については，確認調査の結果遺物等の出土はみられなかったため，Ⅴ層上面まで重機で除去し，Ⅴ・Ⅵ層はⅡ・Ⅲ層同様に人力で掘り下げを行った。

Ⅶ層に関してはⅣ層同様重機で除去した。Ⅷ層以下に関しては，確認調査を再度行い遺跡の範囲の絞り込みを行った。確認調査の結果，Ⅹ層まで遺構・遺物の出土はみられずまた，当初考えられていた範囲よりも遺跡面積も縮小した。

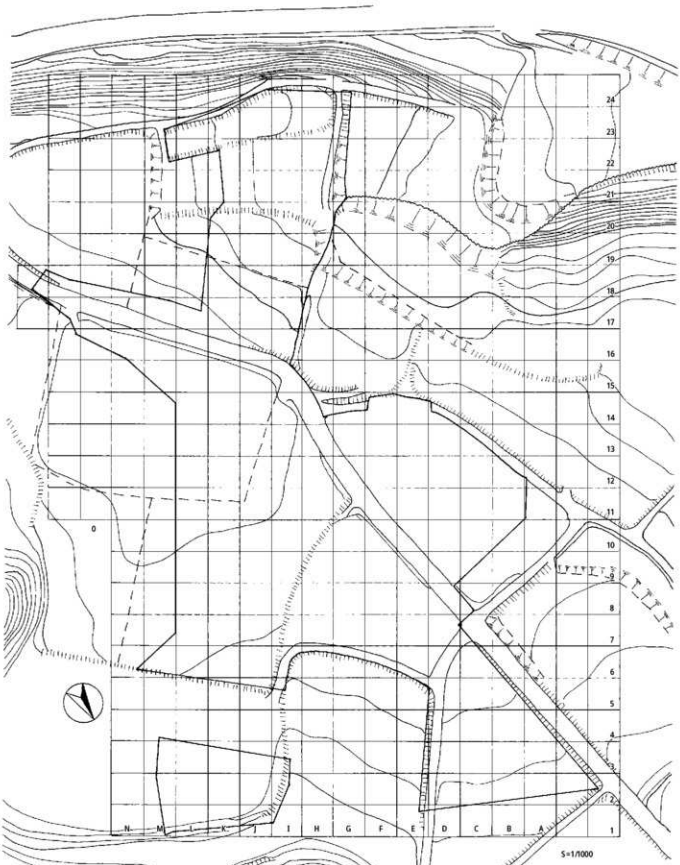
調査の結果，Ⅱ層に関しては残存状態も悪く（ほとんどの場所で削平を受けていた。）遺物の出土も少なかったが，残存している部分（谷の底に該当）にわずかに出土した。Ⅲ層も同様で斜面から谷へ向かう部分で遺物が検出された。出土量は少なかった。

Ⅴ・Ⅵ層はⅡ・Ⅲ層に比べ多くの遺構・遺物が検出された。時代は，縄文時代早期を通じて遺物が出土したが，中心は前葉から後葉にかけての時期であった。本遺跡の中心をなす。

旧石器時代の遺構・遺物も多く検出された。松山町での本格的な旧石器時代の調査は初めてであり，今後増える可能性もある。



第25図　蕨野Ｂ遺跡周辺地形図



第26図　藤野Ｂ遺跡グリッド配置図

第２章　旧石器時代の調査

第１節　概要

旧石器時代の遺物包含層はⅪ層である。G・O～9・17区を中心に，礫群，石器製作跡が検出され，三稜尖頭器，ナイフ形石器，台形石器，フレーク・チップ等の遺物が出土した。

第２節　遺構

全てⅪ層上面の，微細な尾根と谷が入り組んだ地形の谷部からやや傾斜がある地点で検出された。レベルは174.60m前後になる。

１号礫群（H－13区，XIa 上層）

礫数は15。安山岩が利用されており被熱による赤化が激しい。傾斜地にあるため礫が流れた傾向がみられ全体的なまとまりはない。検出地点が最もレベルが低く，周辺の遺物出土量も少量である。

２号礫群（I－11区，XIa 層）

礫数は11。最大長10cm以内の比較的小さな安山岩が利用されている。被熱が激しく赤紫色を呈するが，破砕はみられない。

３号礫群（K－10区，XIa 上層）

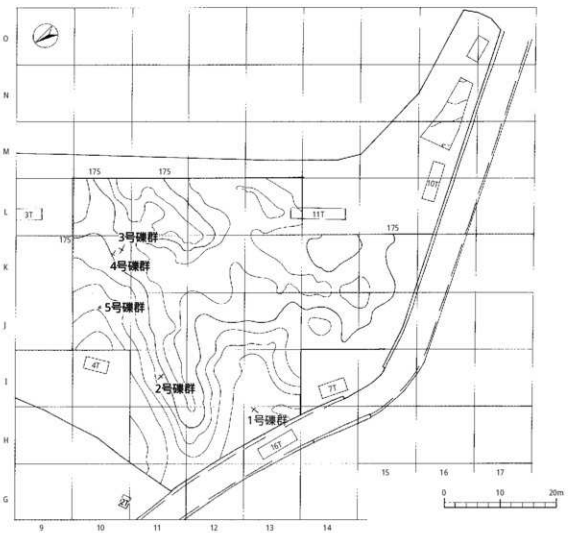
礫数28で５基中最多である。最大長５～10cmの程度の安山岩とわずかに砂岩が利用されている。被熱による赤化の強いものと弱いものがそれぞれ半数である。掘り込み，炭化物等はみられない。150cm北側に４号礫群がある。

４号礫群（K－10区，XIa 上層）

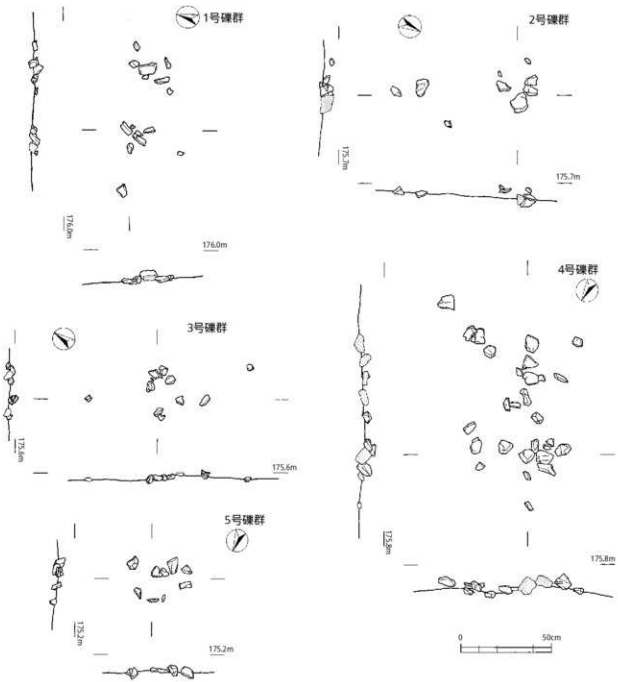
礫数９，安山岩主体である。被熱による赤化は弱く，薄く赤変したものは２点にとどまる。掘り込み，炭化物等はみられない。検出地点は３号礫群に近く，やや傾斜がある。

５号礫群（J－10区，XIa 上層）

礫数９，利用石材は全て安山岩である。礫のまとまりには欠けるが，被熱による強い赤化を示し，図の実線内に２～５mm程度の炭化物の点在が確認できた。掘り込みはみられない。



第27図　礫群出土状況図



第28図　旧石器時代礫群実測図

第10表　旧石器時代礫群観察表

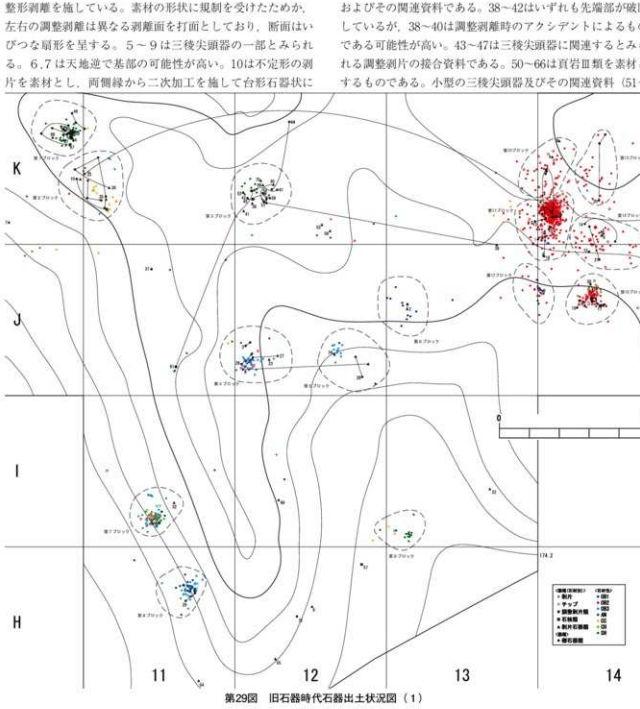
挿図番号	図番号	区	検出層	総個数	大きさ		構成礫				備考
					長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	破砕率（%）	
28	1	H－13	XIa	15	87	35	1550	103.33	－	－	H16－1
	2	I－11	XIa	11	93	32	966	87.81	－	－	H16－2
	3	K－10	XIa	28	118	80	6759	241.39	89.2	－	H16－3
	4	K－10	XIa	9	81	38	1543	171.44	22.2	－	H16－4
	5	J－10	XIa	9	37	26	767	85.22	100	－	H16－5

第3節　遺物

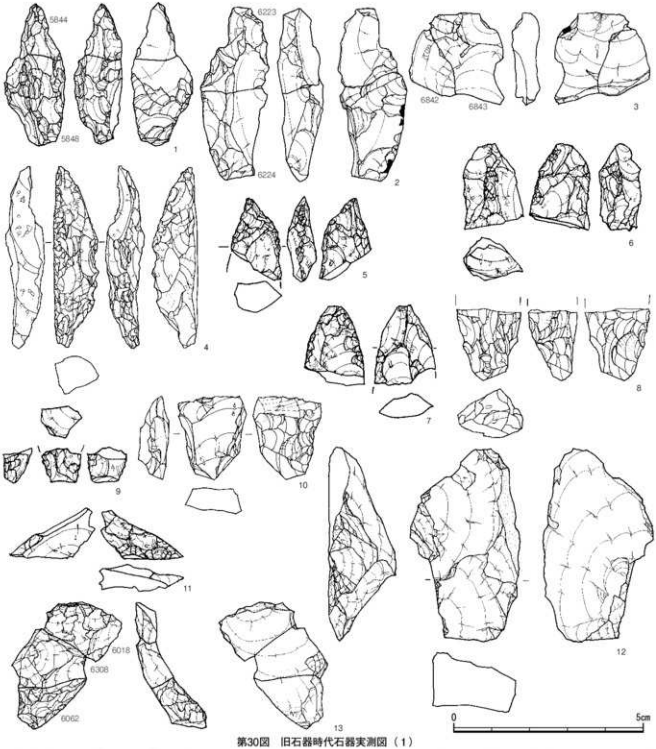
XI層からは計15か所のブロックから黒曜石Ⅰ類，黒曜石Ⅱ類，黒曜石Ⅲ類，頁岩，玉随，チャート等を主体とする石器群が検出された。以下に接合資料を含め，出土資料を石材別に提示する。出土状況及び接合状況図は第29図に示した。

１～３は黒曜石Ⅰ類を素材とする資料である。１,２は三稜尖頭器およびその関連資料である。１は横広の剥片を素材とし，裏面基部付近には平坦剥離がみられる。左側縁の整形剥離時のアクシデントによって破断したものとみられる。２は三稜尖頭器の未製品とみられ，整形剥離の初期段階で破断している。３は剥片同士の接合資料である。

４～21は黒曜石Ⅱ類を素材とするものである。三稜尖頭器及びその関連資料が主体を占める。４は素材剥片に急角度の整形剥離を施している。素材の形状に規制を受けたためか，左右の調整剥離は異なる剥離面を打面としており，断面はいびつな扇形を呈する。５～９は三稜尖頭器の一部とみられる。６,７は天地逆で基部の可能性が高い。10は不定形の剥片を素材とし，両側縁から二次加工を施して台形石器状に仕上げている。11はプランティングチップである。12は剥片である。サイズ的に三稜尖頭器の素材剥片の可能性が高い。13～21は剥片の接合資料である。22～29は黒曜石Ⅲ類を素材とするものである。小型の三稜尖頭器が主体である。27は石核として実測を行ったが，三稜尖頭器の製作段階の接合資料の可能性もある。26,28,29は剥片等の接合資料である。28は２点の剥片の接合資料であるが各々の剥離方向は上下逆である。30～32はチャートを素材とするものである。剥片の接合資料（30,31）と三稜尖頭器（33）があるが，母岩は共有しない。33～36は玉随を素材とするものである。剥片の接合資料が多いが，36はナイフ形石器が含まれている。37～49は頁岩Ⅰ類を素材とするものである。母岩レベルではいくつかのグループに細分することが可能である。37～42は三稜尖頭器およびその関連資料である。38～42はいずれも先端部が破断しているが，38～40は調整剥離時のアクシデントによるものである可能性が高い。43～47は三稜尖頭器に関連するとみられる調整剥片の接合資料である。50～66は頁岩Ⅲ類を素材とするものである。小型の三稜尖頭器及びその関連資料（51～

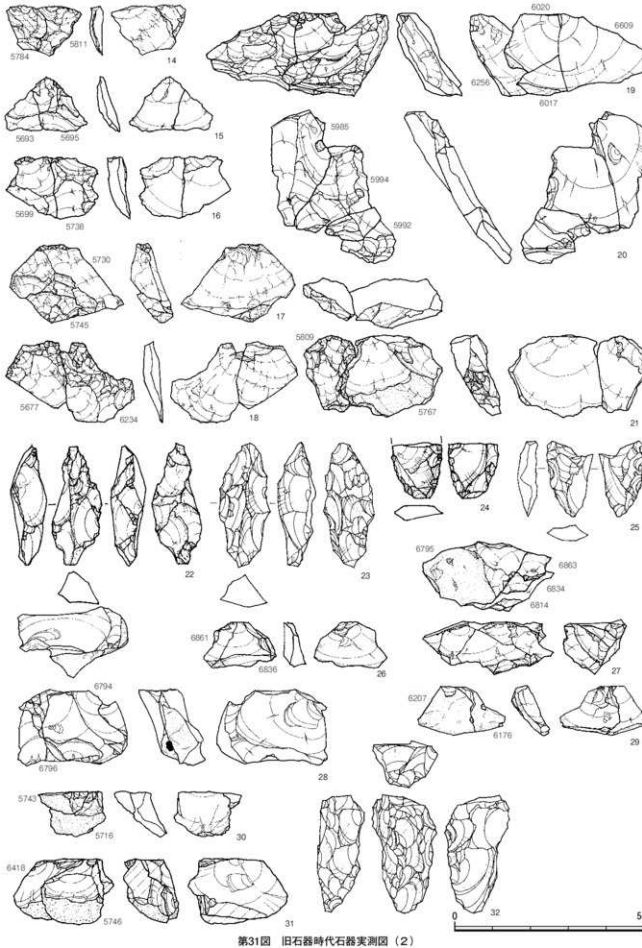


第29図　旧石器時代石器出土状況図（１）

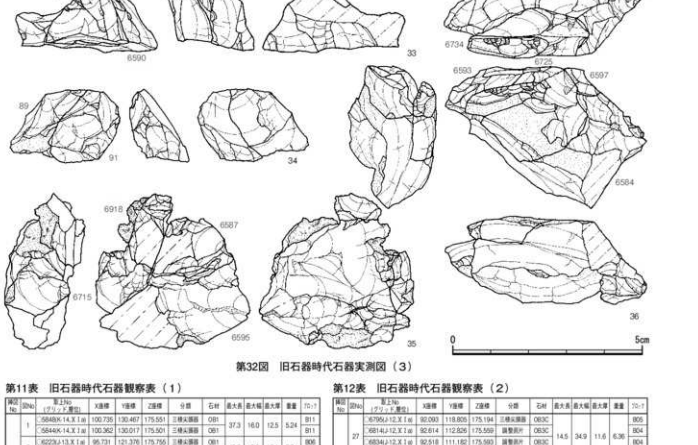


第30図　旧石器時代石器実測図（1）

53）と大型の三稜尖頭器（54）がある。55,57は石材は異なるが三稜尖頭器関連の未製品と考えられる。また56は素材剥片を横置きして右側縁の基部から先端部付近にかけて二次加工を施している。三稜尖頭器の未製品の可能性もあるが詳細は不明である。58,59は調整剥片の接合資料である。60は細石刃核とみられる。剥片素材で打面調整を行いながら剥離を進行させている。61は石核と剥片の接合資料である。62,63は同一資料で63は62を含む接合資料である。何度か打面転移を行いながら剥片剥離を行っているが，最終的には62の裏面を打面として固定し，連続的な剥離を行っている。なお石核は，最終段階では細かな二次加工が加えられ，掻器的な機能が考えられる。64～70は頁岩Ⅲ類を素材とする二次加工剥片，剥片等である。65は基部が欠損しているが両側縁に粗い二次加工が施されている。67も大型の剥片の右側縁に，主要剥離面側から二次加工が施されている。69,70は側縁の一部に微細な剥離痕が観察される。71は大型の縦長剥片を素材とするナイフ形石器，72は縦長剥片である。



第31図　旧石器時代石器実測図（2）



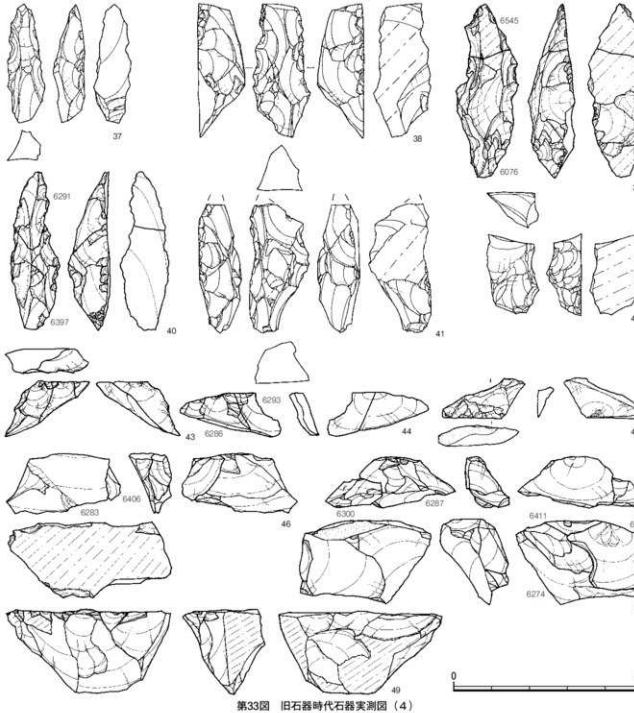
第32図　旧石器時代石器実測図（3）

第11表　旧石器時代石器観察表（1）

遺跡No.	図No.	重工No（グリッド、層位）	X座標	Y座標	Z座標	分類	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	70-1
30	1	5848K-14.X.1a	100.735	130.467	175.551	三稜尖圏	OB1	37.3	16.0	12.5	5.24	B11
		5844K-14.X.1a	100.352	130.017	175.501	三稜尖圏	OB1					B11
	2	6223J-13.X.1e	95.731	121.376	175.755	三稜尖圏	OB1	45.6	17.9	12.1	6.74	B06
		6224J-13.X.1a	96.056	121.396	175.738	三稜尖圏	OB1					B06
	3	6843J-12.X.1a	93.288	110.712	175.690	剥片	OB1	24.2	24.8	7.4	3.52	B04
		6842J-12.X.1a	93.510	111.012	175.620	剥片	OB1					B04
	4	6932K-14.X.1e	105.780	130.951	175.328	三稜尖圏	OB2A1	47.9	11.5	10.4	4.52	B10
	5	5830K-14.X.1e	100.835	134.199	175.596	三稜尖圏	OB2A1	21.5	13.2	7.9	1.60	B14
	6	1183M-12.Y.1	76.049	115.095	176.230	三稜尖圏	OB2A2	23.0	16.1	11.3	3.37	-
	7	5639K-10.W.	101.455	96.084	176.370	三稜尖圏	OB2A1	21.0	16.1	7.9	2.05	-
	8	5999K-14.X.1e	106.835	131.419	175.432	三稜尖圏	OB2A1	20.3	17.1	13.2	3.38	B10
	9	5799K-14.X.1e	100.582	134.202	175.516	三稜尖圏	OB2A1	9.4	10.3	7.8	0.61	B14
	10	6588K-10.X.1e	104.301	99.788	175.750	台形石器	OB2A1	21.8	17.9	7.5	2.67	B02
	11	6050K-14.X.1e	102.017	130.281	175.531	調整剥片	OB2A2	13.3	21.7	6.6	0.67	B11
	12	5772J-14.X.1e	99.508	133.385	175.55	剥片	OB2A1	51.5	29.4	17.8	20.3	B14
		6018K-14.X.1e	104.814	130.589	175.413	剥片	OB2A2					B10
	13	6308K-14.X.1e	101.686	130.513	175.480	剥片	OB2A2	33.1	29.1	18.7	4.65	B11
		6062K-13.X.1e	101.505	129.815	175.362	剥片	OB2A2					B11
31		5784K-14.X.1e	100.192	135.103	175.583	調整剥片	OB2A2	13.4	19.9	3.7	0.84	B14
		5811K-14.X.1e	101.346	133.099	175.488	調整剥片	OB2A2					B14
		5895J-14.X.1e	95.804	132.594	175.448	剥片	OB2A1	14.4	21.7	5.9	0.76	B15
		5893J-14.X.1e	96.279	132.753	175.473	剥片	OB2A1					B15
	16	5699J-14.X.1e	96.181	133.047	175.406	剥片	OB2A1	16.5	24.1	5.8	1.21	B15
		5738J-14.X.1e	96.200	133.586	175.378	剥片	OB2A1					B15
	17	5745J-14.X.1e	95.922	134.088	175.225	剥片	OB2A1	20.5	29.7	10.8	3.33	B15
		5730J-14.X.1e	96.423	133.564	175.261	剥片	OB2A1					B15
	18	5677J-14.X.1e	99.198	130.414	175.503	剥片	OB2A2	21.4	34.8	5.5	1.96	B11
		6234K-14.X.1e	100.498	130.485	175.386	剥片	OB2A2					B11
	19	6256K-14.X.1e	101.844	131.215	175.471	剥片	OB2A1	22.2	47.2	17.4	9.04	B11
		6693K-14.X.1e	101.788	130.954	175.421	剥片	OB2A1					B11
	20	6023K-14.X.1e	104.920	130.541	175.431	剥片	OB2A1					B10
		6017K-14.X.1e	104.656	130.517	175.613	剥片	OB2A1					B10
	21	5985K-14.X.1e	102.901	134.038	175.510	剥片	OB2A1	40.4	32.4	29.0	7.40	B13
		5984K-14.X.1e	106.661	134.076	175.324	剥片	OB2A1					B13
	22	5992K-14.X.1e	107.251	134.455	175.256	剥片	OB2A1	21.9	36.2	13.1	6.15	B14
		5767J-14.X.1e	96.987	134.059	175.613	剥片	OB2A1					B14
	23	5809K-14.X.1e	101.164	133.441	175.649	剥片	OB2A1					B14
	24	25630-13.W.	83.820	126.840	175.914	三稜尖圏	OB3C	31.4	12.9	9.2	2.52	-
	25	6811K-12.X.1e	92.380	112.259	175.757	三稜尖圏	OB3C	32.7	13.1	9.8	2.88	B04
	26	6788J-12.X.1e	92.723	118.585	175.313	三稜尖圏	OB3C	14.8	13.6	7.3	1.14	B05
		6370K-14.X.1e	101.146	130.871	175.394	二次加工剥片	OB3A	19.9	12.2	4.9	0.93	B11
		6861J-12.X.1e	92.079	110.447	175.610	剥片	OB3C	12.6	19.3	6.0	0.73	B04
		6836J-12.X.1e	92.718	111.104	175.641	剥片	OB3C					B04

第12表　旧石器時代石器観察表（2）

遺跡No.	図No.	重工No（グリッド、層位）	X座標	Y座標	Z座標	分類	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	70-1
31	27	6795J-12.X.1e	92.093	118.805	175.194	三稜尖圏	OB3C	14.5	34.9	11.6	6.36	B05
		6814J-12.X.1e	92.614	112.526	175.559	調整剥片	OB3C					B05
		6834J-12.X.1e	92.518	111.182	175.593	調整剥片	OB3C					B04
		6863J-12.X.1e	91.717	110.524	175.760	調整剥片	OB3C					B04
	28	6794J-12.X.1e	92.554	117.973	175.268	剥片	OB3C	20.4	28.8	17.7	5.13	B05
		6796J-12.X.1e	91.225	118.407	175.094	剥片	OB3C					B05
	29	6176H-11.X.1e	76.933	107.371	175.181	剥片	OB3C	12.9	22.6	10.3	1.11	B08
		5207H-11.X.1e	76.426	106.758	175.009	剥片	OB3C					B08
	30	5743J-14.X.1e	96.063	133.927	175.297	剥片	OH3	11.8	17.8	14.1	1.35	B15
		5716J-14.X.1e	97.360	133.476	175.470	剥片	OH3					B15
	31	5746J-14.X.1e	95.961	134.206	175.214	剥片	OH3	17.3	26.1	14.6	5.30	B15
		6418J-14.X.1e	96.301	133.549	175.151	剥片	OH3					B15
	32	6163H-11.X.1e	92.921	105.984	175.583	三稜尖圏	OH3A	31.7	16.6	12.0	5.98	B01
	33	6712K-14.X.1e	102.137	130.893	175.408	剥片	CC18a	18.8	37.2	23.0	9.14	B11
		6590K-11.X.1e	104.642	100.076	175.764	剥片	CC18a					B02
	34	0089L(2.X.1b	112.647	19.276	172.370	剥片	CC18a	19.0	38.6	16.0	6.20	-
		0091K-3.X.1b	106.469	25.855	172.590	剥片	CC18a					-
		6918H-15.Y1	87.022	144.650	175.720	剥片	CC18a					-
	35	6715K-11.X.1e	104.207	100.301	175.452	剥片	CC18a	40.5	40.5	21.6	25.8	B02
		6587K-11.X.1e	103.053	100.259	175.640	剥片	CC18a					B02
		6585K-11.X.1e	102.899	101.196	175.603	剥片	CC18a					B02
	36	6734K-11.X.1e	103.739	101.708	175.796	チイ了形石器	CC18a	37.0	53.0	22.8	32.2	B02
		6584K-10.X.1e	104.94	99.444	175.632	剥片	CC18a					B02
		6593K-11.X.1e	105.729	100.981	175.705	剥片	CC18a					B02
		6597K-11.X.1e	103.156	101.484	175.753	剥片	CC18a					B02
		6725K-11.X.1e	102.394	101.402	175.546	剥片	CC18a					B02
33	37	7123K-11.X.1e	98.386	104.484	175.780	三稜尖圏	SH2	30.6	9.7	8.6	2.12	-
	38	6530K-12.X.1e	102.709	111.146	176.024	三稜尖圏	SH2	35.4	14.8	12.4	5.28	B03
		5076J-13.X.1e	99.966	127.292	175.753	三稜尖圏	SH2	45.8	16.0	12.0	6.77	B03
		6545K-12.X.1e	102.744	112.085	175.929	三稜尖圏	SH2					B03
	40	6397K-10.X.1e	107.521	98.796	175.676	三稜尖圏	SH2	41.3	12.7	10.7	3.96	B01
		6291K-10.X.1e	107.154	99.124	175.837	三稜尖圏	SH2					B01
	41	6529K-12.X.1e	102.198	110.584	175.850	三稜尖圏	SH2	33.9	16.1	11.0	5.25	B03
	42	6533K-12.X.1e	103.037	110.868	175.901	二次加工剥片	SH2	21.5	15.2	9.2	2.43	B03
	43	6356K-10.X.1e	107.536	98.746	175.793	調整剥片	SH2	14.3	21.9	8.6	1.09	B01
	44	6286K-10.X.1e	107.313	98.989	175.838	調整剥片	SH2	11.7	26.6	8.0	0.65	B01
		6293K-10.X.1e	106.978	99.242	175.814	調整剥片	SH2					B01
	45	6740K-12.X.1e	103.063	110.820	175.851	調整剥片	SH2	10.5	21.5	5.4	0.82	B03
	46	6283K-10.X.1e	107.314	99.221	175.829	剥片	SH2	15.5	22.9	11.2	3.47	B01
		6406K-10.X.1e	107.107	99.176	175.796	剥片	SH2					B01
	47	6287K-10.X.1e	107.231	98.699	175.722	調整剥片	SH2	13.6	33.9	11.7	2.71	B01
		6300K-10.X.1e	106.870	98.677	175.806	調整剥片	SH2					B01



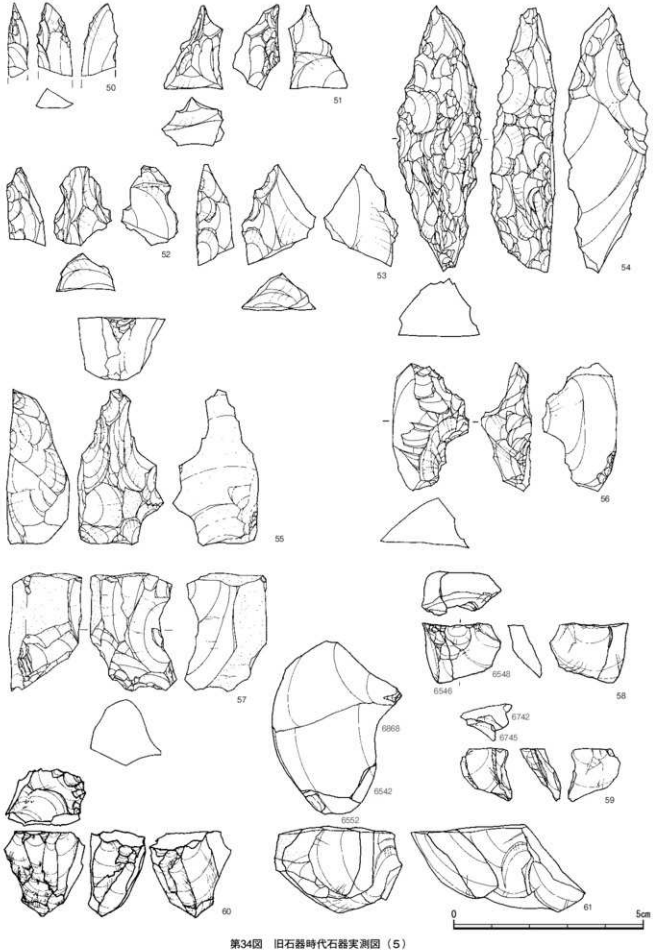
第33図　旧石器時代石器実測図（4）

第13表　旧石器時代石器観察表（3）

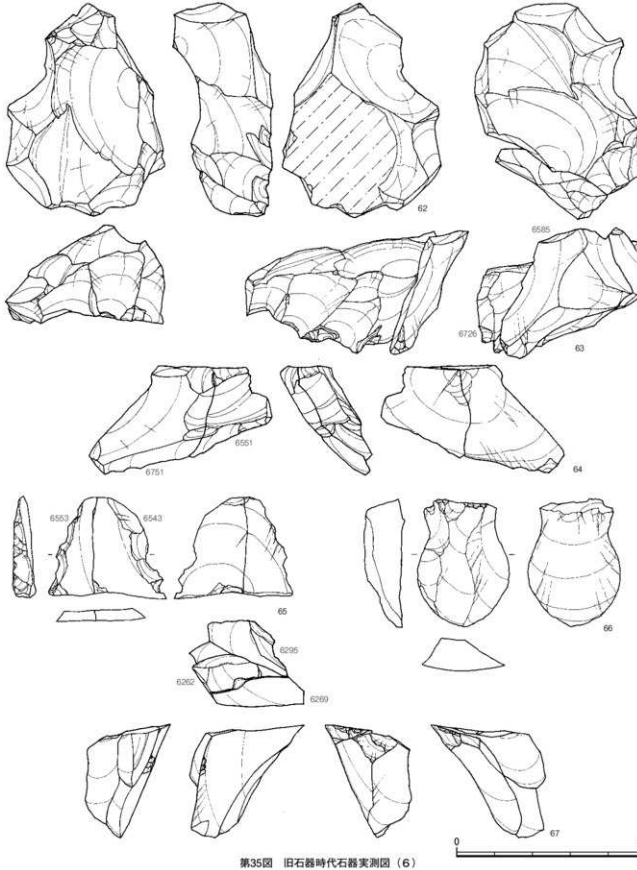
遺構NO.	図No.	第2No.（グラッド層位）	X座標	Y座標	Z座標	分類	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	ブロック
33	48	6271K-10,X Ⅰ a	108.046	99.498	175.805	黒片	SH2					B01
		6411K-10,X Ⅰ a	108.655	99.298	175.696	黒片	SH2	22.5	34.5	18.0	9.17	B01
		6274K-11,X Ⅰ a	107.625	100.071	175.790	黒片	SH2					B12
	49	6880J-10,X Ⅰ a	96.434	94.417	175.150	石核	SH2	21.7	43.3	21.5	17.1	-
34	50	6409K-10,X Ⅰ a	107.367	99.365	175.721	二次加工剥片	SHSA	20.0	9.1	5.6	0.81	B01
	51	6810K-12,X Ⅰ a	102.803	111.948	175.864	三稜尖頭器	SHSA	22.3	15.6	12.0	2.58	B03
	52	6738K-12,X Ⅰ a	103.436	110.543	175.687	三稜尖頭器	SHSA	20.0	15.1	10.3	2.13	B03
	53	6209K-12,X Ⅰ a	101.298	115.744	175.966	三稜尖頭器	SHSA	26.0	19.2	9.9	3.19	-
	54	6210H-11,X Ⅰ a	71.156	107.613	174.791	三稜尖頭器	SHSA	69.5	22.4	7.6	25.1	-
	55	5325H-12,X Ⅰ a	72.597	112.669	175.020	三稜尖頭器	SHSA	41.4	23.1	16.8	14.9	-
	56	6229K-12,X Ⅰ a	100.890	116.280	176.010	二次加工剥片	SHSB	33.7	20.1	12.9	5.72	-
	57	5531H-12,X Ⅰ a	78.838	118.370	174.860	石核	SH1	32.5	22.8	18.3	13.3	-
	58	6548K-12,X Ⅰ a	103.349	111.864	175.806	黒片	SHSA	16.0	20.9	9.4	1.94	B03
		6549K-12,X Ⅰ a	103.014	112.096	175.921	黒片	SHSA					B03
	59	6745K-12,X Ⅰ a	103.043	112.310	175.726	黒片	SHSA	14.2	13.1	10.7	0.82	B03
		6742K-12,X Ⅰ a	102.974	111.156	175.862	黒片	SHSA					B03

第14表　旧石器時代石器観察表（4）

遺構NO.	図No.	第2No.（グラッド層位）	X座標	Y座標	Z座標	分類	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	ブロック
34	60	1808K-6,V)	109.586	52.004	175.211	敲石/石核	SHSA	22.3	20.7	14.5	7.61	-
	61	6866J-11,X Ⅰ a	91.899	106.109	175.77	石核	SHSA					
		6552K-12,X Ⅰ a	103.600	112.801	175.979	黒片	SHSA	23.3	33.5	46.1	31.6	B03
		6542K-12,X Ⅰ a	103.525	111.089	175.900	黒片	SHSA					B03
35	62	6726K-11,X Ⅰ a	102.310	101.546	175.551	石核	SHSA	34.5	58.3	46.2	46.0	B02
	63	6585K-10,X Ⅰ a	104.313	99.556	175.589	黒片	SHSA					B02
	64	6751K-12,X Ⅰ a	108.089	113.603	175.725	黒片	SHSA	28.5	47.4	24.4	12.0	-
		6551K-12,X Ⅰ a	103.619	112.439	175.874	黒片	SHSA					B03
	65	6543K-12,X Ⅰ a	102.962	111.887	175.890	二次加工剥片	SHSA	26.2	30.9	6.8	4.03	B03
		6553K-12,X Ⅰ a	103.942	112.538	175.893	二次加工剥片	SHSA					B03
	66	6549K-12,X Ⅰ a	103.922	111.847	175.953	剥離調整剥片	SHSA	33.3	24.0	10.6	7.08	B03
36	67	6268K-10,X Ⅰ a	107.847	99.014	175.786	黒片	SHSA	29.8	30.4	23.1	8.58	B01
		6262K-10,X Ⅰ a	107.320	97.227	175.657	黒片	SHSA					B01
		6295K-10,X Ⅰ a	106.612	99.140	175.744	黒片	SHSA					B01
	68	6579K-10,X Ⅰ a	107.056	97.968	175.649	二次加工剥片	SHSB	61.6	50.6	16.3	42.5	B01
	69	5323J-12,X Ⅰ a	83.103	112.881	175.330	剥離調整剥片	SHSA	48.6	41.5	12.0	20.4	-



第34図　旧石器時代石器実測図（5）



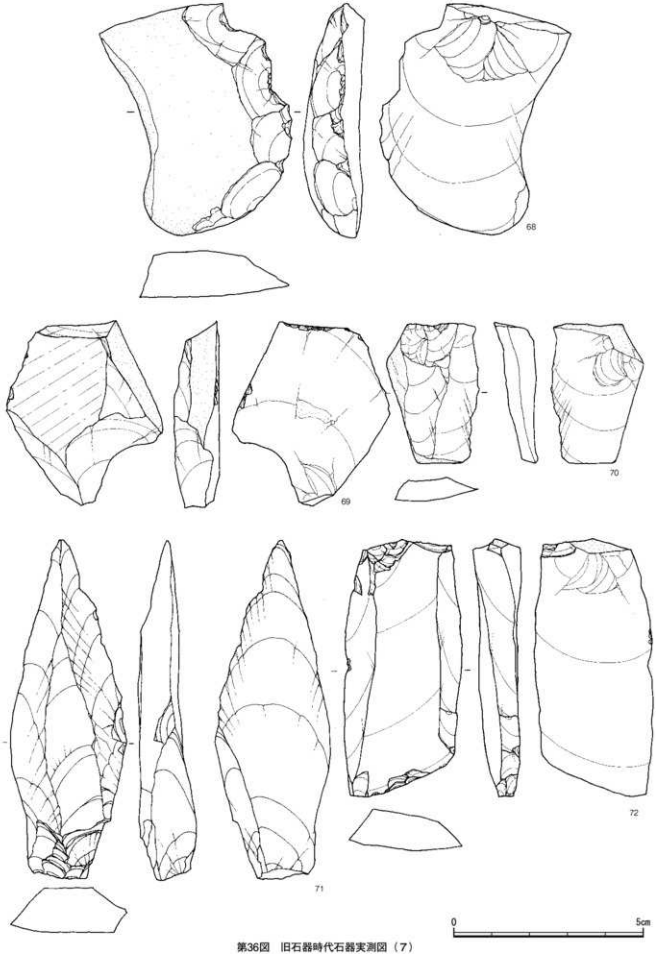
第35図　旧石器時代石器実測図（6）

第15表　旧石器時代石器観察表（5）

調査No.	図No.	整理No（グリッド、層位）	X座標	Y座標	Z座標	分類	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	ブロック
36	70	:6550K-12,X Ⅰ層	104.211	111.71	175.796	剥離剥片F	SHSA	36.7	24.4	11.1	8.11	803
	71	:5793J-15,X Ⅰ層	95.924	145.159	175.033	原片火焼器	HF2	89.4	30.3	14.2	33.0	-

第16表　旧石器時代石器観察表（6）

調査No.	図No.	整理No（グリッド、層位）	X座標	Y座標	Z座標	分類	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	ブロック
36	72	:1166H-12,V	75.396	114.1	176.26	原片	SHSB	71.6	31.8	12.6	21.9	-



第36図　旧石器時代石器実測図（7）

第３章　縄文時代早期の調査

第１節　概要

縄文時代早期に該当する層は霧摩火山灰層直上のⅥ層及びアカホヤ火山灰層直下のⅤ層である。遺構は，集石，土坑等が検出された。遺物はⅥ層から縄文時代早期前半の土器が，Ⅴ層から縄文時代早期後半の土器が出土する傾向にある。Ⅳ類土器が一番多く，本遺跡の中心をなす時期と考えられる。石器に関しては石鏃，石斧，磨石等が多数出土した。石鏃の出土数が多く，完形品の石鏃が多い。

第２節　遺構

１　集石

出土状況から１，２ａ，２ｂ，３，４の５つのエリアでまとめた。

１号集石（Ａ－３区，Ⅵ層）

利用石材は安山岩でわずかに砂岩がある。礫にまとまりが無く，掘り込み・炭化物等はみられない。

２号集石（Ｂ－３区，Ⅵ層上）

利用石材は全て安山岩である。中心部下部からも礫が検出された。ある程度のまとまりがみられるが傾斜地にかかるため、礫が流れた状態がうかがえる。

３号集石（Ｄ－５区，Ⅵ層）

利用石材は安山岩でわずかに砂岩がある。礫は10cmを超えるものもあり，まとまりもある。礫は全体的に被熱により赤化しているが炭化物，掘り込みはみられない。

４号集石（Ａ－３区，Ⅵ層上）

利用石材は10cm以内の安山岩でわずかに砂岩がある。傾斜に沿って礫が流れている。

５号集石（Ｅ－５区，Ⅵ層）

利用石材は全て安山岩である。円礫は火を受け，大半が破砕している。礫の散在が広範囲にわたっているが，下部から礫が検出される部分が中心部になると思われる。

６号集石（Ｌ－11区，Ⅵ層）

礫数も10個と少なく，まとまりがなく散在している。

７号集石（Ｌ－10区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。全体的に被熱したと思われるが赤化がみられない礫もある。礫数が33個と少なく，まとまりに欠ける。

８号集石（Ｌ－10区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。ある程度のまとまりがある。全体的に被熱したと思われるが赤化がみられない礫もある。10m以内で６・10・17号集石が検出されている。

９号集石（Ｋ－７区，Ⅵ層）

利用石材は全て安山岩である。礫数も少なく，まとまりがなく散在している。

10号集石（Ｌ－10区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。

11号集石（Ｋ－10・11区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。全体的に被熱したと思われるが赤化がみられない礫もある。礫が散在しまとまりに欠ける。北東５ｍの地点で15号集石が検出されている。

12号集石（Ｊ－９区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。密集性はやや欠けるが，１㎡以内に10cm以下の礫が50個使用されている。検出位置と焼成の関連性はみられず，赤化していない礫もある。掘り込み，炭化物等はみられない。

13号集石（Ｉ－９区，Ⅵ層）

利用石材は安山岩が48個と砂岩が１個である。礫の大きさに統一性はみられない。全体的に被熱したと思われるが赤化がみられない礫もある。集中部分から礫が流れた状況が考えられる。

14号集石（Ｊ－10区、Ⅵ層）

中心部に礫が少なく円形のまとまりをもつ集石である。掘り込み面は明瞭に認められないが，断面観察によると掘り込みがあった可能性がある。

15号集石（Ｋ－10区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。大きさは一定しない。礫には大きくさか所のまとまりがみられる。検出位置と焼成の関連性はみられず，赤化していない礫もある。掘り込み，炭化物等はみられない。磨石が１点混在している。

16号集石（Ｊ－９区，Ⅵ層）

利用石材は安山岩が若干砂岩を上回る。礫の集中部と散在部分が確認された。集中部の礫数は18個で少ないが，下部からも同数程度の礫が検出されている。被熱による礫の赤化が集中部のみでなく，全体的に確認できることから使用後に散在したとみられる。

17号集石（Ｌ－11区，Ⅵ層）

利用石材は安山岩が34個と砂岩が１個である。礫のまとまりがなく，広範囲に散在している。全体的に被熱したと思われるが赤化がみられない礫もある。北東側で６・８・10号集石が検出されている。

18号集石（Ｌ－17区，Ⅵ層上）

利用石材は安山岩でわずかに砂岩がある。中心部は上下で礫が検出されているが，明確な掘り込みの確認は困難である。礫は全体に被熱により赤化しているが炭化物はみられない。遺構周辺でも石鏃・フレーク・土器片が出土している。検出地点は遺物が集中して出土したエリアの外縁部にあたる。

19号集石（Ｌ－13区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。中心にあたる部分はあるが，全体に崩れている。赤化は弱く，これがみられない礫もある。掘り込み，炭化物等はみられない。

20号集石（Ｊ－13区，Ⅵ層）

利用石材は全て安山岩である。

21号集石（Ⅰ－15区，Ⅵ層）

利用石材は全て安山岩である。礫数も少なくまとまりに欠ける。全体的に被熱したと思われるが赤化がみられない礫もある。7ｍ東の地点で23・27号集石が検出されている。

22号集石（Ⅰ－17区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。傾斜地になるため明確な中心部がない。

23号集石（Ｊ－14区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。被熱による赤化がみられる礫は半数以下にとどまる。

24号集石（Ｍ－15区，Ⅵ層）

利用石材は全て安山岩である。10cm以内の礫が大半を占める。下部で礫が密集しているが，上部の礫もある程度のまとまりがみられる。検出面の色調により明瞭な掘り込みはみられない。全体的に被熱したと思われるが赤化がみられない礫もある。密集部周辺で5mm程度の炭化物が確認された。

25号集石（Ｋ－14区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。全体的に被熱したと思われるが赤化がみられない礫もある。西方5ｍ以内で26・31号集石が検出されている。掘り込み，炭化物等はみられない。

26号集石（Ｋ－14区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。焼成による赤化がみられる礫は半数以下にとどまる。比較的大きな礫に赤化がみられる。掘り込み，炭化物等はみられない。

27号集石（Ｊ－14区，Ⅵ層上）

安山岩と砂岩が半数程度で10cm以内のもので構成される。明確な中心部は無い。被熱による赤化が薄くみとめられる程度である。明確な掘り込みはみられないが下部からも礫が検出された。

28号集石（Ｊ－16区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。傾斜地にあるため，礫が散在し明確な中心部がない。掘り込み，炭化物等はみられない。

29号集石（Ｊ－13区，Ⅵ層）

利用石材は全て安山岩である。礫が広範囲に散在するが，比較的大きめの礫がある部分が中心部とみられる。全体的に被熱したと思われるが赤化がみられない礫もある。範囲内にチャートの剥片が出土している。

30号集石（Ｋ－12区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。中心部は礫のまとまりにやや欠けるが上下に礫がある。掘り込み，炭化物等はみられない。

31号集石（Ｊ－15区，Ⅵ層）

利用石材の多くが安山岩でわずかに砂岩がある。中心部はあるが，使用礫の大きさは一定しない。中心部から5ｍ以内の範囲に検出面の傾斜に沿った礫の散在がみられる。全体的に被熱したと思われる。

32号集石（Ⅰ－23区，Ⅴ層上）

利用石材は全て安山岩である。全体的に被熱しているが，中心部は強い赤紫色を呈する。明瞭な掘り込みはみられないが下部からも礫が検出され，被熱による赤化がみられる。検出地点が谷状の傾斜地のため礫が流れた状態で，周辺遺物も流れ込みと思われる。炭化物等はみられない。

33号集石（Ｅ-11区，Ⅵ層）

利用石材はこぶし大の砂岩が多い。礫は全て被熱しており，節理面等で破砕している。この集石のまわりには礫が散在しており，比較的，礫がまとまっている部分を集石とした。

34号集石（Ｅ－13区，Ⅵ層）

利用石材は全て砂岩である。礫の被熱度が高い。明瞭な掘り込みは認められないが，礫が集中し，中心部が認められる。

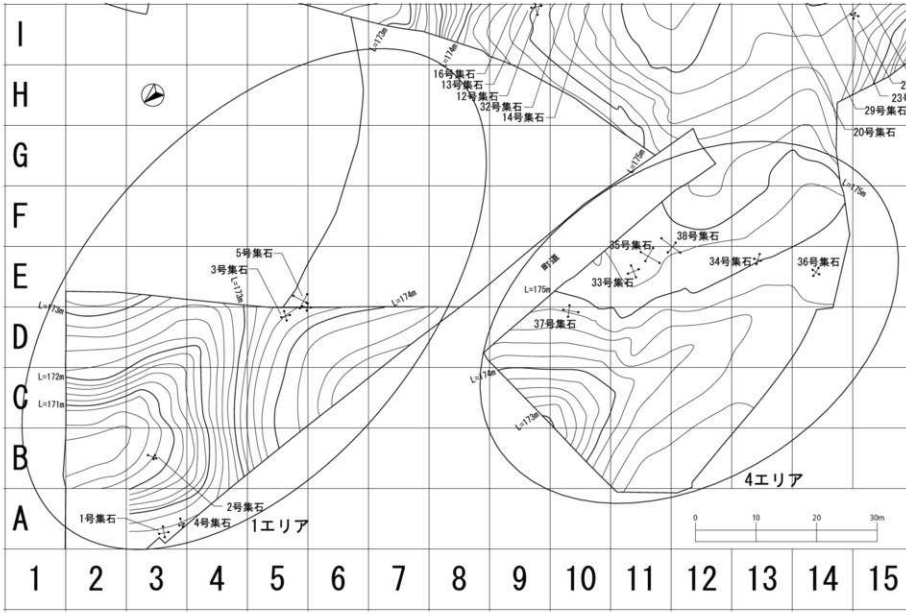
35号～37号集石（Ｅ－11区，Ⅵ層・Ｅ－14区，Ⅵ層・Ｄ－11区，Ⅴ層）

利用石材は全て砂岩である。全ての礫がよく被熱しており破砕している礫が多い。

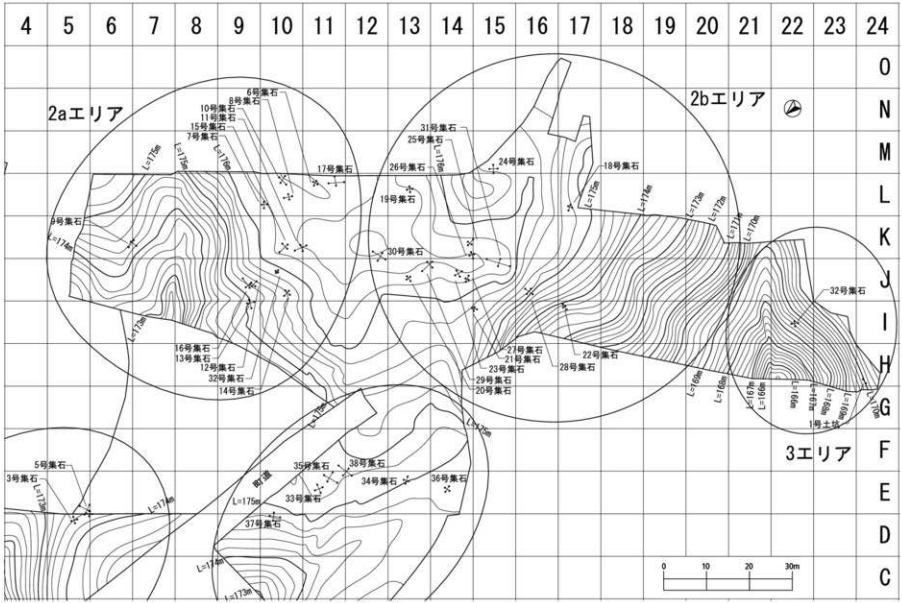
38号集石（Ｅ・Ｆ－11・12区，Ⅵ層）

利用石材は全て砂岩である。こぶし大の角礫が多い。

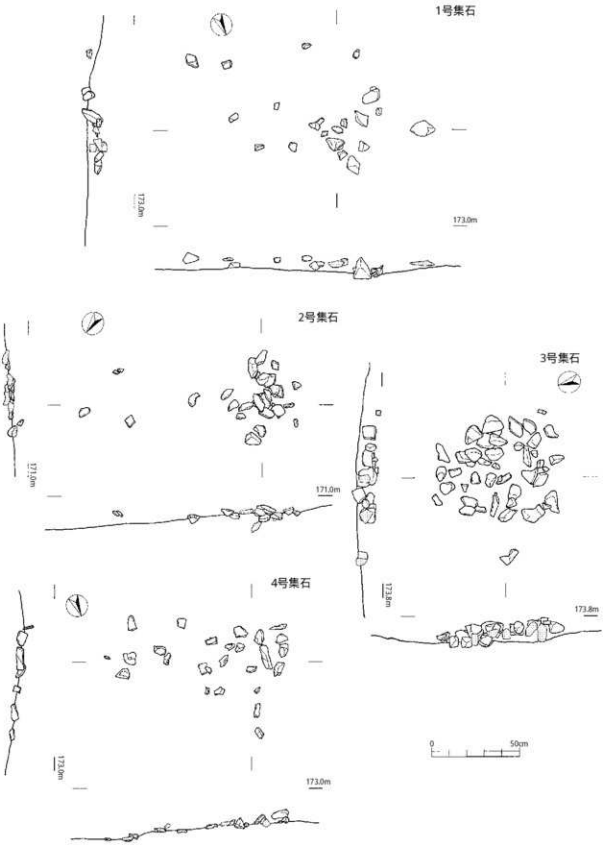
全ての礫が被熱し，破砕している礫が多い。5ｍ以内に33・35号集石がある。



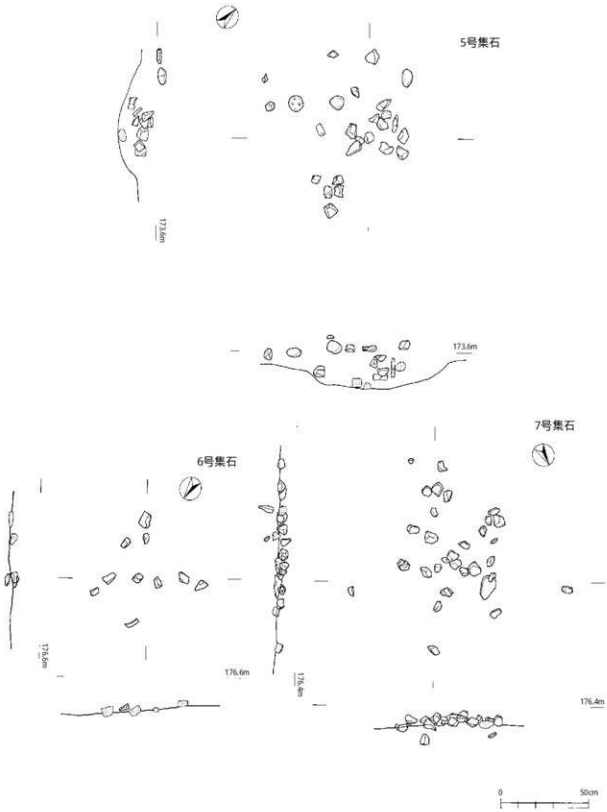
第37図　1・4エリア遺構配置図



第38図　２ａ・２ｂ・３エリア遺構配置図

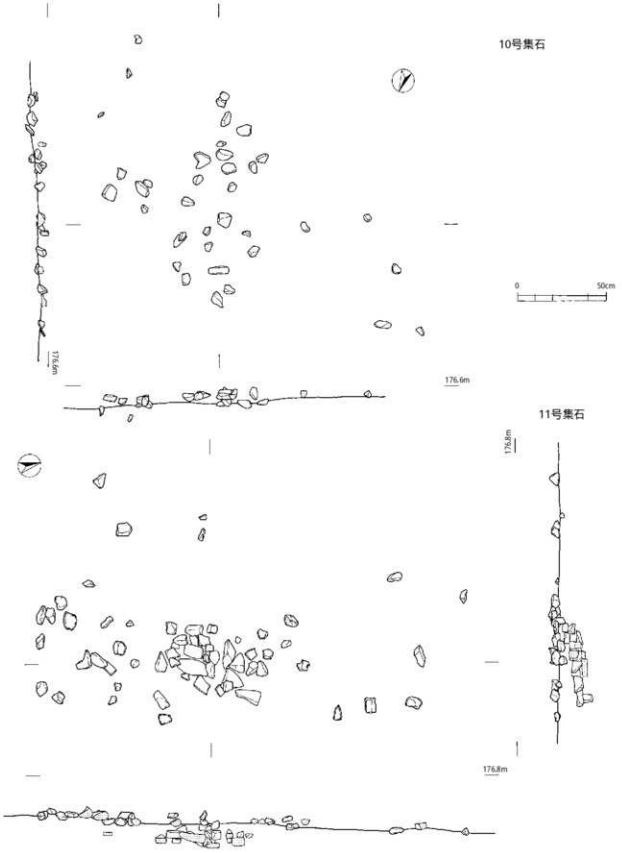


第39図　1エリア（1－4号）集石実測図

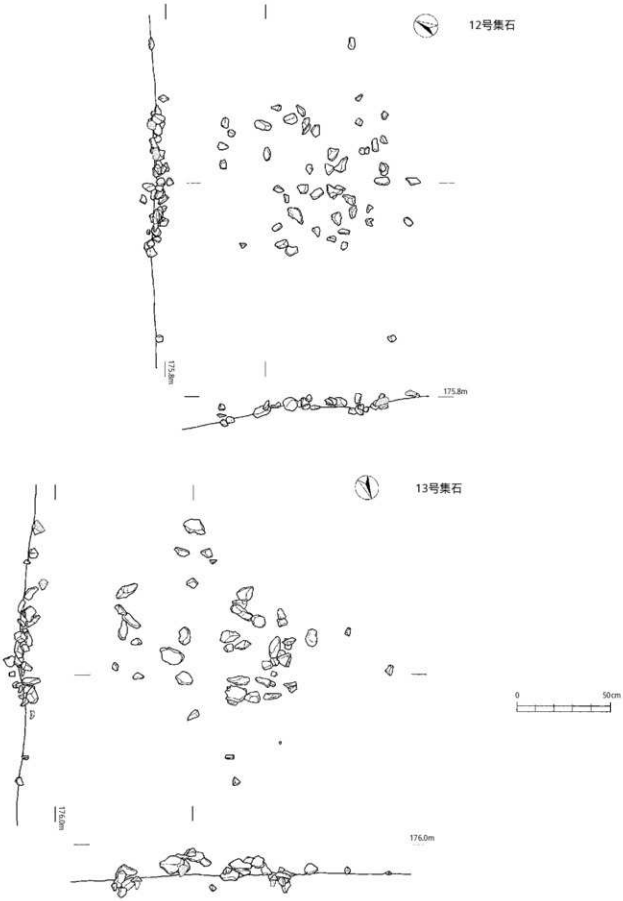


第40図　1エリア（5号）・2aエリア（6・7号）集石実測図

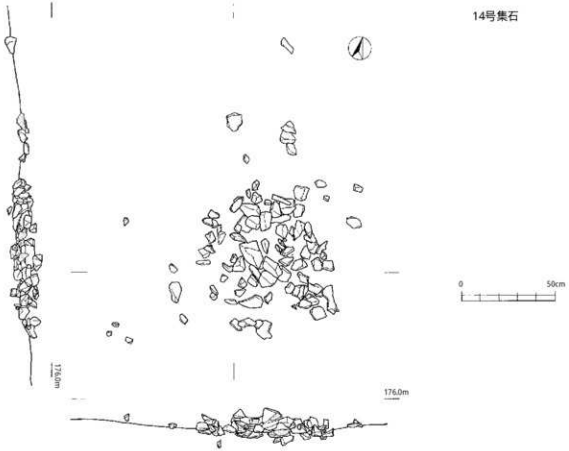
第41図　２ａエリア（８・９号）集石実測図(1)



第42図　2ａエリア（10・11号）集石実測図(2)



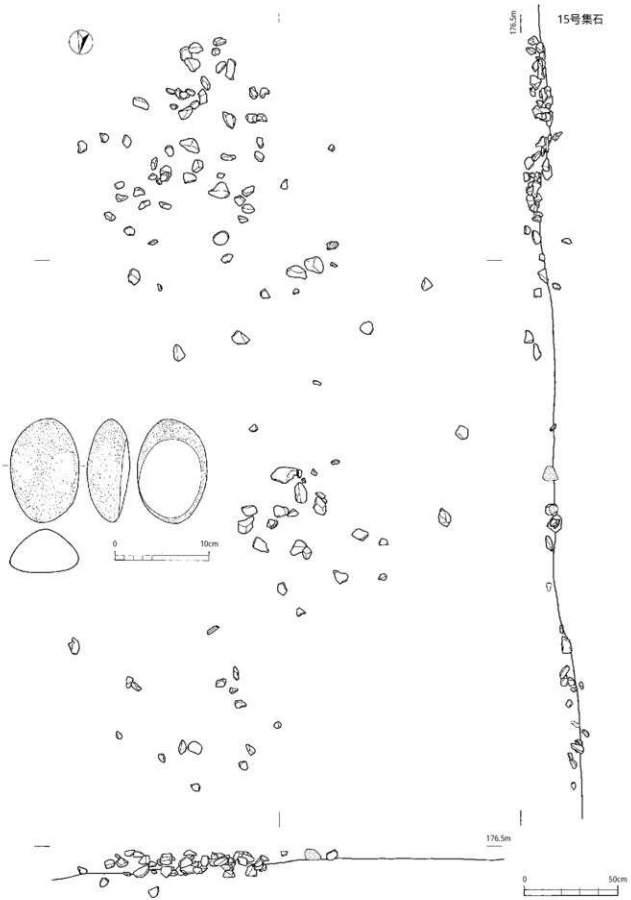
第43図　２ａエリア（12・13号）集石実測図(3)



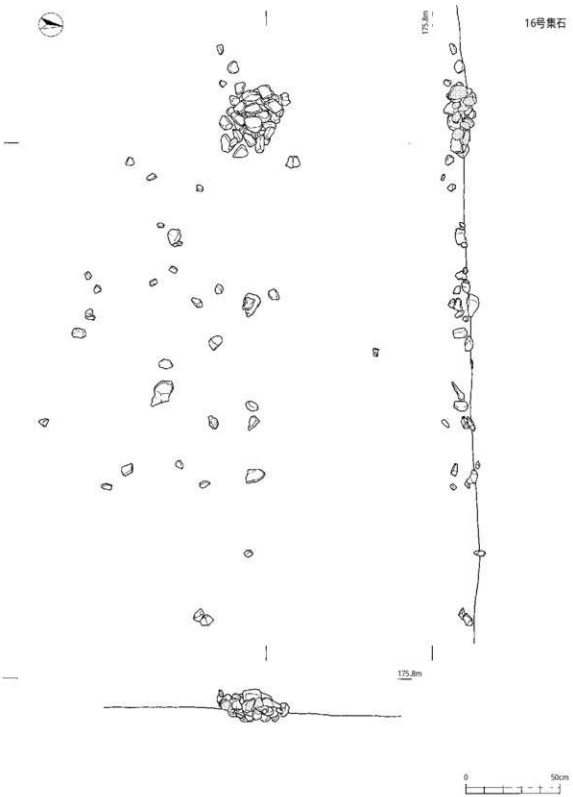
第44図　２ａエリア（14号）集石実測図(4)

第17表　縄文時代早期集石観察表(1)

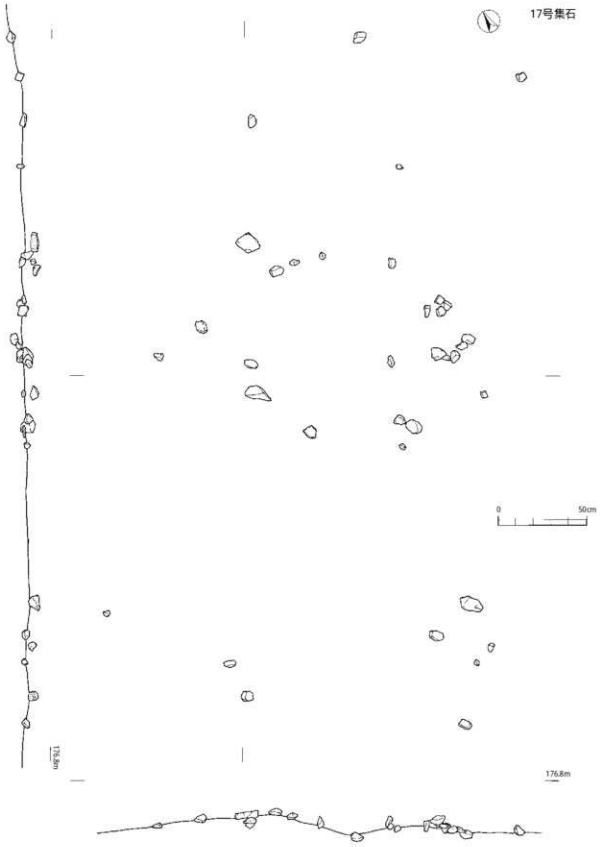
挿図番号	図番号	区	エリア	検出層	総個数	大きさ 長径(cm)	大きさ 短径(cm)	構成礫 総重量(g)	構成礫 重量平均値(g)	構成礫 被熱率(%)	備考
39	1	A－3	1	Ⅵ	22	144	71	5280	240	－	H16－4
	2	B－3	1	Ⅵ上	28	126	54	－	－	－	H16－5
	3	D－5	1	Ⅵ	47	88	75	22100	470.21	－	H16－3
	4	A－3	1	Ⅵ上	25	105	70	－	－	－	H16－6
40	5	E－5	1	Ⅵ	27	95	86	4885	180.92	－	H16－7
	6	L－11	2a	Ⅵ	10	68	67	1540	154	－	H16－22
	7	L－10	2a	Ⅵ	33	127	112	4900	148.48	－	H16－25
41	8	L－10	2a	Ⅵ	88	181	101	19830	225.34	－	H16－24
	9	K－7	2a	Ⅵ	18	172	147	2370	131.66	－	H16－10
42	10	L－10	2a	Ⅵ	38	171	170	6495	170.92	－	H16－23
	11	K－10・11	2a	Ⅵ	63	243	142	17730	281.42	－	H16－26
43	12	J－9	2a	Ⅵ	50	162	103	7845	156.9	－	H16－28
	13	I－9	2a	Ⅵ	49	150	143	13010	265.51	－	H16－30
44	14	J－10	2a	Ⅵ	97	163	136	17040	175.67	－	H16－31
45	15	K－10	2a	Ⅵ	111	398	212	13090	163.62	－	H16－27
46	16	J－9	2a	Ⅵ	74	308	182	20015	270.47	－	H16－29
47	17	L－11	2a	Ⅵ	35	394	238	7560	216	－	H16－21
48	18	L－17	2a	Ⅵ上	35	118	78	5444	155.54	－	H16－2
	19	L－13	2a	Ⅵ	30	97	96	4950	165	－	H16－15
	20	J－13	2a	Ⅵ	27	151	99	5540	205.18	－	H16－13



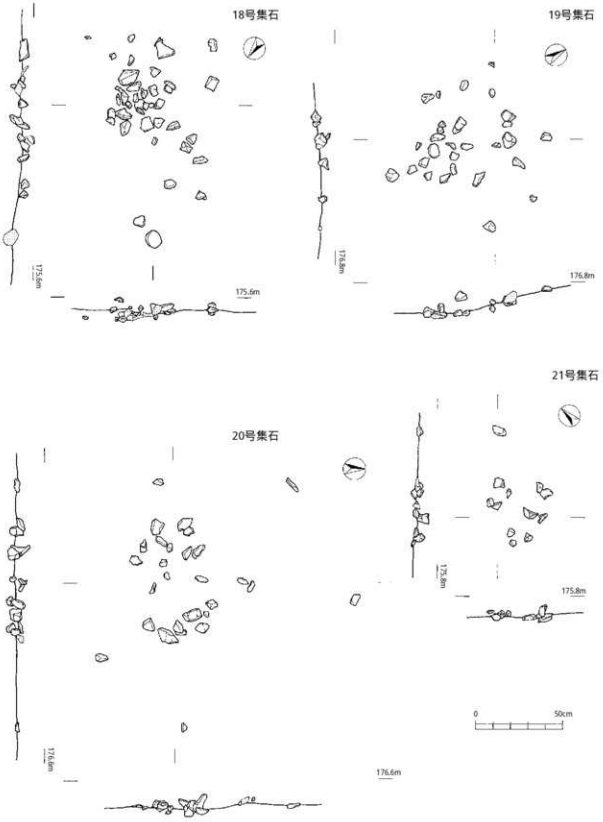
第45図　２ａエリア（15号）集石実測図(5)



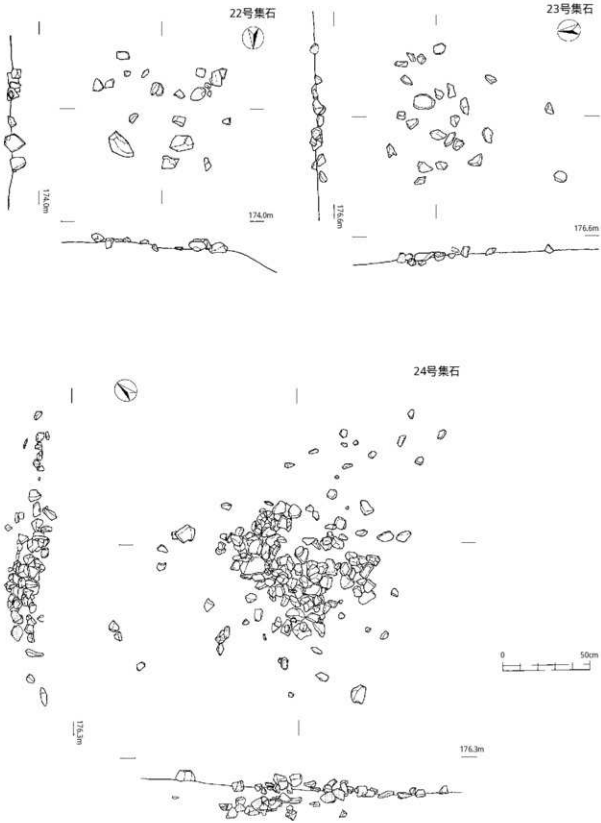
第46図　２ａエリア（16号）集石実測図(6)



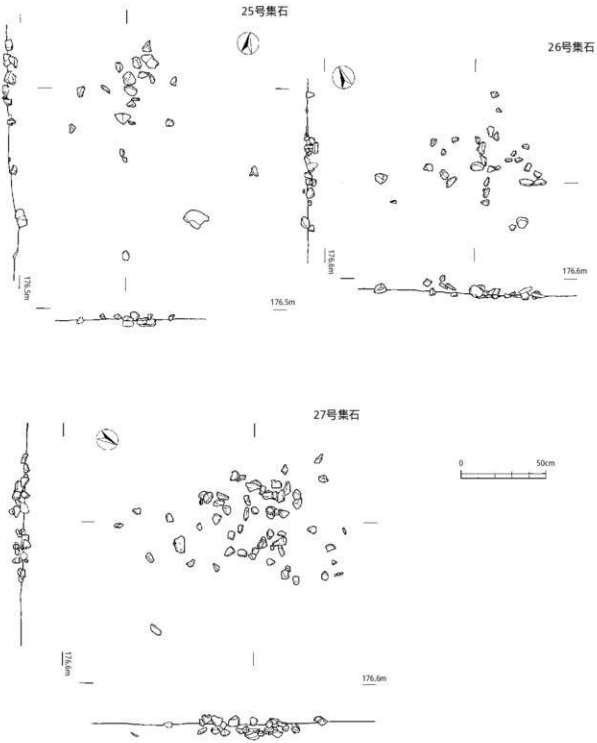
第47図　２ａエリア（17号）集石実測図(7)



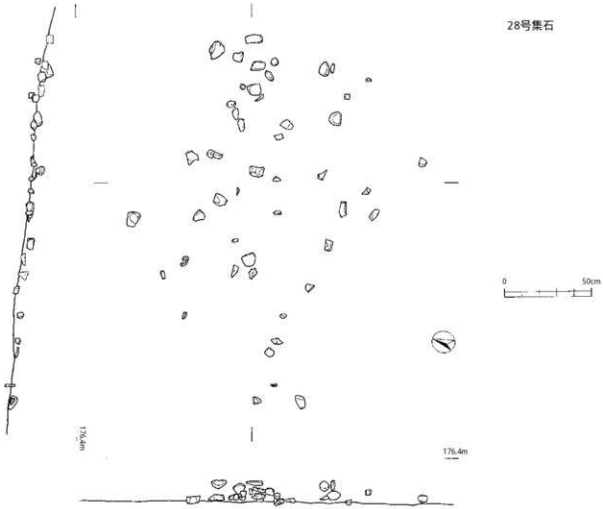
第48図　２ａエリア（18－21号）集石実測図(8)



第49図　２ａエリア（22－24号）集石実測図⑨



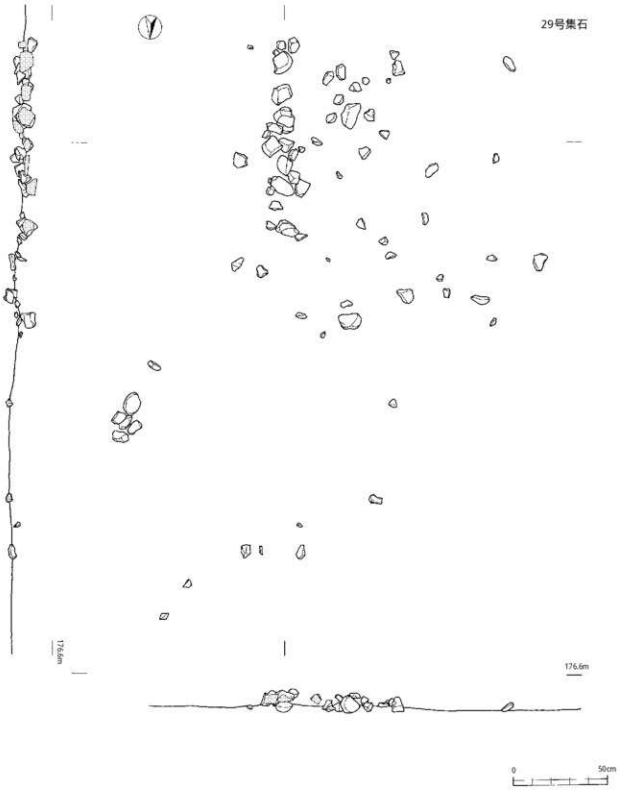
第50図　２ｂエリア（25～27号）集石実測図(1)



第51図　２ｂエリア（28号）集石実測図(2)

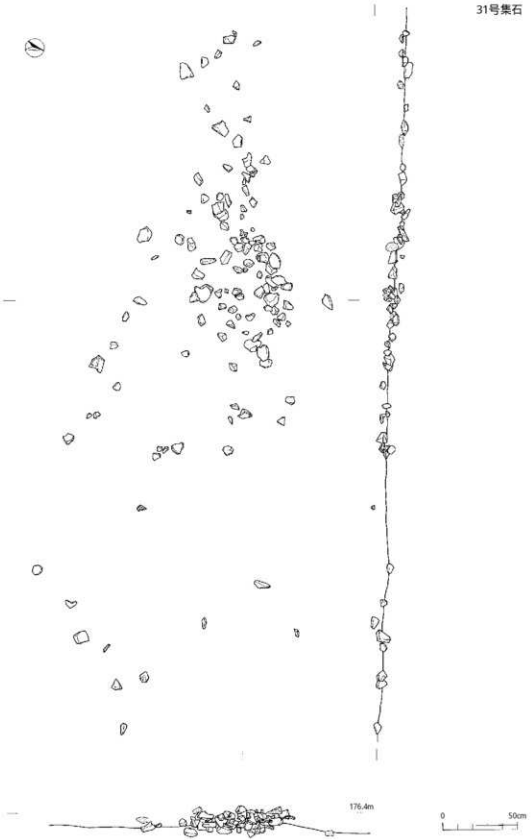
第18表　縄文時代早期集石観察表(2)

挿図番号	図番号	区	エリア	検出層	総個数	大きさ		構成礫			備考
						長径(cm)	短径(cm)	総重量(g)	重量平均値(g)	被熱率(%)	
48	21	Ｉ－15	2ａ	Ⅵ	12	68	33	1510	125.83	－	H16－17
49	22	Ｉ－17	2ａ	Ⅵ	16	77	69	5000	312.5	－	H16－8
	23	Ｊ－14	2ａ	Ⅵ	24	103	80	4890	203.75	－	H16－11
	24	Ｍ－15	2ａ	Ⅵ	178	193	158	30935	173.79	－	H16－20
50	25	Ｋ－14	2ｂ	Ⅵ	22	129	111	3710	168.63	－	H16－18
	26	Ｋ－14	2ｂ	Ⅵ	32	101	82	3600	109.09	－	H16－14
	27	Ｊ－14	2ｂ	Ⅵ上	61	137	108	7859	83.6	100	H16－9
51	28	Ｊ－16	2ｂ	Ⅵ	47	215	172	6690	142.34	70.2	H16－33
52	29	Ｊ－13	2ｂ	Ⅵ	75	310	232	19220	256.26	－	H16－12
53	30	Ｋ－12	2ｂ	Ⅵ	97	370	179	22490	231.85	－	H16－16
54	31	Ｊ－15	2ｂ	Ⅵ	122	471	202	25632	210.09	－	H16－19
55	32	Ｉ－23	3	Ⅴ	30	138	110	6813	227.1	83.3	H16－1
	33	Ｅ－11	4	Ⅵ	23	135	120	3475	151.08	100	H15－1
56	34	Ｅ－13	4	Ⅵ	39	145	85	5758	147.64	100	H15－3
	35	Ｅ－11	4	Ⅵ	32	268	195	6675	208.59	－	H15－2
57	36	Ｅ－14	4	Ⅵ	13	83	70	1947	149.76	100	H15－8
	37	Ｄ－11	4	Ⅴ	23	205	140	4355	189.34	100	H15－5
58	38	Ｅ･Ｆ－11･12	4	Ⅵ	29	243	150	4335	149.48	100	H15－6

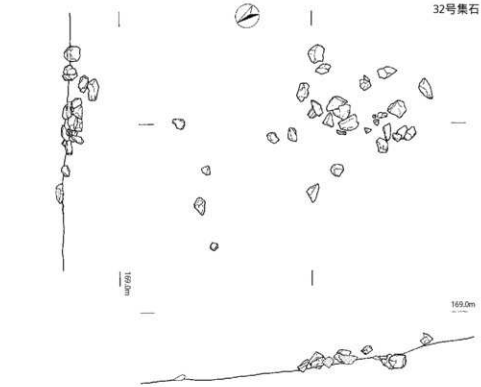


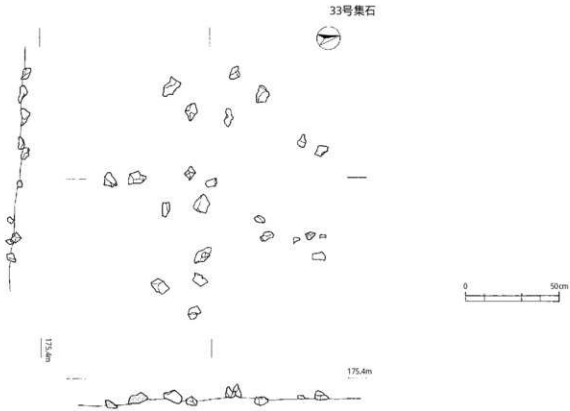
第52図　２ｂエリア（29号）集石実測図(3)

第53図　２ｂエリア（30号）集石実測図(4)



第54図　２ｂエリア（31号）集石実測図(5)

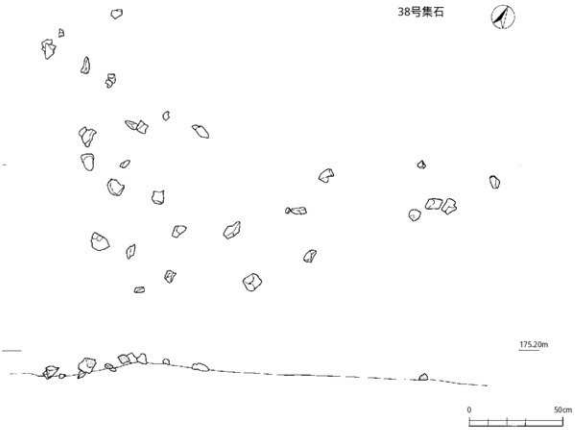




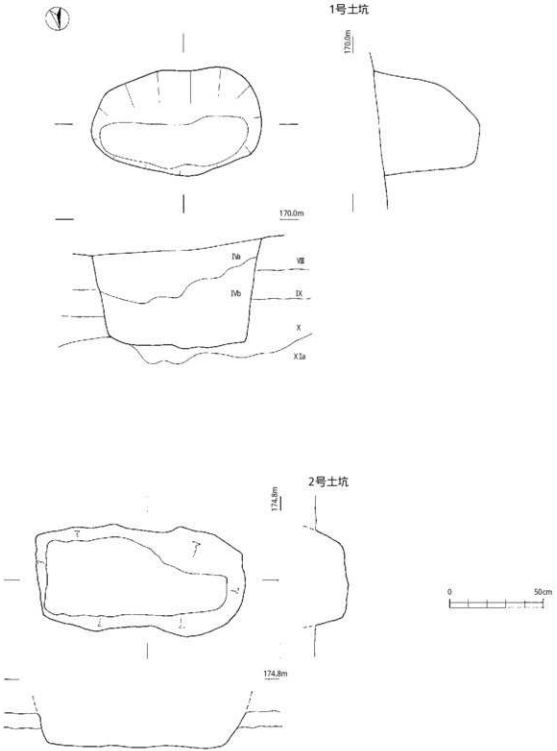
第55図　3エリア（32号）・4エリア（33号）集石実測図

第56図　４エリア（34・35号）集石実測図(1)

第57図　４エリア（36・37号）集石実測図(2)



第58図　４エリア（38号）集石実測図(3)



第59図　土坑実測図

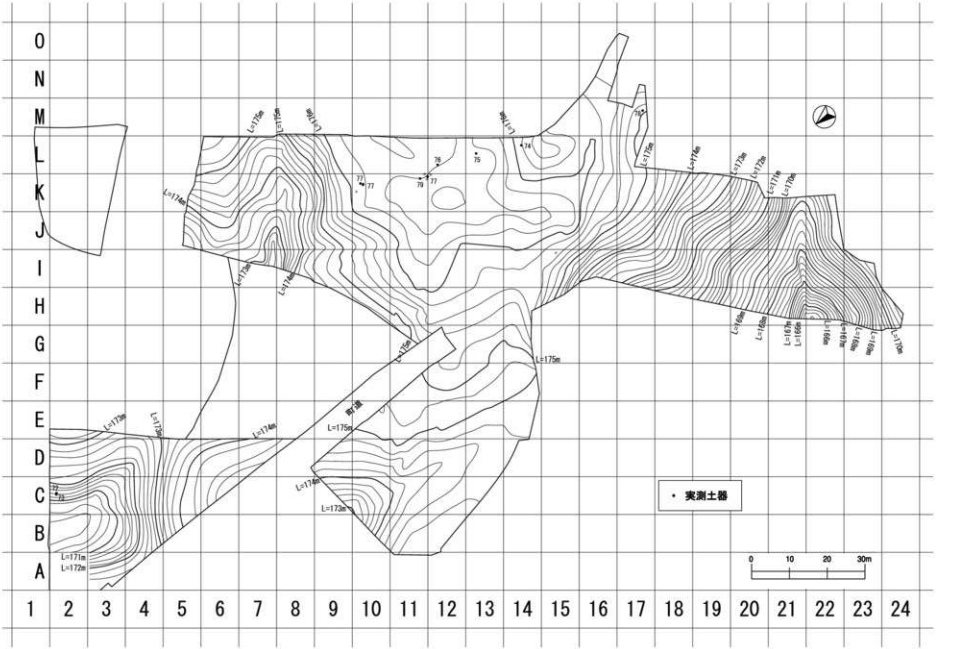
2　土坑

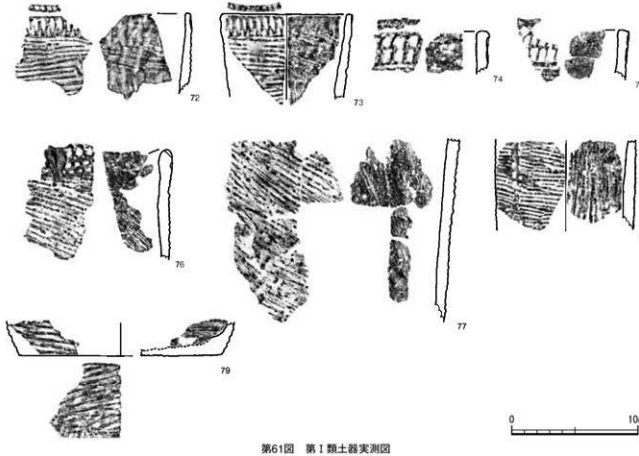
1号土坑

H－25区で検出した。谷状地形の頂上部近くである。平面プランは長径約90cm，短径約50cmの長楕円形で，検出面からの深さは約52cmである。Ⅶ層（薩摩火山灰層）下面で検出し，埋土はⅣ層のアカホヤ火山灰腐食土層とアカホヤ火山灰層を主体に形成される。

2号土坑

B－11区で検出した。平面プランは長径約110cm，短径約58cmの長方形で，検出面からの深さは約18cmである。Ⅶ層（薩摩火山灰層）上面で検出し，埋土はⅥ層の暗褐色腐食土を主体に形成されることから縄文時代早期の土坑と判断した。


O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
L=175m
L=174m
L=173m
L=172m
L=171m
L=170m
L=169m
L=168m
L=167m
L=166m
L=165m
L=164m
L=163m
L=162m
L=161m
L=160m
L=159m
L=158m
L=157m
L=156m
L=155m
L=154m
L=153m
L=152m
L=151m
L=150m
L=149m
L=148m
L=147m
L=146m
L=145m
L=144m
L=143m
L=142m
L=141m
L=140m
L=139m
L=138m
L=137m
L=136m
L=135m
L=134m
L=133m
L=132m
L=131m
L=130m
L=129m
L=128m
L=127m
L=126m
L=125m
L=124m
L=123m
L=122m
L=121m
L=120m
L=119m
L=118m
L=117m
L=116m
L=115m
L=114m
L=113m
L=112m
L=111m
L=110m
L=109m
L=108m
L=107m
L=106m
L=105m
L=104m
L=103m
L=102m
L=101m
L=100m
L=99m
L=98m
L=97m
L=96m
L=95m
L=94m
L=93m
L=92m
L=91m
L=90m
L=89m
L=88m
L=87m
L=86m
L=85m
L=84m
L=83m
L=82m
L=81m
L=80m
L=79m
L=78m
L=77m
L=76m
L=75m
L=74m
L=73m
L=72m
L=71m
L=70m
L=69m
L=68m
L=67m
L=66m
L=65m
L=64m
L=63m
L=62m
L=61m
L=60m
L=59m
L=58m
L=57m
L=56m
L=55m
L=54m
L=53m
L=52m
L=51m
L=50m
L=49m
L=48m
L=47m
L=46m
L=45m
L=44m
L=43m
L=42m
L=41m
L=40m
L=39m
L=38m
L=37m
L=36m
L=35m
L=34m
L=33m
L=32m
L=31m
L=30m
L=29m
L=28m
L=27m
L=26m
L=25m
L=24m
L=23m
L=22m
L=21m
L=20m
L=19m
L=18m
L=17m
L=16m
L=15m
L=14m
L=13m
L=12m
L=11m
L=10m
L=9m
L=8m
L=7m
L=6m
L=5m
L=4m
L=3m
L=2m
L=1m
L=0m
L=-1m
L=-2m
L=-3m
L=-4m
L=-5m
L=-6m
L=-7m
L=-8m
L=-9m
L=-10m
L=-11m
L=-12m
L=-13m
L=-14m
L=-15m
L=-16m
L=-17m
L=-18m
L=-19m
L=-20m
L=-21m
L=-22m
L=-23m
L=-24m
L=-25m
L=-26m
L=-27m
L=-28m
L=-29m
L=-30m
L=-31m
L=-32m
L=-33m
L=-34m
L=-35m
L=-36m
L=-37m
L=-38m
L=-39m
L=-40m



第61図　第Ⅰ類土器実測図

第３節　遺物

Ⅰ　土器

厳野B遺跡の出土土器は，Ⅴ,Ⅵ層から出土している。Ⅳ層がアカホヤ火山灰層に該当することから，Ⅴ,Ⅵ層は縄文時代早期に該当する。出土土器は，その形態の特徴から，Ⅰ類～Ⅶ類の８類に細分された。これらは，前葉から中葉，後葉の早期全般にわたっている。

Ⅰ類土器（第61図－72～79）

Ⅰ類土器は，口縁部外面に刻目を巡らせ，胴部には条痕文を施す円筒形土器である。内面はヘラ削り仕上げで，口縁部の近くは丁寧なナデ仕上げがみられる。14点出土し，そのうち８点を掲載した。72～76は口縁部片で，77～78は胴部片，79は底部片である。口縁部の器形は上方に直行する円筒形土器である。直行する口縁部外面には連続する刻目を巡らせている。72～75はヘラ状施文具での刻目で，76は貝殻で斜位に刺突を巡らせている。口唇端部には刻目が施されている。また,口縁部上端に粘土を貼付け，部分的な突起を呈する。79は底部外面に太目の条痕文がみられる。

Ⅱ類土器（第63図80～第69図186）

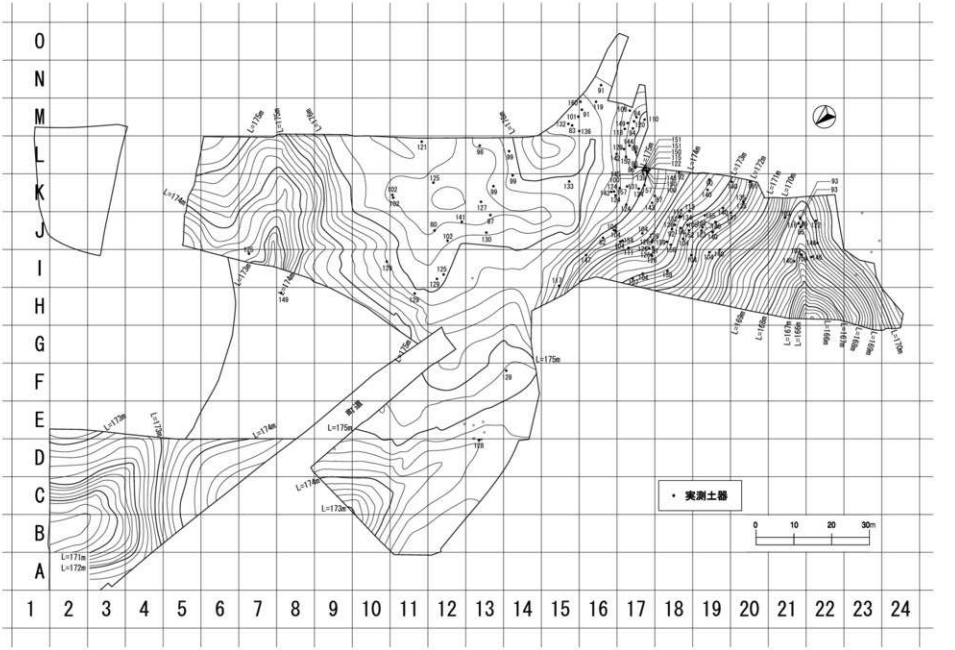
Ⅱ類土器は胴部に貝殻条痕文を施しその上から貝殻刺突文を重ねるものである。器形と文様で３つに分類した。
463点出土し，そのうち107点を掲載した。

Ⅱa類土器（第63図80～第66図151）

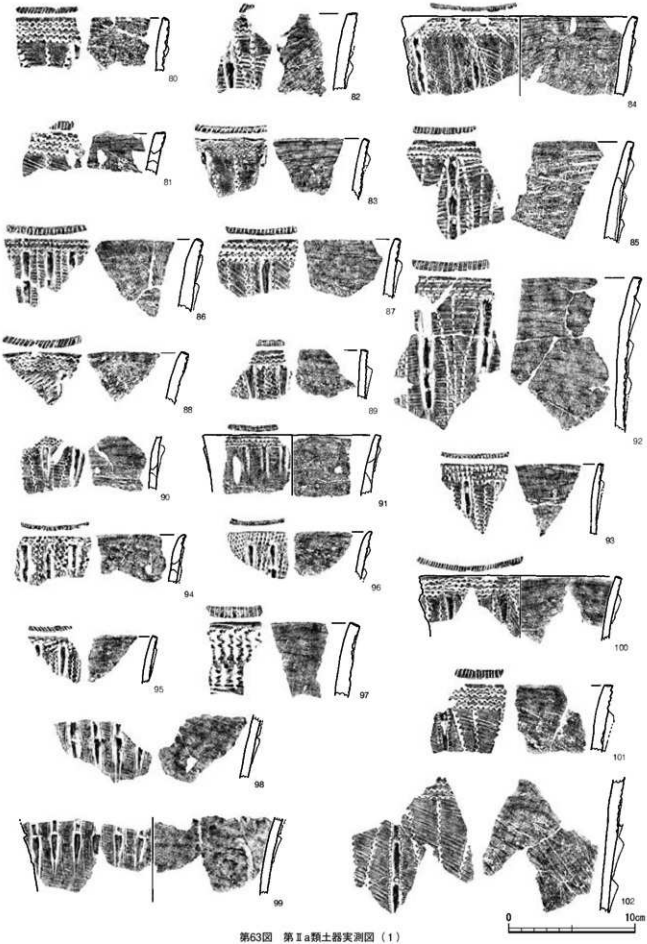
Ⅱa類土器は，口縁部外面に横位に二枚貝の貝殻刺突文を巡らせ，胴部には条痕整形の後に貝殻刺突文を縦位に施す円筒形土器である。内面はナデ整形の丁寧な仕上げがみられる。80,82～96，98,99，108～118はクサビ形貼付文の側面がナデられている。81,91,94は口縁部に補修孔がみられる。100～107はクサビ形貼付文の側面に貝殻刺突文が施されている。119～133は胴部片である。128は条痕整形後ヘラ削りで仕上げてある。130～133は方形の刺突文を縦位に施すもので

第19表　縄文時代早期土器観察表（１）

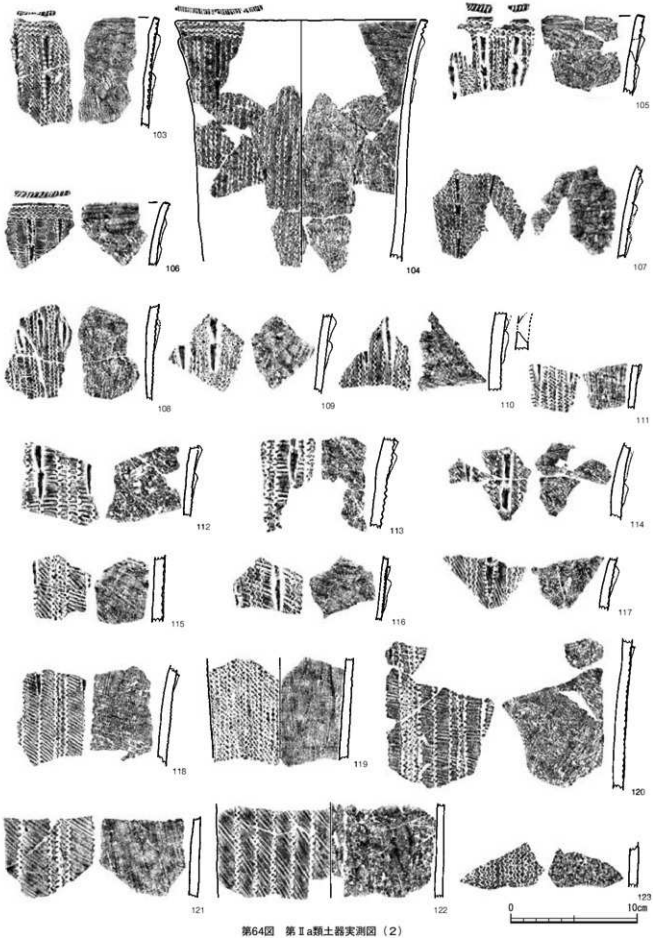
挿図No	図No	取上No(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	焼成
61	72	□319C-2,Ⅵ	Ⅰ	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	灰黄褐色	黄褐色	良
	73	□317C-2,Ⅵ	Ⅰ	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	黄褐色	にぶい黄褐色	普通
	74	□376D(L-14,Ⅴ)	Ⅰ	条痕	ナデ	長,角,雲,砂	にぶい橙色	にぶい橙色	普通
	75	□466I(L-13,Ⅵ)	Ⅰ	条痕	ナデ	長,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	76	□641L-12,Ⅴ)	Ⅰ	条痕	ナナメケズリ,ナデ	石,長,角,砂	にぶい橙色	橙色	普通
	77	□4074(K-10,Ⅴ) □4864(K-11,Ⅵ) □4930(K-10,Ⅵ)	Ⅰ	条痕	タテケズリ	石,長,角,砂	にぶい黄色	明黄褐色	普通
	78	□7152(M-17,Ⅵ)	Ⅰ	条痕	タテケズリ	石,長,角,砂	褐色	明褐色	普通
	79	□4890(K-11,Ⅵ)	Ⅰ	条痕	ヨコケズリ	長,角,砂	黄褐色	橙色	普通



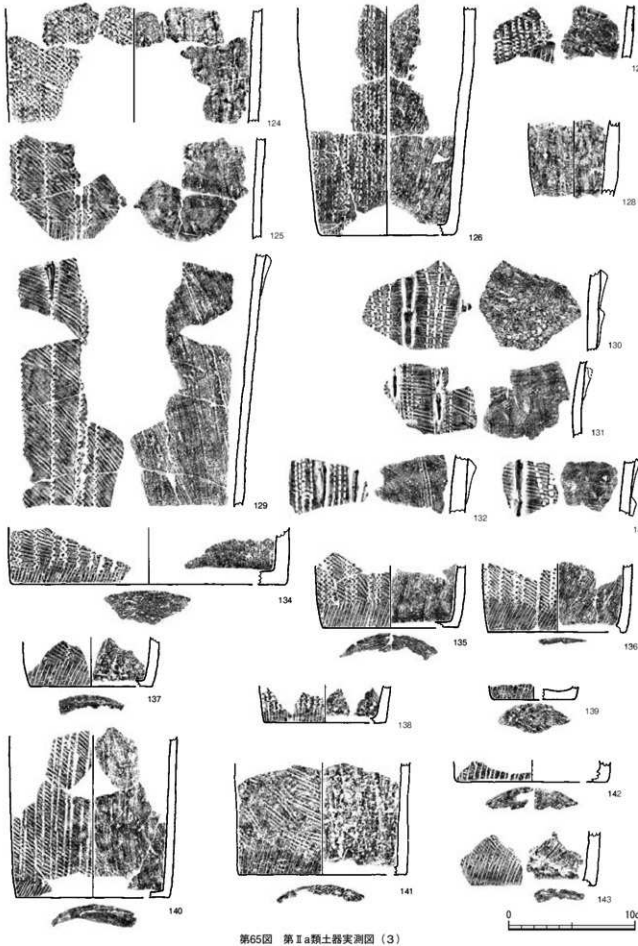
第62図　第Ⅱa,Ⅱb類土器出土状況図



第63図　第Ⅱa類土器実測図（1）



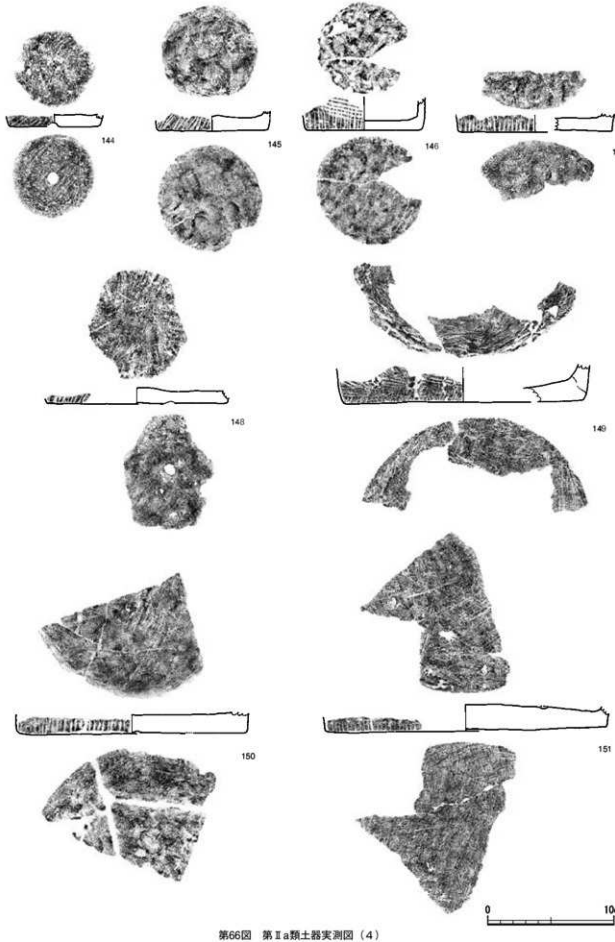
第64図　第Ⅱa類土器実測図（2）



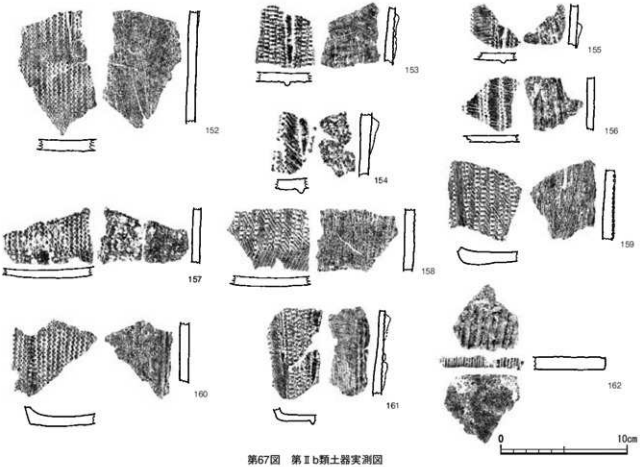
第65図　第Ⅱa類土器実測図（3）

第20表　縄文時代早期土器観察表（2）

挿図No	図No	層上No(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	器形
63	80	○1293(J-12,V)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	赤褐色	赤褐色	普通
	81	○5993(J-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	黄橙色	橙色	普通
	82	○611(J-16,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	明赤褐色	明赤褐色	普通
	83	○3384(M-15,V)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	褐色	褐色	普通
	84	○7115(M-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	明赤褐色	良
	85	●731(J-21,Ⅲ) ●735(J-21,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	86	○363(L-17,Ⅲ) ○482(L-17,Ⅲ) ○一括(-)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	長石,砂	明赤褐色	橙色	普通
	87	○255(K-18,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	良
	88	○表面(-)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	89	○7048(L-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	長石,雲母	橙色	橙色	普通
	90	○286(K-19,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	褐色	明橙色	良
	91	○356(N-16,V) ○4490(M-16,V)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	浅黄橙色	浅黄橙色	普通
	92	○27(L-18,Ⅲ) ○646(J-18,Ⅲ) ○一括(-)	Ⅱa	条痕	丁寧なナデ	石英,角砂	橙色	橙色	普通
	93	●723(J-21,Ⅲ) ●723(J-21,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	丁寧なナデ	長石,砂	褐色	褐色	普通
	94	○7085(M-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	普通
	95	○一括(-)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	褐色	褐色	普通
	96	○一括(-)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	普通
	97	○2165(J-13,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	長石,砂	明赤褐色	明赤褐色	普通
	98	○3694(L-13,V)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	明褐色	明褐色	普通
	99	○4549(K-14,V) ○4584(K-13,V) ○4647(L-14,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	褐色	橙色	普通
	100	○392(L-17,Ⅲ) ○400(L-17,Ⅲ)	Ⅱa	ナデ	ナデ	長石,砂	褐色	褐色	良
	101	○3396(M-15,V)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	黄橙色	黄橙色	良
	102	○2334(J-12,Ⅲ) ○4224(K-11,V) ○4226(K-11,V)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	明黄褐色	明赤褐色	良
	103	●7458-21,Ⅲ) ○640-21,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	にぶい褐色	黄橙色	良
	104	○517(J-16,Ⅲ) ○519(J-16,Ⅲ) ○560(J-17,Ⅲ) ○577(J-18,Ⅲ) ○613(I-17,Ⅲ) ○636(J-17,Ⅲ) ○662(I-19,Ⅲ) ○2040(I-18,V)	Ⅱa	ナデ	ケズリ,ナデ	石英,角砂	褐色	明褐色	良
	105	○578(J-18,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	良
	106	○7120(M-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	褐褐色	褐褐色	良
	107	○640(I-17,Ⅲ) ○一括(-)	Ⅱa	条痕	ナデ	長石,雲	褐色	褐色	良
64	108	○一括(-)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	普通
	109	●7449-21,Ⅲ)	Ⅱa	ナデ	ナデ	石英,角砂	にぶい橙色	にぶい橙色	良
	110	○7150(M-17,Ⅲ)	Ⅱa	ナデ	ケズリ,ナデ	石英,角砂	にぶい橙色	明赤褐色	普通
	111	○632(J-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	タテケズリ	石英,角砂	赤褐色	橙色	普通
	112	○574(J-18,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ	石英,角砂	橙色	橙色	良
	113	○853(K-18,V)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	明赤褐色	普通
	114	○572(J-18,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	良
	115	○495(L-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ	石英,角砂	赤褐色	褐色	良
	116	●725(J-21,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	明褐色	明褐色	良
	117	○6899-15,Ⅲ	Ⅱa	条痕	ナデ	長石,砂	明褐色	明褐色	良
	118	○7089(M-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	褐褐色	明褐色	良
	119	○3529(M-16,V)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	褐色	褐褐色	良
	120	○7097(M-17,V) ○一括(-)	Ⅱa	条痕	ケズリ	石英,角砂	にぶい黄橙色	明褐色	良
	121	○391(L-11,V)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	にぶい黄橙色	橙色	良
	122	○78(J-22,Ⅲ) ○502(L-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	123	○656(J-19,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	明黄褐色	にぶい褐色	良
	124	○183(K-16,Ⅲ) ○199(K-17,Ⅲ) ○235(K-17,V) ○333(K-16,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	タテケズリ	長石,雲母	にぶい黄橙色	明褐色	普通
	125	○915-7,Ⅱ) ○2284(I-12,Ⅲ) ○2868(K-12,V)	Ⅱa	条痕	タテケズリ	石英,角砂	にぶい黄橙色	橙色	良
	126	○562(J-17,Ⅲ) ○563(J-17,Ⅲ) ○588(I-17,Ⅲ) ○589(I-17,Ⅲ) ○591(J-17,Ⅲ) ○一括(-)	Ⅱa	ナデ	ケズリ,ナデ	石英,角砂	赤褐色	明黄褐色	良
	127	○5010(K-13,Ⅲ)	Ⅱa	ナデ	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	良
	128	●313(D-13,Ⅲ) ●362(F-14,Ⅲ)	Ⅱa	ケズリ,ナデ	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	良
65	129	○2281(I-12,Ⅲ) ○5282(I-16,V) ○5489(H-11,Ⅲ) ○7015(L-17,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナナメケズリ	石英,角砂	橙色	橙色	良
	130	○269(J-13,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	良
	131	○214(K-17,V)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	良
	132	○4507(M-15,V)	Ⅱa	ナデ	ケズリ,ナデ	石英,角砂	黄橙色	明褐色	良
	133	○3904(K-15,V)	Ⅱa	条痕	ナデ	石英,角砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	134	○649(J-18,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	良
	135	○266(K-20,Ⅲ) ○409(K-20,Ⅲ)	Ⅱa	条痕	タテケズリ	長石,砂	橙色	橙色	良



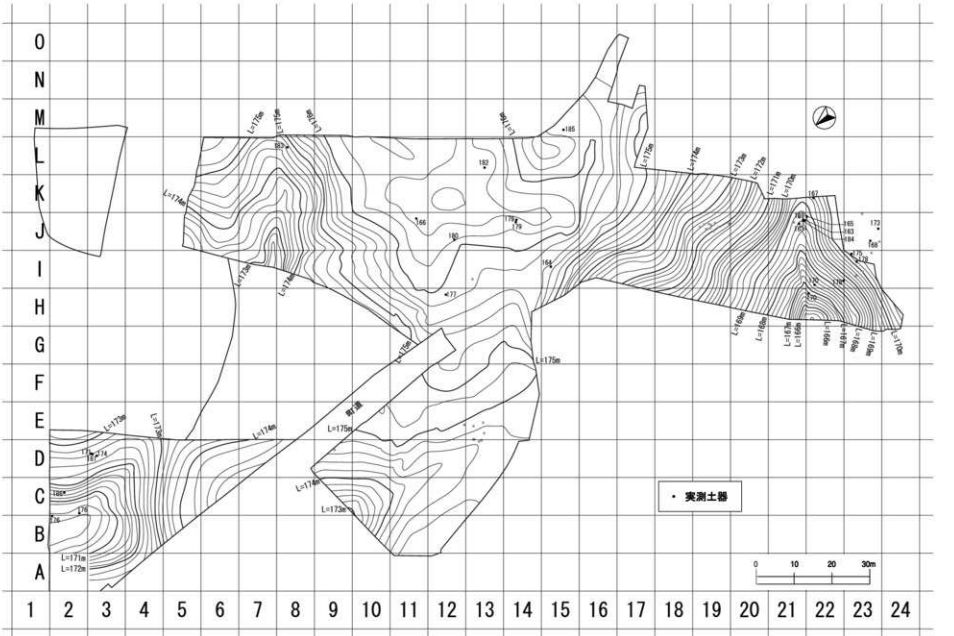
第66図　第Ⅱa類土器実測図（4）



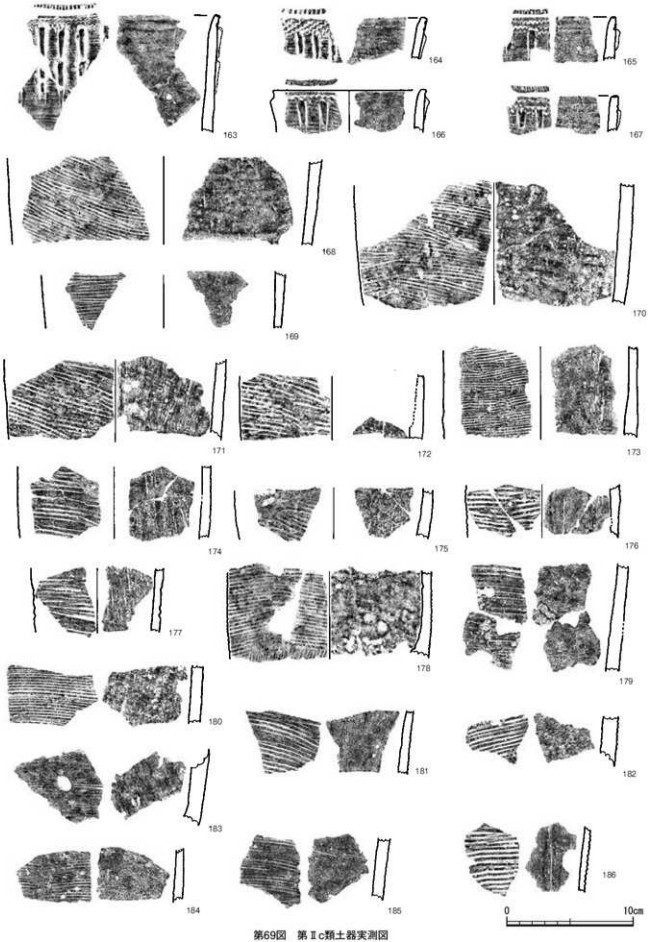
第67図　第Ⅱb類土器実測図

第21表　縄文時代早期土器観察表（3）

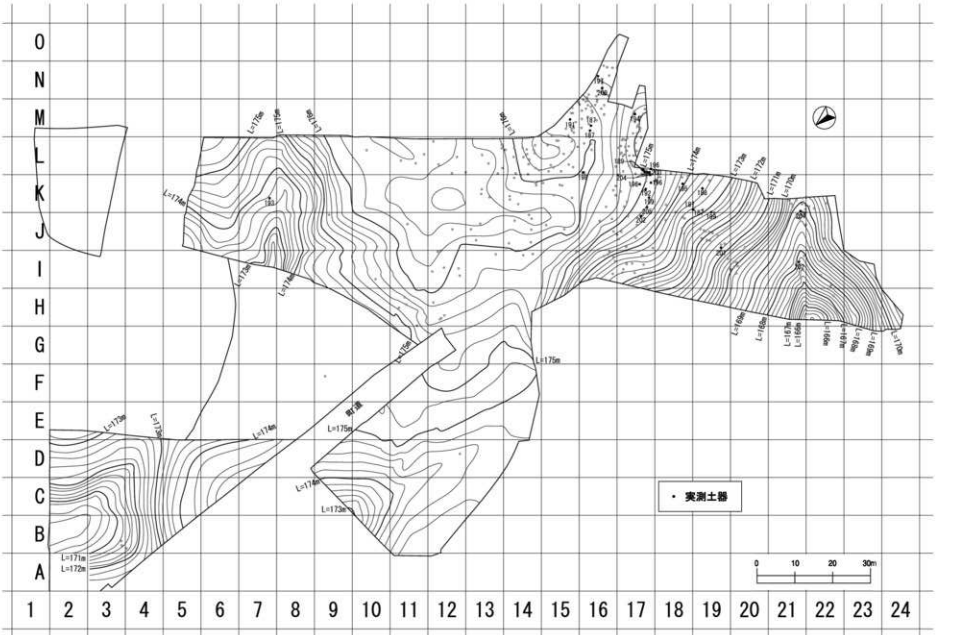
挿図no	図no	取上no(グリッド,層位)	分類	文様・調整(内面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	残成
65	136	○647(J-18,Ⅵ) ○3391(M-16,Ⅵ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	良
	137	○2036(J-20,Ⅵ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	明黄褐色	明褐色	良
	138	―括(-,-)	Ⅱa	ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	黄橙色	にぶい黄橙色	良
	139	○241(K-17,Ⅴ)	Ⅱa	ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	黄橙色	橙色	良
	140	●704(J-19,Ⅵ) ○131(I-21,Ⅵ) ○262(K-19,Ⅵ) ○296(K-20,Ⅵ) ○669(J-19,Ⅵ) ○684(I-19,Ⅵ) ○2035(K-19,Ⅵ)―括(-,-)	Ⅱa	条痕	ケズリ	石,長,角,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	141	○2345(J-12,Ⅵ)	Ⅱa	条痕	タテケズリ	石,長,角,砂	橙色	橙色	良
	142	○6965(K-16,Ⅵ) ○6981(L-16,Ⅵ)	Ⅱa	ナデ	ナデ	石,長,角,砂	黄橙色	黄橙色	良
	143	○385(K-17,Ⅵ)	Ⅱa	条痕	ナナメケズリ	石,長,角,砂	橙色	橙色	良
	144	○7041(L-17,Ⅵ)	Ⅱa	ケズリ,ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	にぶい橙色	赤褐色	良
	145	○485(L-17,Ⅵ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	褐色	暗褐色	良
	146	○29(J-22,Ⅵ) ○819(J-22,Ⅵ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	147	○6939(I-16,Ⅵ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
66	148	○498(L-17,Ⅵ)	Ⅱa	ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	明赤褐色	黄橙色	良
	149	●626(H-8,Ⅵ) ○7082(M-17,Ⅵ)―括(-,-)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	150	○400(L-17,Ⅵ) ○491(L-17,Ⅵ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	良
	151	○488(L-17,Ⅵ) ○614(L-17,Ⅵ)	Ⅱa	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
67	152	○648(J-18,Ⅵ) ○650(J-18,Ⅵ)	Ⅱb	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	153	○697(L-17,Ⅵ)	Ⅱb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	154	○542(J-17,Ⅵ)	Ⅱb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	にぶい橙色	明赤褐色	良
	155	○663(J-19,Ⅵ)	Ⅱb	条痕	ケズリ	長,角,砂	明赤褐色	橙色	良
	156	○568(J-18,Ⅴ)	Ⅱb	条痕	ケズリ	石,長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	157	○251(K-17,Ⅴ) ○346(K-17,Ⅵ)	Ⅱb	条痕	ケズリ	石,長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	158	○582(I-18,Ⅵ)	Ⅱb	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	黄橙色	明赤褐色	良
	159	○568(J-18,Ⅵ)	Ⅱb	条痕	ケズリ	石,長,角,砂	橙色	明赤褐色	良
	160	○3375(M-16,Ⅴ)	Ⅱb	条痕	ケズリ	石,長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	161	○303(K-20,Ⅵ)	Ⅱb	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	橙色	橙色	良
	162	○658(J-19,Ⅵ)	Ⅱb	ナデ	ナデ	石,長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良

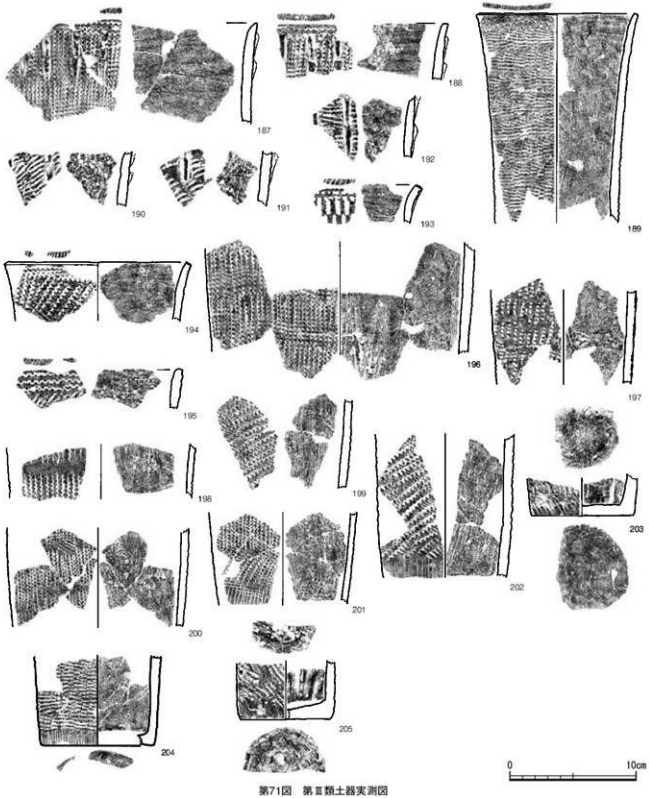


第68図　第Ⅱc類土器出土状況図

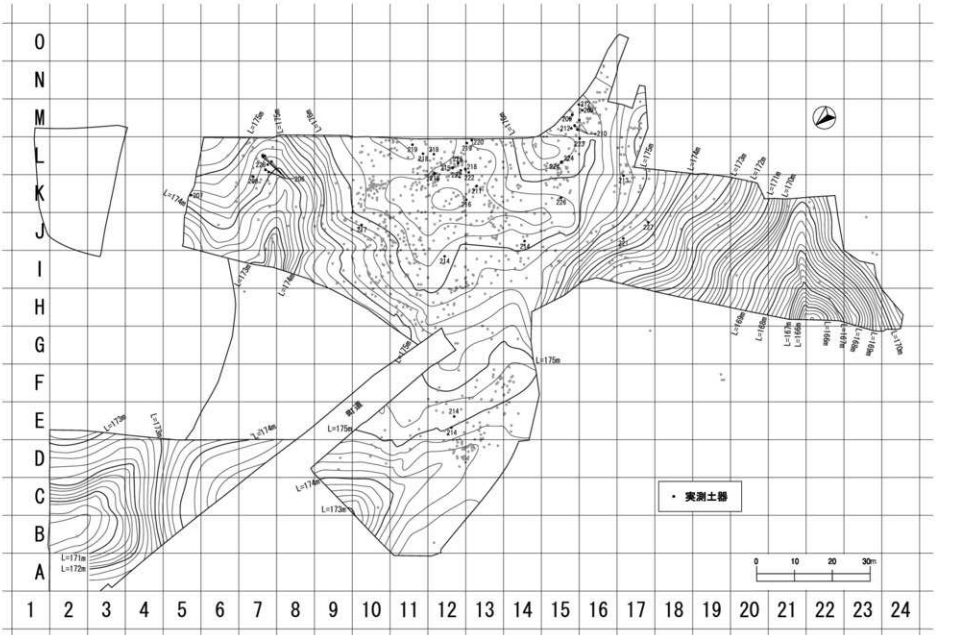


第69図　第Ⅱc類土器実測図

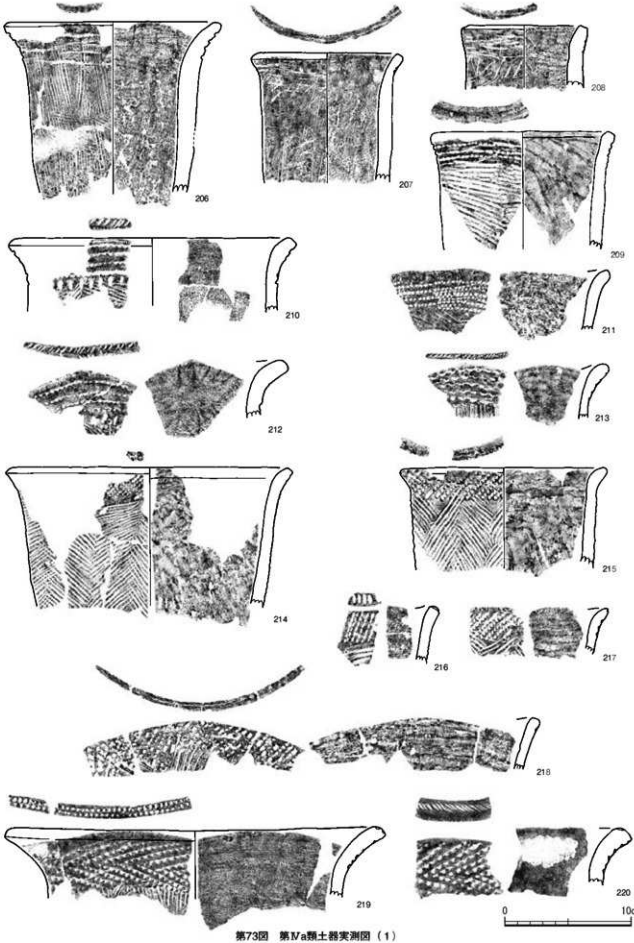

O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
L=175m
L=174m
L=173m
L=172m
L=171m
L=168m
L=169m
L=170m
L=176m
L=177m
L=178m
L=179m
L=180m
L=181m
L=182m
L=183m
L=184m
L=185m
L=186m
L=187m
L=188m
L=189m
L=190m
L=191m
L=192m
L=193m
L=194m
L=195m
L=196m
L=197m
L=198m
L=199m
L=200m
L=201m
L=202m
L=203m
L=204m
L=205m
L=206m
L=207m
L=208m
L=209m
L=210m
L=211m
L=212m
L=213m
L=214m
L=215m



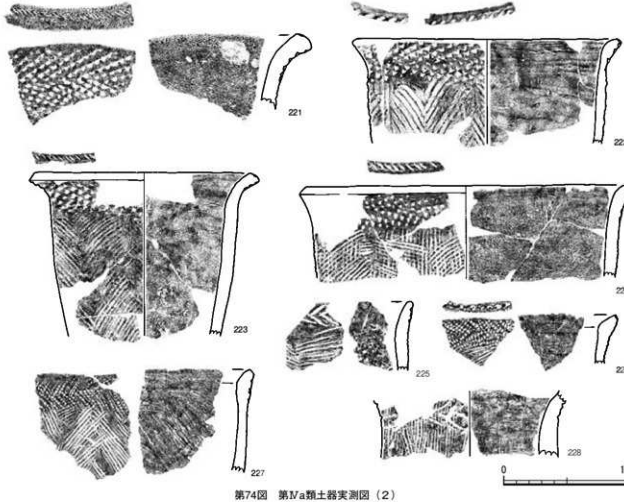
第71図　第Ⅲ類土器実測図



第72図　第Ⅳa類土器出土状況図



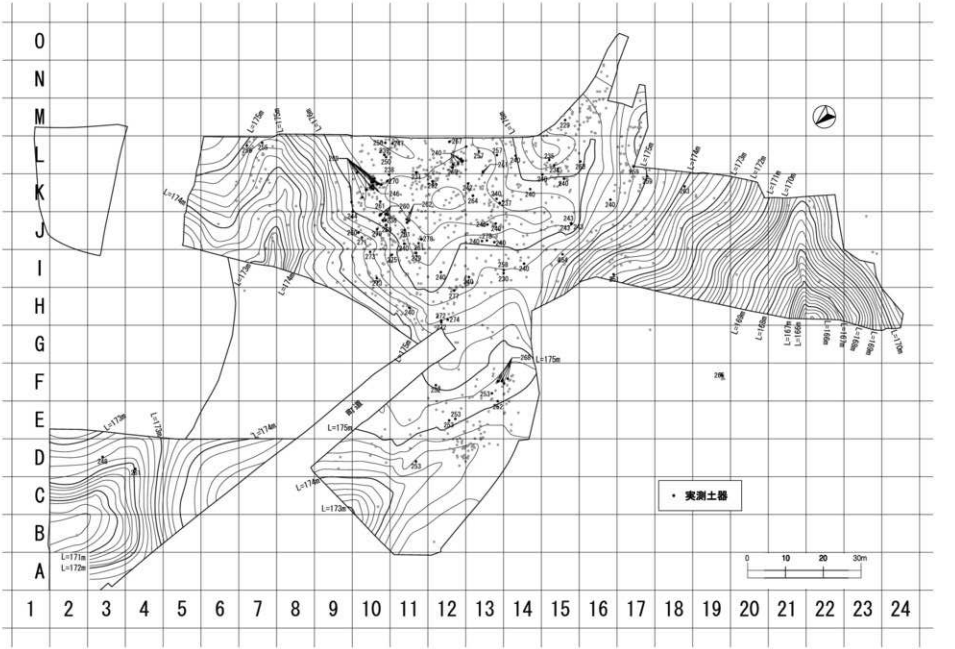
第73図　第Ⅳa類土器実測図（1）



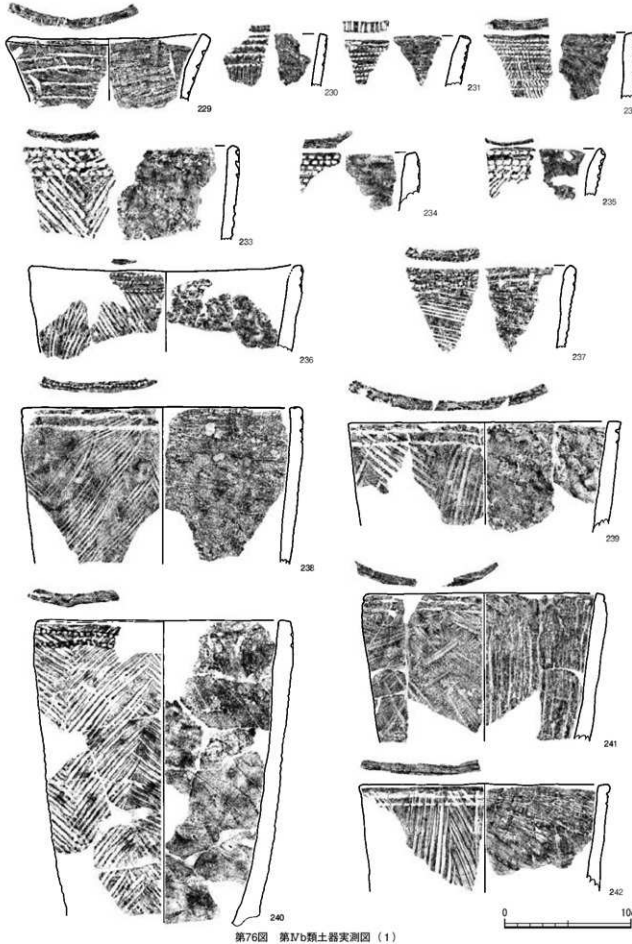
第74図　第Ⅳa類土器実測図（2）

第22表　縄文時代早期土器観察表（4）

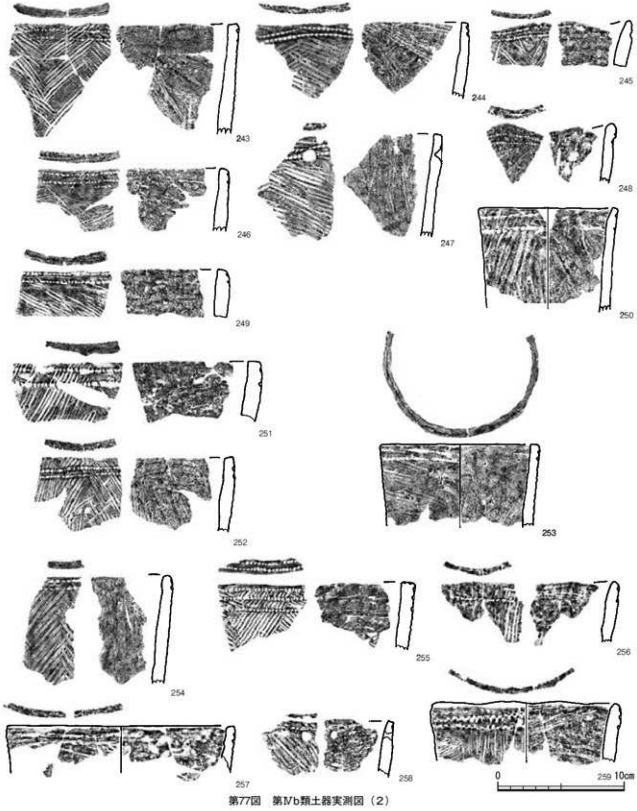
遺跡No	図No	取上No(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	焼成
69	163	●726(J-21,Ⅵ) ○833(J-21,Ⅵ)	Ec	条痕	ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	良
	164	○690(I-15,Ⅵ)	Ec	条痕	ナデ	石,長,角,砂	明赤褐色	橙色	良
	165	○765(J-22,Ⅵ)	Ec	条痕	ナデ	長,角,砂	にぶい橙色	橙色	良
	166	○5317(J-11,Ⅵ)	Ec	条痕	ナデ	長,角,	にぶい黄橙色	明黄褐色	良
	167	○729(K-22,Ⅵ)	Ec	条痕	ナデ	石,長,角,砂	橙色	橙色	良
	168	●774(J-23,Ⅴ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	橙色	橙色	良
	169	○740(J-21,Ⅵ)	Ec	条痕	よこナズリ,ナデ	長,角,砂	明黄褐色	橙色	良
	170	○1130(-22,Ⅵ) ○1280(H-22,Ⅵ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	橙色	橙色	良
	171	○178(D-3,Ⅵ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	褐灰色	普通
	172	一括(-,-)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	明黄褐色	明黄褐色	-
	173	●1284(J-23,Ⅴ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	褐灰色	良
	174	○176(D-3,Ⅵ)	Ec	条痕	タテケズリ	長,角,砂	明褐色	明褐色	良
	175	●1347(I-23,Ⅴ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	176	○311(C-2,Ⅴ) ○312(B-2,Ⅴ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	灰褐色	良
	177	○253(M-12,Ⅵ)	Ec	条痕	ケズリ	長,角,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	178	●1325(I-23,Ⅴ) ○1058(-22,Ⅴ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	橙色	橙色	普通
	179	○2433(J-14,Ⅵ) ○2626(J-14,Ⅵ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	良
	180	○679(J-12,Ⅹ1a)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	橙色	橙色	良
	181	○177(D-3,Ⅵ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	褐灰色	良
	182	○442(L-13,Ⅴ)	Ec	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	にぶい黄橙色	明黄褐色	良
	183	●667(L-8,Ⅰ)	Ec	ナデ	ナデ,ケズリ	長,角,砂	にぶい黄橙色	橙色	良
	184	○75(J-21,Ⅵ)	Ec	条痕	ナデ	長,角,砂	黄橙色	橙色	良
	185	○450(M-15,Ⅴ)	Ec	条痕	ケズリ	長,角,砂	褐灰色	橙色	良
	186	○320(C-2,Ⅴ)	Ec	条痕	タテケズリ	長,角,砂	橙色	灰褐色	良



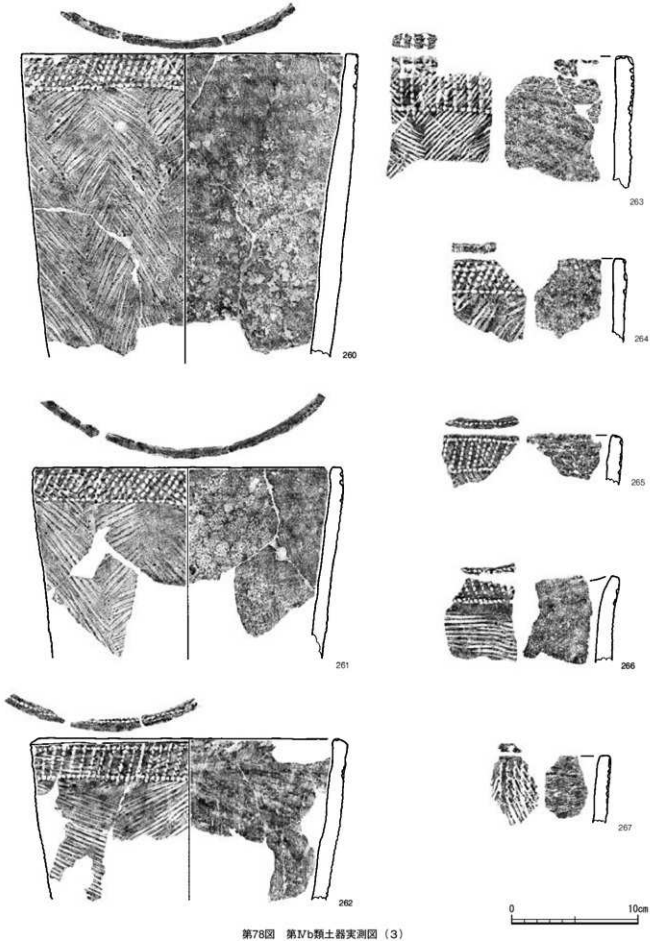
第75図　第Ⅳb類土器出土状況図



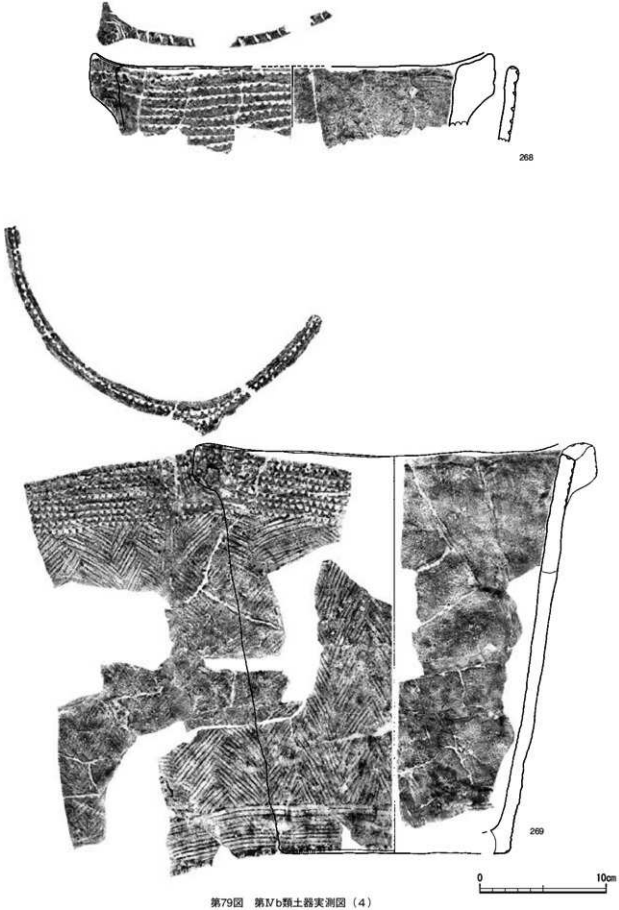
第76図　第Ⅳb類土器実測図（1）



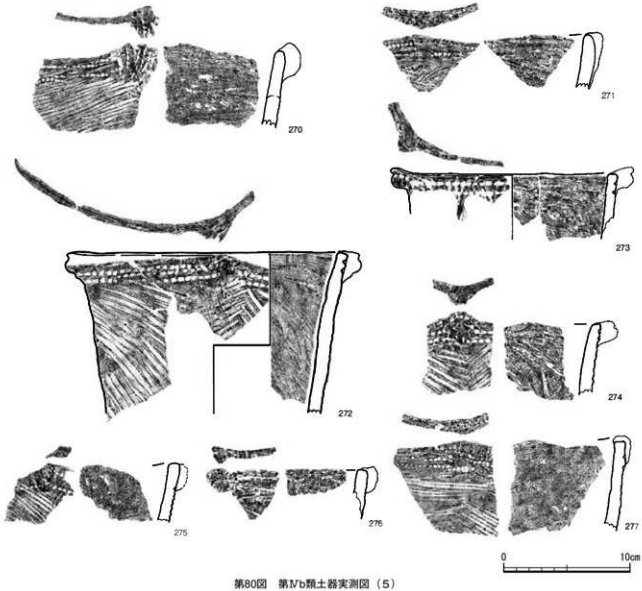
第77図　第Ⅳb類土器実測図（2）



第78図　第Ⅳb類土器実測図（3）



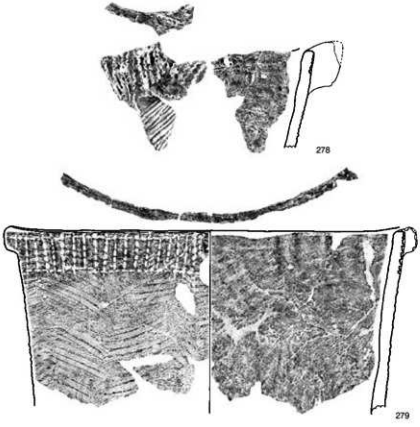
第79図　第Ⅳb類土器実測図（4）



第80図　第Ⅳb類土器実測図（5）

第23表　縄文時代早期土器観察表（5）

層位No	図No	取上No(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	地成
P1	187	○2031(K-19,Ⅵ) ○2075(K-19,Ⅵ) ○3404(M-16,Ⅵ) ○4480(M-16,Ⅴ)	Ⅲ	ナデ	ナデ	長,角,砂	黄橙色	黄橙色	良
	188	○284(K-19,Ⅵ)	Ⅲ	ナデ	ナデ	石,長,角,砂	黄橙色	黄橙色	良
	189	○484(L-17,Ⅵ) ○489(L-17,Ⅵ)	Ⅲ	条痕,ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	暗褐色	暗褐色	良
	190	○表採(-,-)	Ⅲ	ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	橙色	にぶい赤褐色	良
	191	○3358(M-15,Ⅴ)	Ⅲ	ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	にぶい赤褐色	赤褐色	良
	192	○252(K-17,Ⅵ)	Ⅲ	ナデ	ナデ	長,角,砂	赤褐色	暗赤褐色	良
	193	○178(K-7,Ⅴ)	Ⅲ	ナデ	ナデ	長,角,砂	明赤褐色	橙色	良
	194	○7116(M-17,Ⅵ)	Ⅲ	ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	にぶい赤褐色	明赤褐色	良
	195	○274(K-18,Ⅴ)	Ⅲ	ナデ	ナデ	長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	196	○240(K-17,Ⅵ) ○400(K-17,Ⅵ) ○500(L-17,Ⅵ)	Ⅲ	ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	黄橙色	良
	197	○3565(N-16,Ⅴ)～面(-,-)	Ⅲ	条痕,ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	良
	198	○3594(L-16,Ⅴ)	Ⅲ	ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	199	○254(K-17,Ⅵ) ○3033(K-19,Ⅵ)	Ⅲ	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	黄橙色	橙色	良
	200	○3559(N-16,Ⅴ)～面(-,-)	Ⅲ	条痕,ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	明黄褐色	黄橙色	良
	201	○679(J-19,Ⅵ)	Ⅲ	条痕	ケズリ	長,角,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	202	○133(I-21,Ⅵ) ○556(J-17,Ⅴ)	Ⅲ	ナデ	ケズリ	長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良
	203	○399(L-17,Ⅵ)	Ⅲ	条痕,ナデ	ケズリ	長,角,砂	赤褐色	赤褐色	良
	204	○98(K-21,Ⅵ) ○412(K-17,Ⅵ) ○496(L-17,Ⅵ)	Ⅲ	丁寧なナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	暗褐色	明褐色	良
	205	○352(K-17,Ⅵ)	Ⅲ	条痕	ケズリ	長,角,砂	明赤褐色	明赤褐色	良



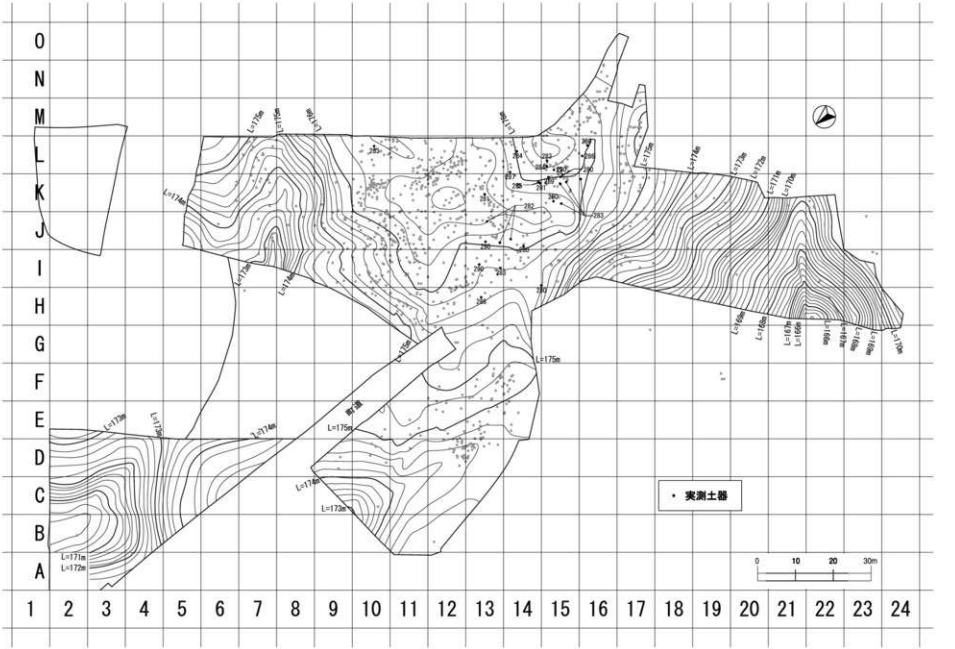
第81図　第Ⅳb類土器実測図（6）

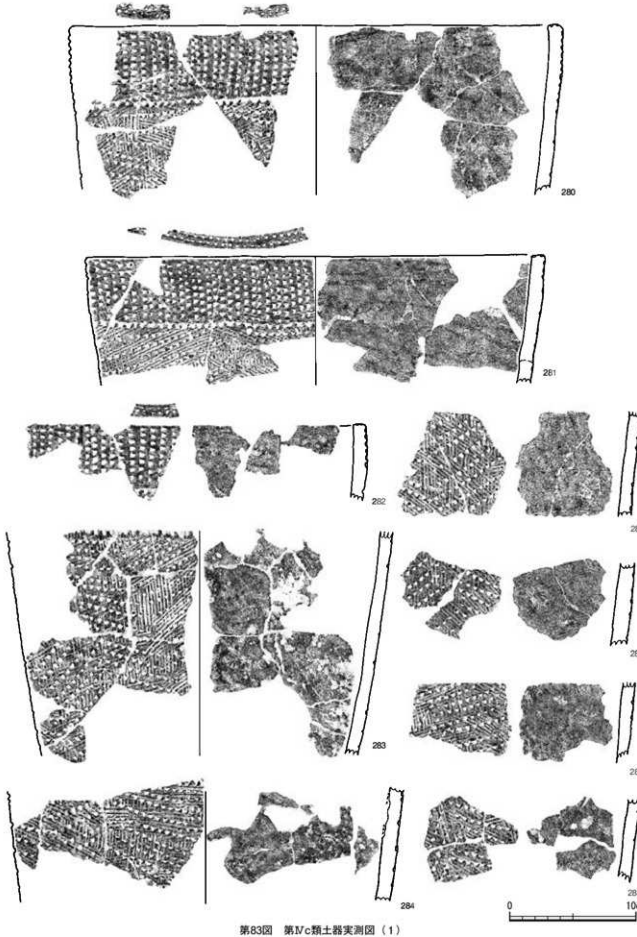
第24表　縄文時代早期土器観察表（6）

挿図No.	図No.	取上No.(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	焼成
73	206	○2053L-7.VI) ○2056L-7.VI) ○2063L-7.VI) ○2064L-7.VI) ○2065L-7.VI) ○2067L-7.VI)	Ⅳa	条痕	タテケズリ,ヨコナデ	石,長,角,砂	橙色	暗褐色	普通
	207	○1797K-5.VI)	Ⅳa	条痕,ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	橙色	黄橙色	普通
	208	○2057K-7.VI)	Ⅳa	条痕	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	暗赤褐色	にぶい黄橙色	良
	209	○3361M-15.V) ○3372M-16.V)	Ⅳa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	210	○3382M-15.V) ○3395M-16.V) ○4501M-15.V)	Ⅳa	条痕,ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,・	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良
	211	○2935K-13.V)	Ⅳa	条痕,ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	良
	212	○4492M-15.VI) ○4506M-15.VI)	Ⅳa	条痕,ナデ	丁寧なナデ	長,角,砂	にぶい橙色	にぶい橙色	良
	213	○2170K-17.VI)	Ⅳa	条痕,ナデ	丁寧なナデ	長,角,砂	暗褐色	暗褐色	良
	214	●199E-12.V) ●941E-12.VI) ○2649J-14.VI) ○2655I-12.VI)	Ⅳa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,雲,砂	明黄褐色	暗褐色	良
	215	○5016L-12.VI)	Ⅳa	条痕,ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,雲,・	にぶい黄褐色	暗褐色	良
	216	○3819K-13.V)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	明黄褐色	にぶい黄橙色	良
	217	○5178J-10.V)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,雲,砂	明黄褐色	にぶい黄褐色	普通
	218	○3617L-12.V) ○3625L-11.V) ○4666L-12.VI) ○4681L-12.V)	Ⅳa	条痕	ナデ	石,長,角,砂	暗褐色	にぶい黄褐色	良
	219	○3677L-13.V) ○5626L-11.V)	Ⅳa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	黄橙色	黄橙色	良
	220	○4662L-13.V)	Ⅳa	ナデ	ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	良
74	221	○539J-17.VI)	Ⅳa	ナデ	ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	良
	222	○3657L-12.V) ○5011L-13.VI)	Ⅳa	ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	暗褐色	橙色	良
	223	○4475L-16.VI)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	橙色	明黄褐色	良
	224	○4464L-15.V) ○4465L-15.V)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	にぶい黄褐色	明黄褐色	良
	225	○3661L-12.V)	Ⅳa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	暗褐色	明黄褐色	良
	226	○4516K-15.V)	Ⅳa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	227	○558J-17.VI)	Ⅳa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	普通
	228	○2061L-7.VI)	Ⅳa	条痕,ナデ	ケズリ,ナデ	石,長,角,砂	暗赤褐色	にぶい黄褐色	良

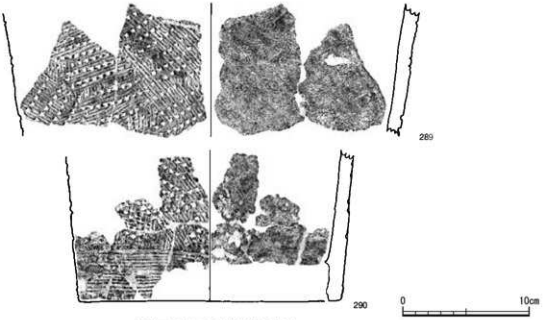
第25表　縄文時代早期土器観察表（7）

挿図No	図No	取上No(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	焼成
76	229	○3356(M-15,V)	Ⅳb	ナデ	ケズリ,ナデ	石英,角砂	黄橙色	褐橙色	良
	230	○2566(I-14,Ⅵ)	Ⅳb	ナデ	ナデ	長,角砂	橙色	にぶい橙色	良
	231	○3972(L-11,V)	Ⅳb	ナデ	ナデ	長,角砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	232	○集石8-3(-,-)	Ⅳb	条痕,ナデ	ナデ	長,角砂	明赤褐色	にぶい橙色	良
	233	○一括(-,-)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,雲,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	234	○4459(L-15,Ⅵ)	Ⅳb	ナデ	ナデ	長,角砂	にぶい橙色	橙色	良
	235	○3308(L-15,V)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	236	○5130(J-10,V) ○集石3(-,-)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角,雲,砂	明赤褐色	明赤褐色	普通
	237	○4573(K-13,V)	Ⅳb	条痕	ナデ	石英,角,砂	褐色	橙色	良
	238	○4251(K-10,V)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角,砂	にぶい黄色	明黄褐色	良
	239	○4030(L-10,V) ○集石4(-,ナー括(-,-)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,雲,	黄橙色	橙色	普通
	240	●913(I-13,V) ○2283(I-12,Ⅵ) ○2410(J-13,Ⅵ) ○2579(I-14,Ⅵ) ○2588(J-13,Ⅵ) ○3544(L-12,V) ○3660(L-12,V) ○3666(L-12,V) ○3668(L-12,V) ○3670(L-12,V) ○3678(L-13,V) ○4434(L-14,Ⅵ) ○4512(K-15,V) ○4525(K-16,V) ○4527(K-14,V) ○4651(J-13,Ⅵ) ○4667(L-12,V) ○4749(K-13,Ⅵ) ○5093(J-11,V) ○5485(H-11,V) ○6961(K-16,Ⅵ)	Ⅳb	ナデ	ナデ	長,角砂	橙色	橙色	普通
	241	○3725(L-13,V) ○3726(L-13,V) ○4660(L-13,V)	Ⅳb	ナデ	ケズリ,ナデ	長,角砂	黄橙色	黄橙色	良
	242	○2930(K-13,V)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
77	243	○6929(J-15,Ⅵ) ○6930(J-15,Ⅵ) ○6931(J-15,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	244	○5296(J-10,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	245	○1731(J-13,V)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	246	○4106(K-10,V) ○4933(K-10,V)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	247	○4008(L-11,V)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	248	○1700(D-3,Ⅵa)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角砂	明赤褐色	にぶい黄橙色	良
	249	表採(-,-)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	250	○4026(L-10,V) ○4960(L-10,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角砂	黄橙色	黄橙色	良
	251	○6213-16,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ナデ	石英,角,砂	にぶい黄橙色	明黄褐色	良
	252	●833(I-12,V) ●1295(E-13,V)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角砂	橙色	にぶい黄橙色	普通
	253	●353(D-11,ⅤT) ●363(F-13,Ⅵ) ●440(E-12,Ⅵ) ●444(E-12,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角砂	橙色	褐橙色	良
	254	○692(I-16,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角砂	黄橙色	褐橙色	普通
	255	●942(L-7,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,角砂	褐橙色	褐橙色	普通
	256	○182(L-7,V) ○一括(-,-)	Ⅳb	条痕	ナデ	石英,角,砂	黄橙色	橙色	普通
	257	○368(L-13,V) ○371(L-13,V)	Ⅳb	条痕	ナデ	石英,角,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	258	○2566(I-14,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ナデ	石英,角,砂	橙色	褐橙色	普通
	259	○221(L-17,Ⅵ) ○403(K-17,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ナデ	石英,角,砂	橙色	橙色	普通
78	260	○5132(J-10,V) ○5133(J-10,V) ○5135(J-10,V) ○5136(J-10,V) ○5136(J-10,V) ○5186(J-10,V) ○5418(J-10,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	丁寧なナデ	石英,角,砂	橙色	橙色	良
	261	○179(D-4,Ⅵ) ○419(K-10,V) ○5006(J-11,V) ○5523(J-11,Ⅵ) ○一括(-,-)	Ⅳb	条痕	ナデ	石英,角,砂	橙色	橙色	良
	262	○3812(K-12,Ⅵ) ○5052(J-11,V) ○5053(J-11,V) ○5054(J-11,V)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角,砂	明黄褐色	橙色	良
	263	○276(K-18,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角砂	明黄褐色	明黄褐色	普通
	264	○5220(K-13,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ナデ	石英,角,砂	褐色	褐色	良
	265	○3992(L-16,V)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角砂	明黄褐色	明黄褐色	普通
	266	●529(F-19,Ⅵ)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角砂	褐色	明赤褐色	良
	267	○3632(L-12,V)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,角,雲,砂	にぶい黄橙色	橙色	普通


O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
L=175m
L=174m
L=173m
L=172m
L=171m
L=170m
L=169m
L=168m
L=167m
L=166m
L=165m
L=164m
L=163m
L=162m
L=161m
L=160m
L=159m
L=158m
L=157m
L=156m
L=155m
L=154m
L=153m
L=152m
L=151m
L=150m
L=149m
L=148m
L=147m
L=146m
L=145m
L=144m
L=143m
L=142m
L=141m
L=140m
L=139m
L=138m
L=137m
L=136m
L=135m
L=134m
L=133m
L=132m
L=131m
L=130m
L=129m
L=128m
L=127m
L=126m
L=125m
L=124m
L=123m
L=122m
L=121m
L=120m
L=119m
L=118m
L=117m
L=116m
L=115m
L=114m
L=113m
L=112m
L=111m
L=110m
L=109m
L=108m
L=107m
L=106m
L=105m
L=104m
L=103m
L=102m
L=101m
L=100m
L=99m
L=98m
L=97m
L=96m
L=95m
L=94m
L=93m
L=92m
L=91m
L=90m
L=89m
L=88m
L=87m
L=86m
L=85m
L=84m
L=83m
L=82m
L=81m
L=80m
L=79m
L=78m
L=77m
L=76m
L=75m
L=74m
L=73m
L=72m
L=71m
L=70m
L=69m
L=68m
L=67m
L=66m
L=65m
L=64m
L=63m
L=62m
L=61m
L=60m
L=59m
L=58m
L=57m
L=56m
L=55m
L=54m
L=53m
L=52m
L=51m
L=50m
L=49m
L=48m
L=47m
L=46m
L=45m
L=44m
L=43m
L=42m
L=41m
L=40m
L=39m
L=38m
L=37m
L=36m
L=35m
L=34m
L=33m
L=32m
L=31m
L=30m
L=29m
L=28m
L=27m
L=26m
L=25m
L=24m
L=23m
L=22m
L=21m
L=20m
L=19m
L=18m
L=17m
L=16m
L=15m
L=14m
L=13m
L=12m
L=11m
L=10m
L=9m
L=8m
L=7m
L=6m
L=5m
L=4m
L=3m
L=2m
L=1m
L=0m
L=-1m
L=-2m
L=-3m
L=-4m
L=-5m
L=-6m
L=-7m
L=-8m
L=-9m
L=-10m
L=-11m
L=-12m
L=-13m
L=-14m
L=-15m
L=-16m
L=-17m
L=-18m
L=-19m
L=-20m
L=-21m
L=-22m
L=-23m
L=-24m
L=-25m
L=-26m
L=-27m
L=-28m
L=-29m
L=-30m
L=-31m
L=-32m
L=-33m
L=-34m
L=-35m
L=-36m
L=-37m
L=-38m
L=-39m
L=-40m



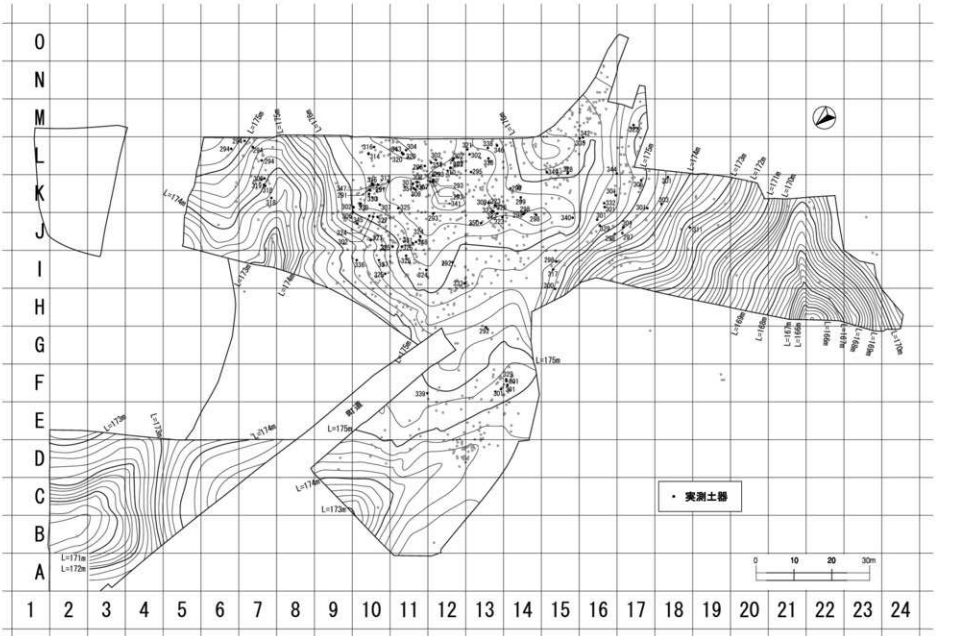
第83図　第Ⅳc類土器実測図（1）



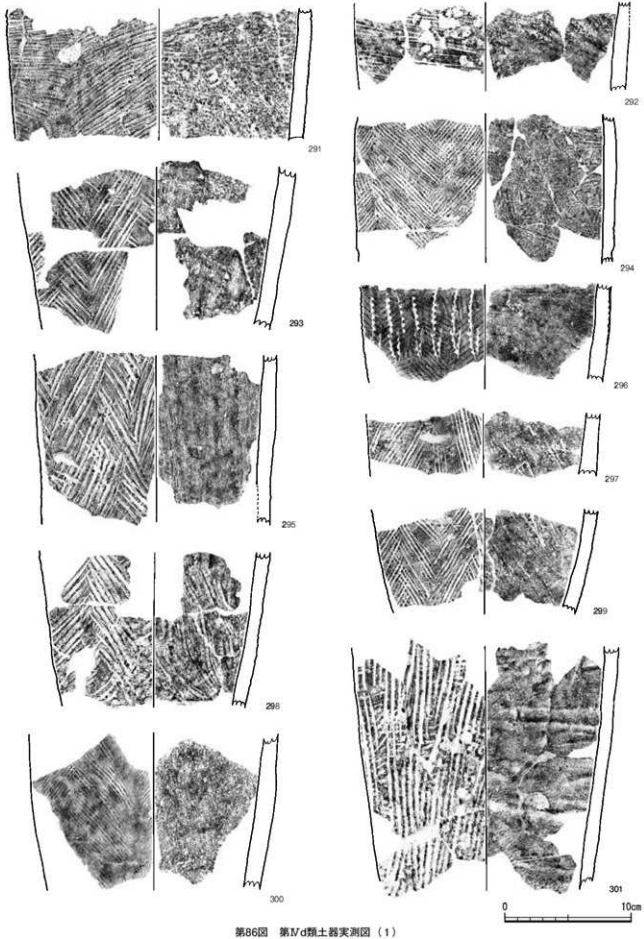
第84図　第Ⅳc類土器実測図（2）

第26表　縄文時代早期土器観察表（8）

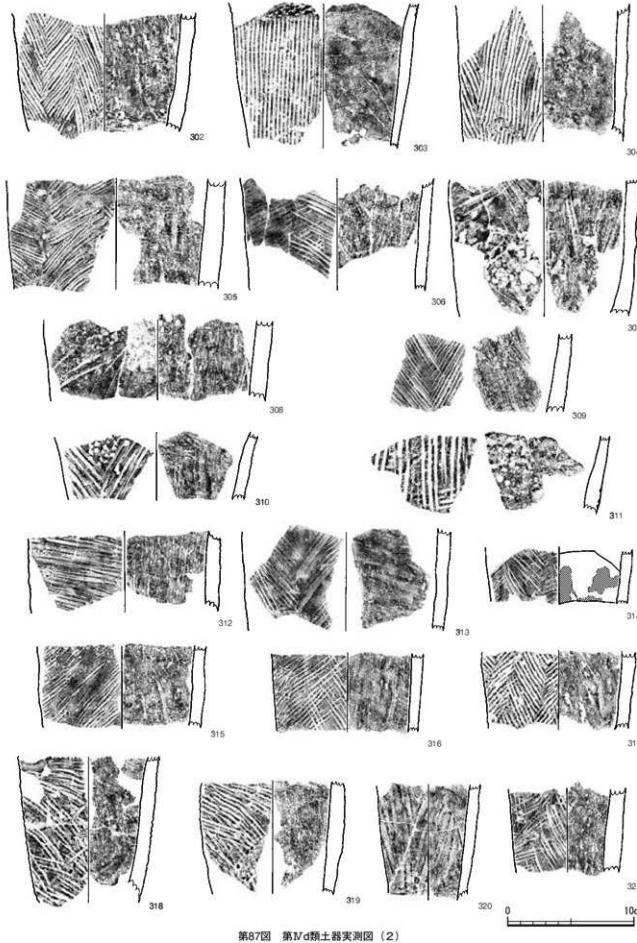
挿図No	図No	取上No(グリッド層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	焼成
79	268	●121(F-14,V) ●268(F-14,V) ●369(F-13,V) ●370(F-13,V) ●372(F-13,V) ●373(F-13,V)	Ⅳb	丁寧なナデ	ナデ	長,丸,砂	にぶい橙色	橙色	良
	269	○4064L-10,V) ○4066K-9,V) ○4068K-10,V) ○4077K-10,V) ○4086K-10,V) ○4090K-10,V) ○4092K-10,V) ○4097K-10,V) ○4098K-10,V) ○4109K-10,V) ○4115K-10,V) ○4117K-10,V) ○4247K-10,V) ○4425L-12,V) ○4927K-10,W) ○4936K-10,V) ○5116J-10,V)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,丸,砂	橙色	にぶい橙色	普通
80	270	○4121K-10,V)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,丸,雲,砂	褐灰色	褐色	良
	271	○5405J-10,W)	Ⅳb	条痕,ナデ	ナデ	長,丸,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	272	○2236H-12,W) ○2237H-12,W) ○2707H-12,W)	Ⅳb	条痕,ナデ	ケズリ	長,丸,雲,砂	明黄褐色	明黄褐色	普通
	273	○5225I-10,W) ○5244I-10,W)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,丸,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	274	○2524H-12,W)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,丸,雲,砂	灰白色	明黄褐色	普通
	275	○5265I-11,W)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,丸,雲,砂	褐色	褐色	普通
	276	○一括(-)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,丸,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	277	●874H-12,W)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,丸,砂	褐褐色	褐色	普通
81	278	○1437J-13,V) ○5520J-11,W)	Ⅳb	条痕	ナデ	長,丸,砂	橙色	橙色	普通
	279	○5160J-10,V) ○5511I-11,W)	Ⅳb	条痕	ケズリ,ナデ	長,丸,雲,砂	褐色	褐色	普通
83	280	○2464J-14,W) ○3262K-15,V) ○3263K-15,V) ○3580L-16,V) ○4520K-15,V) ○6895I-15,W)	Ⅳc	条痕,ナデ	ナデ	長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	281	○832K-14,W) ○4705K-13,W)	Ⅳc	条痕,ナデ	ナデ	長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	282	○1524J-13,V) ○2380J-13,W) ○2646J-14,W)	Ⅳc	ナデ	ナデ	長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	283	○1247I-13,V) ○3233K-15,V) ○3246K-15,V) ○3260K-15,V) ○3595K-16,V) ○4039L-10,V) ○4451L-15,V) ○一括(-) 表採(-)	Ⅳc	条痕	ケズリ,ナデ	長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	284	○3743L-14,W) ○4455L-15,V) ○一括(-)	Ⅳc	条痕	ナデ	C,長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	285	○833K-14,W) ○834K-14,W)	Ⅳc	条痕	ナデ	長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	286	○3590L-16,V)	Ⅳc	条痕	ナデ	長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	287	○4638L-14,V)	Ⅳc	条痕	ケズリ	長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	288	○1216H-13,V) ○一括(-)	Ⅳc	条痕	ナデ	C,長,丸,砂	橙色	明黄褐色	良



第85図　第Ⅳd,Ⅳe類土器出土状況図



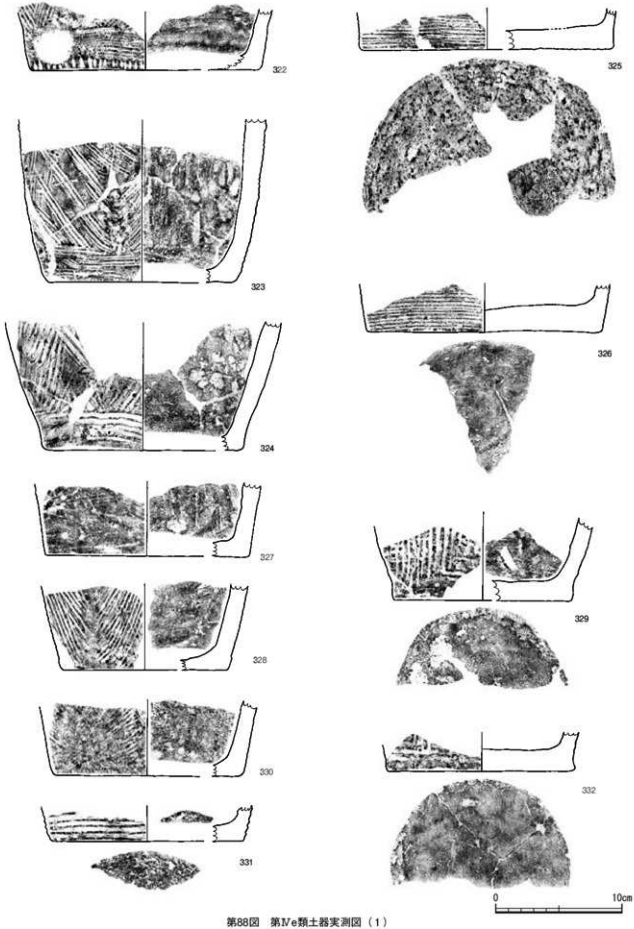
第86図　第Ⅳd類土器実測図（1）



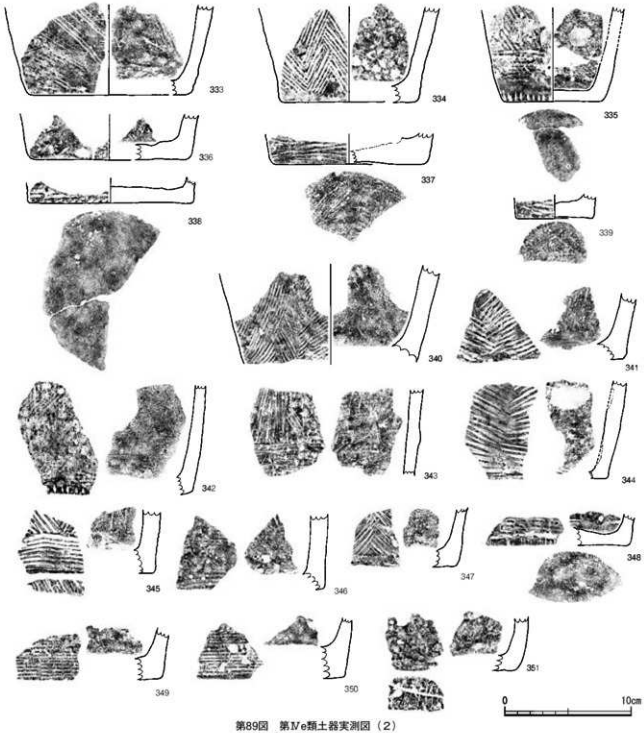
第87図　第Ⅳd類土器実測図（2）

第27表　縄文時代早期土器観察表（9）

掲図No	図No	取上No(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	残存
84	289	○4524K-15,Ⅵ) (一括○)	Ⅱ/c	条痕	ナデ	石英,角砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	290	○1251I-13,Ⅴ) ○2002J-13,Ⅵ) ○4460L-15,Ⅵ) (一括○)	Ⅱ/c	条痕	ナデ	長石,砂	橙色	明黄褐色	良
86	291	○4083K-10,Ⅴ) ○4116K-10,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角閃,砂	明褐色	明黄褐色	良
	292	○2550I-12,Ⅵ) ○6886I-13,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,砂	橙色	黄褐色	良
	293	○2872K-12,Ⅴ) ○2875K-12,Ⅵ) ○2899K-12,Ⅴ) ○5277J-12,Ⅵ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	黄橙色	黄橙色	良
	294	○1799L-7,Ⅶ) ○1805L-6,Ⅶ) ○3571L-7,Ⅶ) ○2074L-7,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	橙色	橙色	良
	295	○3682L-13,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	橙色	にぶい黄橙色	良
	296	○3957L-11,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	丁寧なナデ	長石,砂	灰黄褐色	橙色	良
	297	○538J-17,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	黄橙色	にぶい黄橙色	良
	298	○520J-16,Ⅶ) ○2639J-14,Ⅵ) ○3803J-14,Ⅴ) ○3804J-14,Ⅴ) ○6912I-15,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	橙色	浅黄色	良
	299	○4533K-14,Ⅴ) ○4554K-14,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	橙色	明黄褐色	良
	300	○6897H-15,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	黄橙色	橙色	良
	301	●358F-14,Ⅶ) ●360F-14,Ⅶ) ●364F-13,Ⅶ) ○263K-18,Ⅶ) ○280K-16,Ⅶ) ○351K-17,Ⅶ) ○535J-17,Ⅶ) ○6963J-16,Ⅴ) ○6957K-16,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ナデ	長石,砂	明赤褐色	橙色	良
87	302	○3614L-12,Ⅴ) ○3639L-12,Ⅴ) ○3640L-12,Ⅴ) ○3679L-13,Ⅴ) ○5169J-10,Ⅵ) ○5303K-10,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角閃,砂	明黄褐色	にぶい黄橙色	良
	303	○266K-18,Ⅶ) (一括○)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ,ナデ	長石,砂	橙色	橙色	良
	304	○3967L-11,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,砂	黄橙色	にぶい黄橙色	良
	305	○388K-17,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ,ナデ	長石,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	306	○2054K-7,Ⅶ) ○5296J-10,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良
	307	○4200K-10,Ⅴ) ○4892K-11,Ⅴ) ○4895K-11,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,砂	橙色	褐褐色	普通
	308	○4252K-11,Ⅴ) ○5037K-11,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ,ナデ	長石,砂	橙色	褐色	良
	309	○4228K-13,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,雲母	明黄褐色	黄褐色	良
	310	○3649L-12,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,砂	明赤茶色	明赤褐色	良
	311	○2039J-18,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,砂	明黄褐色	橙色	良
	312	(一括○)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	黄橙色	明黄褐色	良
	313	○4248K-10,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,砂	黄橙色	黄褐色	良
	314	○4545L-10,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,砂	明黄褐色	黄褐色	良
	315	○4100K-10,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	316	○4039L-10,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	明黄褐色	にぶい黄橙色	良
	317	○6903I-15,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,雲母	明黄褐色	にぶい黄橙色	普通
	318	○1798K-7,Ⅶ) ○2041K-7,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ,ナデ	石英,角砂	橙色	にぶい黄橙色	良
	319	○2047K-7,Ⅶ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	長石,砂	橙色	橙色	良
	320	○3999L-11,Ⅴ) ○4000L-11,Ⅴ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ,ナデ	長石,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	321	○4663L-13,Ⅵ)	Ⅱ/d	条痕	ケズリ	石英,角砂	黄橙色	明黄褐色	良
88	322	○7094M-17,Ⅶ)	Ⅱ/e	条痕	ナデ	長石,砂	橙色	灰黄褐色	普通
	323	○2623J-13,Ⅵ) ○4609K-13,Ⅴ) ○4614K-13,Ⅴ) ○4653J-13,Ⅴ)	Ⅱ/e	条痕	ナデ	長石,砂	黄橙色	にぶい黄橙色	良
	324	○5174J-10,Ⅴ) ○5504I-11,Ⅶ) ○5518J-11,Ⅶ)	Ⅱ/e	条痕	ナデ	長石,砂	黄橙色	明赤褐色	良
	325	○4896K-11,Ⅶ) ○5094J-11,Ⅴ) ○5099J-11,Ⅴ) ○5251I-10,Ⅶ) ○5269I-11,Ⅴ) (一括○)	Ⅱ/e	条痕	ナデ	長石,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	326	○4610K-13,Ⅴ)	Ⅱ/e	条痕	丁寧なナデ	石英,角砂	橙色	にぶい黄橙色	良
	327	○5153J-10,Ⅴ) ○5164J-10,Ⅶ)	Ⅱ/e	ナデ	ナデ	石英,角砂	橙色	にぶい黄橙色	良
	328	○4469L-15,Ⅴ)	Ⅱ/e	条痕	ナデ	石英,角砂	黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	329	●361F-14,Ⅶ) ○6951J-16,Ⅴ)	Ⅱ/e	条痕	ナデ	長石,砂	明赤褐色	褐褐色	良
	330	○4919K-10,Ⅶ) ○4924K-10,Ⅶ)	Ⅱ/e	条痕	ナデ	長石,砂	黄橙色	浅黄橙色	良
	331	○5527J-11,Ⅶ)	Ⅱ/e	条痕	ナデ	長石,雲母	橙色	橙色	普通
	332	○6956K-16,Ⅴ)	Ⅱ/e	条痕	ナデ	石英,角砂	橙色	橙色	良



第88図　第Ⅳe類土器実測図（1）



第89図　第Ⅳe類土器実測図（2）

ある。クサビ形貼付文の側面はナデられている。

134～151は底部片である。底部側面に斜位もしくは縦位の刻目が施されている。140は方形の刺突文を縦位に施すものである。144,148は底部外面のほぼ中央に未貫通の穿孔がみられる。

Ⅱb類土器（第67図－152～162）

Ⅱb類土器は，文様構成及び調整はⅡa類土器と同じで，器形が角筒形を呈する一群である。152,157,160は貝殻刺突文が縦位に密に施されている。153,158,161は方形の刺突文が縦位に密に施されている。153，154のクサビ形貼付文の側面に貝殻刺突文が施されている。162は底部である。

Ⅱc類土器（第69図－163～186）

Ⅱc類土器は文様構成及び調整はⅡa類土器と同じであるが，縦位の貝殻刺突文がみられないものである。また，口縁部上端にみられる横位貝殻刺突文についても，Ⅱc類では不規則なものが目立ち，164のように斜位に施されるものもある。163～167は口縁部片である。168～186は胴部片である。163～167はクサビ形貼付文の側面がナデられている。175は

明赤褐色系と黄橙色系の色調の異なる粘土が用いられ，内面はマーブル状を呈している。

Ⅲ類土器（第71図－187～205）

Ⅲ類土器は口縁部が外反する円筒形土器である。文様は，口唇部に刻目を施し，口縁部には横位の貝殻刺突文が巡る。その下位には，斜位の貝殻刺突文を施すものや，クサビ形貼付文を有するものがある。胴部は縦位の貝殻押引文が施されている。1～N－16～21区に集中して出土している。51点出土し，そのうち19点を掲載した。187,188,190～193は口縁部にクサビ形貼付文がみられる。193,194は口縁部にクサビ形貼付文を意識した刻目が施されている。196～200は胴部片である。201～205は底部片である。

Ⅳ類土器（第73図206～第89図351）

Ⅳ類土器は，胴部に綾杉条痕を施すものである。器形と文様，部位で５つに分類した。1461点出土し，そのうち146点を掲載した。

Ⅳa類土器（第73,74図－206～228）

Ⅳa類土器は口縁部が外反するものである。文様は，外面に貝殻刺突文を横位，斜位，羽状に施文し，胴部外面には綾杉状に条痕文を施文するものである。口唇部にはヘラ及び貝殻の刻目を施すものがある。206～208は口縁部に細い貝殻刺突文を横位に連続的に施している。207,208は横位の貝殻刺突文の下位に斜位の短い貝殻刺突文が巡る。209～213は貝殻刺突文が横位に４～５条施文されている。210は横位の貝殻刺突文の下位に米粒状の刻目が巡る。212,213は波状口縁を呈する。214～218は口縁部に斜位の貝殻刺突文が施されている。214,215は胴部に丁寧に綾杉条痕文が施されている。219～228は口縁部に羽状の貝殻刺突文が施されている。219,220～223,226は口唇部に刻目が施されている。226のみ逆くの字状の羽状である。227は雲母を含んでいる。

Ⅳb類土器（第76～81図－229～279）

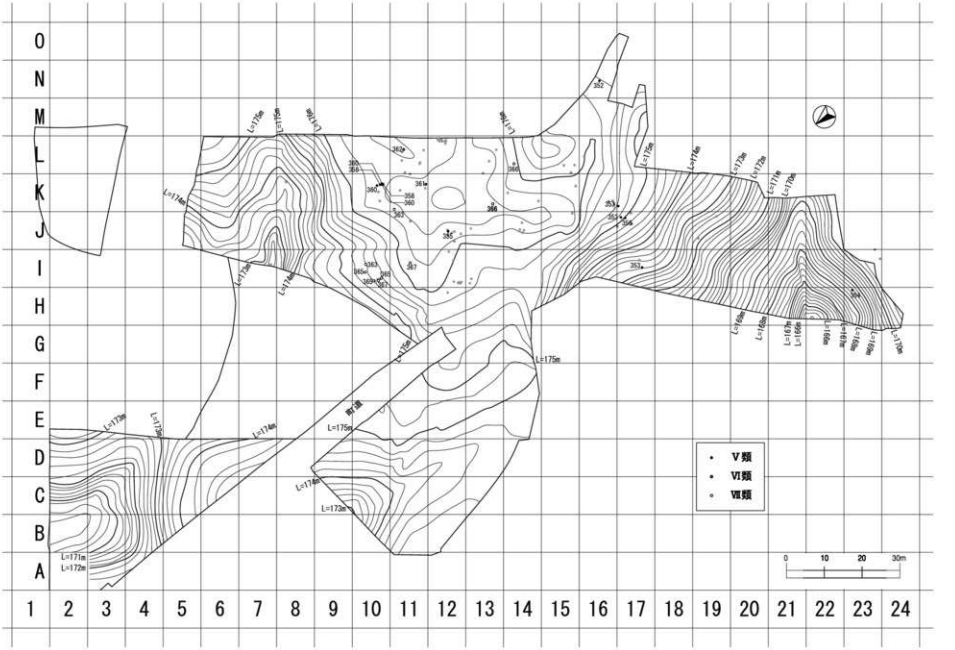
Ⅳb類土器は口縁部が直行するものである。文様は，外面に貝殻刺突文を横位，斜位に施文し，胴部外面には綾杉状に条痕文を施文するものである。また，瘤状突起が付くものもある。

229～267は瘤状突起が付かないものである。229～259は口縁部外面に貝殻刺突文が横位に施されるものである。229は口縁部が若干肥厚し，外傾している。231,232は口縁部外面の貝殻刺突文が９条確認できる。233は使用による炭化物が付着している。また，胎土に雲母を大量に含んでいる。238は口唇部上面に円周に沿って貝殻刺突文が施されている。239は胎土に雲母を大量に含んでいる。241は外面は粗い貝殻条痕文が施され，内面は縦位に削られている。245,248は口縁部が若干波状になる。247は口縁部に未貫通の補修孔がみられる。255は口唇部上面に円周にそって貝殻刺突文が２条施されている。254は口縁部に炭化物が付着している。

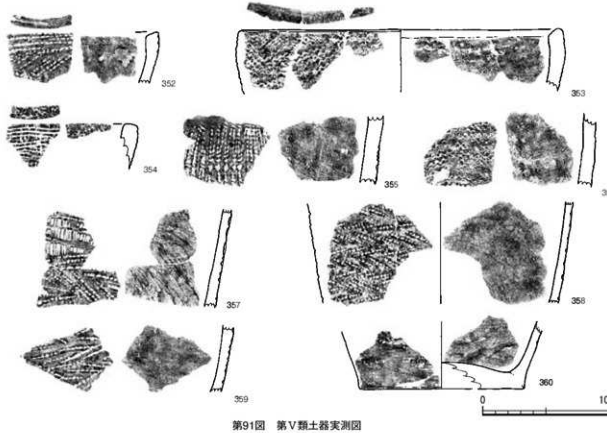
258は口縁部に補修孔がみられる。また，胎土に雲母を含んでいる。260～267は口縁部に斜位もしくは縦位に貝殻刺突文を施し，その下位には貝殻刺突文を横位に施文して口縁部と胴部との境を示す。263,265は口縁部の上位にも貝殻刺突文が横位に施されている。263は縦位の貝殻刺突文が口唇部にも及んでいる。266は口縁部がわずかに波状を呈する。268～279は瘤状突起が付くものである。268,269は口縁部外面に貝殻刺突文が６～８条横位に施されている。269は口唇部上面に円周にそって貝殻刺突文が施されている。270,273,275は胎土に雲母を含んでいる。271,277は口縁部がわずかに波状を呈しその面部が肥厚している。278は口縁部外面に貝殻条痕文が縦位に施され，その下位にも貝殻条痕文が横位に施されている。279は口縁部に縦位に貝殻刺突文が施され，その上位と下位に貝殻刺突文が横位に施文されている。胎土に雲母を含んでいる。

第28表　縄文時代早期土器観察表（10）

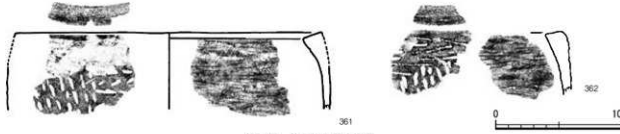
挿図No	図No	取上No(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	焼成
89	333	●8209-12,W)	Ⅳa	条痕	ケズリ	長,角,砂	褐橙色	黄橙色	普通
	334	○3612L-12,V)	Ⅳa	条痕	ケズリ	長,角,砂	明黄橙色	明黄橙色	普通
	335	○4475L-16,VI)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	橙色	にぶい黄橙色	普通
	336	○5220I-10,V)～掘L,n	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	普通
	337	○5234I-10,V)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	赤橙色	にぶい赤橙色	良
	338	○3697L-13,V) ○3713L-13,V)	Ⅳa	条痕	丁寧なナデ	長,角,砂	橙色	橙色	良
	339	●4873F-11,W,TI)	Ⅳa	条痕	ケズリ	長,角,砂	にぶい橙色	にぶい橙色	良
	340	○6932J-15,M)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	明黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	341	○2870E-12,V)	Ⅳa	条痕	タテケズリ	長,角,砂	橙色	橙色	普通
	342	○4477L-16,V)	Ⅳa	条痕	ナデ	石,長,角,砂	橙色	褐橙色	普通
	343	○4002L-11,V)	Ⅳa	条痕	ケズリ	長,角,砂	橙色	褐橙色	普通
	344	○6968L-16,V)	Ⅳa	条痕	タテケズリ	石,長,角,砂	黄橙色	黄橙色	普通
	345	○5179J-10,W)	Ⅳa	条痕	ケズリ	石,長,角,砂	橙色	にぶい黄橙色	良
	346	○4568L-13,W)	Ⅳa	条痕	ケズリ	石,長,角,砂	黄橙色	褐橙色	良
	347	○4103K-10,V)	Ⅳa	条痕	ケズリ	長,角,砂	浅黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	348	○5524J-11,W)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	明黄橙色	橙色	良
	349	○3273L-15,V)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	橙色	にぶい橙色	普通
	350	○1686J-13,V)	Ⅳa	条痕	ナデ	長,角,砂	橙色	にぶい橙色	普通
	351	○4296K-11,V)	Ⅳa	ナデ	ナデ	石,長,角,砂	橙色	褐橙色	普通



第90図　第Ⅴ～Ⅶ類土器出土状況図



第91図　第Ⅴ類土器実測図



第92図　第Ⅵ類土器実測図

Ⅳc類土器（第83,84図－280～290）

Ⅳc類土器は胴部の綾杉条痕文の上に貝殻刺突文を重ねるものである。口縁部は直行して，外面に貝殻刺突文を縦位に施文する。胴部外面には条痕文を施文し，貝殻刺突文を施す。280～282は口縁部である。

口縁部に縦位に貝殻刺突文が施され，その下位には貝殻刺突文が横位に施文され口縁部と胴部との境を示す。口唇部上面に円周に沿って貝殻刺突文が2条施されている。

283～289は胴部である。貝殻条痕文を縦位に施文したのち，貝殻刺突文を綾杉状に施す。290は底部である。側面に条痕文が横位に施されている。

Ⅳd類土器（第86,87図－291～321）

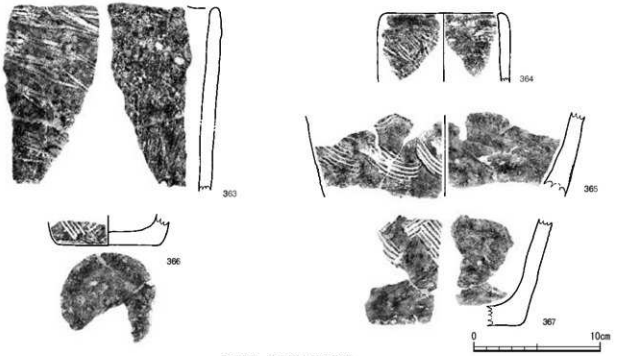
Ⅳd類土器は胴部外面に綾杉状に条痕文を施文する土器の胴部片である。口縁部が外反するか直行するかは確認できない。綾杉状の条痕文は縦位に近いものから横位に近いものまで様々である。296は条痕文の上に貝殻刺突文が縦位に施されている。303は条痕文をほぼ縦位に施している。314は内面に炭化物が付着している。

Ⅳe類土器（第88,89図－322～351）

Ⅳe類土器は胴部外面に綾杉状に条痕文を施文する土器の底部片である。底部側面に条痕文を横位に施すものが多い。322は底部側面に縦位の刻目が施されている。325は底部外面にあばた状の凹凸がみられる。剥落した可能性が高い。335,342,348は底部側面に短い縦位の刻目が施されている。351は底部外面に木の葉痕がみられる。

Ⅴ類土器（第91図－352～360）

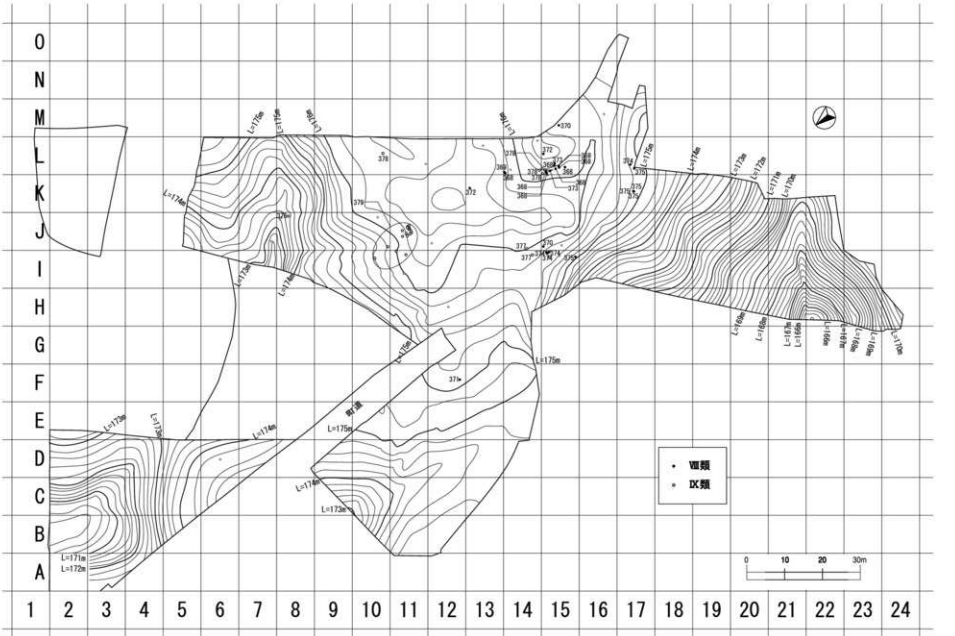
Ⅴ類土器は口縁部が直行ないしわずかに内弯し，肥厚する。口縁部外面には貝殻刺突文が巡る。胎土に白粒が多く混在する。65点出土し，そのうち9点を掲載した。352～354は口縁部片で，355～359は，胴部片，360は底部片である。353,356は横位の貝殻刺突文が施されている。355は縦位の貝



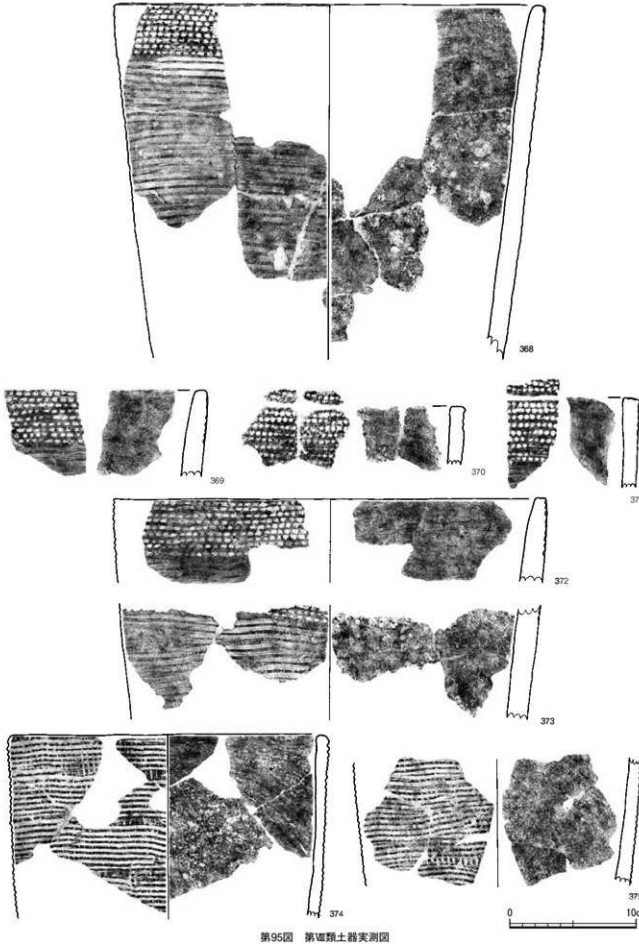
第93図　第Ⅶ類土器実測図

第29表　縄文時代早期土器観察表（11）

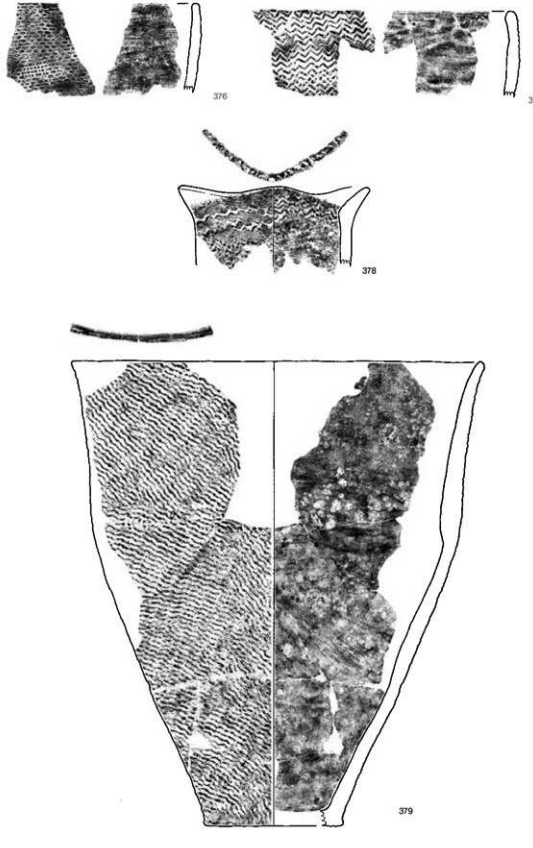
棒図no	図no	取上No(グリッド,層位)	分類	文様・調整(内面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	焼成
92	362	(3563M-16,V)	V	ナデ	ナデ	石,長,角,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	363	(348K-17,Ⅱ) (533J-17,Ⅱ) (595I-17,V)	V	ナデ	ナデ	石,長,角,雲,砂	明黄褐色	明黄褐色	普通
	354	(1068H-23,V)	V	条痕	ナデ	石,長,角,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	355	(2107J-12,V)	V	ナデ	ナデ	長,角,雲,砂	橙色	にぶい黄橙色	普通
	356	(550J-17,V)	V	ナデ	ナデ	石,長,角,雲,砂	にぶい橙色	にぶい黄橙色	普通
	357	(一括J-)	V	ナデ	ケズリ	長,角,雲,砂	明褐色	明褐色	普通
	358	(4119K-10,V) (4127K-10,V)	V	ナデ	丁寧なナデ	長,角,雲,砂	明褐色	黄褐色	普通
	359	一括(-)	V	ナデ	ナデ	長,角,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	360	(4114K-10,V) (4122K-10,V) (4128K-10,V)	V	ナデ	ナデ	長,角,雲,砂	橙色	黄褐色	普通
	361	(4349K-11,V)	底	ナデ	ヘラナデ	長,角,雲,砂	橙色	橙色	良
	362	(3996L-11,V)	底	ナデ	ヘラナデ	長,角,雲,砂	橙色	橙色	良
93	363	(531J3K-11,Ⅱ) (542J3I-10,Ⅱ)	底	ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	黄橙色	黄橙色	普通
	364	(一括J-)	底	ナデ	ナデ	長,角,砂	黄橙色	褐色	良
	365	(537I0-10,Ⅱ) (538I0-10,Ⅱ) (539I0-10,Ⅱ)	底	ナデ	ナデ	長,角,砂	橙色	黄褐色	普通
	366	(443I0L-14,Ⅱ) (462I0K-13,V) (471I0K-13,Ⅱ)	底	条痕	ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	普通
	367	(536I9-11,V) (537I9I-10,Ⅱ)	底	ナデ	ナデ	長,角,砂	橙色	黄褐色	普通
95	368	(3287I-15,V) (3303I-15,V) (3305I-15,V) (3306I-15,V) (3908I-15,Ⅱ) (4463I-15,Ⅱ) (4637I-14,V) (4645I-15,Ⅱ)	底	条痕,ナデ	ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	普通
	369	(4636I-14,V)	底	条痕	ナデ	長,角,砂	褐褐色	橙色	良
	370	(2805I-15,Ⅱ) (3353M-15,V)	底	条痕	ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	良
	371	●80F-12,V)	底	条痕	ナデ	長,角,砂	にぶい黄橙色	橙色	良
	372	(4449L-15,V) (4688K-13,Ⅱ)	底	条痕	ナデ	長,角,砂	明黄褐色	にぶい黄橙色	良
	373	(327I0L-15,V) (445I0L-15,V)	底	条痕	ナデ	長,角,砂	橙色	橙色	普通
	374	(281I0-15,V) (281I0-15,Ⅱ) (282I0I-15,Ⅱ) (697I0L-17,Ⅱ)	底	条痕	ナデ	長,角,砂	明黄褐色	黄橙色	良
	375	(226I9K-17,V) (362L-17,Ⅱ) (378K-17,Ⅱ) (508K-17,Ⅱ) (693I0I-15,Ⅱ)	底	条痕	ナデ	長,角,砂	明黄褐色	黄橙色	普通



第94図　第Ⅷ,Ⅸ類土器出土状況図



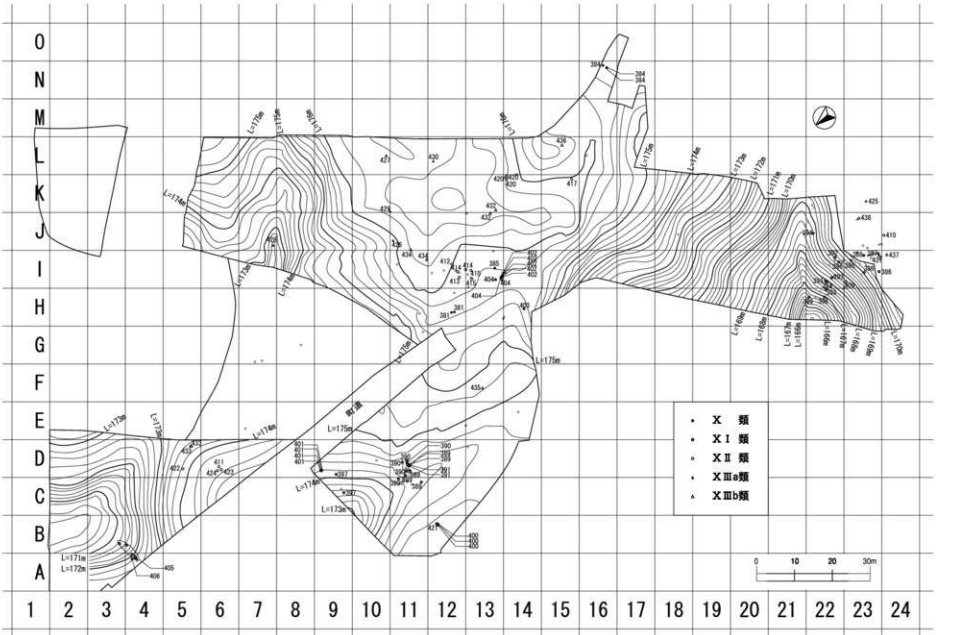
第95図　第Ⅷ類土器実測図



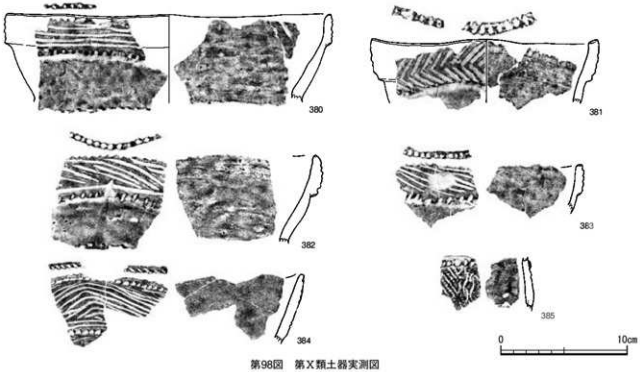
第96図　第Ⅸ類土器実測図

第30表　縄文時代早期土器観察表（12）

挿図No.	図No.	取上No.(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	焼成
96	376	○2505J-8,1(I)	Ⅺ	ナデ	ハケナデ	長,丸,砂	暗褐色	暗褐色	良
	377	○2465J-14,1(I) ○2577I-14,1(I)	Ⅺ	ナデ	ハケナデ	石,長,丸,砂	暗褐色	暗褐色	良
	378	○3270L-15,V) ○3271L-15,V) ○3776L-14,V) ○4956L-10,V)	Ⅺ	ナデ	ハケナデ	長,丸,砂	黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	379	○5057J-11,V) ○5059J-11,V) ○5060J-11,V) ○5061J-11,V) ○5064J-11,V) ○5065J-11,V) ○5066J-11,V) ○5067J-11,V) ○5071J-11,V) ○5078J-11,V) ○5079J-11,V) ○5082J-11,V) ○5110J-10,V) ○5233I-10,V) ○5270I-11,V) ○5272I-11,V) ○5341J-11,V)	Ⅺ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	橙色	橙色	普通
98	380	○一括(-)	Ⅹ	ナデ	ハケナデ	長,丸,砂	黄橙色	黄橙色	良
	381	○1659H-12,V) ○1822H-12,W)	Ⅹ	ナデ	ハケナデ	長,丸,砂	赤褐色	赤褐色	普通
	382	○一括(-)	Ⅹ	ナデ	ハケナデ	長,丸,砂	明黄褐色	にぶい黄褐色	良
	383	○一括(-)	Ⅹ	ナデ	ハケナデ	石,長,丸,砂	橙色	にぶい黄橙色	良
	384	○3573N-16,V) ○3576N-16,V) ○4498N-16,V)	Ⅹ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	橙色	橙色	良
	385	○1246I-13,V)	Ⅹ	ナデ	ナデ	石,長,丸,砂	褐赤褐色	赤褐色	良
99	386	●621I-23,V) ●1191I-23,V)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	黄橙色	にぶい黄橙色	良
	387	●1236I-23,V)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	388	●1331I-23,W)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	赤褐色	赤褐色	普通
	389	●507D-11,V) ●510D-11,V) ●553D-11,V) ●626E-11,V) ●641C-11,V) ●661C-11,V'F)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	390	●512D-11,V) ●544D-11,V'F) ●645D-11,V) ●662D-11,V)	ⅩⅠ	丁寧なナデ	丁寧なナデ	長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	391	●606D-11,V) ●609D-11,V)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	392	●1360E-22,V) ○一括(-) ○一括(-)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	赤褐色	赤褐色	良
	393	○1040I-22,V) ○1100I-22,V) ○1111I-22,V) ○1159H-22,V) ○一括(-)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	394	○28J-22,W)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	395	●1346I-23,V)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	石,長,丸,砂	明黄褐色	明黄褐色	普通
	396	●1375I-22,V)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	石,長,丸,砂	橙色	橙色	普通
	397	●617D-9,V) ●628C-9,V)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,雲,砂	赤褐色	赤褐色	普通
	398	○1229H-22,V) ○一括(-)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	石,長,丸,砂	明黄褐色	黄褐色	普通
	399	○1298H-22,V)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
100	400	●1469I-12,W) ●1471I-12,W) ●1472I-12,W)	ⅩⅠ	ナデ	ケズリ,ナデ	長,丸,雲,砂	にぶい黄橙色	橙色	普通
	401	●620I-9,V) ●621I-9,V) ●622I-9,V) ●1157I-9,W)	ⅩⅠ	ナデ	ナデ	長,丸,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	402	○1236I-13,V) ○1237I-13,V) ○1239I-13,V) ○1240I-13,V) ○1637I-13,V) ○一括(-)	ⅩⅠ	ナデ	ケズリ,ナデ	長,丸,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	403	○689M-14,W)	ⅩⅠ	ナデ	ケズリ,ナデ	長,丸,砂	明赤褐色	明赤褐色	普通
	404	○1238I-13,V) ○1241I-13,V) ○1242I-13,V) ○一括(-)	ⅩⅠ	ナデ	ケズリ,ナデ	長,丸,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良



第97図　第X,XⅠ,XⅡ,XⅢa,XⅢb類土器出土状況図



第98図　第Ⅹ類土器実測図

殻刺突文が連続的に施されている。357～359は貝殻刺突文を斜位に組み合わせて施している。また，内面が丁寧にナデられている。胎土に雲母が混在する。360の底部は中央部が厚くなっている。胎土に雲母が混在する。

Ⅵ類土器（第92図－361～362）

Ⅵ類土器は外面に短い沈線文を施すものである。361,362は口縁部がやや内弯する。口唇部は平担面を有し，内側に肥厚する。また，胎土に雲母を含む。19点出土し，そのうち２点を実測した。361は縦位と横位の短い沈線文が施されている。362は口縁部に貝殻刺突文が横位に施され，その下位に縦の沈線文が施されている。

Ⅶ類土器（第93図－363～367）

Ⅶ類土器は外面に貝殻条痕文や沈線による羽状文を施すものを一括した。23点出土し，そのうち５点を掲載した。363,364は口縁部片である。外面に短い貝殻条痕文が斜位に施されている。365は胴部片である。貝殻による条痕文が弧状に施されている。366,367は底部片である。底部側面に貝殻による条痕文が羽状に施されている。

Ⅷ類土器（第95図－368～375）

Ⅷ類土器は口縁部外面に貝殻刺突文を横位に施し，胴部外面に貝殻条痕文を横位に施すものである。口唇部は平担面を有するものが多い。28点出土し，そのうち８点を掲載した。368～372,374は口縁部である。374は口縁部の上位に横位の貝殻刺突文はないが，縦位の貝殻条痕文の上に横位に貝殻条痕文が施されている。373と375は胴部片である。372と373は同一個体と考えられる。375は外面の貝殻条痕文の一部に刻目が施されている。

Ⅸ類土器（第96図－376～379）

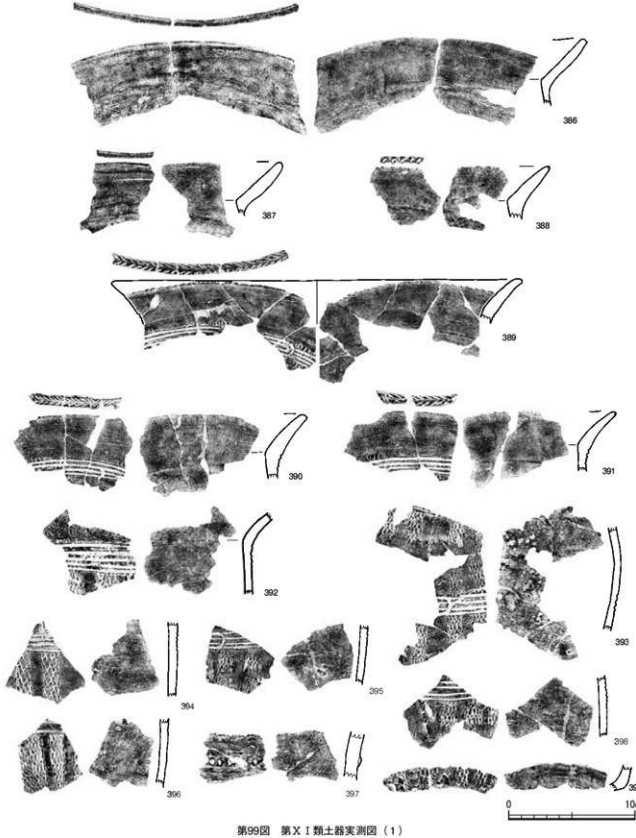
Ⅸ類土器は器外面に楕円押型文や山形押型文を施すものである。12点出土し，そのうち４点を掲載した。376,377は口縁部が直行ないしわずかに内弯する。378は口縁部が波状になり，口唇端部より口縁部内面にかけて山形押型文が施される。379は口縁部がやや外反し，胴部がわずかに膨らみそのまま直線的に底部へ移行する。外面は斜位の山形押型文が全面に施文されている。

Ⅹ類土器（第98図380～385）

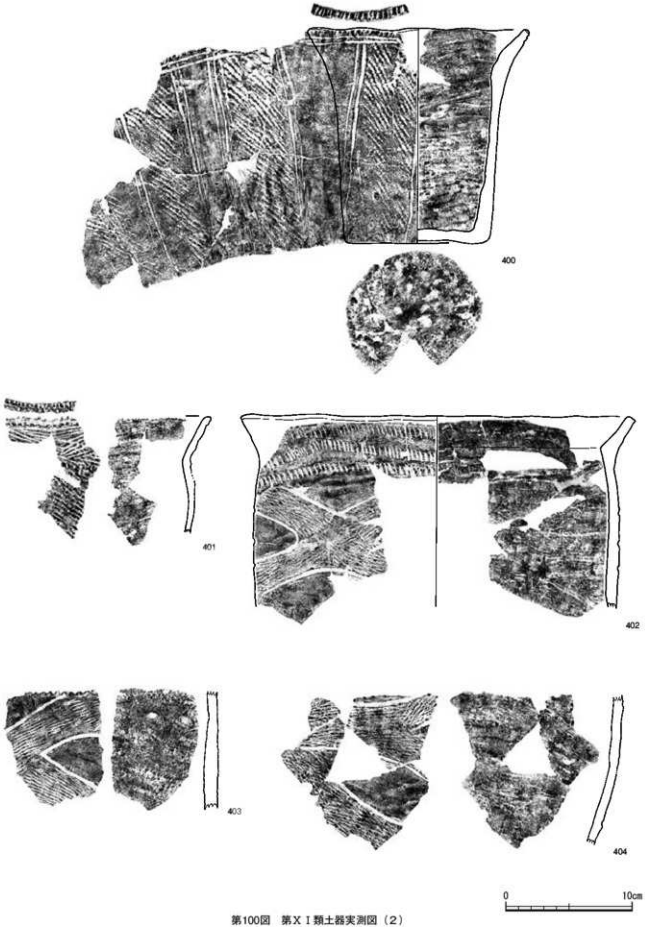
Ⅹ類土器は口縁部が外反して，沈線文等が施され，380～383は口縁部の上部を肥厚させ文様帯を設けている。口唇部に刻目を施し，その下位に沈線を横位にもしくは斜位に施す。16点出土し，そのうち６点を掲載した。380,382,383は文様帯の下端にも刻目が施されている。384は口唇部に刻目を施し，文様帯の上部と下部に刻目を巡らしその間に平行沈線文，横位の沈線文を巡らす。385は胴部片である。外面に隆起線文を横位に貼付け，刻目を施し，その下位に縄文を転がしている。

ⅩⅠ類土器（第99図386～第101図408）

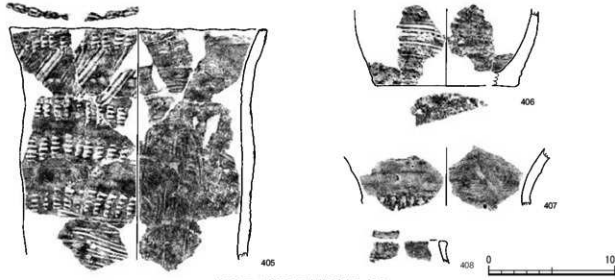
ⅩⅠ類土器は口縁部が外反しラッパ状を呈し，外面に撚糸文や貝殻文が施されるものである。198点出土し，そのうち23点掲載した。386～392は口縁部片である。外反する口縁部外面は無文である。390,391は胴部との境に沈線が４条施文されている。口唇部には連続してハの字状の刻目が施されている。392は胴部との境に沈線が５条施文され，網目撚糸文



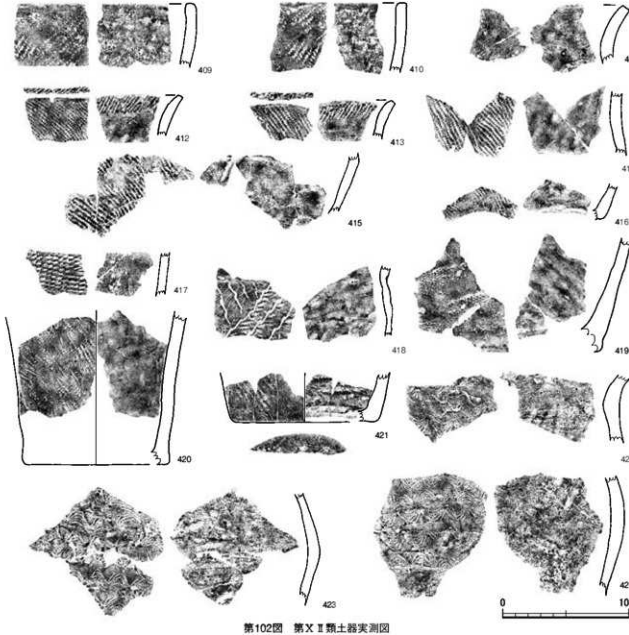
第99図　第Ⅹ Ⅰ類土器実測図（1）



第100図　第ＸＩ類土器実測図（２）



第101図　第ＸＩ類土器実測図（3）



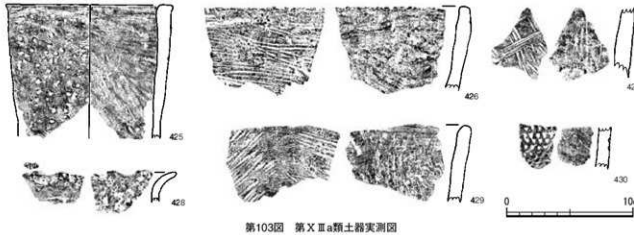
第102図　第ＸＩ類土器実測図

を縦位に転がす。393～398は胴部片である。沈線が数条横位に施され，網目撚糸文が縦位に転がされている。393は胴部が若干膨らむ。397は隆起線文が横位に貼り付けられ，その上に刻目が施されている。399は底部片である。底部側面に網目撚糸文が施されている。400は口縁部が外反し，胴部は円筒形を呈し，底部は上げ底気味平底である。口縁部に２条の沈線を横位に巡らしている。胴部には２条を単位とする沈線を縦位に施しその間に縄文を転がしている。401は口縁部の上位と下位に隆起線文が貼り付けられその上に刻目が施されている。隆起線文の間に沈線が斜位，横位に施されている。胴部には縄文が斜位に転がされている。402は口縁部が外反する。口縁部に刺突文が３条施文されている。胴部にはきめの細かい網目状の撚糸文が幾何学状に施されて沈線で区画される。403,404は胴部である。405は口縁部がやや外反する。口縁部の上位に貝殻を縦位に連続的に刺突し横位に巡らす。その下に貝殻による条痕を施す。胴部には貝殻を連続的に刺突し横位に巡らす単位が３段ありその下位に貝殻条痕文が施される。406は底部である。側面に貝殻条痕文が横位に施されている。407は口縁部の屈曲部の下位に隆起線文が横位に貼り付けられ，その上に刻目が施されている。408は壺形土器であるが上記資料との関係からここに分類した。

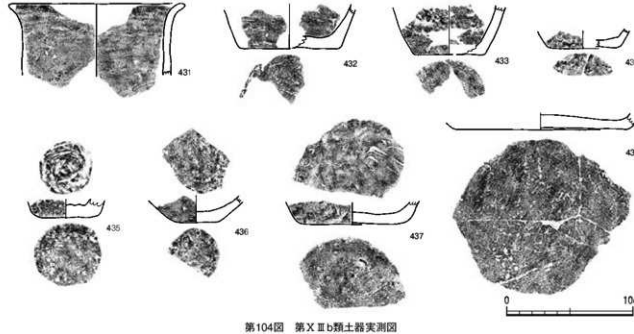
第31表　縄文時代早期土器観察表（13）

挿図No	図No	出土No(グリッド,層位)	分類	文様・調整(外面)	文様・調整(内面)	胎土	色調(外面)	色調(内面)	焼成
102	405	○465(A-4,V) ○466(A-4,V) ○469(A-4,V) ○481(B-3,V) ○768(A-4,V) ○769(A-4,V) ○809(B-4,V) ○一括(-) ○一括(-)	XⅠ	ナデ	ハケナデ	石,長,角,雲,砂	赤褐色	褐色	普通
	406	△771(A-4,V) ○一括(-)	XⅠ	ナデ	ナデ	石,長,角,雲,砂	赤褐色	赤褐色	普通
	407	○一括(-)	XⅠ	ナデ	ナデ	長,角,砂	褐色	褐色	普通
	408	○一括(-)	XⅠ	ナデ	ナデ	長,角,砂	明黄褐色	明黄褐色	良
	409	○1070-23,Ⅲ)	XⅡ	ナデ	ナデ	石,長,角,砂	橙色	にぶい黄橙色	良
	410	●1221U-24,V)	XⅡ	ナデ	ハケナデ	石,長,角,砂	明黄褐色	にぶい黄橙色	良
	411	○454D-6,Ⅲ)	XⅡ	ナデ	ナデ	長,角,砂	浅黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	412	○2093I-12,Ⅲ)	XⅡ	ナデ	ナデ	長,角,砂	黄橙色	にぶい黄橙色	良
	413	○2651I-12,Ⅲ)	XⅡ	ナデ	ナデ	長,角,砂	褐橙色	にぶい黄橙色	良
	414	○2553I-13,Ⅲ) ○2554I-12,Ⅲ)	XⅡ	ナデ	ナデ	長,角,砂	褐橙色	にぶい黄橙色	良
	415	●2618-13,V下) ○2673I-13,Ⅲ) ○一括(-)	XⅡ	ナデ	ナデ	長,角,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	416	○一括(-)	XⅡ	ナデ	ハケナデ	長,角,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	417	○3257K-15,V)	XⅡ	ナデ	ナデ	長,角,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	418	○一括(-)	XⅡ	ハケナデ	ハケナデ	長,角,砂	橙色	にぶい黄橙色	良
	419	○一括(-)	XⅡ	ナデ	ナデ	長,角,砂	黄橙色	黄褐色	良
	420	△4347K-14,V) ○4550K-14,V) ○4551K-14,V)	XⅡ	ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	橙色	にぶい黄橙色	良
	421	●1468B-12,Ⅲ)	XⅡ	ナデ	ナデ	長,角,雲,砂	明褐色	褐色	普通
	422	△418I-5,Ⅲ)	XⅡ	ナデ	ケズリ,ハケナデ	長,角,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	423	△460I-6,Ⅲ)	XⅡ	ハケナデ	ハケナデ	長,角,砂	黄橙色	にぶい黄橙色	普通
	424	△453I-6,Ⅲ)	XⅡ	ナデ	ナデ	長,角,砂	黄橙色	黄褐色	良
104	425	●2566K-23,V)	XⅢa	ナデ	ケズリ,ナデ	長,角,砂	黄橙色	褐橙色	良
	426	○5104J-11,Ⅲ)	XⅢa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	黄褐色	黄褐色	良
	427	○4958L-10,Ⅲ)	XⅢa	ナデ	ナデ	長,角,砂	褐橙色	にぶい黄橙色	良
	428	○960U-7,Ⅲ)	XⅢa	ナデ	ナデ	長,角,砂	橙色	黄橙色	普通
	429	○5282K-11,Ⅲ)	XⅢa	条痕	ケズリ,ナデ	長,角,砂	明褐橙色	明黄褐色	良
	430	○3613L-12,V)	XⅢa	ナデ	ナデ	石,長,角,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	431	●1238I-23,V)	XⅢb	ナデ	ナデ	長,角,砂	黄橙色	明黄褐色	普通
	432	△4612K-13,V) △4617J-13,V)	XⅢb	ナデ	ナデ	長,角,砂	明赤褐色	褐橙色	普通
	433	△461I-5,Ⅲ) △462I-5,Ⅲ)	XⅢb	ナデ	ナデ	長,角,砂	橙色	褐橙色	普通
	434	○5351I-11,V) ○5512I-11,V)	XⅢb	ナデ	ナデ	長,角,砂	黄橙色	褐橙色	普通
	435	●387F-13,Ⅱ上)	XⅢb	ナデ	ケズリ	長,角,砂	明黄褐色	明褐色	普通
	436	○3321L-15,V)	XⅢb	丁寧なナデ	ナデ	長,角,砂	黄橙色	黄褐色	普通
	437	●6265-24,V)	XⅢb	ナデ	ナデ	長,角,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良
	438	●2632J-23,V)	XⅢb	ナデ	ナデ	長,角,雲,砂	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通

●…平成15年度出土遺物
○…平成16年度出土遺物
●○…表示なし…検討調査時出土遺物



第103図　第ⅩⅢa類土器実測図



第104図　第ⅩⅢb類土器実測図

ⅩⅡ類土器（第102図－409～424）

ⅩⅡ類土器は外面に撚糸文を施すものである。49点出土し，そのうち16点を掲載した。409～412は口縁部である。411～414は口縁部が緩やかに外反する。418は結束をもつ撚糸を押圧回転して施文している。422～424は横位方向に変形撚糸文が施されている。口縁部は緩やかに外反し，胴部は膨らむ。

ⅩⅢ類土器（第103図425～第104図438）

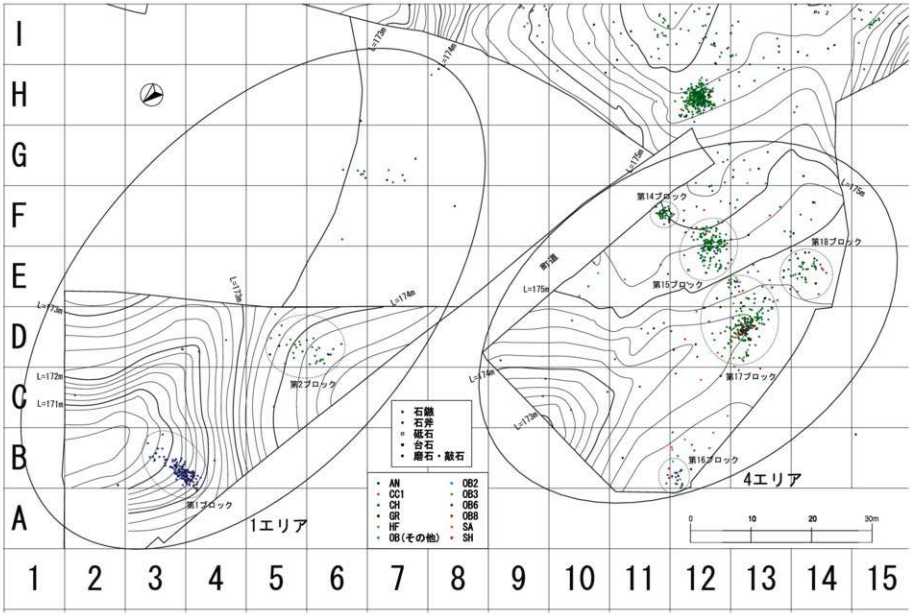
ⅩⅢ類土器は上記以外の土器を一括した。294点出土し，そのうち14点を掲載した。

ⅩⅢa類土器（第103図－425～430）

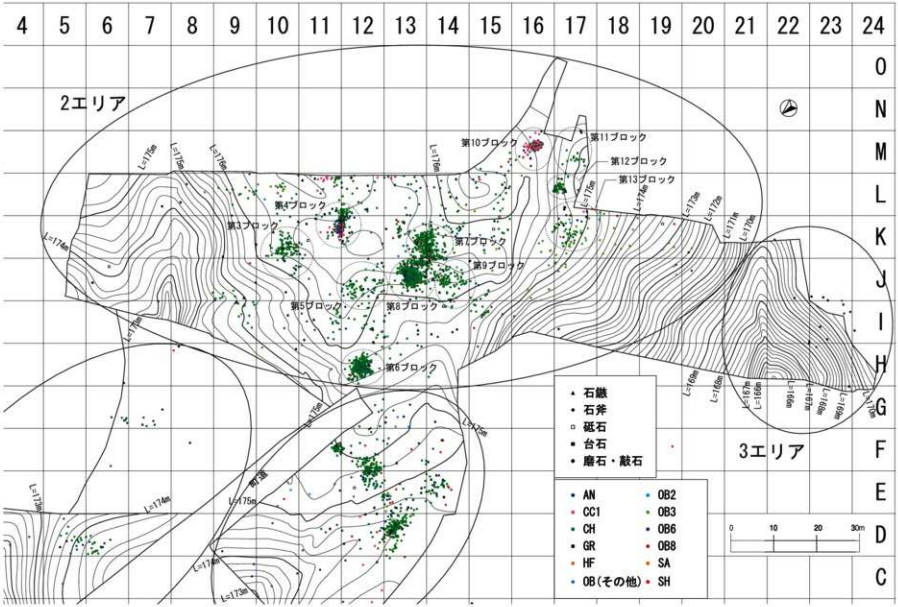
ⅩⅢa類土器は縄文時代早期土器で上記の分類に入らなかったものを一括した。425は外面に刺突が斜位に施されている。426は口縁部に貝殻刺突文が1条横位に施され，胴部には貝殻条痕文が施される。427は短い貝殻条痕文が斜位に施されている。428は口縁部が外反する。口唇部に刻目が施されている。429は口縁部から胴部にかけて貝殻条痕文が斜位に施されている。430は貝殻刺突文が施されている。

ⅩⅢb類土器（第104図431～438）

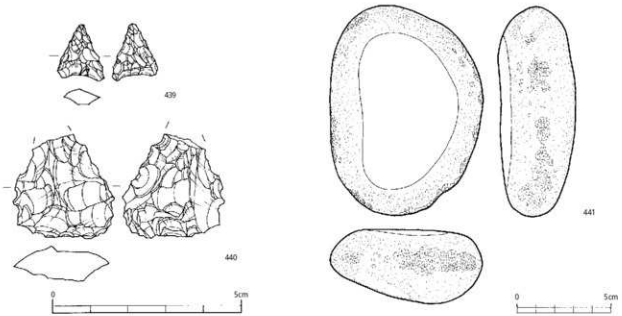
ⅩⅢb類土器は無文土器である。ⅩⅠ類土器に類似する器形のものが多い。431は口縁部片である。432～438は底部片である。438はやや上げ底である。



第105図　1・4エリア石器出土状況図



第106図　2・3エリア石器出土状況図



第107図　1エリア出土石器実測図

2　石器

縄文時代早期の石器は，Ⅴ・Ⅵ層から出土している。

土器の出土状況から，Ⅴ・Ⅵ層を縄文時代早期包含層として一括して取り扱う。出土のまとまりから1～4のエリアにわけた。2・4エリアに遺物が集中しており特に石鏃の出土が多い。3エリアは磨・敲石が多く出土している。

1エリア

439，440は石鏃である。439は浅い抉りを施す。440は未製品である。先端部が破損している。441は磨石である。表裏に磨面がみられ側縁周部に敲打痕が観察される。

2エリア

442～511は石鏃である。442は～446は抉りがないかもしくは浅い一群である。442～444は形態がほぼ正三角形である。445，446は形態が二等片三角形である。447，448は未製品である。449～457は形態がほぼ正三角形で抉りが深い一群である。449～452，455，456は両側縁がやや内弯する。453，454，457は先端がやや先細る。458～505は形態が二等辺三角形の石鏃で抉りが深い一群である。459～461は先端がやや先細る傾向にある。464は主要剥離面が残っている。465は脚部が若干内弯する。470は両側縁に浅い抉りがはいる。475，476は両側縁が直線的である。479，480は両側縁に丁寧な押圧剥離が施されている。482は両側縁に鋸歯状の加工が施されている。485，486は両側縁に浅い抉りが入り，先端が細くなっている。487は未製品で，先端部が破損している。493は抉りが大きい。494は両側縁が直線的である。右側面が破損している。499は両面とも主要剥離面が残っている。502，503は先端部が破損している。504は形態が縦長に作出されている。裏面に主要剥離面が残る。507～510は抉りが深く，脚部がやや内弯する一群である。508は周縁に丁寧で細かい押圧剥離が施され，細い先端部と脚部が作出されている。511は縦長の石鏃である。両側縁に浅い抉りが入る。

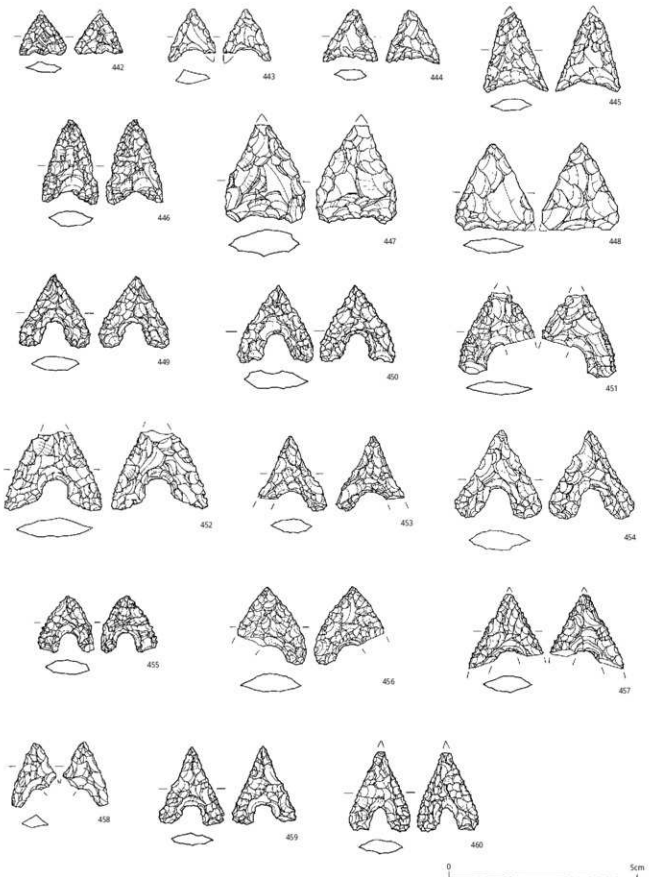
512，513はドリルと考えられる。513は表面に自然面が一部残る。514は石鏃の未製品である。左側面が破損している。

515は石鏃である。抉りがなく基部の幅が短い。507は抉りの内側からも丁寧な押圧剥離が施され，細い脚部が作出されている。516は横長の石鏃で脚部が開いている。517～522は石鏃の未製品である。

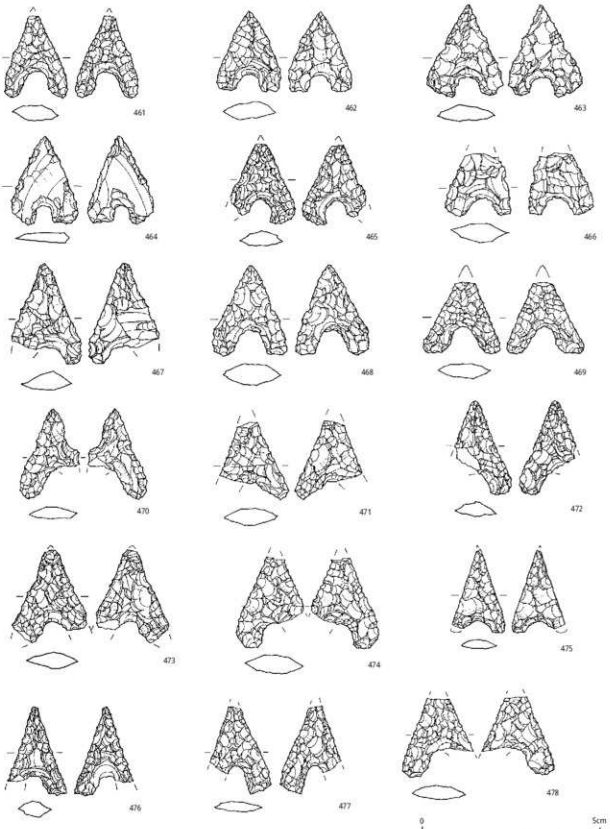
523，524は磨製石斧である。523は頭部に敲打によるくびれがある。524は右側面に交互剥離痕が残るが全体的に研磨が施されている。刃部が一部欠損している。525は磨製石斧の一部である。表面が研磨され，右側面に交互剥離痕が残る。526は二次加工剥片である。右側面に交互剥離痕が観察される。527は礫器である。右側面に交互剥離痕が観察される。528は輝石安山岩製の削器である。右側面に交互剥離痕が観察される。529は安山岩製の磨石である。530は砂岩製の敲石である。下側面と右側面に多く敲打痕が見られる。531は砂岩製の磨石である。側縁周部に敲打痕が観察される。532は砂岩製の敲石である。表裏面，側面に敲打痕がみられる。533，534は砂岩製の磨石である。534は側縁周部に敲打痕が多く見られる。535～542は砂岩製の砥石である。543は砂岩製の敲石である。上部側面と下部側面に敲打痕が見られる。544は砂岩製の台石である。

第32表　縄文時代早期石器観察表(1)

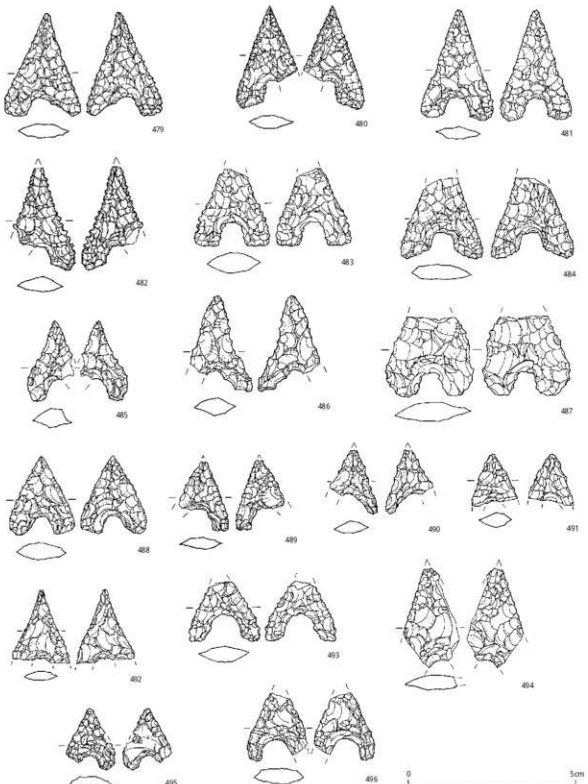
挿図番号	図番号	器　種	取上番号	エリア	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考
107	439	打製石鏃	470	1	B－4	Ⅴ	OB8	1.5	1.2	0.45	0.5	
	440	打製石鏃	423	1	D－5	Ⅵ	SH1	2.8	2.7	0.9	6.82	
	441	磨石	307	1	B－2	Ⅴ	SA	11.1	8.1	4	500	
108	442	打製石鏃	7156	2	N－17	Ⅴ	OB4	1.1	1.25	0.3	0.22	
	443	打製石鏃	7157	2	N－17	Ⅴ	OB8	1.4	1.3	0.4	0.33	
	444	打製石鏃	4416	2	K－11	Ⅴ	CC1	1.4	1.45	0.3	0.39	
	445	打製石鏃	3648	2	L－12	Ⅴ	CC1	2.1	1.7	0.35	1.01	
	446	打製石鏃	243	2	K－17	Ⅵ	OB2	2.25	1.5	0.35	1.04	
	447	打製石鏃	1568	2	J－14	Ⅴ	AN2	2.6	2.15	0.7	3.15	
	448	打製石鏃	1437	2	J－13	Ⅴ	CH3	2.3	2.1	0.4	1.74	
	449	打製石鏃	3106	2	K－14	Ⅴ	CH2	1.95	1.9	0.4	0.87	
	450	打製石鏃	5252	2	I－11	Ⅴ	CH2	2.05	2	0.5	1.2	
	451	打製石鏃	2060	2	L－7	Ⅵ	CH2	2.2	2	0.35	1.14	
	452	打製石鏃	1510	2	J－13	Ⅴ	CH3	2.1	2.6	0.5	2.05	
	453	打製石鏃	3753	2	L－14	Ⅵ	CH2	2	1.8	0.4	0.88	
	454	打製石鏃	5395	2	I－9	Ⅴ	CH2	2.35	2.3	0.55	1.5	
	455	打製石鏃	5199	2	J－9	Ⅴ	OB1	1.5	1.5	0.4	0.69	
	456	打製石鏃	1299	2	J－12	Ⅴ	OB3	2.1	1.85	0.5	1.16	
	457	打製石鏃	3324	2	L－15	Ⅴ	SH2	2	1.95	0.4	1.08	
	458	打製石鏃	3791	2	J－14	Ⅴ	CH2	1.7	1.2	0.35	0.4	
	459	打製石鏃	3763	2	L－14	Ⅴ	CH1	2.1	1.7	0.3	0.71	
	460	打製石鏃	4441	2	L－14	Ⅴ	CH2	2.15	1.6	0.4	0.93	
109	461	打製石鏃	3331	2	L－15	Ⅴ	CH1	2.3	1.75	0.5	1.25	
	462	打製石鏃	4253	2	K－11	Ⅴ	CH2	2.55	1.75	0.55	1.47	
	463	打製石鏃	4307	2	K－11	Ⅴ	CH2	2.6	2.1	0.5	1.73	
	464	打製石鏃	2928	2	K－13	Ⅴ	CH3	2.5	1.9	0.3	1.26	
	465	打製石鏃	3011	2	K－13	Ⅴ	CH1	2.25	1.8	0.4	1.31	
	466	打製石鏃	4252	2	K－11	Ⅴ	CH2	1.85	1.8	0.65	1.36	
	467	打製石鏃	5255	2	I－11	Ⅴ	CH1	2.8	2	0.55	2.22	
	468	打製石鏃	1244	2	I－13	Ⅴ	CH3	2.6	2.1	0.6	1.95	
	469	打製石鏃	5273	2	H－11	Ⅴ	CH2	2.1	2.15	0.45	1.32	
	470	打製石鏃	345	2	K－16	Ⅵ	CH2	2.6	1.75	0.35	0.98	
	471	打製石鏃	1667	2	I－12	Ⅴ	CH3	2.2	1.9	0.5	1.51	
	472	打製石鏃	4313	2	K－11	Ⅴ	CH2	2.65	1.6	0.4	1.09	
	473	打製石鏃	4277	2	K－11	Ⅵ	CH3	2.65	2.05	0.45	2.03	
	474	打製石鏃	4236	2	K－11	Ⅴ	CH2	2.6	1.9	0.5	1.9	
	475	打製石鏃	3546	2	N－16	Ⅴ	CH2	2.35	1.5	0.25	0.73	
	476	打製石鏃	1253	2	I－13	Ⅴ	CH3	2.5	1.65	0.4	1.07	
	477	打製石鏃	表採	2	集石27号	Ⅵ	CH2	2.5	1.75	0.3	0.94	
	478	打製石鏃	2597	2	J－13	Ⅵ	CH3	2.25	2	0.4	1.34	
110	479	打製石鏃	1954	2	J－12	Ⅵ	CH3	3.1	2.25	0.45	2.49	
	480	打製石鏃	5189	2	J－10	Ⅴ	CH2	3.05	1.8	0.4	1.34	
	481	打製石鏃	3994	2	L－11	Ⅴ	CH2	3.3	2.1	0.4	1.93	
	482	打製石鏃	5236	2	I－10	Ⅴ	CH1	3.1	1.85	0.45	1.65	
	483	打製石鏃	7005	2	L－17	Ⅴ	CH1	2.35	2.2	0.6	2.31	
	484	打製石鏃	4926	2	K－10	Ⅵ	CH3	2.4	2.5	0.45	2.33	
	485	打製石鏃	1532	2	J－14	Ⅴ	CH1	2.4	1.4	0.6	0.91	
	486	打製石鏃	2954	2	K－13	Ⅴ	CH3	2.85	1.8	0.5	1.5	
	487	打製石鏃	5288	2	J－10	Ⅴ	CH3	2.4	2.65	0.6	3.9	
	488	打製石鏃	3325	2	L－15	Ⅴ	OB6	2.4	1.9	0.55	1.45	
	489	打製石鏃	3252	2	K－15	Ⅴ	OB6	2.1	1.45	0.35	0.79	
	490	打製石鏃	2537	2	H－12	Ⅵ	OB6	1.9	1.4	0.4	0.63	



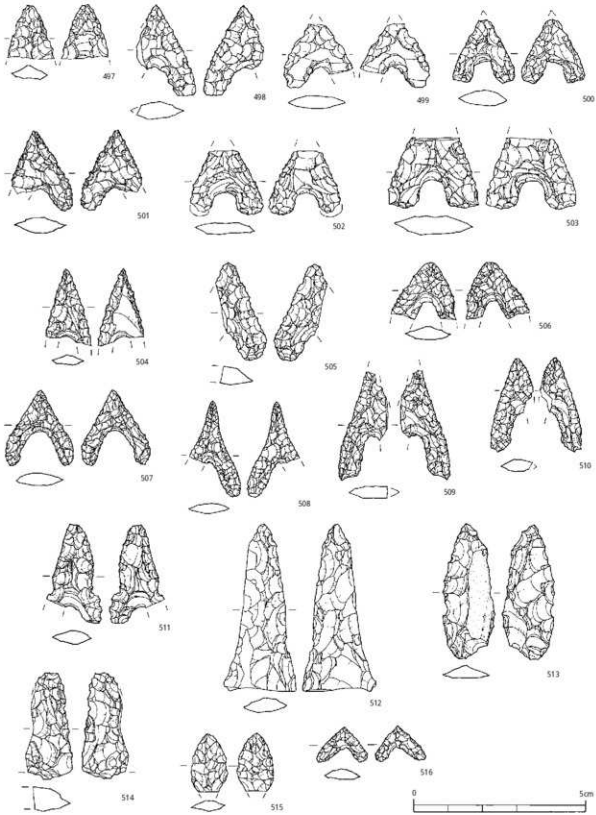
第108図　2エリア出土石器実測図(1)



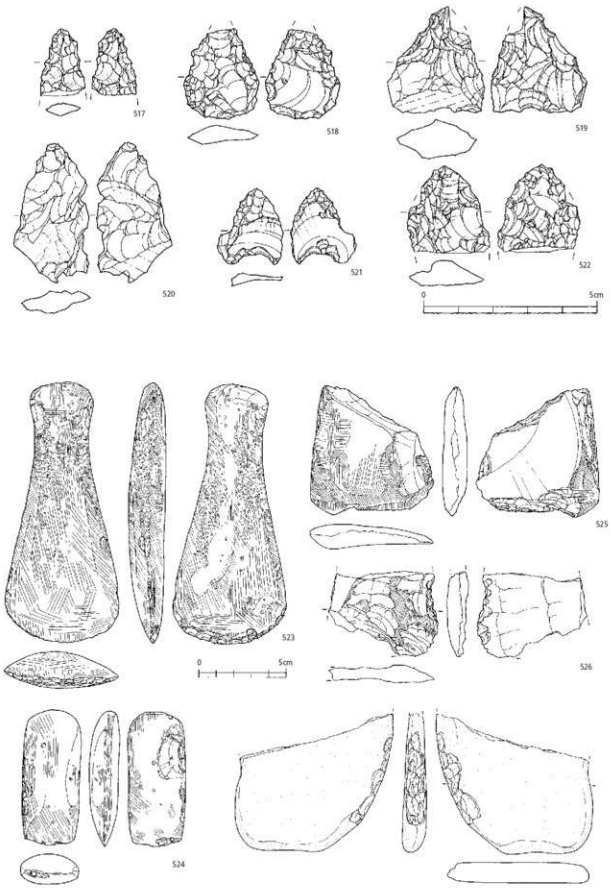
第109図　2エリア出土石器実測図2)



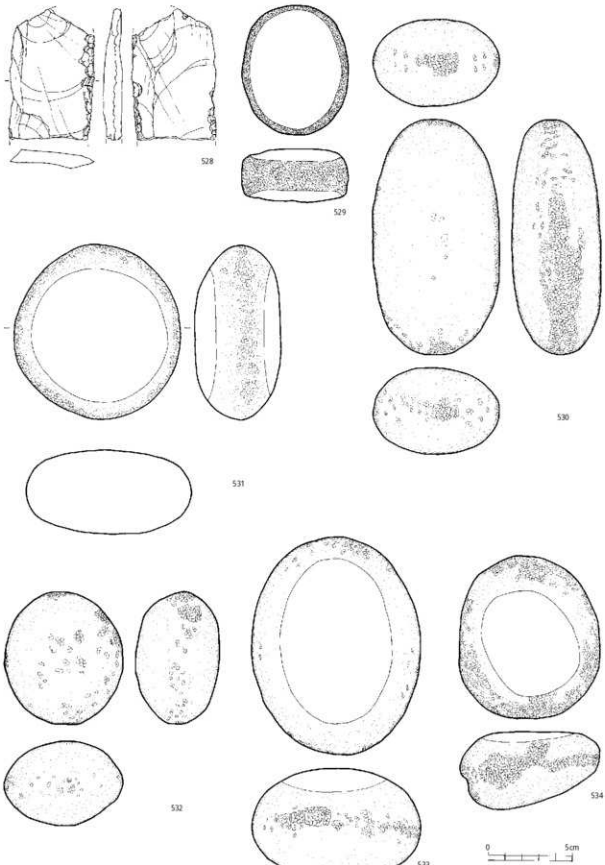
第110図　２エリア出土石器実測図(3)



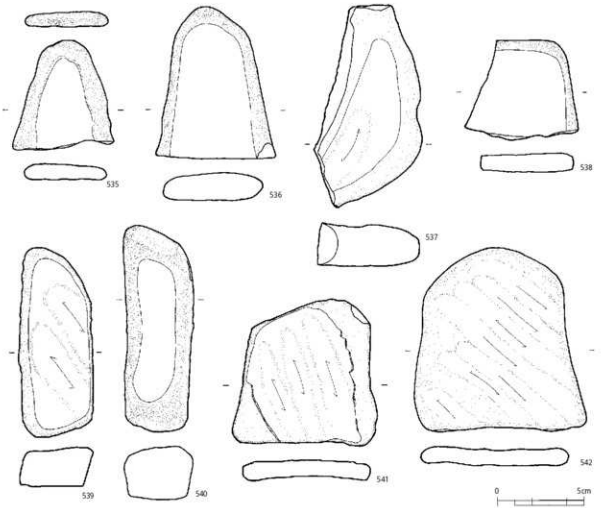
第111図　2エリア出土石器実測図(4)



第112図　２エリア出土石器実測図(5)



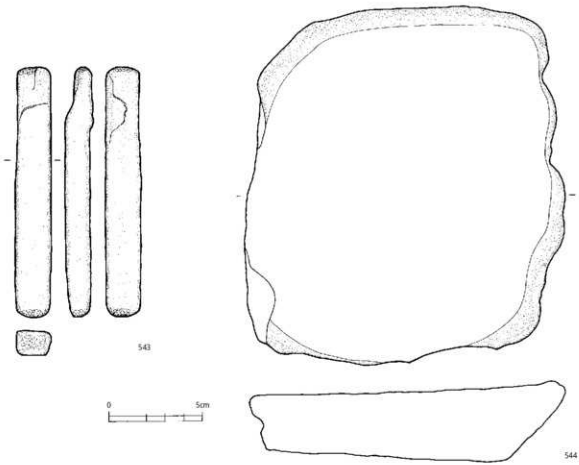
第113図　2エリア出土石器実測図(6)



第114図　2エリア出土石器実測図(7)

第33表　縄文時代早期石器観察表(2)

挿図番号	図番号	器　種	取上番号	エリア	出土区	層位	石材	長　さ（cm）	幅（cm）	厚　さ（cm）	重　さ（g）	備　考
110	491	打製石鏃	1224	2	Ｉ－14	Ⅴ	ＯＢ6	1.6	1.4	0.45	0.65	
	492	打製石鏃	355	2	Ｋ－17	Ⅵ	ＯＢ6	2.25	1.7	0.3	1.05	
	493	打製石鏃	3687	2	Ｌ－13	Ⅴ	ＯＢ4	1.8	2.1	0.45	1.11	
	494	打製石鏃	3966	2	Ｌ－11	Ⅴ	ＯＢ6	3	1.65	0.5	2.28	
	495	打製石鏃	2466	2	Ｊ－14	Ⅵ	ＯＢ2	1.85	1.45	0.3	0.64	
	496	打製石鏃	3955	2	Ｌ－11	Ⅴ	ＯＢ2	2.05	1.25	0.5	1.28	
111	497	打製石鏃	2859	2	Ｋ－12	Ⅴ	ＯＢ1	1.55	1.4	0.4	0.78	
	498	打製石鏃	1220	2	Ｉ－14	Ⅴ	ＯＢ8	2.6	1.75	0.5	1.22	
	499	打製石鏃	2623	2	Ｊ－14	Ⅵ	ＳＨ2	1.9	2.05	0.4	1.18	
	500	打製石鏃	4657	2	Ｊ－15	Ⅴ	ＡＮ1	1.85	1.8	0.45	0.96	
	501	打製石鏃	3973	2	Ｌ－11	Ⅴ	ＡＮ1	2.3	1.75	0.45	1.17	
	502	打製石鏃	4191	2	Ｋ－10	Ⅴ	ＡＮ1	1.9	2.1	0.35	1.22	
	503	打製石鏃	2373	2	Ｊ－13	Ⅵ	ＡＮ1	2.1	2.6	0.5	2.68	
	504	打製石鏃	3409	2	Ｍ－16	Ⅴ	ＡＮ2	2.3	1.3	0.3	0.76	
	505	打製石鏃	918	2	28Ｔ	Ⅵ	ＡＮ3	2.85	1.5	0.5	1.35	
	506	打製石鏃	5397	2	Ｉ－9	Ⅴ	ＣＣ1	1.65	1.85	0.4	0.91	
	507	打製石鏃	4962	2	Ｌ－10	Ⅵ	ＣＨ1	2.2	2	0.4	0.91	



第115図　2エリア出土石器実測図(8)

第34表　縄文時代早期石器観察表(3)

挿図番号	図番号	器種	取上番号	エリア	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
111	508	打製石鏃	7057	2	L－17	Ⅴ	CH1	2.8	1.5	0.3	0.56	
	509	打製石鏃	5012	2	L－12	Ⅵ	CH2	3.2	1.4	0.35	1.31	
	510	打製石鏃	3621	2	L－12	Ⅴ	CH1	3	1.2	0.4	0.9	
	511	打製石鏃	2483	2	L－8	Ⅵ	OB8	2.9	1.6	0.4	1.19	
	512	ドリル	673	2	J－19	Ⅴ下	AN2	4.9	2.15	0.4	5.55	
	513	ドリル	2286	2	I－12	Ⅵ	CH2	3.9	1.5	0.45	3.06	
	514	打製石鏃	4947	2	L－10	Ⅴ	CC1	3.15	1.4	0.7	2.51	
	515	打製石鏃	3261	2	K－15	Ⅴ	CH1	1.2	1.1	0.35	0.66	
	516	打製石鏃	4557	2	K－14	Ⅴ	OB6	1	1.5	0.3	0.2	
112	517	打製石鏃	1292	2	J－12	Ⅴ	CH1	1.9	1.3	0.4	0.98	
	518	打製石鏃	1007	2	H－12	Ⅴ	CH2	2.6	2.15	0.5	2.94	
	519	打製石鏃	1951	2	J－12	Ⅵ	CH2	3.1	2.8	1.1	7.97	
	520	打製石鏃	827	2	32T	Ⅴ上	CC1	4.05	2.15	0.65	5.43	
	521	打製石鏃	886	2	G－7	Ⅴ	OB6	2.2	1.9	0.3	1.26	
	522	打製石鏃	341	2	K－17	Ⅵ	OB2	2.5	2.4	0.7	3.76	
	523	磨製石斧	4684	2	K－12	Ⅴ	HF	14.9	6.5	2.1	235.11	
	524	磨製石斧	402	2	K－17	Ⅵ	HF	7.75	3.35	1.7	67.66	
	525	磨製石斧	305	2	K－20	Ⅵ	HF	7.4	7	1.4	79.93	
	526	二次加工剥片	353	2	K－17	Ⅵ	HF	4.9	6.3	1	39.4	
	527	礫器	5046	2	K－10	Ⅵ	AN3	7.95	9	1.35	133.1	

3エリア

545はホルンフェルス製の局部磨製石斧である。両側縁を交互剥離により整形し，表面の一部と裏面の刃部付近を研磨してある。刃部はやや片刃であり，刃縁には使用による剥離痕がみられる。546，547は花崗岩製の磨石である。546は表裏に磨面がみられ側縁周部に敲打痕が観察される。547は表裏面のほぼ中心部分に敲打痕がみられる。548，549は砂岩製の磨石である。表裏面にすり面がみられる。548は表裏面のほぼ中心部分にも敲打痕がみられる。549は表面がよく使い込まれている。550は砂岩製の敲石である。表裏面に敲打痕がみられる。551，552は砂岩製の磨石である。表裏面に磨面がみられる。553は輝石安山岩製で磨石である。

4エリア

554～556は抉りが浅い石鏃の一群である。554は安山岩製で形態は正三角形である。裏面に主要剥離面を残す。555は黒曜石Ⅶ類製で両側縁がやや内弯する。556は頁岩製で両側縁がやや外反する。557～567は抉りの深い石鏃の一群である。557は黒曜石Ⅵ類製で，裏面に主要剥離面を残す。558，559は黒曜石Ⅵ類製で，鋸歯状の加工が施されている。また三角形の抉りが施されている。560，561は両側縁がやや内弯する。それぞれ黒曜石Ⅱ類製，チャート製である。562はチャート製で，先端が若干細くなる。563はチャート製で，両側縁がやや内弯する。564～567は両側縁が直線的である。それぞれチャート製，ホルンフェルス製，安山岩製である。568は安山岩製のドリルである。表裏面とも主要剥離面を残す。569～576は石鏃の未製品である。569～572はチャート製である。573はホルンフェルス製，574～576は安山岩製である。

577，578は砂岩製の磨石である。表裏面ともよく磨られている。579は砂岩製の敲石である。表裏面に敲打痕があり，裏面の一部が破損している。580は砂岩製の磨石である。表面がよく磨られている。581は花崗岩製の敲石である。表裏面とも敲打痕がある。上部が一部破損している。582，583は砂岩製の砥石である。582は表裏面とも使用された痕跡が認められる。583は表面のみ使用されている。裏面は節理面である。584，585は台石である。584が花崗岩製であり，585は凝灰岩製である。

使用石材について

ＯＢ１：不純物を多く含み，漆黒で全く光を通さないもの。上牛鼻産，平木場産の黒曜石に類似する。

ＯＢ２：不純物を多く含み，光を通すもの。三船産か目東，五女木，長谷産の黒曜石に類似する。

ＯＢ３：不純物を含まないか，わずかに含むもので，アメ色～黒色を呈し，透明度が高い。桑ノ木津留産の黒曜石に類似する。

ＯＢ４：不純物をほとんど含まず，黒色を呈する。腰岳産の黒曜石に類似する。

ＯＢ６：不純物をほとんど含まず，青灰色を呈する。淀姫産の黒曜石に類似する。

ＯＢ８：微細な不純物を含むもので，乳白色を呈するものである。姫島産の黒曜石に類似する。

ＳＨ１：珪質分に非常に富み，油脂光沢のある頁岩。

ＳＨ２：珪質分にはやや富むが油脂光沢があまりない頁岩。

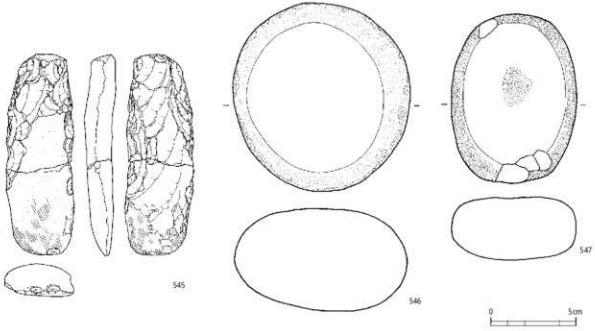
ＳＨ３：珪質分がほとんどなく無光沢で節理は発達せず緻密で良質のもの。いわゆる硬質頁岩。

ＨＦ　：粒子が比較的細かく緻密なホルンフェルス。

ＡＮ１：石英質の不純物を含み，基質はやや滑らかでガラス質に富む質感を呈し，黒灰色を呈する安山岩。

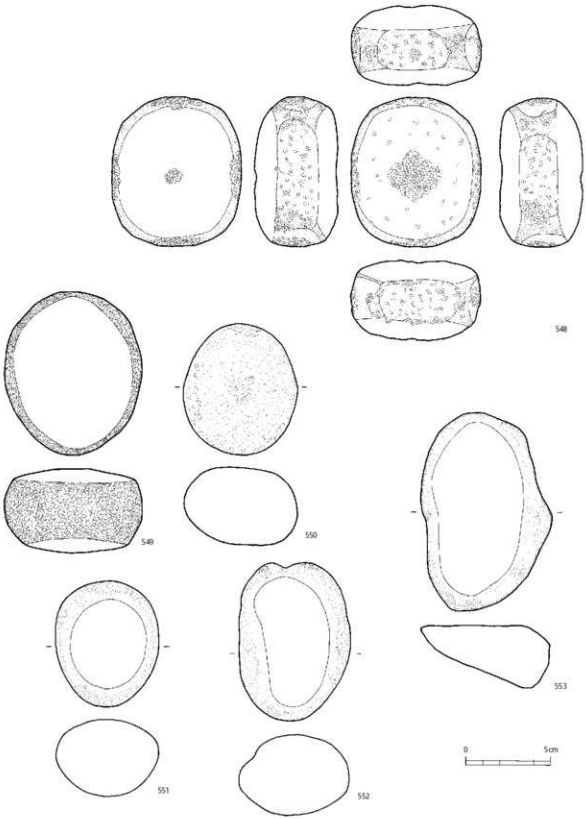
ＡＮ２：不純物をわずかに含み，基質はややざらついた質感で黒灰色を呈する安山岩。

ＡＮ３：輝石安山岩。



第116図　3エリア出土石器実測図(1)

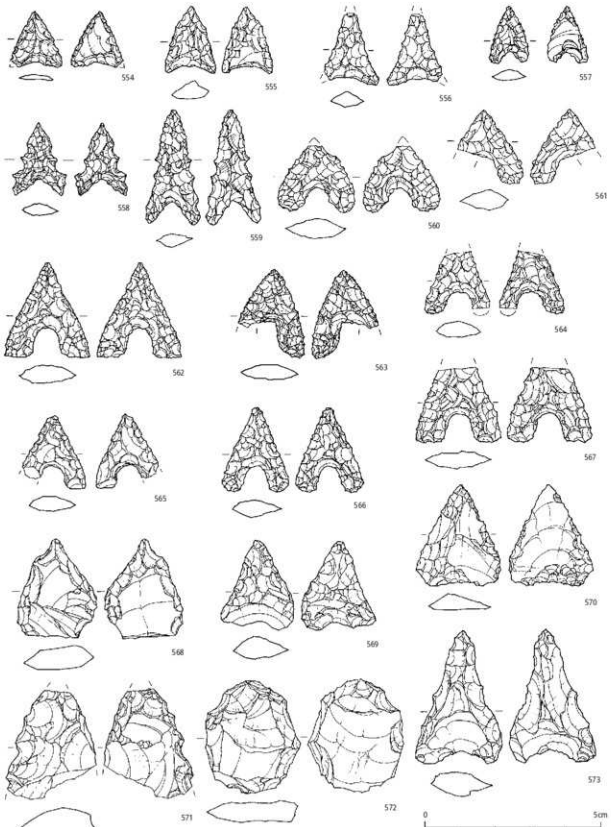
ＣＨ１：珪質分に非常に富み，節理がほとんど発達しないチャート。
ＣＨ２：珪質分に富み，やや節理が発達するチャート。
ＣＨ３：珪質分にやや乏しく，節理がやや発達するチャート。
ＣＣ１：基調が比較的珪質分に富み，白色系の色調を基調とする玉随。
ＳＡ　：砂岩。
ＦＡ　：凝灰岩。
ＧＲ　：花崗岩。



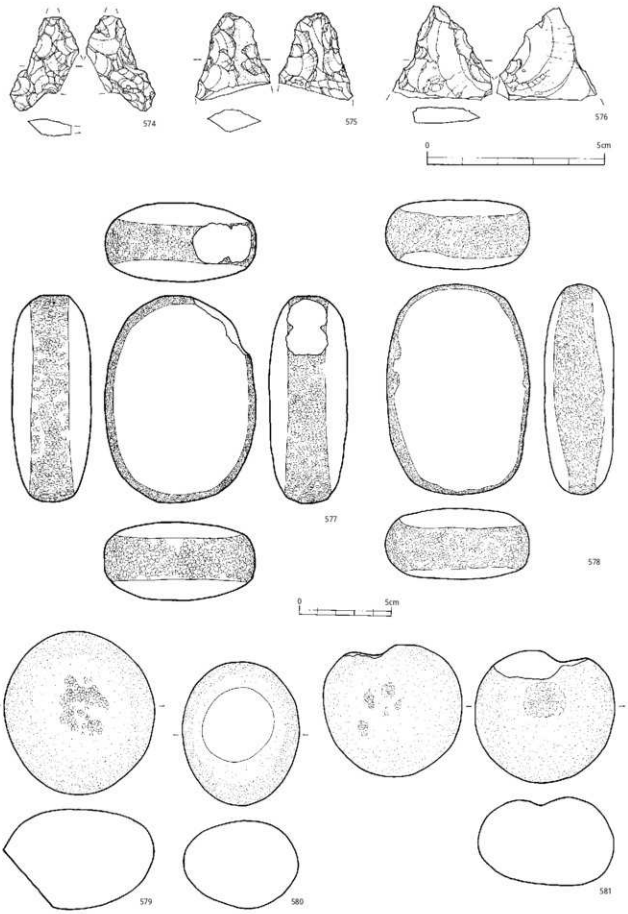
第117図　３エリア出土石器実測図2)

第35表　縄文時代早期石器観察表（4）

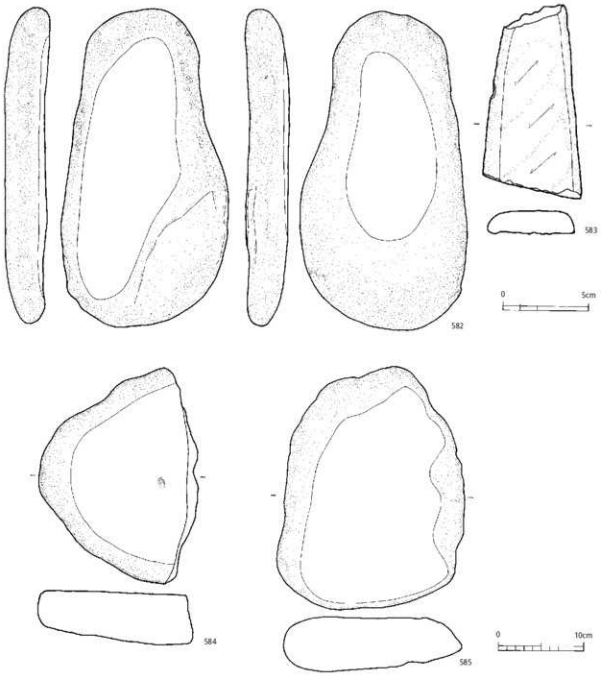
挿図番号	図番号	器　種	取上番号	エリア	出土区	層位	石材	長　さ（cm）	幅（cm）	厚　さ（cm）	重　さ（g）	備　考
113	528	削器	675	2	J－20	Ⅵ	A N3	7.7	5.05	0.8	44.67	
	529	磨石	4250	2	K－11	Ⅴ	A N3	7.6	6.2	3.2	215	
	530	敲石	5040	2	K－10	Ⅵ	S A	13.8	7.5	5	805	
	531	磨石	5428	2	J－10	Ⅴ	S A	10.3	9.8	5	720	
	532	敲石	622	2	I－17	Ⅵ	S A	7.8	7	5	332	
	533	磨石	415	2	K－17	Ⅴ	S A	12.8	10	6.4	116	
	534	磨石	1225	2	I－14	Ⅴ	S A	9.5	8.3	4.5	495	
114	535	砥石	3822	2	K－13	Ⅴ	S A	6.3	5.9	1	40	
	536	砥石	2511	2	J－6	Ⅵ	S A	8.3	7	1.6	152	
	537	砥石	4704	2	K－13	Ⅵ	S A	11.6	6.2	2.5	250	
	538	砥石	287	2	K－19	Ⅴ	S A	5.8	6.6	1.1	55	
	539	砥石	3247	2	K－15	Ⅴ	S A	11	4.4	2.3	190	
	540	砥石	2575	2	I－14	Ⅵ	S A	11.8	4	3.1	230	
	541	砥石	3905	2	K－15	Ⅴ	S A	8.4	8.3	1.2	132	
	542	砥石	4222	2	K－11	Ⅴ	S A	10.7	10	1.2	198	
115	543	敲石	4553	2	K－14	Ⅴ	S A	13.3	2	1.4	68	
	544	台石	2509	2	J－6	Ⅵ	S A	18.5	16.9	4.3	2110	
116	545	局部磨製石斧	1254	3	6T	Ⅴ	H F	11.7	4	1.95	106.94	
	546	磨石	118	3	H－23	Ⅴ	G R	11	10.3	6	1000	
	547	磨石	1351	3	26T	Ⅴ	G R	9.8	7.3	3.6	450	
117	548	磨石	117	3	I－23	Ⅴ	S A	8.8	7.6	4.6	510	
	549	磨石	1264	3	26T	Ⅴ	S A	9.6	8.1	5	510	
	550	敲石	1337	3	26T	Ⅴ	S A	7.7	6.7	4.5	290	
	551	磨石	30	3	J－22	Ⅴ	S A	7.4	6.1	4.5	278	
	552	磨石	1342	3	26T	Ⅴ	S A	9.3	6.5	4.8	388	
	553	磨石	1272	3	26T	Ⅴ	A N3	11.7	7.8	4.8	394	
118	554	打製石鏃	567	4	D－12	Ⅵ	A N2	1.6	1.5	0.2	0.48	
	555	打製石鏃	2080	4	G－13	Ⅴ	O B8	1.9	1.45	0.5	0.85	
	556	打製石鏃	1162	4	F－14	Ⅴ	S H3	2.05	1.55	0.4	0.91	
	557	打製石鏃	2092	4	G－14	Ⅴ	O B6	1.6	1.15	0.3	0.38	
	558	打製石鏃	2084	4	G－13	Ⅴ	O B6	2.1	1.5	0.3	0.68	
	559	打製石鏃	116	4	F－14	Ⅴ	O B6	3.25	1.55	0.4	1.34	
	560	打製石鏃	684	4	D－13	Ⅴ	O B2	1.9	2.2	0.55	1.54	
	561	打製石鏃	667	4	D－12	Ⅴ	C H1	2.1	1.85	0.55	1.14	
	562	打製石鏃	95	4	F－11	Ⅴ	C H1	2.7	2.4	0.55	1.92	
	563	打製石鏃	273	4	E－13	Ⅵ上	C H2	2.5	1.9	0.4	1.34	
	564	打製石鏃	1455	4	D－13	Ⅵ	C H2	1.85	1.9	0.4	1.3	
	565	打製石鏃	1065	4	D－13	Ⅵ	H F	2.1	1.8	0.45	1.19	
	566	打製石鏃	1510	4	D－13	Ⅵ	A N2	2.4	1.9	0.5	1.47	
	567	打製石鏃	394	4	F－13	Ⅵ	A N2	2.2	2.4	0.5	1.95	
	568	ドリル	630	4	C－9	Ⅴ	A N2	2.85	2.25	0.6	4.05	
	569	打製石鏃	267	4	E－14	Ⅵ上	C H2	2.55	2.1	0.65	2.43	
	570	打製石鏃	1043	4	D－13	Ⅵ	C H2	2.9	2.4	0.45	3.3	
	571	打製石鏃	653	4	B－11	Ⅴ下	C H2	3.2	2.6	0.8	5.92	
	572	打製石鏃	272	4	E－13	Ⅵ	C H2	3.25	2.7	0.6	7.7	
	573	打製石鏃	1158	4	E－14	Ⅴ	H F	3.8	2.5	0.7	5.26	
119	574	打製石鏃	195	4	E－12	Ⅴ	A N1	2.7	1.95	0.5	1.85	
	575	打製石鏃	128	4	E－14	Ⅴ	A N1	2.45	2.1	0.65	2.65	
	576	打製石鏃	84	4	F－12	Ⅴ	A N1	2.6	2.8	0.5	3.79	
	577	磨石	278	4	E－13	Ⅵ	S A	11.2	8.2	4.3	570	
	578	磨石	478	4	E－13	Ⅵ	S A	11.4	7.7	3.8	532	
	579	敲石	460	4	24T	Ⅵ上	S A	8.8	8.1	5.4	500	
	580	磨石	1477	4	B－12	Ⅵ上	S A	7.8	6.4	4.8	310	
	581	敲石	435	4	E－12	Ⅵ	G R	7.1	7.5	4.8	350	
120	582	砥石	445	4	E－12	Ⅵ	S A	18.7	9.7	2.5	648	
	583	砥石	1377	4	D－13	Ⅵ	S A	11.3	5.8	1.4	140	
	584	台石	1495	4	E－14	Ⅵ	G R	25.2	18.1	6.2	3490	
	585	台石	一括	4	－	Ⅴ	F A	27.9	17.8	6.5	3300	



第118図　4エリア出土石器実測図(1)



第119図　4エリア出土石器実測図②



第120図　4エリア・その他出土石器実測図

第36表　縄文時代早期石器　器種別出土数

層　位	打製石鏃	磨　石	砥石	敲石	ドリル	削器	台石	磨製石斧	局部磨製石斧	二次加工剥片	礫器	総計
Ⅴ	85	23	16	2	2	1	1	1	1	0	0	132
Ⅵ	45	15	8	4	1	3	2	2	0	1	1	82
合　計	130	38	24	6	3	4	3	3	1	1	1	214
器種別(%)	60.8	17.8	11.2	2.9	1.4	1.9	1.4	1.4	0.4	0.4	0.4	100

第37表　縄文時代早期石器石材別出土数

石　材	CH2	CH1	CH3	OB6	OB3	CC1	AN1	AN2	SH2	SH1	SA	OB2	OB1	SH3	HF	AN3	CR	OB8	GR	OB4	FA	合計
出土数	1617	431	358	171	139	128	92	69	66	29	27	23	21	14	13	5	5	5	4	4	1	3222

第４章　縄文時代後期・晩期の調査

第１節　概要

縄文時代後期に該当する層はⅢｂ層（御池軽石層）の上のⅢａ層である。Ａ～Ｊ区，１～７区の範囲に遺物が多く出土する。遺構は１基検出された。遺物は土器，打製石鏃，ドリル，打製石斧，磨石等が出土している。

第２節　遺構

集石が１基検出された。

１号集石

礫数12，全て安山岩である。傾斜地のためかまとまりには欠ける。掘り込み，炭化物等もみられない。周辺には他の遺構・遺物の出土はない。

第３節　遺物

１　土器

586～595は縄文時代後期の土器である。

586～588は口縁部に凹線を施すか，もしくは凹点を巡らす一群である。586は口縁部がやや内弯する深鉢である。外面は条痕による調整がなされている。口唇部は中央部が少し窪む。587の外面は条痕による調整後，口縁部付近はナデによる仕上げがなされている。口唇部前面に刻目が施されている。588は口縁部がわずかに内弯する深鉢である。外面は条痕による調整がなされている。

589～591は口縁部外面に凹線を施す一群である。内外面とも条痕による調整がなされている。589，590は口唇部前面にヘラ状施文具による刻目が施されている。591は口唇部上面に刻目が施される。

592～594は胴部がはり頸部がわずかにしまり，口縁部で外反する深鉢である。外面に沈線が施される。内外面にナデ調整がなされている。592，593は同一個体の可能性が考えられる。592は口唇部上面の一部に棒状工具で押圧した凹点文が施される。595は底部である。上げ底で，接地面の平坦面は約５㎝である。胎土に雲母が混ざる。

596～598は縄文時代晩期の土器である。596は口縁部外面を肥厚させ，突帯状に張り出している。597は外面に組織痕のみられる鉢である。598は外面に編布痕がみられる鉢である。

２　石器

599～607は石鏃及びその未製品である。599は安山岩製で，表裏とも主要剥離面を残している。抉りは浅い。600は安山岩製で，先端部と脚部が破損している。裏面は主要剥離面を残している。601はチャート製で脚部の内側にも丁寧な押圧剥離が施され，逆Ｕ字型の抉りが作出されている。602～605は石鏃の未製品である。602，603がチャート製，604，605が頁岩製である。606はチャート製で，周縁に丁寧な押圧剥離が施されている。両側縁はやや内弯する。607はチャート製で主要剥離面を残している。608は安山岩製のドリルである。表面に自然面，裏面に主要剥離面を残す。609はホルンフェルス製の打製石斧である。609は両側面に交互剥離痕が見られる。上部と下部が破損している。610はホルンフェルス製の磨製石斧である。両側面が特に研磨されている。刃部は使用により剥離している。611は砂岩製の磨石である。表裏面に磨面がみられる。

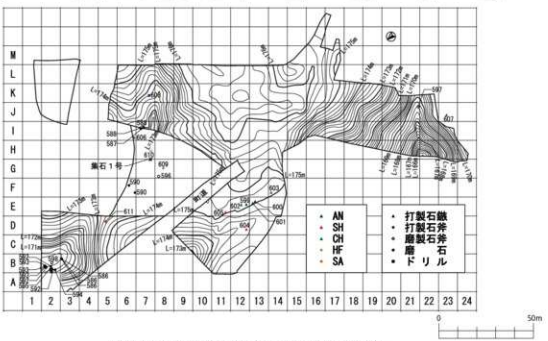
第121図　縄文時代後期集石実測図

第38表　縄文時代後期・晩期土器観察表

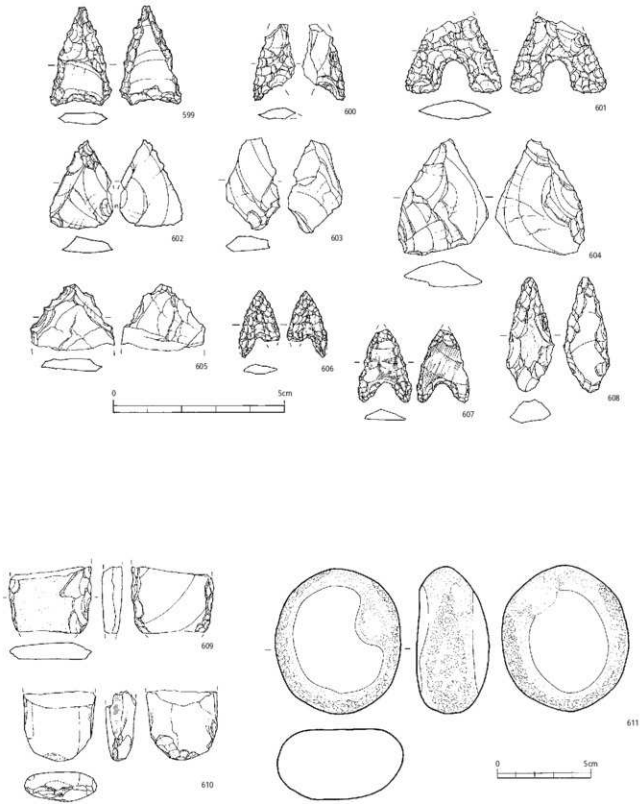
挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	文様・調整		胎土					焼成	色調	
					外面	内面	角閃石	雲母	石英	長石	砂粒		外面	内面
122	586	472	B－3	Ⅳ	条痕	ナデ	○	○		○	○	普通	黒褐色	赤褐色
		473	B－3	Ⅳ										
		474	B－3	Ⅳ										
	587	908	J－7	Ⅲb	ナデ	ナデ	○	○		○	○	普通	褐色	明赤褐色
	588	911	J－7	Ⅲa	条痕	ナデ	○			○	○	普通	黒褐色	明赤褐色
		909	J－7	Ⅲb										
	589	－	11T	－	条痕	条痕	○			○	○	普通	橙色	橙色
	590	456	F－7	Ⅲa	条痕	条痕	○			○	○	普通	黒褐色	赤褐色
		459	F－7	Ⅲa										
	591	－	2T	－	条痕	条痕	○			○	○	普通	赤褐色	赤褐色
	592	139	B－2	Ⅲa	ナデ	ナデ	○	○		○	○	普通	明褐色	橙色
		140	B－2	Ⅲa										
		141	B－2	Ⅲa										
		144	B－2	Ⅲa										
		148	B－2	Ⅲa										
	593	145	B－2	Ⅲa	ナデ	ナデ	○	○		○	○	普通	橙色	橙色
		146	B－2	Ⅲa										
		147	B－2	Ⅲa										
	594	136	B－2	Ⅲa	ナデ	ナデ	○	○		○	○	普通	明褐色	橙色
	595	142	B－2	Ⅲa	ナデ	ナデ	○	○		○	○	普通	橙色	橙色
	596	378	G－8	Ⅲa	丁寧なナデ	丁寧なナデ	○			○	○	良	黒褐色	黒褐色
	597	75	D－3	Ⅲa	ナデ・組織痕	ナデ	○			○	○	普通	明黄褐色	にぶい黄橙色
	598	309	D－4	Ⅲa	組織痕	ナデ	○			○	○	普通	明黄褐色	にぶい黄褐色

第39表　縄文時代後期・晩期石器観察表

挿図番号	図番号	器種	取上番号	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
124	599	打製石鏃	193	E－12	Ⅳ	AN3	2.9	1.8	0.35	1.92	
	600	打製石鏃	176	E－13	Ⅳ	AN2	2.3	1.2	0.3	0.78	
	601	打製石鏃	181	E－13	Ⅳ	CH3	2.3	2.85	0.55	2.55	
	602	打製石鏃	197	E－12	Ⅳ	CH2	2.6	1.85	0.5	1.82	
	603	打製石鏃	141	E－14	Ⅳ	CH3	2.7	1.6	0.45	1.67	
	604	打製石鏃	538	D－12	Ⅳ	SH5	3.4	2.6	0.7	4.61	
	605	打製石鏃	249	D－11	Ⅳ	SH5	2	2.5	0.35	1.91	
	606	打製石鏃	331	G－7	Ⅲa	CH2	1.95	1.15	0.3	0.46	
	607	打製石鏃	1277	26T	Ⅲb	CH2	2.15	1.55	0.3	0.73	
	608	ドリル	955	J－7	Ⅲa	AN2	3.4	1.35	0.65	3.05	
	609	打製石斧	324	F－8	Ⅲa	HF	3.55	4.35	0.9	25.87	
	610	磨製石斧	160	G－7	Ⅲa	HF	3.75	3.85	1.6	30.11	
	611	磨石	168	D－5	Ⅳa	SA	7.7	6.7	3.8	270	



第123図　縄文時代後期土器・晩期土器・石器出土状況図



第124図　縄文時代後期・晩期出土石器実測図

第５章　弥生時代・古代の調査

第１節　概要

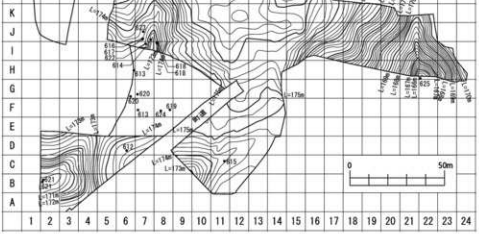
弥生時代に該当する層はⅡｂ層からⅢａ層である。遺構は検出されず，土器のみが出土した。古代はⅡ層の黒色土層から土器が１点出土した。

第２節　土器

基本的に包含層からの出土である。ここでは，出土遺物の中で14点を図化した。612～620，623は弥生時代前期の土器である。この中で，612～620は甕形土器，623は壺形土器，624は高坏である。612～616は口縁部および胴部に断面三角形を呈する刻目突帯を巡らすものである。この中で，612～614は胴部に口縁部よりもやや低めの断面三角形を呈する刻目突帯を巡らす。また，617も口縁部に断面三角形を呈する突帯を巡らすものであるが，刻目は施されていない。618～620は胴部に二条の突帯を巡らす比較的大きな甕である。618，619は突帯上に刻目を巡らすものである。620は，口縁部付近にも少なくとも一条の突帯を有するもので，胴部外面に縦位もしくは弧状に３～４列の竹管文が施される。この竹管文は弧文の変形したものの可能性がある。621，622は，弥生時代中期（入来Ⅱ式もしくは北篤式）の壺形土器（広口壺）の口縁部である。621は口唇部が肥厚するもので，口唇部に二条の太く浅い沈線が巡る。魚見ヶ原遺跡（鹿児島市）で類似した資料が出土している。622は，大きく口縁が外反するものである。624は，高坏の脚部で，脚部が大きく外反する。625は，古代の土師器の甕である。

第40表　弥生時代・古代土器観察表

挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	文様・調整		胎土					焼成	色調	
					外面	内面	角閃石	雲母	石英	長石	砂粒		外面	内面
126	612	436	Ｄ－６	Ⅵ	ヘラナデ	ヘラナデ	○			○	○	良	明黄褐色	灰黄褐色
	613	458	Ｊ－８	Ⅲａ	ヘラナデ	ヘラナデ	○			○	○	良	暗褐色	にぶい黄褐色
		163	Ｊ－８	Ⅲａ										
	614	958	Ｆ－８	Ⅲａ	ヘラナデ	ヘラナデ	○			○	○	良	暗褐色	にぶい黄褐色
	615	476	Ｆ－８	Ⅲａ	ヘラナデ	ヘラナデ	○	○		○	○	良	暗褐色	明黄褐色
	616	923	ミゾ３	Ⅱｂ	ヘラナデ	ヘラナデ	○			○	○	良	橙色	橙色
	617	921	Ｂ－２	Ⅱｂ		ヘラナデ	○			○	○	良	橙色	橙色
	618	986	Ｊ－７	Ⅱｂ	ヘラナデ	ヘラナデ	○		○	○	○	良	明黄褐色	明黄褐色
		991	Ｊ－７	Ⅱｂ										
	619	326	Ｇ－８	Ⅲａ	ヘラナデ	ヘラナデ	○			○	○	良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色
	620	162	Ｄ－４	Ⅲａ	ヘラナデ	ヘラナデ	○			○	○	良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色
		332	Ｄ－４	Ⅲａ										
	621	152	Ｄ－３	Ⅲａ	ナデ	ナデ	○			○	○	良	褐色	褐色
		154	Ｄ－３	Ⅲａ										
	622	967	Ｂ－３	Ⅳ	ナデ		○			○	○	良	橙色	橙色
	623	933	Ｊ－７	Ⅲｂ	ヘラナデ	ヘラナデ	○			○	○	普通	黄橙色	黄橙色
	624	321	Ｊ－７	Ⅲａ-Ⅲｂ	ナデ	ナデ	○			○	○	普通	黒褐色	橙色
	625	532	Ｂ－２	Ⅲａ	ナデ	ナデ	○			○	○	良	橙色	橙色



第125図　弥生時代・古代土器出土状況図

第６章　小結

縄文時代

１　縄文時代早期土器

Ⅰ類土器は，前平式土器である。口縁部外面の刺突文は施文具がヘラ状とし，貝殻腹縁の２種類がある。76は口縁部上端に粘土を貼り付け，部分的な突起を呈するが，角筒土器の初源形態につながる可能性も考えられる。

Ⅱ類土器は，加栗山式土器である。Ⅱａ類土器は器形が円筒形を呈するもので，Ⅱｂ類土器は器形が角筒形を呈するものである。144，148は撫孔を有する底部である。加栗山式土器の底部にみられ，霧島市上野原遺跡，日置市永迫平遺跡等で類例が出土している。Ⅱｃ類土器は文様構成及び調整は加栗山式土器であるが，胴部に縦位の貝殻刺突文がなく，二重施文が行われないものである。宮崎県田野町の札ノ元遺跡において Ⅶ類とされた土器に類似している。この土器は大隅半島から宮崎にかけて出土する傾向があり，県内では曽於市財部町の高篠坂遺跡，曽於市大隅町の宮田遺跡等で類例が出土している。175は内面がマーブル状を呈しており，色調の異なる複数の粘土素材を混ぜて土器を製作したと考えられる。Ⅱ類土器全般に言えることであるが，クサビ形貼付文がルーズに貼付けられていたり，口縁部上端に斜位の貝殻刺突文が施されているものがあり，薩摩半島とは異なる様相が伺われる。

Ⅲ類土器は，吉田式土器である。口縁部が外反し，胴部には，貝殻押引文が施される。間隔が密接な貝殻刺突文についてもここに類別した。

Ⅳ類土器は，石坂式土器である。胴部に綾杉条痕を施すものである。Ⅳａ類土器は口縁部が外反するもので，Ⅳｂ類土器は口縁部が直行するものである。Ⅳａ類土器が24点，Ⅳｂ類土器が55点出土している。口縁部が直行する土器がより多く出土している。Ⅳｃ類土器は胴部の綾杉条痕文の上に貝殻刺突文を重ねるものである。Ⅳｄ類土器は，Ⅳ類土器の胴部片であり，Ⅳｅ類土器はⅣ類土器の底部片である。351は底部外面に木の葉痕がみられるが南大隅町の大中原遺跡で出土した桑ノ丸式土器の底部にも同様の木の葉痕がみられる。

Ⅴ類土器は，下剥峯式土器である。特徴としては胎土に白粒が多く混在する。

Ⅵ類土器は，辻タイプと呼ばれるものである。

Ⅶ類土器は，桑ノ丸式土器である。

Ⅷ類土器は，中原式土器に類似するものと中原式土器を一括した。368～373は，中原式土器に類似する土器である。374，375は中原式土器である。県内各地で出土しており，石坂式土器と共に出土する例が多い。

Ⅸ類土器は押型文土器である。器外面に楕円押型文を施すものと山形押型文を施すものがある。379はいわゆる円筒形を呈する押型文土器のグループに入る。日置市市ノ原遺跡５地点や旧溝辺町の石峰遺跡などで類似した土器が出土している。

Ⅹ類土器は平栫式土器である。口縁部が外反し，沈線等が施されるものである。

ⅩⅠ類土器は塞ノ神式土器である。口縁部がラッパ状を呈し，外面に撚糸文や貝殻文が施される。386～399は塞ノ神Ａａ式土器，400～404は塞ノ神Ａｂ式土器，405～406は塞ノ神Ｂｄ式土器である。

ⅩⅡ類土器は撚糸文系土器である。外面に撚糸文を施すものである。

ⅩⅢ類土器は上記以外の縄文時代早期土器を一括した。

石器分布から導き出したエリアに土器の出土状況を重ねると以下の通りになる。１エリアではⅠ，Ⅱｃ，Ⅲ，Ⅳｂ，ⅩⅠ，ⅩⅡ，ⅩⅢｂ類土器が出土している。早期前葉のⅡｃ類土器，早期後葉のⅩⅠ類土器がより多く出土している。２エリアではⅠ類土器からⅩⅢｂ類土器のすべての種類の土器が出土している。早期前葉のⅡａ，Ⅱｂ類土器，Ⅲ類土器，Ⅳ類土器がより多く出土しており，その中でもⅣｂ類土器の出土数が多い。Ⅱａ，Ⅱｂ，Ⅲ類土器が台地の縁辺部に分布し，Ⅳ類土器が台地の平坦部に分布する傾向にある。３エリアではⅡａ，Ⅱｂ，Ⅱｃ，Ⅴ，ⅩⅠ～ⅩⅢｂ類土器が出土している。早期前葉のⅡ類土器，早期後葉のⅩⅠ類土器がより多く出土している。４エリアではⅡａ，Ⅱｂ，Ⅱｃ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅷ，ⅩⅠ，ⅩⅡ類土器が出土している。早期前葉のⅣ類土器と早期後葉のⅩⅠ類土器がより多く出土している。

２　縄文時代早期石器

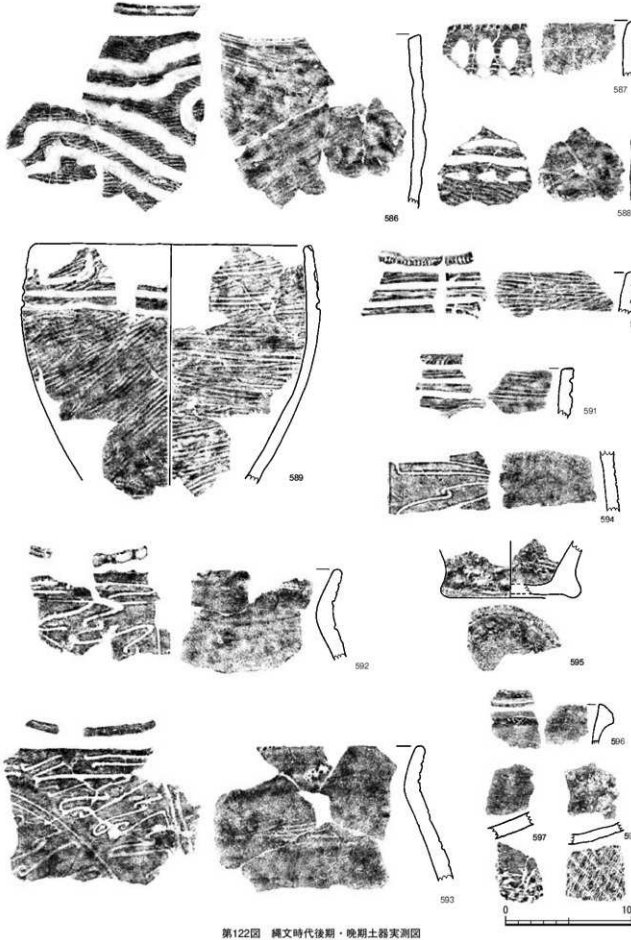
使用目的別の比率をみると狩猟具（打製石鏃）は60.8％，調理具（磨石，台石，敲石）は22.1％，工具（砥石，ドリル，削器，石斧類，二次加工剥片，礫器）は17.1％である。狩猟具の割合が特に高い。Ⅳ類土器を含めた南九州貝殻文系の石器組成についてはいまだ不明な点も多い。この中にあって，上記のような傾向がつかめた点は，該期の石器組成を論じていく上で重要となるであろう。また，各エリアに，重量があり抉りのない石鏃が出土している。今回は石鏃として報告を行ったが，未製品の可能性の他に，尖頭状石器の範疇で捉えられる可能性も考えられる。また，568に関しては，摩滅は明瞭ではないがドリルとして報告した。また，512，513をドリルとして報告したが，568とは形状的に異なるので，ドリルとは異なる範疇で捉えられる可能性もある。

３　縄文時代後期・晩期土器

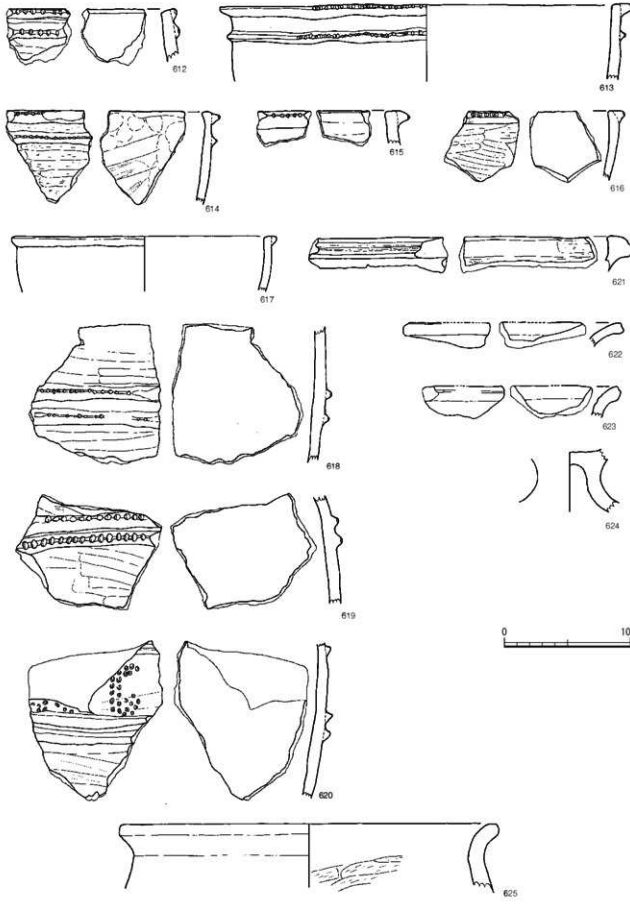
586～588は阿高式系の土器である。586は宮ノ前タイプと呼ばれるものである。589～591は岩崎上層式土器である。592～594は指宿式土器である。595の土器底部の形式名は不明である。596は中岳Ⅱ式土器である。597，598は縄文時代晩期の組織痕文土器である。

４　縄文時代後期・晩期石器

使用目的別の比率では，狩猟具（打製石鏃）は69.3％，調理具（磨石）は7.7％，工具（ドリル，石斧類）は23％である。狩猟具の割合が特に高い。



第122図　縄文時代後期・晩期土器実測図



第126図　弥生時代・古代土器実測図

Ⅵ　松ヶ尾遺跡

第１章　調査の概要

調査区域は，東北側の丘陵からのびる馬の背状の舌状台地上に立地する。地形の改変を著しく受けており，現在は区画整理等によって階段状に整地されているが，本来は傾斜地でさらに現状以上にヤスデ状に入り組む地形であったと考えられる。

本調査は，一辺10mの調査グリッドを設定して実施した。掘り下げは，確認調査の結果を基に，表土を重機で除去したのち，Ⅱ～Ⅲａ層・Ⅳ～Ⅴ層は山鍬・ねじり鎌などを使い人力で掘り下げた。

Ⅱ層・Ⅲａ層上部からは古代の土師器が出土している。Ⅲａ層中位以下からは縄文時代晩期の土坑，溝状遺構が検出され，土器・石器が出土している。Ⅳ層からは縄文時代早期後半の集石が検出され，土器・石器が出土している。Ⅴ層からは，縄文時代早期前半の土器・石器が出土している。

なお，Ⅳ層上面において２×３間の総柱の掘立柱建物跡が発見されている。

第２章　縄文時代早期の調査

第１節　概要

Ⅳ層では，縄文時代早期前葉～後葉の遺構・遺物が発見された。遺構は集石が５基発見された。これらの集石は礫が密集した状態のものがほとんどである。遺物は石坂式土器・塞ノ神式土器，石鏃，磨石などが出土した。

石坂式土器はⅣ層下部とⅤ層との漸位層から多く出土している。

Ⅴ層では，縄文時代早期前葉の遺構・遺物が発見された。遺構は，集石４基を検出し，遺物は前平式土器などが出土した。

第２節　遺構

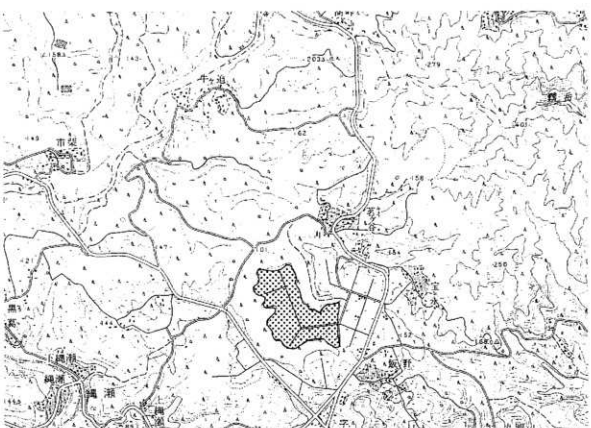
遺構はⅣ層で集石が５基，Ⅴ層で集石が４基検出された。いずれの土器に伴うのか判断できないため縄文時代早期集石として一括して扱う。

１号集石

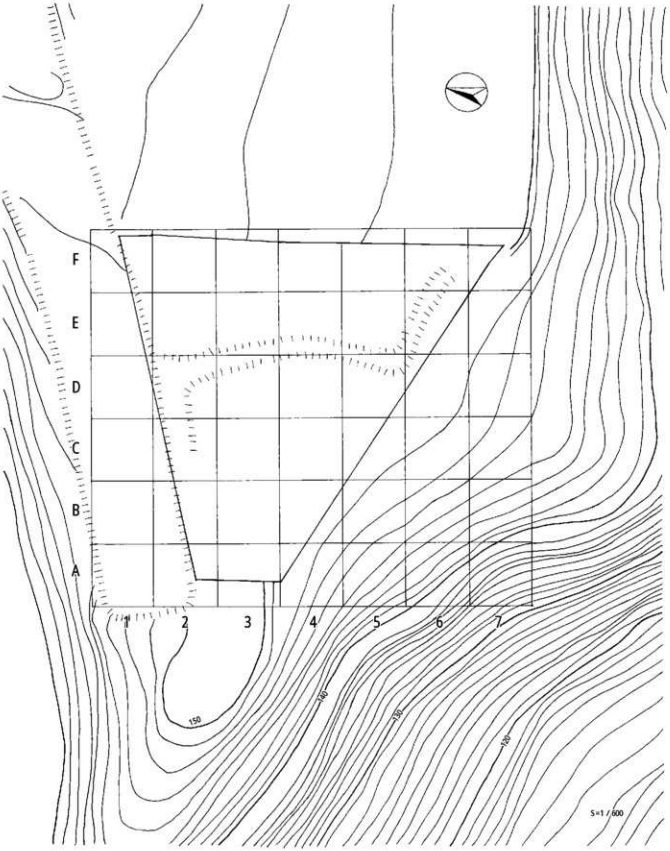
Ｂ－２区で検出した。径228cm×170cmの範囲に24個の礫を確認した。全て砂岩で約90％が被熱している。中心部は想定できるが，礫は散在している。

２号集石

Ｅ－２区で検出した。径168cm×145cmの範囲に58個の礫を確認した。ほとんどが砂岩で凝灰岩が１点混在する。下部の礫は被熱しているものが多いが，上部の礫はあまり被熱していない。掘り込みは認められなかった。



第127図　松ヶ尾遺跡周辺地形図



第128図　松ヶ尾遺跡グリッド配置図

3号集石

D－5・6区で検出した。径140cm×119cmの範囲に47個の礫を確認した。すべて砂岩である。また，すべて被熱している。

4号集石

D－5区で検出した。径117cm×109cmの範囲に40個の礫を確認した。すべて砂岩である。また，すべて被熱している。石皿が混入している。

5号集石

F－2・3区で検出した。径335cm×177cmの範囲に207個の礫を確認した。すべて砂岩である。また，すべて被熱している。径88cm×80cm，深さ約15cmの掘り込み遺構を確認した。そのそばに米粒大の炭化物が集中する箇所がある。

6号集石

E－4区で検出した。径105cm×92cmの範囲に15個の礫を確認した。すべて砂岩である。また，ほとんどが被熱している。

7号集石

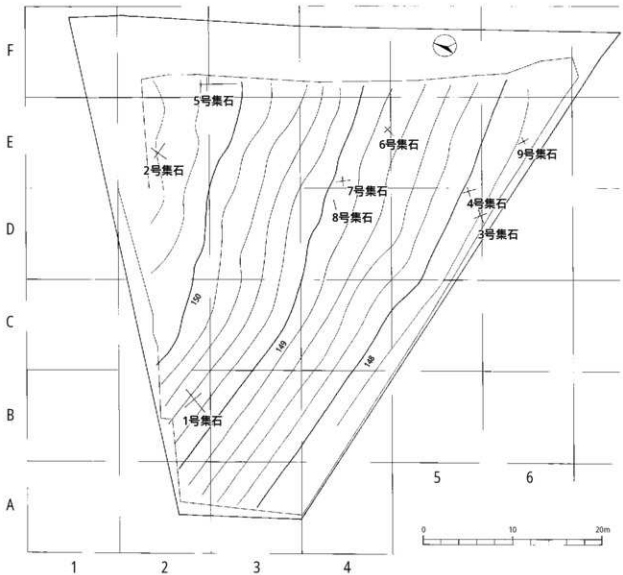
E－4区で検出した。径87cm×70cmの範囲に24個の礫を確認した。すべて砂岩である。平面観察によると中央部の礫を中心に，礫を敷きつめた様子が伺える。

8号集石

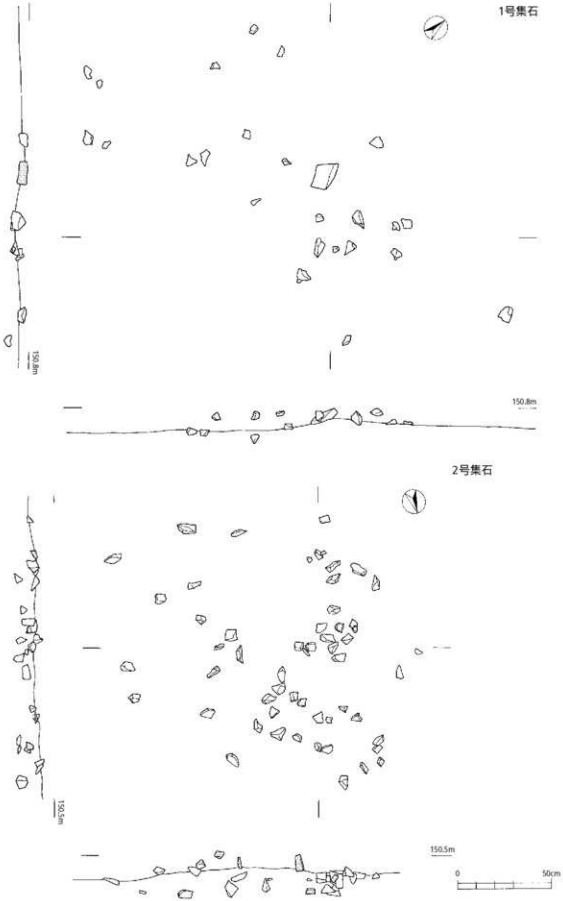
D－4区で検出した。径83cm×75cmの範囲に16個の礫を確認した。すべて砂岩で被熱している。破砕している礫が多い。

9号集石

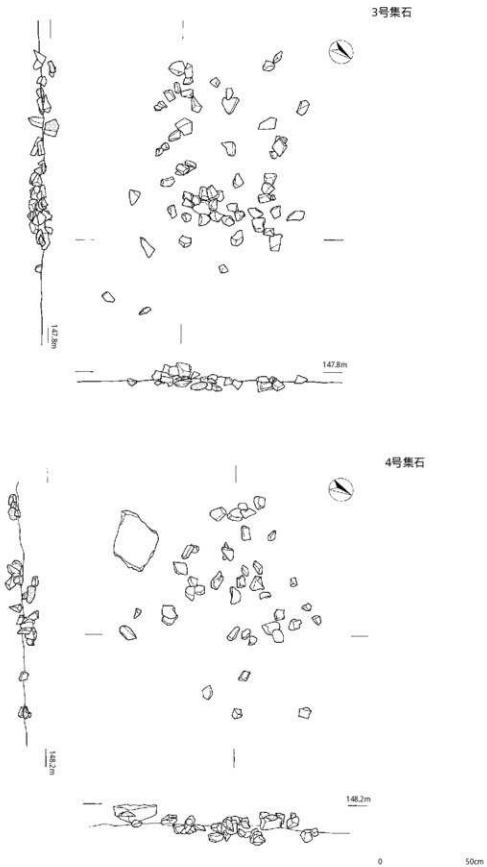
E－6区で検出した。径118cm×46cmの範囲に22個の礫を確認した。すべて砂岩で被熱している。断面観察によると掘り込みがあった可能性が高い。



第129図　松ヶ尾遺跡縄文時代早期集石位置図

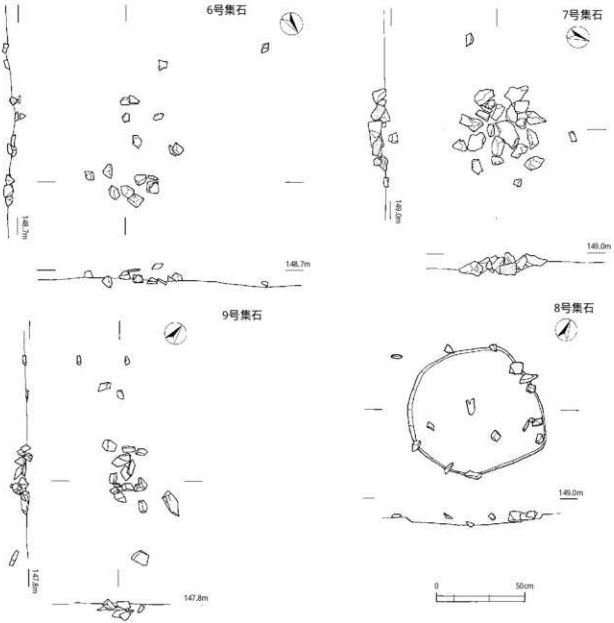


第130図　縄文時代早期集石実測図(1)



第131図　縄文時代早期集石実測図(2)

第132図　縄文時代早期集石実測図(3)



第133図　縄文時代早期集石実測図(4)

第41表　縄文時代早期集石観察表

挿図番号	図番号	区	検出層	総個数	大きさ 長径(cm)	大きさ 短径(cm)	構成礫 総重量(g)	構成礫 重量平均値(g)	被熱率(%)	備考
130	1	B－2	Ⅴ	24	228	170	3520	146.66	91.6	H15－1
	2	E－2	Ⅴ	58	168	145	5580	96.2	36.2	H15－2
131	3	D－5･6	Ⅴ	47	140	119	7535	160.31	100	H15－8
	4	D－5	Ⅴ	40	117	109	5490	137.25	100	H15－10
132	5	F－2･3	Ⅳ	207	335	177	38328	185.15	100	H15－3
133	6	E－4	Ⅴ	15	105	92	2396	159.73	93.3	H15－4
	7	E－4	Ⅳ	24	87	70	9610	400.41	79.1	H15－6
	8	D－4	Ⅳ	16	83	75	2020	126.25	100	H15－7
	9	E－6	Ⅳ	22	118	46	2862	130.09	100	H15－9

第３節　遺物

１　土器

松ヶ尾遺跡の出土土器は，Ⅳ・Ⅴ層から出土しており，縄文時代早期に該当する。出土土器は，その形態の特徴から，Ⅰ類～Ⅷ類の８類に細分された。これらは，前葉から中葉，後葉の早期全般にわたっている。

Ⅰ類土器（第136図－１～14）

Ⅰ類土器は，口縁部外面に刺突文を巡らせ，胴部には条痕文を施す円筒形土器である。内面はヘラ削り仕上げで，口縁部の近くは丁寧なナデ仕上げがみられる。72点出土し，そのうち14点を図化した。

１～５は口縁部片で，６～11は胴部片，12～14は底部片である。

口縁部の器形は上方に直行する円筒形土器であるが，６のように口縁部が若干外反するタイプもある。

直行する口縁部外面には連続する刺突文を巡らせている。刺突文は，１～３はヘラ状施文具での刻目で，４・５は二枚貝の貝殻腹縁部の施文具の刻目を巡らせるタイプである。口唇部平坦面には同じ施文具で刻目が施されている。

胴部には丁寧に横位の条痕文が施されているが，10・11のように斜位や弧状に乱れた施文もある。

底部は，12・13のように側面下端まで条痕文が施されるものと，条痕文の上から縦位の刻目を施すものもある。

Ⅱ類土器（第136図－15～24）

Ⅱ類土器は，口縁部外面に横位に二枚貝の貝殻刺突文線を巡らせ，胴部には条痕整形の後に貝殻刺突文線を縦位に施す円筒形土器である。内面はナデ整形の丁寧なしあげがみられる。14点出土し，そのうち10点を図化した。

15・16は口縁部片，17・18は胴部片，19～24は底部片である。

16は，口縁部片であるが，口唇部を欠損している。底部のうち，19～21は，外面側面の下端まで縦位の貝殻刺突文線を施すものである。22～24の底部外面は，縦位及び若干斜位の沈線を施すタイプである。

Ⅲ類土器（第137図－25～36）

Ⅲ類土器は，口縁部が外反して外面に貝殻刺突文線を羽状（25）及び斜位（26・27），横位（28～36）に施文する。口唇部にはヘラ（25～28）及び貝殻（29・30）の刻目を施す。胴部外面には綾杉状に条痕文を施文するタイプである。33点出土し，そのうち12点を図化した。

Ⅳ類土器（第137図－37～40）

Ⅳ類土器は，口縁部が僅かに内弯し，口唇部が肥厚するのが特徴である。口縁部外面には横位の貝殻刺突文線が巡る。胴部には羽状の条痕文を施すタイプである。７点出土し，そのうち４点を図化した。

Ⅴ類土器（第137図－41～43）

Ⅴ類土器は，口唇部が若干肥厚し，外面に羽状を基本とした櫛描き文を施すタイプである。５点出土し，そのうち３点を図化した。口縁部が内弯するのが一般的だが，41は内弯しない。

Ⅵ類土器（第137図－44）

Ⅵ類土器は，地文に縦位の施文がみられ，その上に横位の沈線文状の凹線文が施文される底部片である。底部は小型の平底で，南九州でみられる平底化した押型文土器の器形である。１点出土し，図化した。

Ⅶ類土器（第138図－45～50）

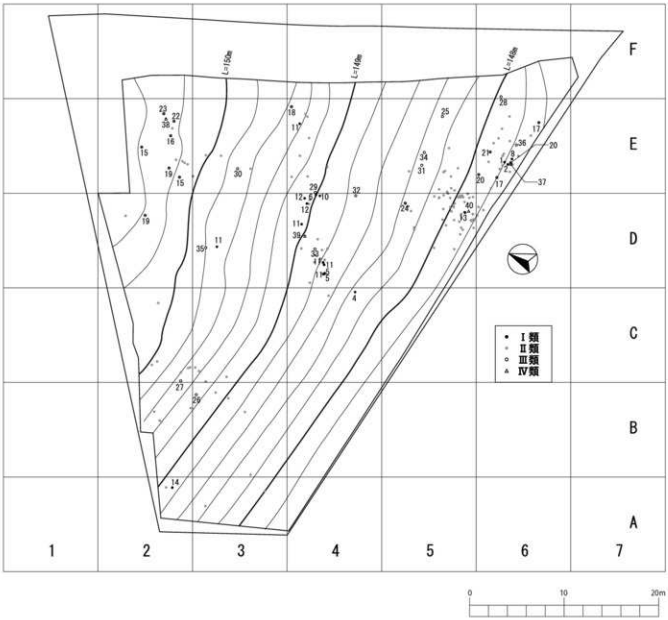
Ⅶ類土器は，口縁部が二重口縁状に外反した口縁部片である。口縁部片は突起しており，波状口縁であることを窺い知ることができる。口縁部外側の文様は，上，下段に細かな刻目を施した微隆起突帯文を巡らせ，その間には幾何学状の沈線文や連点文を施している。18点出土し，そのうち６点を図化した。45のように，微隆起突帯文は頸部付近にも施される。50は，Ⅶ類に該当する壺形土器である。器形は長頸壺で，曲線を主体とした文様が確認される。

Ⅷ類土器（第139・140図－51～78）

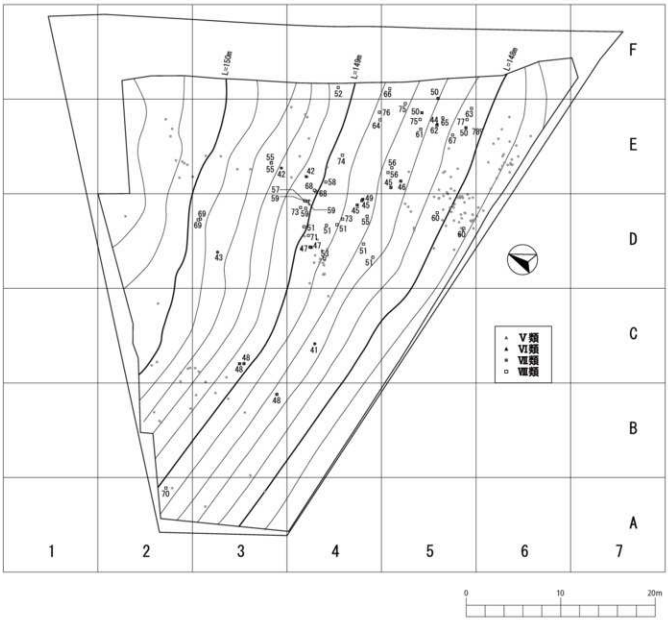
Ⅷ類土器は，口縁部が外反し，胴部は円筒形を呈し，底部は上げ底気味の平底である。413点出土し，そのうち28点を図化した。51は，高さ20.7㎝，口径24.0㎝の完形に復元できるものである。口唇部には口縁部に直行する丁寧な刻目を巡らせ，外反する口縁部外面は無文である。胴部には幅２㎝程度の撚糸文帯の４条以上を束にして縦位に施文している。その撚糸文帯の上から，頸部には５条の横位の凹線文を，胴部中央にも６条の凹線文を巡らせている。

57・59は，二重口縁状に大きく外反する口縁部である。57は，口縁部外面に沈線文で幾何学文を施文し，下端には刺突文を巡らせている。胴部は無文である。

76～78は，壺形土器の口縁部片である。口縁部が短く外反し，無文である。



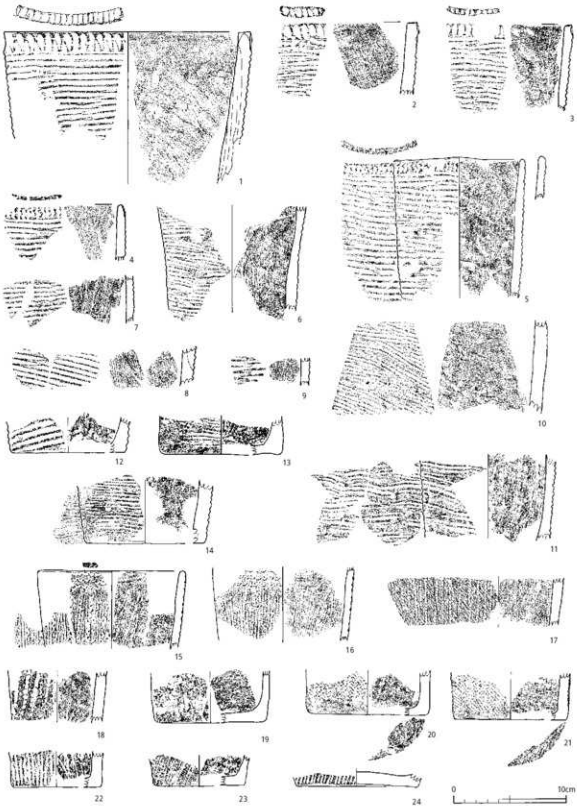
第134図　第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類土器出土状況図



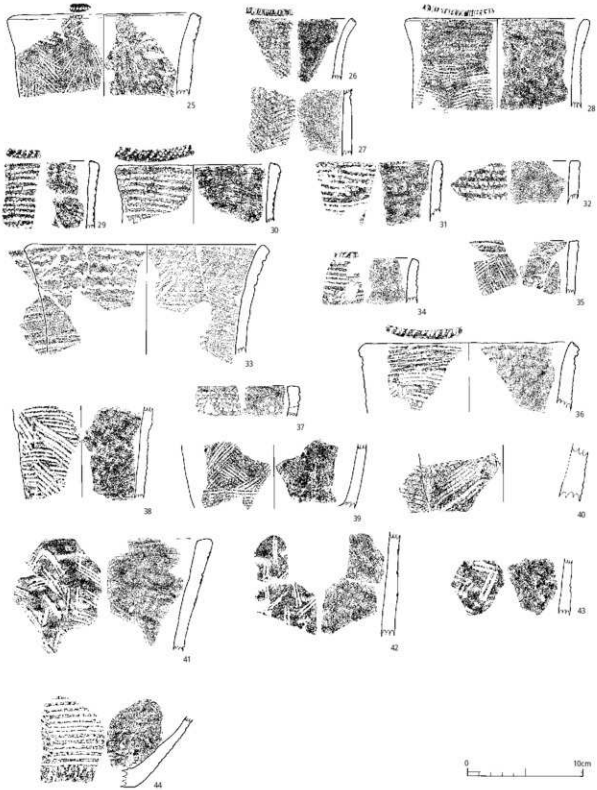
第135図　第Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ類土器出土状況図

第42表　縄文時代早期土器観察表(1)

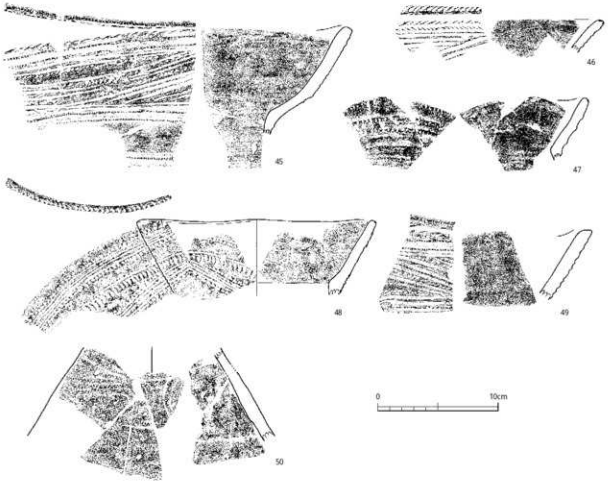
挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
136	1	1441	E－6	Ⅴ	灰褐色	褐色	○	○	○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	2	1442	E－6	Ⅴ	暗褐色	灰褐色	○		○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	3	－	2T	Ⅴ	褐色	明褐色	○	○	○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	4	1278	C－4	Ⅵ	黄褐色	黄褐色	○		○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	5	1118 1219 －	D－4 D－4 2T	Ⅴ上 Ⅴ上 Ⅴ上	明褐色	灰褐色	○		○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	6	1411	D－4	Ⅳ	褐色	暗褐色	○		○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	7	－	－	表採	橙色	灰褐色	○		○	○	普	条痕	ケズリ	



第136図　第Ⅰ・Ⅱ類土器実測図



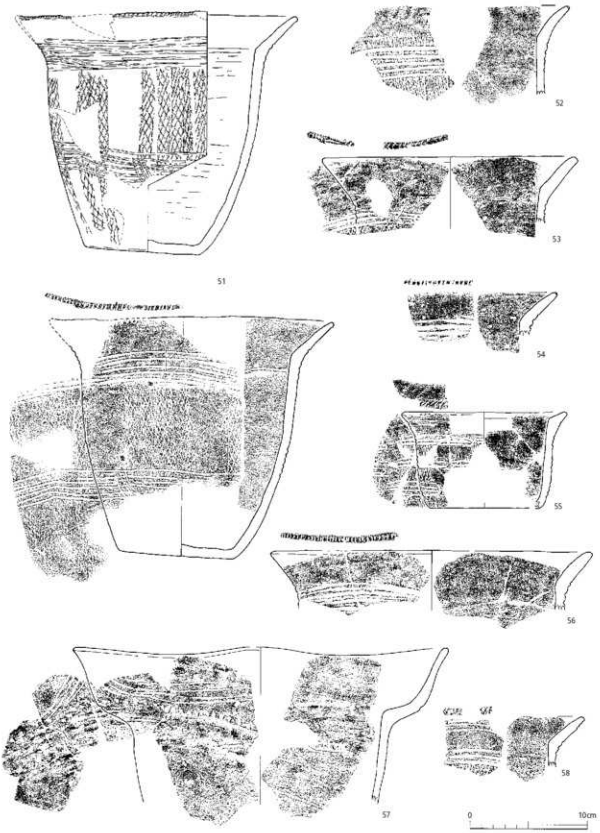
第137図　第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類土器実測図



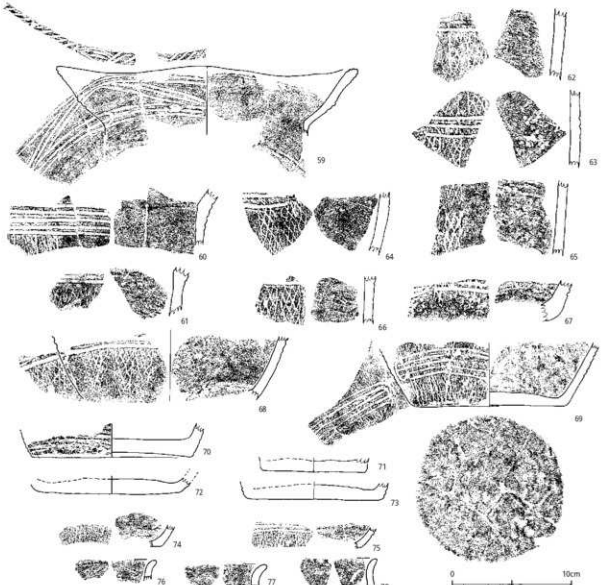
第138図　第Ⅶ類土器実測図

第43表　縄文時代早期土器観察表(2)

挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
136	8	1371 928	E－6 C－5	Ⅴ Ⅳ	黄褐色	黄褐色	○		○	○	普	条痕	ケズリ	
	9	－	2T	－	橙色	暗褐色	○		○	○	普	条痕	ナデ	
	10	1412	D－4	Ⅳ下	黄褐色	赤褐色	○		○	○	普	条痕	ケズリ・ナデ	
	11	1117 1112 1113 807 649 1328	D－4 D－4 D－4 D－4 D－4 D－3	Ⅴ上 Ⅴ Ⅴ Ⅳ Ⅳ Ⅳ	黄褐色	褐色	○		○	○	普	条痕	ケズリ・ナデ	
	12	812 813	D－4 D－4	Ⅳ Ⅳ	褐色	褐色	○		○	○	普	条痕	ケズリ・ナデ	
	13	1538	D－6	Ⅴ	赤褐色	黒褐色	○		○	○	普	条痕	ナデ	
	14	773	A－2	Ⅳ	灰褐色	灰褐色	○		○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	15	1228 692	E－2 －	Ⅳ下 Ⅳ	赤褐色	黄褐色	○		○	○	普	条痕	ケズリ・ナデ	
	16	1140	E－2	Ⅴ上	暗黄褐色	灰黄褐色	○	○	○	○	普	条痕	ケズリ・ナデ	
	17	1303 1036	E－6 E－6	Ⅴ上 Ⅳ	橙色	橙色	○		○	○	普	条痕	ケズリ・ナデ	
	18	1261	E－4	Ⅴ上	黄褐色	灰褐色	○		○	○	普	ケズリ	ナデ	
	19	1418 1224	D－2 E－2	Ⅳ Ⅳ下	灰褐色	灰褐色	○		○	○	普	条痕	ナデ	
	20	1372 1294	E－6 E－6	Ⅴ Ⅳ下	灰褐色	灰褐色	○		○	○	普	条痕	ケズリ・ナデ	
	21	1322	E－6	Ⅳ下	灰褐色	橙色	○		○	○	普	条痕	ナデ	
	22	708	E－2	Ⅳ	浅黄橙色	浅黄橙色	○		○	○	普	条痕	ナデ	
	23	718	E－2	Ⅳ	黄褐色	黄褐色	○		○	○	普	条痕	ナデ	



第139図　第Ⅷ類土器実測図(1)



第140図　第Ⅷ類土器実測図(2)

第44表　縄文時代早期土器観察表(3)

挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
136	24	1302	D－5	Ⅴ上	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	
137	25	983	E－5	Ⅳ	灰褐色	灰褐色	○	○	○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	26	263	B－3	Ⅴ	赤褐色	赤褐色	○		○	○	良	条痕	ナデ	
	27	228	C－2	Ⅳ下	赤褐色	褐色	○		○	○	良	条痕	ナデ	
	28	1032	F－6	Ⅳ	黄褐色	暗褐色	○		○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	29	1410	D－4	Ⅳ下	灰黄褐色	暗褐色	○		○	○	良	ナデ	ケズリ・ナデ	
	30	1245	E－3	Ⅴ上	黒褐色	黒褐色	○		○	○	良	ナデ	ケズリ・ナデ	
	31	1298	E－5	Ⅴa	赤褐色	黄褐色	○		○	○	良	条痕	ナデ	
	32	1082	D－4	Ⅳ	赤褐色	赤褐色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	33	1100 1100	2T D－4	Ⅳ Ⅳ	浅黄橙色	浅黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ケズリ・ナデ	
	34	1042	E－6	Ⅴ上	灰黄褐色	橙色	○		○	○	良	条痕	ナデ	
	35	1327	D－3	Ⅴ	黄褐色	黄褐色	○		○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	36	1509	E－6	Ⅴ	暗褐色	灰褐色	○		○	○	良	条痕	ナデ	
	37	1315	E－6	Ⅴ	灰褐色	灰褐色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	雲母
	38	1142	E－2	Ⅴ上	橙色	暗褐色	○	○	○	○	良	条痕	ケズリ・ナデ	
	39	1398	D－4	Ⅴ	黄褐色	灰褐色	○		○	○	良	条痕	ナデ	

第45表　縄文時代早期土器観察表(4)

挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
137	40	1373	E－6	Ⅳ下	浅黄橙色	浅黄橙色	○		○	○	良	条痕	ケズリ	
	41	1154	C－4	Ⅳ	灰褐色	暗褐色	○		○	○	普	ナデ	ミガキ	
	42	1258	E－3	Ⅳ下	黄褐色	赤褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
		818	E－4	Ⅳ										
	43	1329	D－3	Ⅳ	灰褐色	橙色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	44	975	E－5	Ⅳ	浅黄橙色	灰褐色	○		○	○	普	条痕	ケズリ・ナデ	
138	45	786	D－4	Ⅳ	黄橙色	黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
		1295	D－4	Ⅳ下										
		1073	E－5	Ⅳ										
	46	1045	D－4	Ⅳ	黄橙色	黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	47	1221	D－4	Ⅳ下	灰褐色	灰褐色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
		1102	D－4	Ⅳ										
	48	233	C－3	Ⅳa	灰褐色	灰褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	雲母
		234	C－3	Ⅳa										
		255	B－3	Ⅳ										
	49	785	D－4	Ⅳ	黄橙色	黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	50	1007	E－5	Ⅳ	黒褐色	浅黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ケズリ・ナデ	
		568	E－5	Ⅳ										
		767	F－5	Ⅳ										
139	51	1296	D－4	Ⅳ下	赤褐色	赤褐色	○		○	○	良	ナデ	ケズリ	
		1334	D－4	Ⅳ										
		1354	D－4	Ⅳ										
		1067	D－4	Ⅳ										
		1068	D－4	Ⅳ										
	52	750	F－4	Ⅳ	浅黄橙色	灰褐色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	53	1110	D－4	Ⅳ下	黄橙色	黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	54	－	3T		浅黄橙色	浅黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	55	663	E－3	Ⅳ	浅黄橙色	浅黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ケズリ・ナデ	
		893	E－3	Ⅳ										
		1139	E－3	Ⅳ下										
	56	600	E－5	Ⅳ	浅黄橙色	浅黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
		1043	E－5	Ⅳ										
	57	1331	D－4	Ⅳ	浅黄橙色	浅黄橙色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	雲母
		956	C－4	Ⅳ下										
		957	C－4	Ⅳ下										
		958	C－3	Ⅳ										
		950	C－4	Ⅴ										
		951	C－4	Ⅴ										
	58	824	E－4	Ⅳ	橙色	橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
140	59	1331	D－4	Ⅳ	浅黄色	浅黄色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	雲母
		1332	D－4	Ⅳ										
		1403	D－4	Ⅳ										
	60	1055	D－5	Ⅳ下	浅黄色	浅黄色	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	
		1060	D－5	Ⅳ上										
	61	563	E－5	Ⅳ	浅黄色	黄橙色	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	
	62	974	E－5	Ⅳ	浅黄色	浅黄色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	63	1001	E－5	Ⅳ	浅黄色	浅黄色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	64	593	E－5	Ⅳ	浅黄色	黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	65	543	E－5	Ⅳ	浅黄色	浅黄色	○	○	○	○	良	ナデ	ケズリ・ナデ	
	66	753	F－5	Ⅳ	浅黄色	黄橙色	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	
	67	978	E－5	Ⅳ	浅黄色	浅黄色	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	
	68	1377	E－4	Ⅳ	浅黄色	暗褐色	○		○	○	良	ナデ	ケズリ・ナデ	
		1095	D－4	Ⅳ下										
	69	1335	D－3	Ⅳ	黄橙色	浅黄色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
		1384	D－3	Ⅳ										
	70	772	A－2	Ⅳ	浅黄色	黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	71	1392	D－4	Ⅳ下	浅黄色	黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	72	943	C－5	Ⅳ	浅黄色	浅黄色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	73	1330	D－4	Ⅳ	赤褐色	浅黄色	○	○	○	○	普	ナデ	ナデ	
		779	D－4	Ⅳ										
	74	627	E－4	Ⅳ	浅黄色	暗褐色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	75	564	E－5	Ⅳ	黄橙色	灰褐色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
		575	E－5	Ⅳ										
	76	592	E－5	Ⅳ	黄橙色	黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	77	1003	E－5	Ⅳ	黄橙色	黄橙色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	雲母
	78	1021	E－6	Ⅳ	浅黄色	浅黄色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	雲母

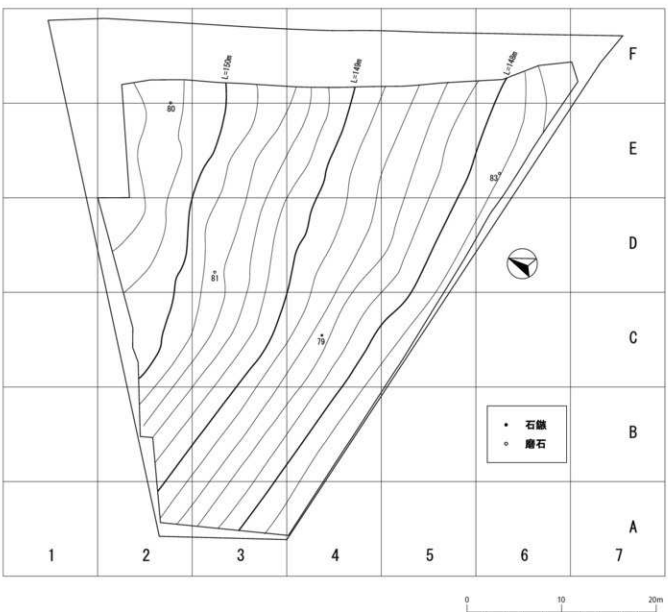
2　石器

Ⅳ・Ⅴ層から同一型式の土器が出土するため，Ⅳ層・Ⅴ層出土の遺物を縄文時代早期の遺物として一括して取り扱う。層位的にはⅣ層の出土石器が主体を占めると思われる。

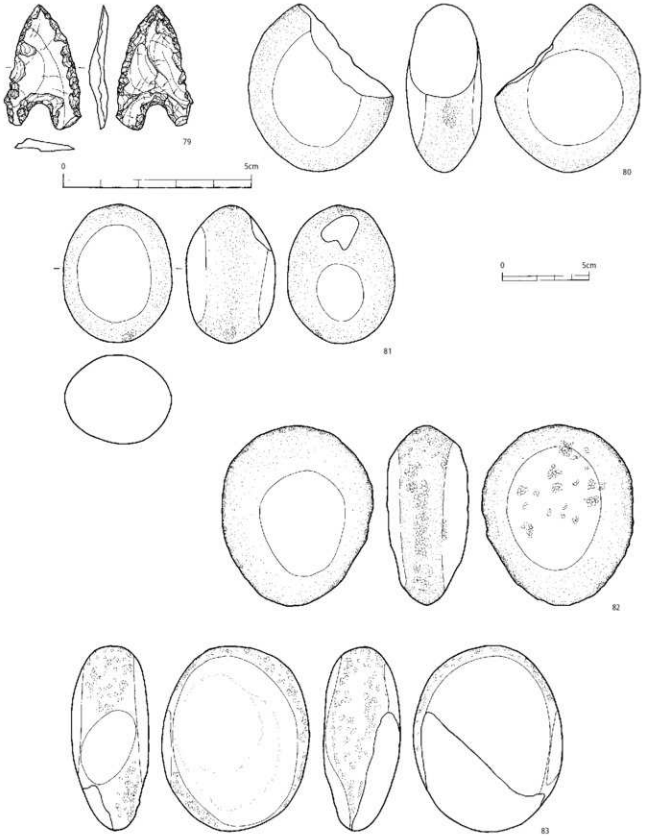
石鏃が１点，磨石が4点出土した。79は安山岩製の石鏃である。抉りを持つ小型鏃である。主要剥離面を残し，周縁調整している。80～83は砂岩製の磨・敲石である。いずれも表裏面に磨面がみられ，側面に敲打痕が観察される。82は裏面にも敲打痕がみられる。

第46表　縄文時代早期石器観察表

挿図番号	図番号	器　種	取上番号	出土区	層位	石　材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
142	79	石鏃	1153	C－4	Ⅳ	安山岩	3.35	2.05	0.5	2.07	
	80	磨・敲石	712	E－2	Ⅳ	砂岩	9.7	8.3	4.3	334	
	81	磨・敲石	917	D－3	Ⅳ	砂岩	7.95	6.3	5.1	275	
	82	磨・敲石	954	C－4	Ⅳ	砂岩	10.4	8.75	4.7	500	
	83	磨・敲石	1313	E－6	Ⅴ	砂岩	10.7	8.45	4.4	562	



第141図　縄文時代石器出土状況図



第142図　縄文時代早期石器実測図

第３章　縄文時代晩期の調査

第１節　概要

Ⅲａ層が遺物包含層である。Ｃ～Ｅ－２～４区にⅢａ層が残存しており，これらの区を中心に土器，石器が出土した。遺物は層の中位以下より多く出土した。また，土坑が１基検出された。

第２節　遺構

１号土坑（第144図）

Ⅲ層中で検出した。径88×87㎝，深さ約10㎝の土坑である。埋土中から土器が７点出土した。そのうち３点を図化した。84は小片のため器種を特定できない。85は浅鉢の口縁部と思われる。内面はミガキ，外面は粗いナデを施す。86は深鉢の胴部片である。

土器集中部（第146図）

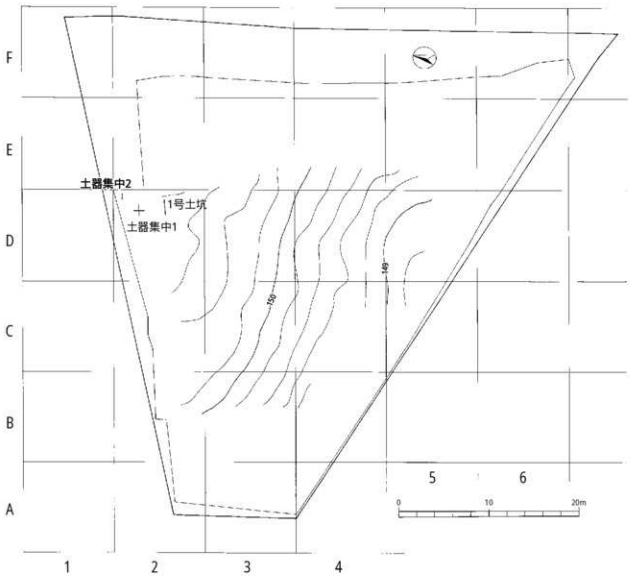
遺構ではないが，土器集中部２か所を図化した。いずれも深鉢が集中して出土した（88～97）。土器集中１は約10㎝の掘り込みが認められる。また，砂岩製の砥石が出土した。

第３節　遺物

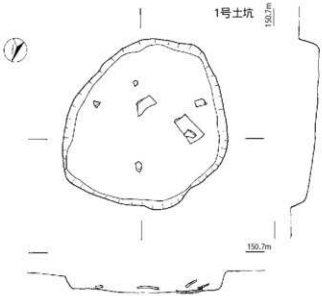
１　土器（第23～26図）

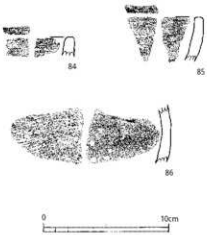
(1)　深鉢（94～96，100～105，118，124～126）

94・96は先細りする口縁部で内外面にナデ調整を施す。96は口縁下に低い段をもつが，これは形骸化した文様帯と思われる。95は口縁部に分厚い文様帯を形成している。色調は褐色味を帯び，外面にミガキを施す。中岳式の可能性もある。100～102・118は緩やかに屈曲する胴部片で，入佐式土器であると考えられる。厚みがあり内外面にナデ調整を施す。103～105は底部である。円盤状の分厚い底部で，張り出しは見られない。103は外面にミガキを施すが，その他はナデ調整である。124～126は無刻目突帯文土器である。124は上胴部が外反し，口唇部に無刻目突帯文を施す。突帯文は薄い帯

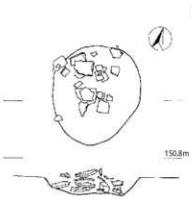


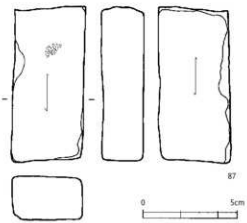
第143図　縄文時代晩期遺構配置図



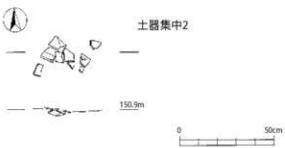


第144図　縄文時代晩期遺構実測図





第145図　遺構内遺物実測図(1)



第146図　土器集中部実測図

第47図　遺構内遺物観察表(1)

挿図番号	図番号	取上番号	出土区	遺構名	色調		胎土				焼成	文様・調整		備考
					外面	内面	角閃石	石英	長石	砂粒		外面	内面	
145	84	1291	D－2	1号土坑	暗褐色	にぶい黄褐色	○		○	○	普	ナデ	丁寧なナデ	
	85	964	D－2	1号土坑	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○		○	○	普	ナデ	丁寧なナデ	
	86	1287	D－2	1号土坑	黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	

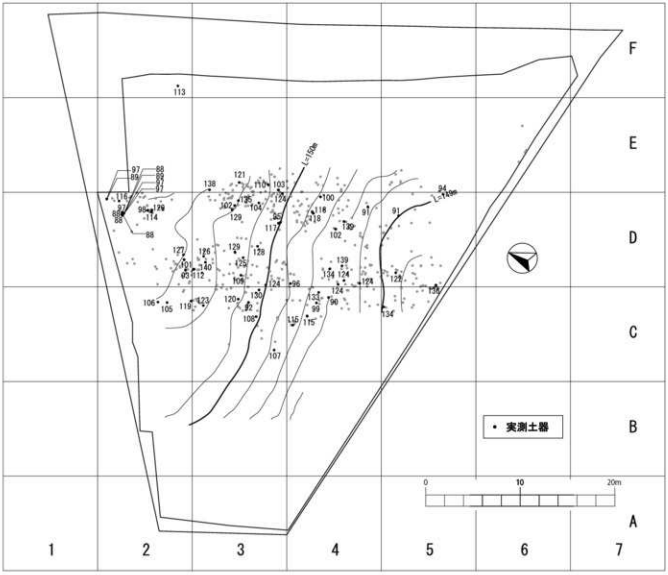
状を呈し，幅は1㎝程である。全体的に薄手で，外面に条痕，内面に横ナデを施す。125・126は胴部片で，内外面に条痕を施している。

⑵　精製浅鉢（88～93，98・99）

器壁が薄く緻密な胎土を使用し，内外面にミガキを施すものを精製浅鉢とした。内外面に煤が付着する個体も確認できる。88・89は上胴部が短く屈曲し，外面に煤が付着している。胴部は膨らみを持ち底部へと至るために，深みのある器形である。88の口縁部は内面に太めの沈線を施すため，小さく直立した形となる。沈線は簡略化が進み部分的に省略されている。89は胴部の屈曲が弱く，口縁部の立ち上がりも明瞭でない。口唇部にはリボン状突起が1か所，山形隆起が2か所残っている。胴部には直径8㎜の補修孔が2か所みられるが，1か所は未貫通である。補修孔は内外両面から穿孔されている。90は上胴部が直立し，口縁部は短く外反する。口縁部内面には1条の沈線文がみられ，内外面丁寧なミガキ調整を施す。91は屈曲する胴部から口縁部が緩やかに外反し，端部を摘み出すことによって小さく直立させる。口縁部の作りはやや雑で，内外面にミガキを施す。入佐式土器によくみられる形態の浅鉢である。92は口縁部にリボン状突起が残っている。93は口縁部が厚く，内外面に粗いミガキを施す。98・99は胴部片である。器壁が薄く内外面にミガキを施す。

⑶　粗製浅鉢（97・119・122・127・128，106～109，112～117，120～123，129）

器壁が厚く粗粒な胎土で，外面に条痕，削り，内面に粗いナデを施すものを粗製浅鉢とした。外面に煤の付着が顕著にみられる。器形の違いによって便宜的に2つに細分し報告する。Ⅰ類は口径の大きいもので，中華鍋形を呈すると推測されるものである（97・119・122・127・128）。97は口径46.4㎝の大型品で，内面にミガキを施すために「半粗半精製浅鉢」と呼ばれることもある。上胴部がわずかに屈曲し，口縁部に煤が付着している。119は粗雑な作りで器面の凹凸が著しい。外面は粗く削られているために，接合痕が露出している。127・128は胴部片である。127の外面は条痕を施し，煤



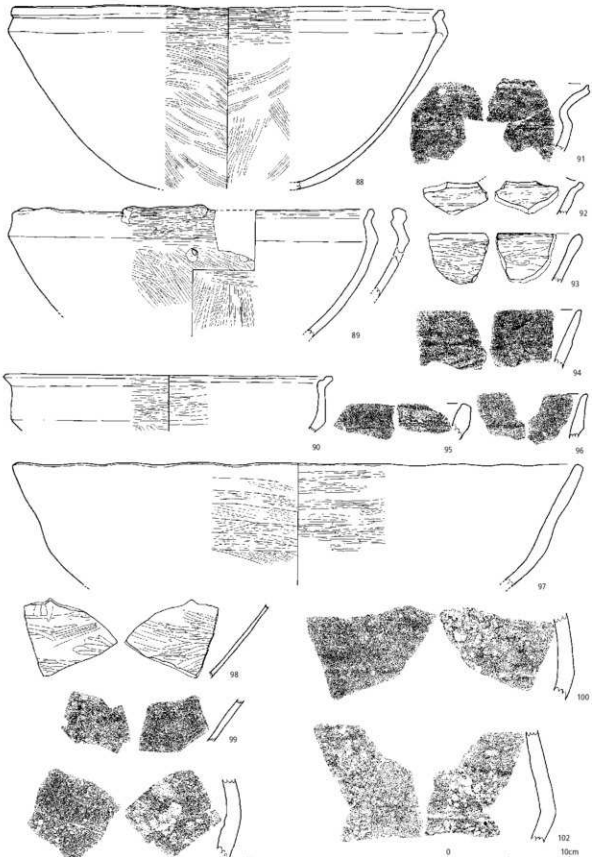
第147図　縄文時代晩期土器出土状況図

が付着している。内面はナデ調整である。128は外面がケズリ，内面はミガキ調整である。

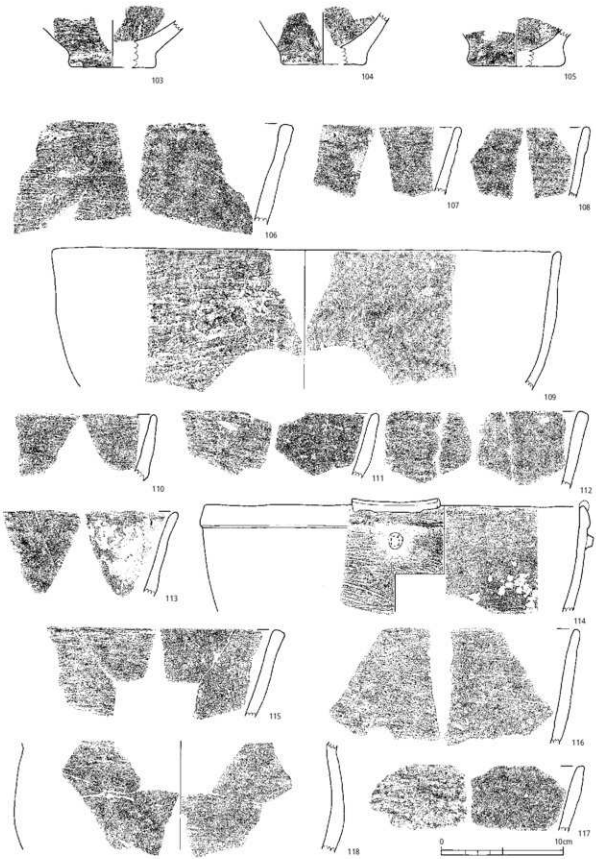
Ⅱ類は口縁部から底部へと直線的にすぼまる器形である（106～109，112～117，120～123，129）。Ⅰ類に比べ器高が高く，口縁形態だけでは深鉢との選別が困難であることから，一部深鉢が含まれている可能性もある。外面調整は条痕，ケズリ，内面調整は横ナデを基本とする。108は口縁部に幅1.8㎝の無刻目突帯文がみられる。109は口径44㎝の大型品で，外面は粗いケズリ，内面はナデ調整である。外面に煤が付着している。114は口縁部外面に幅1.7㎝の無刻目突帯文を巡らし，口唇部にリボン状突起を施す。上胴部には直径８㎜の円形突起が，リボン状突起と同じ位置に１か所残っている。

⑷　組織痕文土器（130～140）

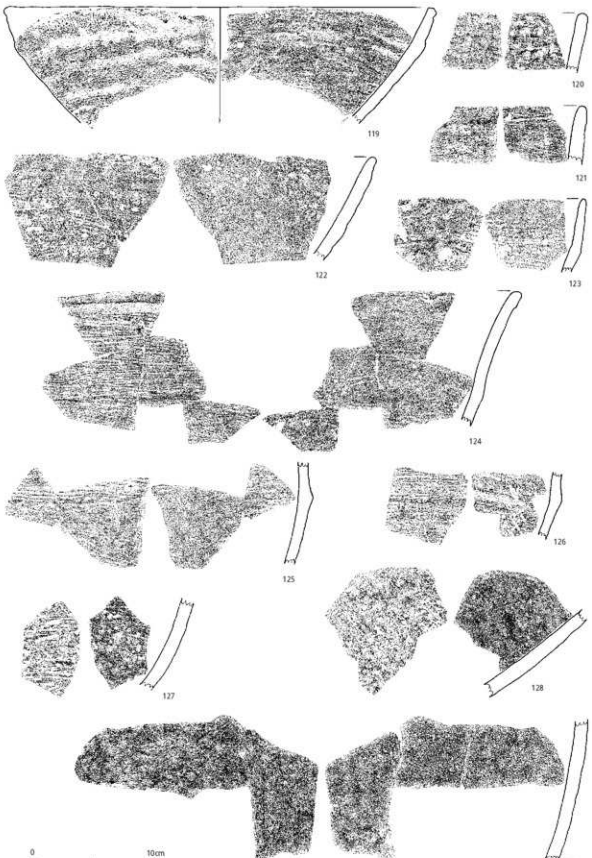
組織痕がはっきりみられるのは全部で11点出土し，そのほとんどは胴部片である。中華鍋形の器形を呈すると推測され，130のように口縁下位まで組織痕が残っている。組織痕としては編目（130～138）と編布（139・140）があり，前者が多い。編目の大きさは５㎜程である。編布の縦糸は幅１㎝の範囲に５本確認でき，経緯幅は１㎝である。



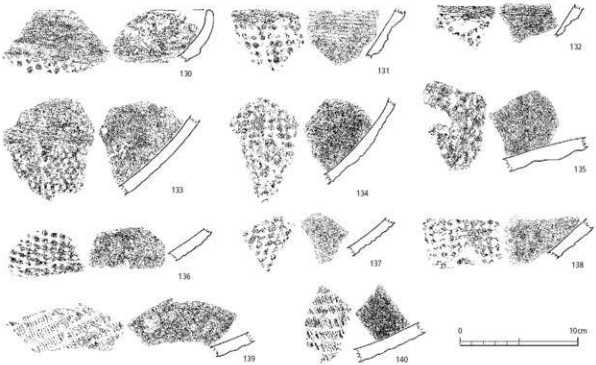
第148図　縄文時代晩期土器実測図(1)



第149図　縄文時代晩期土器実測図(2)



第150図　縄文時代晩期土器実測図(3)



第151図　縄文時代晩期土器実測図(4)

が付着している。内面はナデ調整である。128は外面がケズリ，内面はミガキ調整である。

Ⅱ類は口縁部から底部へと直線的にすぼまる器形である（106～109，112～117，120～123，129）。Ⅰ類に比べ器高が高く，口縁形態だけでは深鉢との選別が困難であることから，一部深鉢が含まれている可能性もある。外面調整は条痕，ケズリ，内面調整は横ナデを基本とする。108は口縁部に幅1.8㎝の無刻目突帯文がみられる。109は口径44㎝の大型品で，外面は粗いケズリ，内面はナデ調整である。外面に煤が付着している。114は口縁部外面に幅1.7㎝の無刻目突帯文を巡らし，口唇部にリボン状突起を施す。上胴部には直径8㎜の円形突起が，リボン状突起と同じ位置に1か所残っている。

(4)　組織痕文土器（130～140）

組織痕がはっきりみられるのは全部で11点出土し，そのほとんどは胴部片である。中華鍋形の器形を呈すると推測され，130のように口縁下位まで組織痕が残っている。組織痕としては編目（130～138）と編布（139・140）があり，前者が多い。編目の大きさは5㎜程である。編布の縦糸は幅1㎝の範囲に5本確認でき，経緯幅は1㎝である。

第48表　縄文時代晩期土器観察表(1)

挿図番号	図番号	器種	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
148	88	精製浅鉢	1336	D－2	Ⅲa	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	条痕後ミガキ	ミガキ	
			1579	D－2	Ⅲa										
			1578	D－2	Ⅲa										
			1580	D－2	Ⅲa										
	89	精製浅鉢	1336	D－2	Ⅲa	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	
			1337	D－2	Ⅲa										
	90	精製浅鉢	150	C－4	Ⅲa	黒褐色	黒褐色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	
	91	精製浅鉢	292	D－4	Ⅲa	暗褐色	灰褐色	○		○	○	普	ミガキ	ミガキ	雲母
			503	D－5	Ⅲa										
	92	精製浅鉢	179	C－3	Ⅲa	灰黄褐色	灰黄褐色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	
	93	精製浅鉢	109	D－2	Ⅲa	にぶい黄褐色	暗褐色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	
	94	深鉢	1503	D－5	Ⅴ	暗褐色	にぶい黄褐色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	95	深鉢	344	D－3	Ⅲa	褐色	褐色	○	○	○	○	良	ナデ	ミガキ	
	96	深鉢	212	D－4	Ⅲa	褐色	褐色	○		○	○	良	ナデ	丁寧なナデ	
	97	粗製浅鉢	1336	D－2	Ⅲa	褐色	橙色	○		○	○	普	条痕	ミガキ	
			1336	D－2	Ⅲa	橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	ナデ	丁寧なナデ	
			1337	D－2	Ⅲa										
			1583	D－2	Ⅲa										

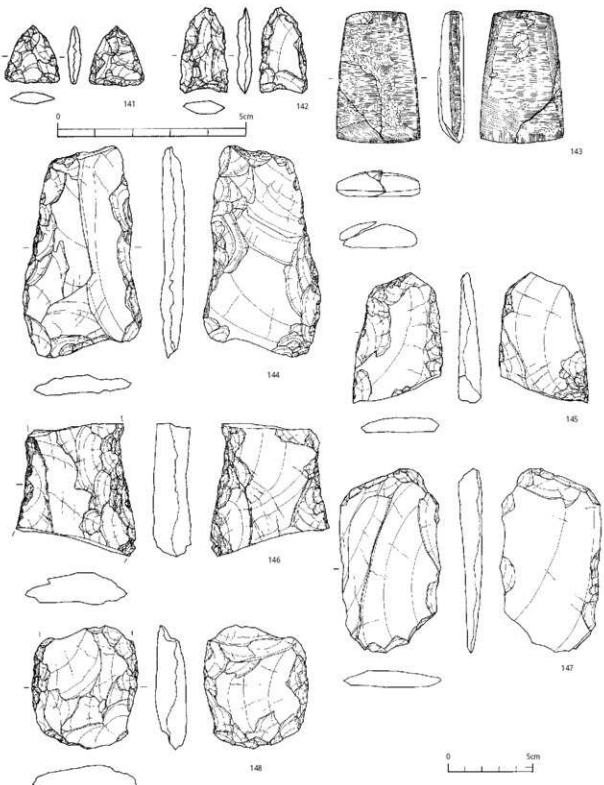
第49表　縄文時代晩期土器観察表②

挿図番号	図番号	器種	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
148	98	精製浅鉢	963 963	D－2 D－2	Ⅲa Ⅲa	灰褐色	灰黄褐色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	1号土坑
	99	精製浅鉢	154	C－4	Ⅲa	灰褐色	灰白色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	100	深鉢	312	D－4	Ⅲa	橙　色	明黄褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	101	深鉢	115	D－2	Ⅲa	褐　色	暗褐色	○	○	○	○	普	ナデ	ナデ	
	102	深鉢	390 461	D－3 D－4	Ⅲa Ⅲa上	明褐色	にぶい黄褐色	○		○	○	普	丁寧なナデ	ナデ	
149	103	深鉢(底)	429	E－3	Ⅲa	にぶい褐色	黒褐色	○	○	○	○	普	条痕後ミガキ	ナデ	雲母
	104	深鉢(底)	373	D－3	Ⅲa	にぶい橙色	黒褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	105	深鉢(底)	202	C－2	Ⅲa	にぶい赤褐色	暗赤褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	106	粗製浅鉢	529	C－2	Ⅲa	暗褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	普	条痕	ナデ	
	107	粗製浅鉢	473	C－3	Ⅲa	暗褐色	暗褐色	○		○	○	普	ナデ	粗いナデ	
	108	粗製浅鉢	176	C－3	Ⅲa	橙　色	にぶい橙色	○		○	○	普	ヘラナデ	ヘラナデ	
	109	粗製浅鉢	77	D－3	Ⅲa	暗褐色	褐　色	○		○	○	普	ケズリ	横ナデ	
	110	深鉢	433	E－3	Ⅲa	黒褐色	橙　色	○		○	○	普	ナデ	横ナデ	
	111	深鉢	1194	D－4	Ⅲa	暗褐色	橙　色	○		○	○	普	ヘラナデ	横ナデ	
	112	粗製浅鉢	105 221	D－3 D－3	Ⅲa Ⅲa	黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	ヘラナデ	横ナデ	
	113	粗製浅鉢	733	F－2	Ⅳ	橙　色	黄橙色	○		○	○	普	横ナデ	横ナデ	
	114	粗製浅鉢	1288	D－2		明黄褐色	明黄褐色	○		○	○	普	条痕	ナデ・ミガキ	1号土坑
	115	粗製浅鉢	159 167	C－4 C－4	Ⅲa Ⅲa	黒褐色	暗褐色	○		○	○	普	条痕	ミガキ	
	116	粗製浅鉢	970	E－2	Ⅲa	赤褐色	黒褐色	○		○	○	普	条痕	横ナデ	
	117	粗製浅鉢	345	D－3	Ⅲa	にぶい褐色	褐　色	○		○	○	普	ケズリ	横ナデ	
	118	深鉢	323 324	D－4 D－4	Ⅲa Ⅲa	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	ナデ	横ナデ	
150	119	粗製浅鉢	201	C－2	Ⅲa	暗褐色	赤褐色	○		○	○	普	ケズリ	横ナデ	
	120	粗製浅鉢	188	C－3	Ⅲa	にぶい橙色	にぶい褐色	○		○	○	普	ナデ	摩滅	
	121	粗製浅鉢	451	E－3	Ⅲa	にぶい橙色	橙　色	○		○	○	普	条痕	横ナデ	
	122	粗製浅鉢	17	D－5	Ⅲa	暗褐色	明赤褐色	○		○	○	普	ケズリ	横ナデ	
	123	粗製浅鉢	191	C－3	Ⅲa	橙　色	橙　色	○		○	○	普	摩滅	摩滅	
	124	深鉢	356 1165 40 1176	D－3 D－3 D－4 D－4	Ⅲa Ⅲa Ⅲa Ⅲa	橙　色	にぶい黄褐色	○		○	○	普	条痕	横ナデ	
	125	深鉢	81 一括	D－3 D－3	Ⅲa Ⅱ	黄褐色	暗灰黄色	○		○	○	普	条痕・ナデ	横ナデ	
	126	深鉢	97	D－3	Ⅲa	黄褐色	暗褐色	○		○	○	普	条痕	条痕・横ナデ	
	127	粗製浅鉢	116	D－2	Ⅲa	黒褐色	にぶい黄褐色	○		○	○	普	条痕	横ナデ	
	128	粗製浅鉢	367	D－3	Ⅲa	黄褐色	黒褐色	○		○	○	普	ケズリ	ミガキ	
	129	粗製浅鉢	83 388 1290	D－3 D－3 D－2	Ⅲa Ⅲa Ⅲa	橙　色	暗褐色	○		○	○	普	ケズリ	ミガキ	1号土坑
151	130	組織痕文土器	1166	C－3	Ⅲa	暗褐色	橙　色	○		○	○	普	ナデ・組織痕	ナデ	
	131	組織痕文土器	一括		Ⅲa	暗褐色	褐　色	○		○	○	普	ナデ・組織痕	ナデ	
	132	組織痕文土器	一括	D－3	Ⅲa	黒褐色	にぶい褐色	○		○	○	普	ナデ・組織痕	ナデ	
	133	組織痕文土器	1195	C－4	Ⅲa	褐　色	褐　色	○		○	○	普	ナデ・組織痕	ナデ	
	134	組織痕文土器	45 138	D－4 C－5	Ⅲa Ⅲa	赤褐色	赤褐色	○		○	○	普	組織痕	ナデ	
	135	組織痕文土器	392	D－3	Ⅲa	黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	組織痕	ナデ	
	136	組織痕文土器	1204	D－5	Ⅲa	にぶい赤褐色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	組織痕	ナデ	
	137	組織痕文土器	一括	D－5	Ⅱ	明赤褐色	にぶい赤褐色	○		○	○	普	組織痕	ナデ	
	138	組織痕文土器	457	E－3	Ⅲa	橙　色	黒褐色	○		○	○	普	組織痕	丁寧なナデ	
	139	組織痕文土器	43 304	D－4 D－4	Ⅲa Ⅲa	にぶい黄橙色	黒褐色	○		○	○	普	組織痕	丁寧なナデ	
	140	組織痕文土器	99	D－3	Ⅱ	にぶい黄橙色	黒褐色	○		○	○	普	組織痕	丁寧なナデ	

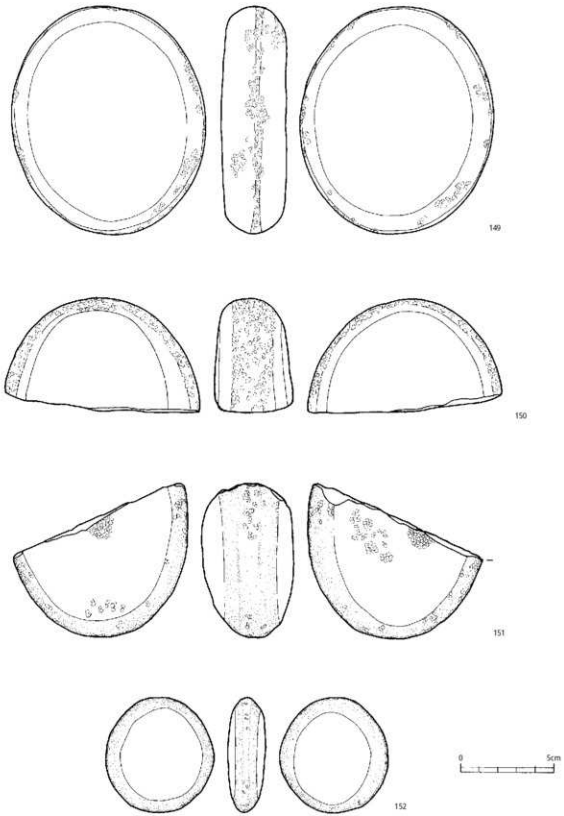
2　石器

Ⅲａ層は縄文時代晩期の包含層である。

石鏃が２点，磨製石斧１点，打製石斧５点，磨・敲石４点が出土している。141・142は安山岩製の石鏃である。いずれも抉りがない。142は主要剥離面を残す。143は頁岩製の磨製石斧である。丁寧な研磨が施されている。144～148はホルンフェルス製の扁平打製石斧である。144は扁平な剥片を素材とし，周縁に粗い整形剥離を施している。145は粗い整形剥離によって形状を整えているが下半部は欠損している。146は丁寧な整形剥離によって形状を整えているが頭部と下半部は欠損している。147・148は扁平な剥片を素材とし周縁に粗い整形剥離を施している。149～152は砂岩製の磨・敲石である。表・裏面に磨面がみられる。いずれもは側円周部に敲打痕が観察される。151は表・裏面にも敲打痕が観察される。



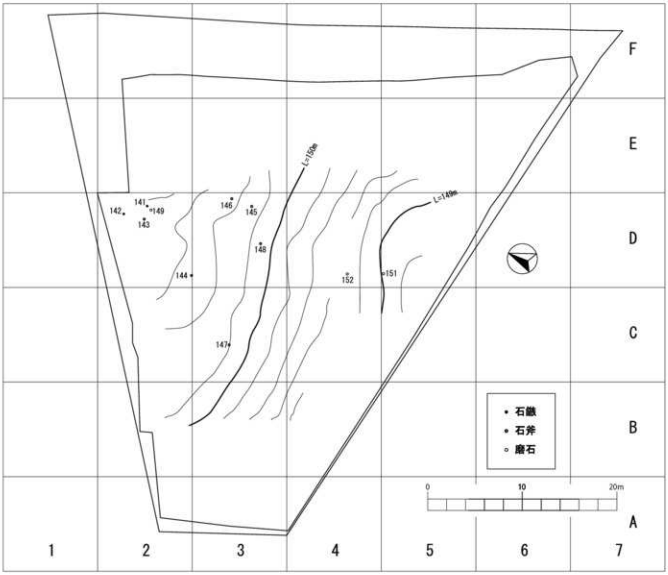
第152図　Ⅲａ層出土石器実測図(1)



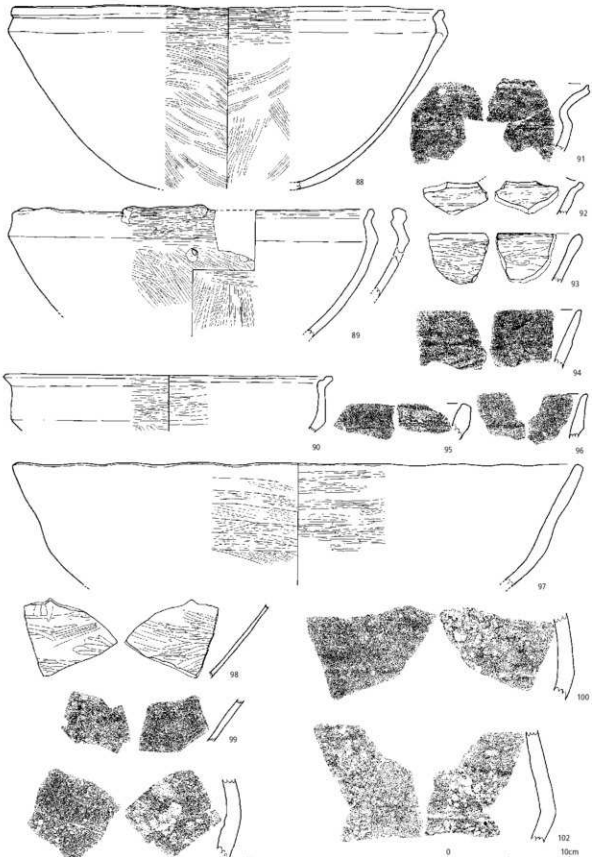
第153図　Ⅲ a 層出土石器実測図(2)

第50表　Ⅲａ層出土石器観察表

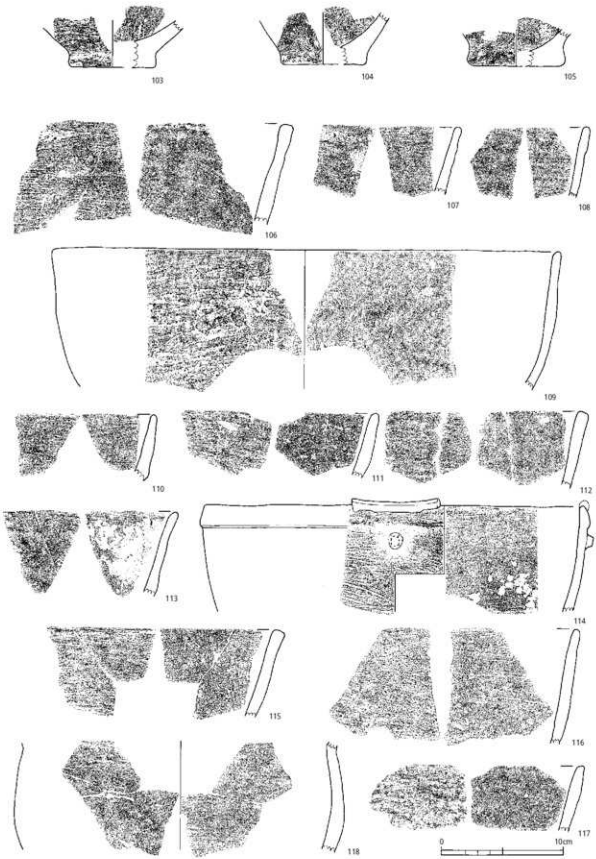
挿図番号	図番号	器　種	取上番号	出土区	層位	石　　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
145	87	砥石	1582	D－2	Ⅲａ	砂岩	8.3	3.9	2.3	158	土器集中1
152	141	石鏃	966	D－2	Ⅲａ	安山岩	1.6	1.5	0.35	0.69	
	142	石鏃	1336	D－2	Ⅲａ	安山岩	2.3	1.3	0.4	1.09	
	143	磨製石斧	866	D－2	Ⅲａ	頁岩	7.7	4.9	1.5	96	
	144	打製石斧	106	D－2	Ⅲａ	ホルンフェルス	12.4	6.9	1.5	118	
	145	打製石斧	387	D－3	Ⅲａ	ホルンフェルス	7.6	5.1	1.2	60	
	146	打製石斧	395	D－3	Ⅲａ	ホルンフェルス	7.8	6.95	2.2	140	
	147	打製石斧	470	C－3	Ⅲａ	ホルンフェルス	10.7	5.8	1.4	100	
	148	打製石斧	366	D－3	Ⅲａ	ホルンフェルス	7.2	6.15	1.8	102	
153	149	磨・敲石	959	D－2	Ⅲａ	頁岩	12	10.4	3.5	700	
	150	磨・敲石	－	－	表採	砂岩	6	10.3	4.2	380	
	151	磨・敲石	22	D－5	Ⅲａ	砂岩	8.2	9.3	4.9	388	
	152	磨・敲石	39	D－4	Ⅳａ	砂岩	6.2	6.8	2.1	105	



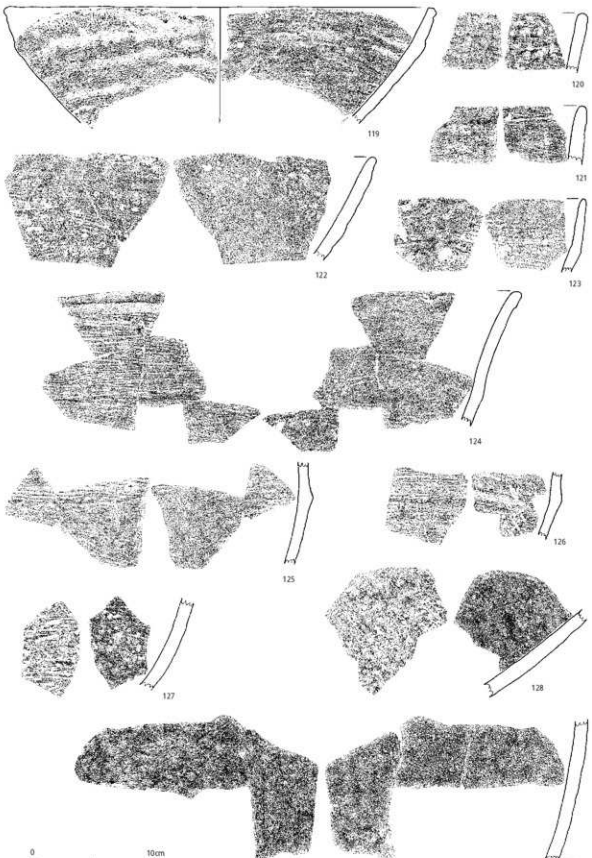
第154図　Ⅲａ層出土石器出土状況図



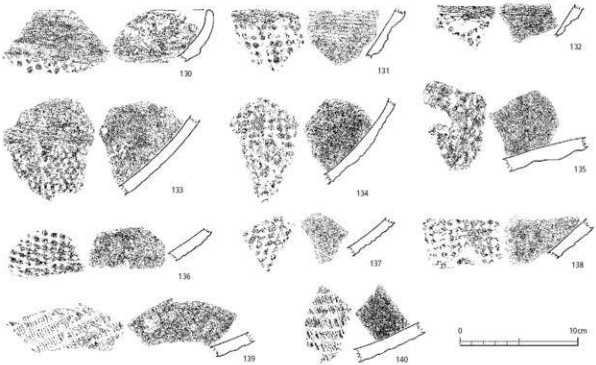
第148図　縄文時代晩期土器実測図(1)



第149図　縄文時代晩期土器実測図(2)



第150図　縄文時代晩期土器実測図(3)



第151図　縄文時代晩期土器実測図(4)

が付着している。内面はナデ調整である。128は外面がケズリ，内面はミガキ調整である。

Ⅱ類は口縁部から底部へと直線的にすぼまる器形である（106～109，112～117，120～123，129）。Ⅰ類に比べ器高が高く，口縁形態だけでは深鉢との選別が困難であることから，一部深鉢が含まれている可能性もある。外面調整は条痕，ケズリ，内面調整は横ナデを基本とする。108は口縁部に幅1.8㎝の無刻目突帯文がみられる。109は口径44㎝の大型品で，外面は粗いケズリ，内面はナデ調整である。外面に煤が付着している。114は口縁部外面に幅1.7㎝の無刻目突帯文を巡らし，口唇部にリボン状突起を施す。上胴部には直径8㎜の円形突起が，リボン状突起と同じ位置に1か所残っている。

(4)　組織痕文土器（130～140）

組織痕がはっきりみられるのは全部で11点出土し，そのほとんどは胴部片である。中華鍋形の器形を呈すると推測され，130のように口縁下位まで組織痕が残っている。組織痕としては編目（130～138）と編布（139・140）があり，前者が多い。編目の大きさは5㎜程である。編布の縦糸は幅1㎝の範囲に5本確認でき，経緯幅は1㎝である。

第48表　縄文時代晩期土器観察表(1)

挿図番号	図番号	器種	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
148	88	精製浅鉢	1336	D－2	Ⅲa	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	条痕後ミガキ	ミガキ	
			1579	D－2	Ⅲa										
			1578	D－2	Ⅲa										
			1580	D－2	Ⅲa										
	89	精製浅鉢	1336	D－2	Ⅲa	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	
			1337	D－2	Ⅲa										
	90	精製浅鉢	150	C－4	Ⅲa	黒褐色	黒褐色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	
	91	精製浅鉢	292	D－4	Ⅲa	暗褐色	灰褐色	○		○	○	普	ミガキ	ミガキ	雲母
			503	D－5	Ⅲa										
	92	精製浅鉢	179	C－3	Ⅲa	灰黄褐色	灰黄褐色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	
	93	精製浅鉢	109	D－2	Ⅲa	にぶい黄褐色	暗褐色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	
	94	深鉢	1503	D－5	Ⅴ	暗褐色	にぶい黄褐色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	95	深鉢	344	D－3	Ⅲa	褐色	褐色	○	○	○	○	良	ナデ	ミガキ	
	96	深鉢	212	D－4	Ⅲa	褐色	褐色	○		○	○	良	ナデ	丁寧なナデ	
	97	粗製浅鉢	1336	D－2	Ⅲa	褐色	橙色	○		○	○	普	条痕	ミガキ	
			1336	D－2	Ⅲa	橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	ナデ	丁寧なナデ	
			1337	D－2	Ⅲa										
			1583	D－2	Ⅲa										

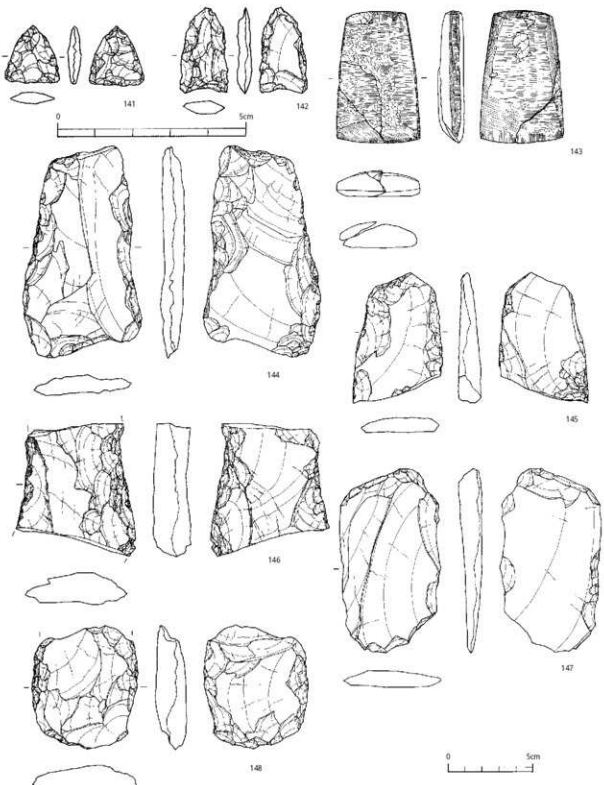
第49表　縄文時代晩期土器観察表②

挿図番号	図番号	器種	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
148	98	精製浅鉢	963 963	D－2 D－2	Ⅲa Ⅲa	灰褐色	灰黄褐色	○		○	○	良	ミガキ	ミガキ	1号土坑
	99	精製浅鉢	154	C－4	Ⅲa	灰褐色	灰白色	○		○	○	良	ナデ	ナデ	
	100	深鉢	312	D－4	Ⅲa	橙　色	明黄褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	101	深鉢	115	D－2	Ⅲa	褐　色	暗褐色	○	○	○	○	普	ナデ	ナデ	
	102	深鉢	390 461	D－3 D－4	Ⅲa Ⅲa上	明褐色	にぶい黄褐色	○		○	○	普	丁寧なナデ	ナデ	
149	103	深鉢(底)	429	E－3	Ⅲa	にぶい褐色	黒褐色	○	○	○	○	普	条痕後ミガキ	ナデ	雲母
	104	深鉢(底)	373	D－3	Ⅲa	にぶい橙色	黒褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	105	深鉢(底)	202	C－2	Ⅲa	にぶい赤褐色	暗赤褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	106	粗製浅鉢	529	C－2	Ⅲa	暗褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	普	条痕	ナデ	
	107	粗製浅鉢	473	C－3	Ⅲa	暗褐色	暗褐色	○		○	○	普	ナデ	粗いナデ	
	108	粗製浅鉢	176	C－3	Ⅲa	橙　色	にぶい橙色	○		○	○	普	ヘラナデ	ヘラナデ	
	109	粗製浅鉢	77	D－3	Ⅲa	暗褐色	褐　色	○		○	○	普	ケズリ	横ナデ	
	110	深鉢	433	E－3	Ⅲa	黒褐色	橙　色	○		○	○	普	ナデ	横ナデ	
	111	深鉢	1194	D－4	Ⅲa	暗褐色	橙　色	○		○	○	普	ヘラナデ	横ナデ	
	112	粗製浅鉢	105 221	D－3 D－3	Ⅲa Ⅲa	黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	ヘラナデ	横ナデ	
	113	粗製浅鉢	733	F－2	Ⅳ	橙　色	黄橙色	○		○	○	普	横ナデ	横ナデ	
	114	粗製浅鉢	1288	D－2		明黄褐色	明黄褐色	○		○	○	普	条痕	ナデ・ミガキ	1号土坑
	115	粗製浅鉢	159 167	C－4 C－4	Ⅲa Ⅲa	黒褐色	暗褐色	○		○	○	普	条痕	ミガキ	
	116	粗製浅鉢	970	E－2	Ⅲa	赤褐色	黒褐色	○		○	○	普	条痕	横ナデ	
	117	粗製浅鉢	345	D－3	Ⅲa	にぶい褐色	褐　色	○		○	○	普	ケズリ	横ナデ	
	118	深鉢	323 324	D－4 D－4	Ⅲa Ⅲa	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	ナデ	横ナデ	
150	119	粗製浅鉢	201	C－2	Ⅲa	暗褐色	赤褐色	○		○	○	普	ケズリ	横ナデ	
	120	粗製浅鉢	188	C－3	Ⅲa	にぶい橙色	にぶい褐色	○		○	○	普	ナデ	摩滅	
	121	粗製浅鉢	451	E－3	Ⅲa	にぶい橙色	橙　色	○		○	○	普	条痕	横ナデ	
	122	粗製浅鉢	17	D－5	Ⅲa	暗褐色	明赤褐色	○		○	○	普	ケズリ	横ナデ	
	123	粗製浅鉢	191	C－3	Ⅲa	橙　色	橙　色	○		○	○	普	摩滅	摩滅	
	124	深鉢	356 1165 40 1176	D－3 D－3 D－4 D－4	Ⅲa Ⅲa Ⅲa Ⅲa	橙　色	にぶい黄褐色	○		○	○	普	条痕	横ナデ	
	125	深鉢	81 一括	D－3 D－3	Ⅲa Ⅱ	黄褐色	暗灰黄色	○		○	○	普	条痕・ナデ	横ナデ	
	126	深鉢	97	D－3	Ⅲa	黄褐色	暗褐色	○		○	○	普	条痕	条痕・横ナデ	
	127	粗製浅鉢	116	D－2	Ⅲa	黒褐色	にぶい黄褐色	○		○	○	普	条痕	横ナデ	
	128	粗製浅鉢	367	D－3	Ⅲa	黄褐色	黒褐色	○		○	○	普	ケズリ	ミガキ	
	129	粗製浅鉢	83 388 1290	D－3 D－3 D－2	Ⅲa Ⅲa Ⅲa	橙　色	暗褐色	○		○	○	普	ケズリ	ミガキ	1号土坑
151	130	組織痕文土器	1166	C－3	Ⅲa	暗褐色	橙　色	○		○	○	普	ナデ・組織痕	ナデ	
	131	組織痕文土器	一括		Ⅲa	暗褐色	褐　色	○		○	○	普	ナデ・組織痕	ナデ	
	132	組織痕文土器	一括	D－3	Ⅲa	黒褐色	にぶい褐色	○		○	○	普	ナデ・組織痕	ナデ	
	133	組織痕文土器	1195	C－4	Ⅲa	褐　色	褐　色	○		○	○	普	ナデ・組織痕	ナデ	
	134	組織痕文土器	45 138	D－4 C－5	Ⅲa Ⅲa	赤褐色	赤褐色	○		○	○	普	組織痕	ナデ	
	135	組織痕文土器	392	D－3	Ⅲa	黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	組織痕	ナデ	
	136	組織痕文土器	1204	D－5	Ⅲa	にぶい赤褐色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	組織痕	ナデ	
	137	組織痕文土器	一括	D－5	Ⅱ	明赤褐色	にぶい赤褐色	○		○	○	普	組織痕	ナデ	
	138	組織痕文土器	457	E－3	Ⅲa	橙　色	黒褐色	○		○	○	普	組織痕	丁寧なナデ	
	139	組織痕文土器	43 304	D－4 D－4	Ⅲa Ⅲa	にぶい黄橙色	黒褐色	○		○	○	普	組織痕	丁寧なナデ	
	140	組織痕文土器	99	D－3	Ⅱ	にぶい黄橙色	黒褐色	○		○	○	普	組織痕	丁寧なナデ	

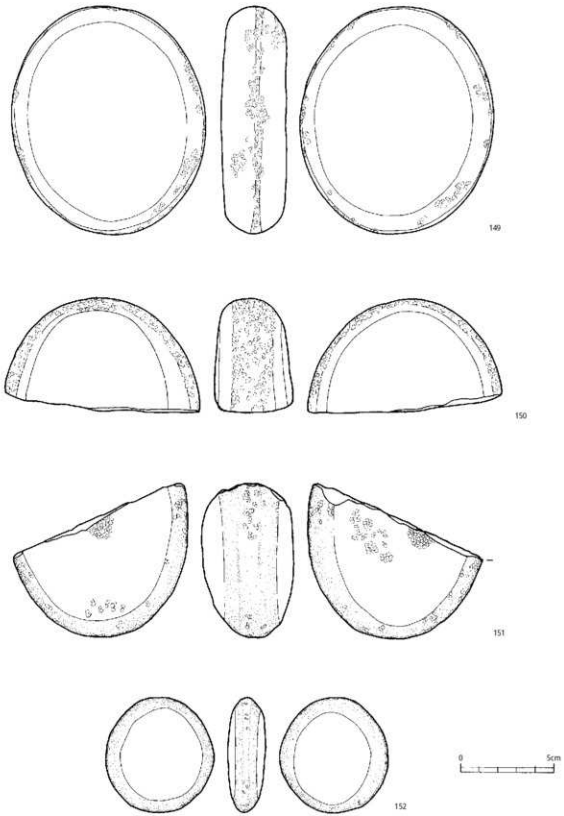
2　石器

Ⅲａ層は縄文時代晩期の包含層である。

石鏃が２点，磨製石斧１点，打製石斧５点，磨・敲石４点が出土している。141・142は安山岩製の石鏃である。いずれも抉りがない。142は主要剥離面を残す。143は頁岩製の磨製石斧である。丁寧な研磨が施されている。144～148はホルンフェルス製の扁平打製石斧である。144は扁平な剥片を素材とし，周縁に粗い整形剥離を施している。145は粗い整形剥離によって形状を整えているが下半部は欠損している。146は丁寧な整形剥離によって形状を整えているが頭部と下半部は欠損している。147・148は扁平な剥片を素材とし周縁に粗い整形剥離を施している。149～152は砂岩製の磨・敲石である。表・裏面に磨面がみられる。いずれもは側円周部に敲打痕が観察される。151は表・裏面にも敲打痕が観察される。



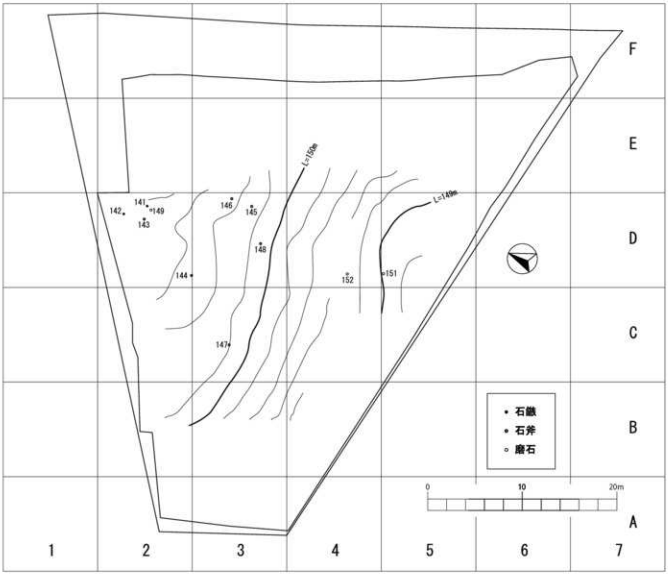
第152図　Ⅲａ層出土石器実測図(1)



第153図　Ⅲ a 層出土石器実測図(2)

第50表　Ⅲａ層出土石器観察表

挿図番号	図番号	器　種	取上番号	出土区	層位	石　　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
145	87	砥石	1582	D－2	Ⅲａ	砂岩	8.3	3.9	2.3	158	土器集中1
152	141	石鏃	966	D－2	Ⅲａ	安山岩	1.6	1.5	0.35	0.69	
	142	石鏃	1336	D－2	Ⅲａ	安山岩	2.3	1.3	0.4	1.09	
	143	磨製石斧	866	D－2	Ⅲａ	頁岩	7.7	4.9	1.5	96	
	144	打製石斧	106	D－2	Ⅲａ	ホルンフェルス	12.4	6.9	1.5	118	
	145	打製石斧	387	D－3	Ⅲａ	ホルンフェルス	7.6	5.1	1.2	60	
	146	打製石斧	395	D－3	Ⅲａ	ホルンフェルス	7.8	6.95	2.2	140	
	147	打製石斧	470	C－3	Ⅲａ	ホルンフェルス	10.7	5.8	1.4	100	
	148	打製石斧	366	D－3	Ⅲａ	ホルンフェルス	7.2	6.15	1.8	102	
153	149	磨・敲石	959	D－2	Ⅲａ	頁岩	12	10.4	3.5	700	
	150	磨・敲石	－	－	表採	砂岩	6	10.3	4.2	380	
	151	磨・敲石	22	D－5	Ⅲａ	砂岩	8.2	9.3	4.9	388	
	152	磨・敲石	39	D－4	Ⅳａ	砂岩	6.2	6.8	2.1	105	



第154図　Ⅲａ層出土石器出土状況図

第４章　古代以降の調査

第１節　概要

表土直下において，溝状遺構が４つ発見された。遺跡自体が北側から南側へかけて傾斜しているが，いずれの溝状遺構も北側については残存状態が比較的良好で，南側へ下るに従って次第に消えてしまっている。このうち１つについては，硬化面を持つ部分がみられることから，道路状遺構とした。

第２節　遺構

溝状遺構１号

Ｂ－２・３・４区において，約14mの長さで検出された。断面部分で深さ約20cmで，最大幅が約110cmである。埋土には上部にⅡ層類似の黒色土が入っているので，他の溝状遺構よりも古い可能性がある。

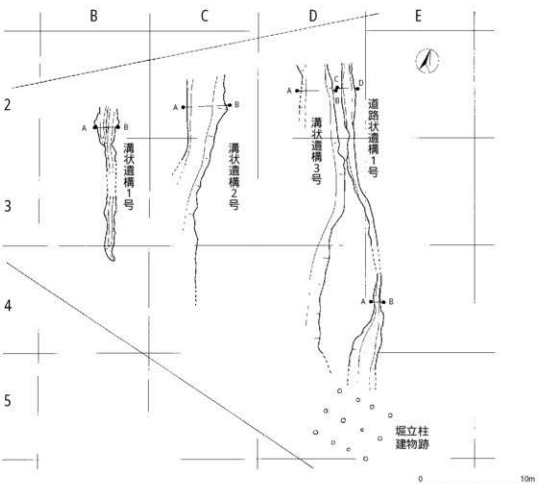
溝状遺構２号

Ｃ－２・３・４区において，最大で約20mの長さで検出された。Ｃ－２区とＣ－３区の境目付近で西側にカーブを描くが，その付近から西側は既に破壊されていた。断面部分で深さ約50cmで，最大幅が約420cmである。埋土には表土が上層に入り込んでおり，その下層にはⅡ層類似の黒色土が堆積する。また，両者の間には砂粒層が断続的に挟まれている。この層は白色もしくは灰白色を呈するもので，粒子の大きさが１～２mm程度であり，ブロック状の塊で検出されるという特徴から桜島起源のＰ２（安永８年【1779年】に堆積）である可能性がある。

遺構内から，縄文時代晩期から近世にかけての遺物が数点出土している。遺物は小破片がほとんどであったが，このうち３点について図化した。153は縄文時代晩期から弥生早期の頃にみられる壺の肩部分である。内外面にケズリを施すが，基本的には頸部より上についてはナデである。赤色を呈しているので，赤色顔料が塗彩された可能性がある。154は縄文時代晩期の深鉢の底部である。155は産地不明の近世陶器椀である。化粧土を施した上にさらに釉薬かけた非常に手のこんだ作りをしている。手法は龍門司焼系に似るが，類似の資料は発見されていない。時期は18世紀後半から19世紀頃の可能性が高い。

溝状遺構３号

Ｄ－２～５区において，最大値で30mの長さで検出された。全体的に蛇行している様子が窺えるが，Ｄ－２区とＤ－３区の境目付近でおおよそ西側半分が既に破壊されており，詳細



第155図　古代以降遺構配置図

は不明である。断面部分で深さ約30cmで，最大幅が約３ｍである。埋土には表土が入っており，その下にはⅡ層類似の黒色土層が堆積する。

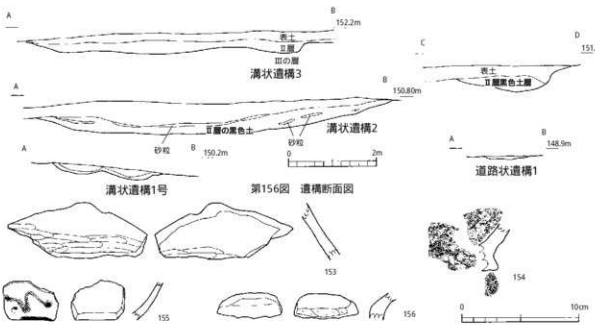
道路状遺構１号

Ｄ－２・３区，Ｄ－４・５区及びＥ－２・３・４・５区で最大値で約30mの長さで検出された。ただし，実際はＥ－３区とＥ－４区の境目付近で一旦途切れている。全面ではないが，一部に硬化面を持つため，道路状遺構とした。断面部分で深さ約40cmで，最大幅が約280cmである。埋土には表層土が入り込んでおり，その下層にはⅡ層類似の黒色土層が堆積する。遺構内から，縄文時代晩期から古代にかけての遺物が数点出土している。遺物は小破片がほとんどであったが，このうち１点について図化した。156は古代の土師器甕の頸部である。残存状態は良好でないが，内面についてヘラケズリ痕が観察される。

掘立柱建物跡

Ｄ・Ｅ－５・６区において検出された。本来は，Ⅲａ層で検出されるべき遺構であるが，周辺が無遺物層であったために重機で掘削していたところ，Ⅳａ層上面で検出されたものである。

２間×３間の総柱建物であるので倉庫などの用途が考えられる。ただし，Ｐ６のみが深さが極端に浅いので，通常の倉庫とは性格が異なる建物である可能性も指摘しておきたい。各ピット（柱穴）の規模については第51表のとおりである。基本的には全てのピットで，柱根とみられる痕跡が残っていた。ただし，この痕跡の下部の層がしまっていないものがあり，柱痕跡ではないものも含んでいる可能性がある。Ｐ５とＰ７からは，遺物が出土した。158は土師器の坏もしくは碗の口縁部である。158は甕もしくは鉢の口縁部である。いずれも古代（平安時代）のもので，掘立柱建物についても古代のものであると考えられる。



第157図　遺構内遺物実測図(2)

第51表　遺構内遺物観察表(2)

挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
156	153	一括	－	溝2	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	普	ミガキ	ナデ	
	154	一括	－	溝Ⅲａ	赤褐色	暗褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	155	一括	－	溝2Ⅲａ	－	－						－	－	
	156	一括	Ｄ－５	道1	明褐色	明褐色	○	○	○	○	普	ナデ	ケズリ・ナデ	
159	157	1425	Ｅ－５	柱5	明赤褐色	明赤褐色	○		○	○	良	ナデ	ケズリ・ナデ	
	158	1446	Ｄ－５	柱7	黄橙色	黄橙色	○			○	良	ナデ	ナデ	

第158図　掘立柱建物跡実測図

第159図　柱穴内遺物実測図

第52表　掘立柱建物跡計測表

桁　行	桁行柱間		
P 1～P 4	P 1～P 2	P 2～P 3	P 3～P 4
5.44	1.96	1.46	2.02
P 5～P 8	P 5～P 6	P 6～P 7	P 7～P 8
5.92	1.96	2.02	1.94
P 9～P12	P 9～P10	P10～P11	P11～P12
5.48	1.86	1.62	2

梁　行	梁行柱間	
P 1～P 9	P 1～P 5	P 5～P 9
4.78	2.48	2.34
P 2～P10	P 2～P 6	P 6～P10
4.74	2.44	2.3
P 3～P11	P 3～P 7	P 7～P11
4.76	2.4	2.4
P 4～P12	P 4～P 8	P 8～P12
4.6	2.3	2.32

第53表　柱穴内埋土注記

A	黄　褐　色	a	しまりなし
		b	しまり弱い
		c	しまりあり
B	灰　黄　褐　色	a	しまりなし
		b	しまり弱い
		c	しまりあり
		d	粘質土
C	黒　褐　色	a	しまりなし
		b	しまり弱い
		c	しまりあり
D	褐　灰　色	a	しまりなし
		b	しまり弱い
		c	しまりあり
E	にぶい黄褐色	a	しまりなし
		b	しまり弱い
		c	しまりあり
F	暗オリーブ	a	しまりなし
		b	しまり弱い
		c	しまりあり
G	橙　色	a	しまりなし
		b	しまり弱い
		c	しまりあり
H	灰　褐　色		アカホヤ混りの土。しまりあり

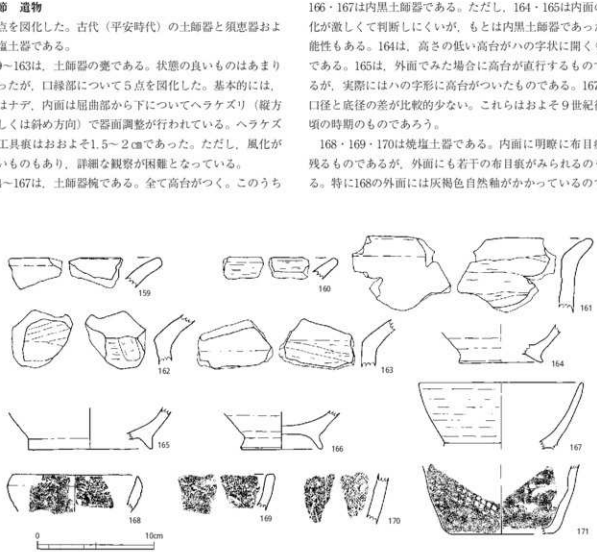
第3節　遺物

13点を図化した。古代（平安時代）の土師器と須恵器および焼塩土器である。

159～163は，土師器の甕である。状態の良いものはあまりなかったが，口縁部について5点を図化した。基本的には，外面はナデ，内面は屈曲部から下についてヘラケズリ（縦方向もしくは斜め方向）で器面調整が行われている。ヘラケズりの工具痕はおおよそ1.5～2㎝であった。ただし，風化が激しいものもあり，詳細な観察が困難となっている。

164～167は，土師器椀である。全て高台がつく。このうち166・167は内黒土師器である。ただし，164・165は内面の風化が激しくて判断しにくいが，もとは内黒土師器であった可能性もある。164は，高さの低い高台がハの字状に開くものである。165は，外面でみた場合に高台が直行するものであるが，実際にはハの字形に高台がついたものである。167は，口径と底径の差が比較的少ない。これらはおよそ9世紀後半頃の時期のものであろう。

168・169・170は焼塩土器である。内面に明瞭に布目痕が残るものであるが，外面にも若干の布目痕がみられるのもある。特に168の外面には灰褐色自然釉がかかっているので，



第160図　古代以降遺物実測図

窯で焼成されたことがわかる。171は須恵器である。外面には格子目タタキ目が内面にはヘラケズリが施される。底部のみであるので器種は不明であるが，内面にはタタキがないことから，ここでは甕の可能性を指摘しておきたい。

第54表　古代以降土器観察表

挿図番号	図番号	取上番号	出土区	層位	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 石英	胎土 長石	胎土 砂粒	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
161	159	一括	C－1	Ⅲ	明赤褐色	橙色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	160	一括	D－3	Ⅱ	明赤褐色	にぶい橙色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	161	一括	－	－	明赤褐色	明赤褐色	○		○	○	普	ナデ	ケズリ・ナデ	
	162	一括	－	溝	にぶい橙色	橙色	○		○	○	普	ナデ	ケズリ・ナデ	
	163	一括	C－1	Ⅱ	暗褐色	明赤褐色	○		○	○	普	ナデ	ケズリ・ナデ	
	164	一括	D－4	Ⅱ	橙色	橙色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	165	1062	E－6	Ⅲa	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	166	一括	C－5	Ⅱ	にぶい黄橙色	黒褐色	○		○	○	普	ナデ	ミガキ	
	167	一括	D－5	Ⅱ	にぶい橙色	黒褐色	○		○	○	普	ナデ	ナデ	
	168	－	D－4	Ⅲa	褐灰色	橙色	○		○	○	普	布目痕・ナデ	布目痕	
	169	一括	D－5	表層	橙色	橙色	○		○	○	普	布目痕・ナデ	布目痕	
	170	一括	C－5	表層	橙色	橙色	○		○	○	普	布目痕・ナデ	布目痕	
	171	－	－	表層	褐灰色	褐灰色	○		○		良	格子叩き目	ナデ	

第５章　小結

縄文時代早期

Ⅰ類土器からⅢ類土器は早期前葉に，Ⅳ類土器からⅥ類土器は中葉，Ⅶ類・Ⅷ類土器は後葉に該当する。

Ⅰ類土器は，典型的な円筒土器で前平式土器に比定される。口縁部外面の刺突文は１段に巡るが，施文具がヘラ状と貝殻腹縁の２種類がある。

Ⅱ類土器は，貝殻刺突文線で構成する円筒形土器で，Ⅰ類土器と吉田式土器とを繋ぐとされる加栗山式土器（或いは知覧式土器）と呼ばれる。

Ⅲ類土器は，文様の構成から石坂式土器と呼ばれるタイプである。28・30のように，口縁部が肥厚した典型的な石坂式土器に類似したものもあるが，口縁部が直行し，胴部の条痕文が乱れたものがあり，石坂式土器の中でも後出するタイプと考えられる。

Ⅳ類土器は，いわゆる下剥峰式土器と呼ばれるタイプで，口縁部が内弯し，口唇部が肥厚して内傾した特徴的な形態である。

Ⅴ類土器は，口縁部から胴部の外面に羽状の擦描き文を描くタイプである。基本的には口縁部は内弯し，口縁端部が肥厚して口唇平坦部が内傾するが，41は口縁部は肥厚するが，内弯せず外反している。施文から早期中葉の桑ノ丸式土器に比定される。

Ⅵ類土器は器形が尖底の形態から平底化したもので，早期中葉の押型文土器の器形に類似する。

Ⅶ類土器は，口縁部が短く外反し，胴部には縦位に撚糸文を施文し，その上から頸部及び胴部中央に横位の凹線文を巡らせる。このタイプは，早期後葉の石坂遺跡出土の土器群に対比できるもので，塞ノ神Ａ式土器或いは平栫式土器と称されるものである。壺形土器も存在する。

Ⅷ類土器は，口縁部が短く外反し，胴部には縦位に撚糸文を施文し，その上から頸部及び胴部中央に横位の凹線文を巡らせる。このタイプは，早期後葉の平栫土器様式の石坂上式土器に比定されるものである（塞ノ神Ａａ式土器と同じ）。壺形土器も存在する。

縄文時代晩期

遺構は土坑１基と土器集中部が２か所検出された。土坑内で砥石が出土しているが，その性格については不明である。

土器は黒川式土器を主体とする。ただし，中岳式土器（95）と入佐式土器（100～102・118）を少量含んでいる可能性もある。

黒川式土器には深鉢，粗製浅鉢，精製浅鉢，組織痕文土器があり，中でも煤の付着した粗製浅鉢の出土が目立つ。深鉢の口縁部は３点出土しており，124は無刻目突帯文を施す。粗製浅鉢はボール状を呈すると思われ，口唇部にリボン状突起を施すものもある。作りが粗雑で，外面に条痕・ケズリ，内面に粗いナデを施す。

本遺跡の土器を堂込編年に対応させてみると，①無刻目突帯文土器が存在する，②粗製浅鉢が堂込編年の浅鉢Ａ・Ｂに相当する，③組織痕文土器の出土が確認できることから黒川式土器中様式から新様式に相当するといえる。

石器は打製石鏃２点，磨製石斧１点，打製石斧５点，磨石・敲石４点が，Ｃ・Ｄ－２～５区で散発的に出土している。

遺構・遺物の数が少なく，遺跡自体の規模も小さいことから，本遺跡は黒川式土器中様式から新様式に形成されたキャンプサイトであると想定しておきたい。

Ⅶ　谷ヶ迫遺跡

第１章　調査の概要

谷ヶ迫遺跡は，志布志市有明町に所在し，志布志市有明町の北部に位置している。東を流れる安楽川と西側を流れる菱田川に挟まれた標高160mの尾根上の台地に存在する。

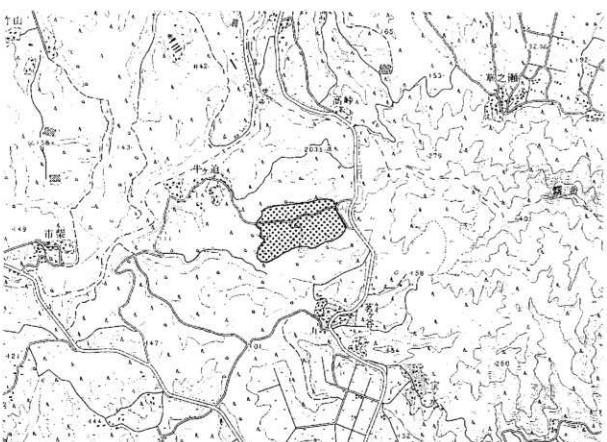
谷ヶ迫遺跡では当初17,000㎡を対象に25本の確認トレンチを設定して確認調査を実施した。表土は重機により除去し，その後は人力により掘り下げを行い，二次シラス上面まで掘り下げた。

確認調査の結果，７・16・25トレンチで遺物の出土がみられた。しかし，７トレンチでは縄文時代早期の土器が12点，25トレンチでは黒曜石が1点と出土数は少なかった。16トレンチは他の２本のトレンチに比べると，多くの遺物が出土した。それらの３本のトレンチをそれぞれ拡張して調査を行った。結果として，７・25トレンチの拡張部分から遺物の出土はみられなかった。16トレンチからは多くの遺物が出土した。

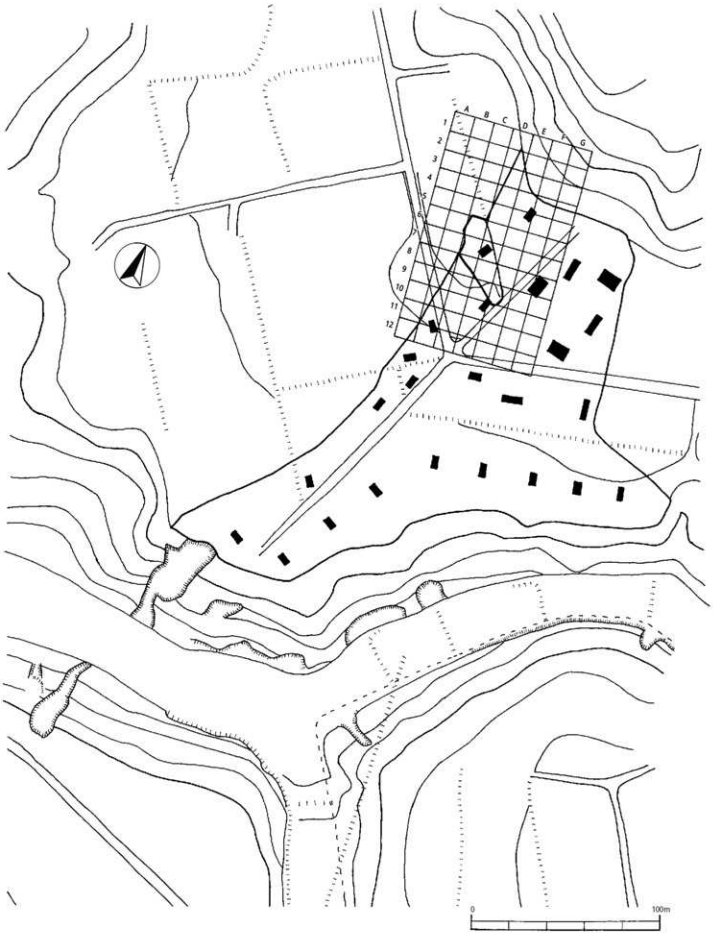
以上の結果から，遺物包含層は16トレンチ周辺に存在していると考え，16トレンチを中心とする450㎡の範囲を本調査することとした。

本調査は，測量基準として，施工計画図面のセンター杭を基準として，南北方向に１・２・３～，東西方向にＡ・Ｂ・Ｃ～とする10m間隔の調査用の区割り（グリッド）を設定して実施した。

本調査の結果，縄文時代後期から晩期にかけての遺物が出土した。しかし，出土した遺物は全体的に，細片が多く，ローリングを受けたような土器も多くみられた。



第161図　谷ヶ迫遺跡周辺地形図



第162図　谷ヶ迫遺跡グリッド配置図

第２章　縄文時代早期の調査

縄文時代早期の土器は７トレンチで出土した。出土した土器片は12点で，遺構は検出されなかった。遺物の出土がみられたため，南東方向へトレンチを拡張して調査を進めた。しかし，拡張部分から遺構・遺物の発見はなかった。また，出土したのは土器のみで，石器は検出されなかった。

出土した土器は全体的に砕けたような状態での出土であったため，図化できる物が少なく，３点のみ図化した。

１類土器は1個体になる可能性のあるもので，口縁部から胴部にかけての破片はみられるが，底部はみられなかった。文様は微隆起突帯が器面全体に施してある。

１は口縁部である。口縁部付近に斜位に微隆起突帯が施してある。微隆起突帯の間はヘラ状の工具による調整の跡がみられ，内面もヘラ状工具による横位の調整がみられる。２は胴部の屈曲部であろうと思われる。内外面の調整については１と同様である。３も胴部破片であろうと思われる。調整については同様である。

第163図　縄文時代早期土器実測図

第３章　縄文時代後期の調査

縄文時代後期と晩期の土器は，同一層から出土した。そのため，細片についてはその所属ははっきりわからないものも多かった。

Ⅱ類土器は口縁部に近い部分に刺突もしくは沈線の文様が施されている。４の口縁部は粘土紐をねじり，ほぼ平坦な口唇部に乗せ貼りつけている。その下には，竹管状の施文具により太い刺突文が施されている。地紋は貝殻条痕文で調整されている。内面は，板状工具により調整されている。５は口唇部は残存していないが，口縁部は太い沈線が流線状に施され，胴部はほぼ斜位の貝殻条痕文で調整されている。内面は板状の工具により調整されている。

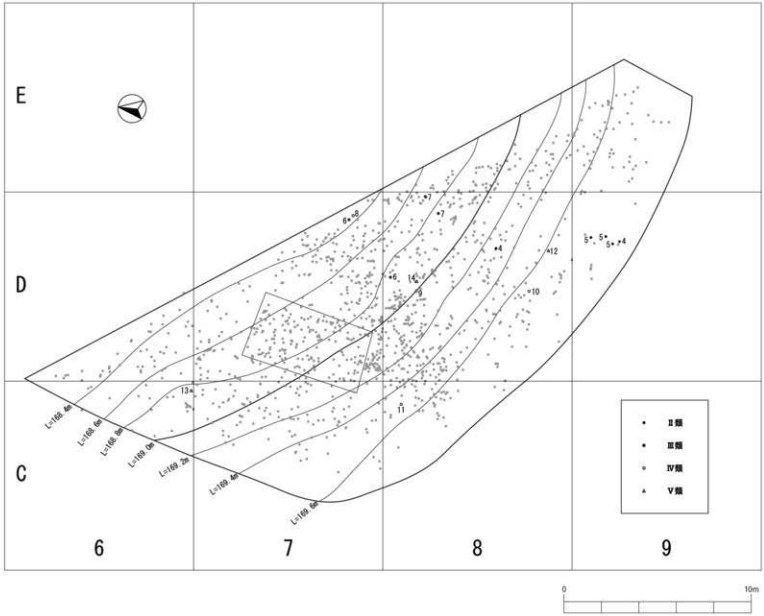
Ⅲ類土器は金雲母を含んでいる土器である。出土点数は少なかった。６・７は１個体になる可能性もある。口縁部・胴部が出土していないため，型式は判明しない。内外面ともに板状工具により調整されている。

Ⅳ類土器は口縁部付近が肥厚する土器である。８は口縁部付近が肥厚し，その部分を文様帯として，横位の細い沈線と流線状の太い沈線が施されている。内外面とも板状工具による調整が施されている。９は８に比べると文様帯の部分が狭い。また，文様帯への施文はされていない。外面・内面とも板状工具による調整がみられるが，口唇部に近い部分の調整は浅い沈線を施しているようにも見える。10・11は胴部である。10の調整ははっきりしないが，11の外面は貝殻条痕文，内面は板状工具による調整がみられる。

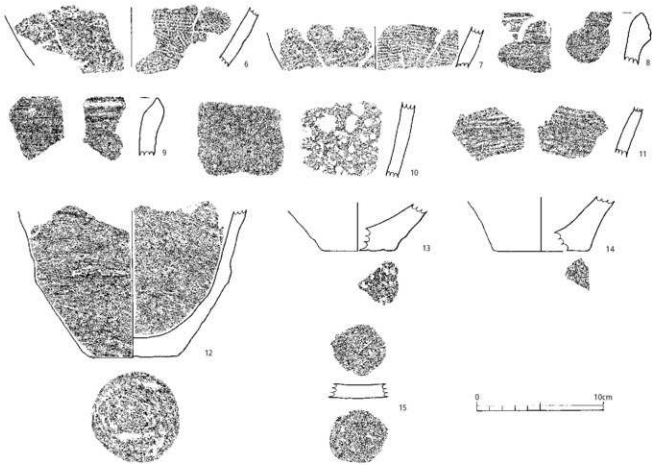
Ⅴ類土器は底部である。12は胴部から底部にかけての部分が残存していた。底部に近い部分に段を持つのが特色である。内外面とも板状の工具により調整がしてある。底はやや上げ底の形態をなす。13は調整がはっきりしない。底は上げ底を呈するように見える。

14は類別してはいない土器である。15はメンコ形土製品である。

第164図　縄文時代後期土器実測図(1)



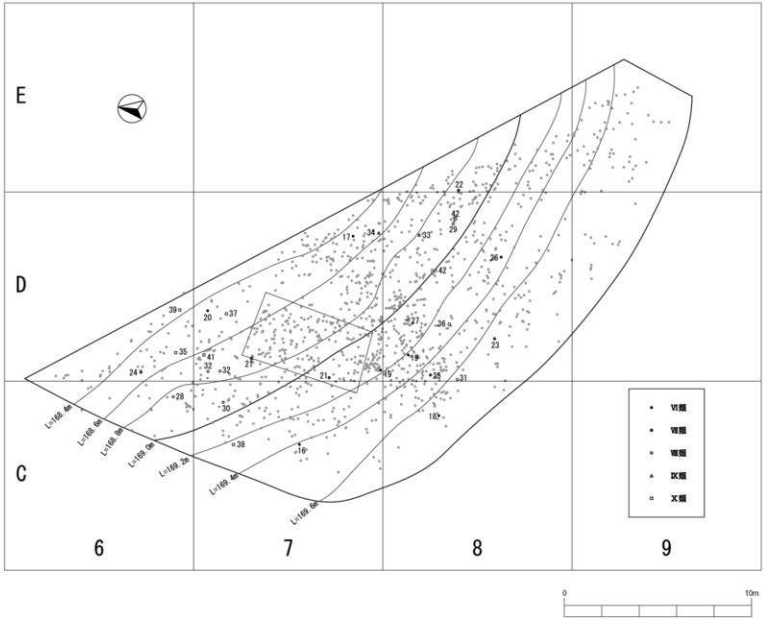
第165図　縄文時代後期土器出土状況図



第166図　縄文時代後期土器実測図(2)

第55表　縄文時代早期・後期土器観察表

挿図番号	図番号	出土区	層位	色調 外	色調 内	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	文様・調整 外面	文様・調整 内面	備考
163	1	7T	V	浅黄色	にぶい黄色	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	2	7T	V	にぶい黄橙色	にぶい黄色	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	3	7T	V	にぶい黄橙色	にぶい黄色	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
164	4	D－9	Ⅲa	暗褐色	黒褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	D－8
	5	D－9	Ⅲa	暗赤褐色	黒褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
165	6	D－7	Ⅲa	にぶい黄褐色	にぶい褐色		○		雲母	普	ナデ	ナデ	
	7	D－7	Ⅲa	にぶい黄褐色	にぶい褐色		○		雲母	普	ナデ	ナデ	D－8
	8	D－8	Ⅲa	黒褐色	暗赤褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	9	D－8	Ⅲa	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	10	D－8	Ⅲa	にぶい赤褐色	暗赤褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	11	C－8	Ⅲa	暗赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○		普	条痕	ナデ	
	12	D－8	Ⅲa	橙色	橙色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	13	C－6	Ⅲa	橙色	にぶい黄橙色	○	○	○		普	－	－	
	14	D－8	Ⅲa	橙色	黒褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	15	C．D－6～	Ⅱ	にぶい褐色	にぶい黄橙色	○	○	○	雲母	普	ナデ	ナデ	C．D－9



第167図　縄文時代晩期土器出土状況図

該当期の出土遺物が一番多かったが，縄文時代後期同様細片が多く図化できたのはわずかであった。

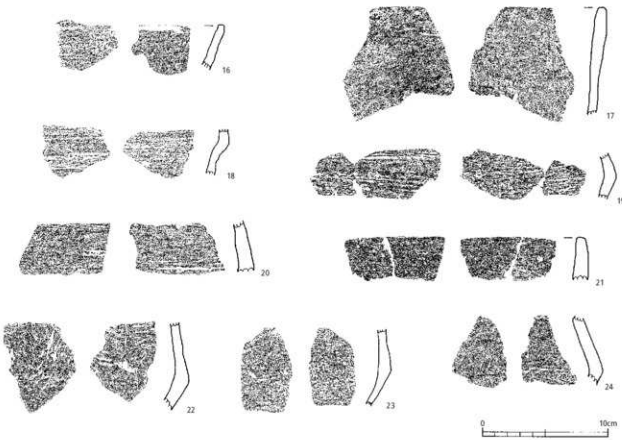
Ⅵ類土器は深鉢である。16・17は口縁部である。16は内外面とも板状の工具により調整されている。外面にはスス痕のようなものが観察できる。17は外反する口縁部である。内外面とも板状工具による調整がみられるがはっきりしない。18・19は口縁部に近い部分であろうと思われる。頸部にかけて屈曲がみられる。16～19については，口縁部に文様はみられない。内外面ともに板状の工具による調整がみられる。20は胴部である。内外面ともにヘラ状の工具による調整がみられる。

Ⅶ類土器は深鉢でⅥ類と調整方法が違うものである。21の外面は板状の工具で，内面はヘラ状の工具により調整されている。22～24は胴部の屈曲部である。板状工具による調整とヘラ状工具による調整がみられる。板状工具による調整は，Ⅵ類土器に比べると非常に丁寧にみられる。25・26は胴部である。外面は板状工具による調整が行われている。25の内面は板状工具とヘラ状工具による調整がみられる。26はヘラ状工具による調整がみられる。

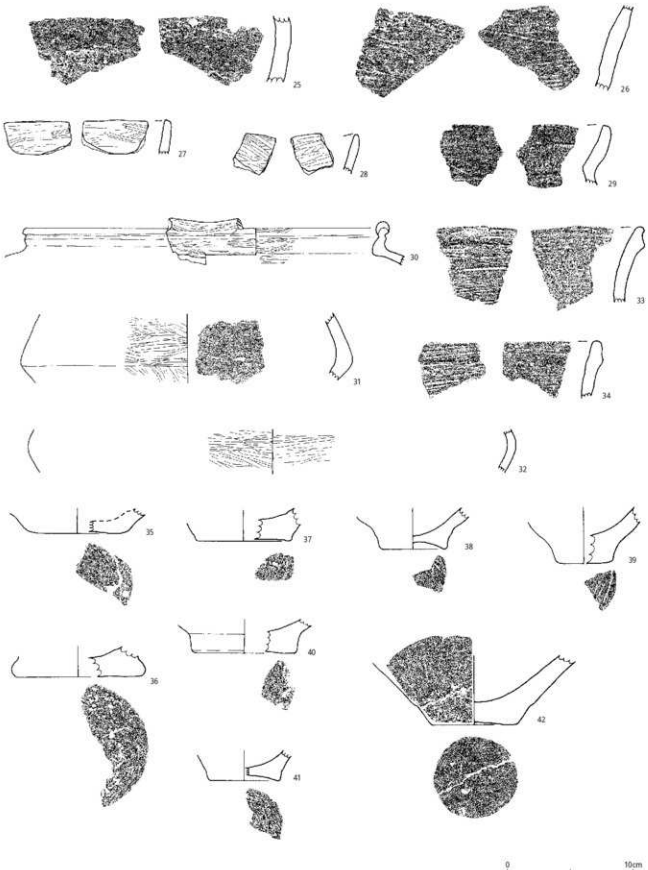
Ⅷ類土器は浅鉢である。27～30は口縁部である。27は内外面ともにヘラ状の工具で丁寧に調整されている。28は波状口縁になる口縁部で，27同様丁寧な調整である。29は外反する口縁部で屈曲をなす頸部まで残っていた。全体的にヘラ状工具により調整されていた。30は口縁部にリボン状の突帯がついた土器で，口縁部に１条の沈線が巡る。内外面ともにヘラ状工具による丁寧な調整がみられる。31・32は胴部である。いずれも屈曲部である。内外面ともにヘラ状の工具により調整がみられる。

Ⅸ類土器は口縁部下に１条の低い突帯文が巡る土器である。後出する夜臼式土器に類似するが最大の特色である刻目が施されていない。内外面ともに板状工具により調整が施されている。外反する口縁であるが，33の胴部は屈曲すると思われる。

Ⅹ類土器は底部である。全体的に張り出しを持つ底部である。35は張り出し部分はない。浅鉢の底部ではないかと思われる。残存状態が悪く調整がはっきりしないが，外面はヘラ状の工具による調整がみられ，内面は剥落してはっきりしない。36～38は板状の工具により調整された底部である。36・37は平底の形態をなし，38は上げ底の形態をなす。38～41は底部の立ち上がり部分にヘラ状の調整を持つものである。39・40は平底の形態をなし，41はやや上げ底である。42はヘラ状の工具により調整がされているが，張り出し部分がない。他の底部とは趣が異なる土器である。



第168図　縄文時代晩期土器実測図(1)



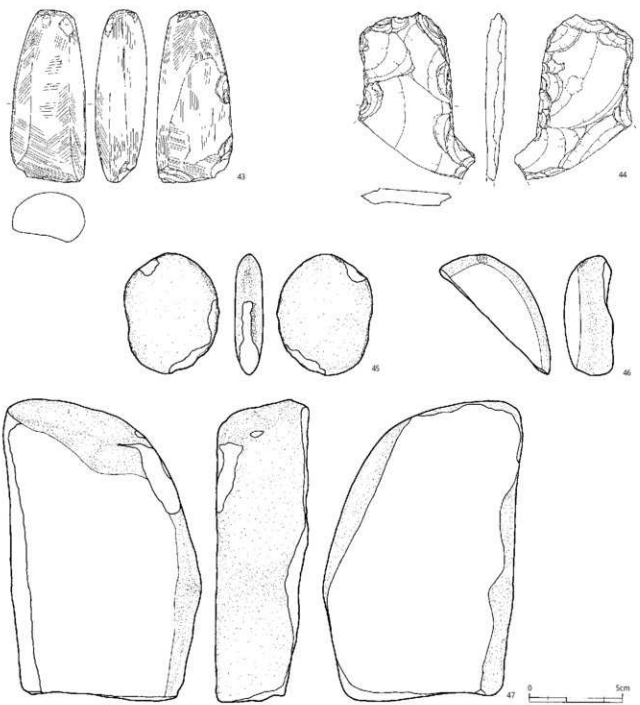
第169図　縄文時代晩期土器実測図(2)

第56表　縄文晩期土器観察表

挿図番号	図番号	出土区	層位	色調		胎土				焼成	文様・調整		備考
				外	内	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
168	16	C－9	Ⅲa	にぶい橙色	にぶい橙色	○	○	○		普	ナデ	丁寧なナデ	
	17	D－7	Ⅲa	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	18	C－8	Ⅲa	暗褐色	にぶい黄橙色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	19	D－8	Ⅲa	暗褐色	にぶい黄橙色	○	○			普	ナデ	ナデ	D－7
	20	D－7	Ⅲa	暗褐色	褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	21	16T	Ⅲa	褐色	暗褐色	○	○	○	雲母	普	ナデ	ナデ	
	22	E－8	Ⅲa	にぶい黄橙色	暗褐色	○	○	○		普	丁寧なナデ	ナデ	
	23	D－8	Ⅲa	にぶい褐色	灰黄褐色	○	○	○		普	丁寧なナデ	ナデ	
	24	D－6	Ⅲa	暗褐色	褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
169	25	D－8	Ⅲa	にぶい橙色	灰黄褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	26	D－8	Ⅲa	暗褐色	黒褐色	○	○			普	ナデ	ナデ	
	27	D－8	Ⅲa	黒褐色	黒褐色	○	○	○		良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	28	C－6	Ⅲa	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		○			良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	29	D－8	Ⅲa	暗褐色	暗褐色		○	○		良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	30	C－7	Ⅲa	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○		良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	31	D－8	Ⅲa	橙色	にぶい黄褐色	○	○	○		良	ヘラミガキ	ナデ	
	32	D－7	Ⅲa	にぶい黄橙色	暗灰黄色	○	○	○		良	ヘラミガキ	ヘラナデ	
	33	D－8	Ⅲa	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	34	D－7	Ⅲa	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	35	D－6	Ⅵ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	36	D－8	Ⅲa	赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	○		普	ナデ	ナデ	
	37	D－7	Ⅲa	にぶい黄橙色	褐灰色		○			普	ナデ	ナデ	
	38	C－7	Ⅲa	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色		○	○		普	ナデ	ナデ	
	39	D－6	Ⅲa	褐色	にぶい黄褐色		○	○		良	丁寧なナデ	ナデ	
	40	－	Ⅲa	にぶい赤褐色	黒褐色		○	○		普	丁寧なナデ	ナデ	
	41	D－7	Ⅲa	浅黄橙色	灰黄褐色		○	○		普	ナデ	ナデ	
	42	D－8	Ⅲa	にぶい褐色	黒褐色	○	○	○		良	ナデ	ナデ	

縄文時代後期と晩期はともにⅢ層からの出土であったため，石器についてはその所属ははっきりしない。遺物量は縄文時代晩期の方がやや多く出土していることから，石器についても晩期に所属する可能性が高い。しかし，石器全体をみると，出土量も少なく，石器とみられるものも少なく判別の難しいものも多かった。

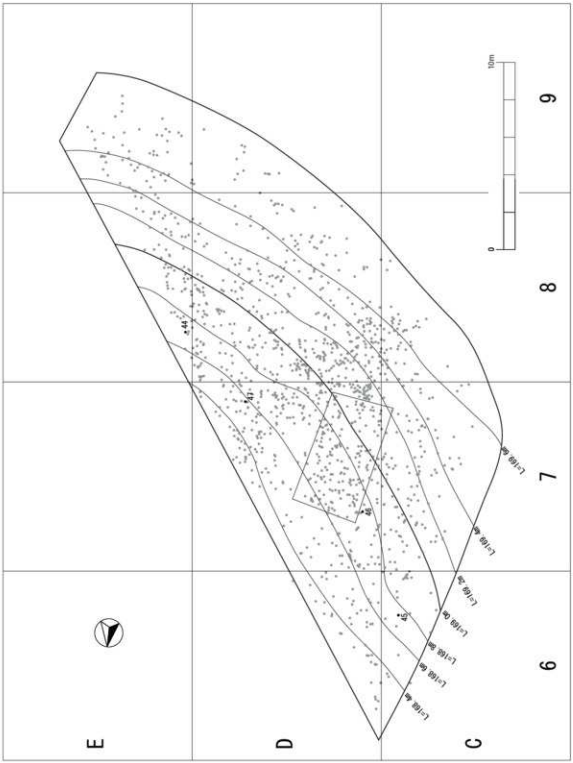
43は小型の磨製石斧である。包含層出土ではないが掲載した。全体を丁寧に磨いてあるが，刃部は欠損しているため刃部の形状ははっきりしない。また，刃部付近も一部欠損している。44は打製石斧の一部であろうと思われる。刃部は残存していなかった。47は石皿の一部ではないかと思われる。46は磨石と思われる。一部しか残存していなかった。45は使途不明の石器である。磨石のようにも見えるが，周辺部を打ち欠いているように見えるため何か石器を作る途中にも見える。石錘の可能性も考えられる。



第170図　Ⅲ層出土石器

第57表　Ⅲ層石器観察表

挿図番号	図番号	器種	取上番号	出土区	層位	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考
170	43	磨製石斧	－	－	表採	頁岩	9.2	4	2.75	142.03	
	44	打製石斧	327	E－8	3a	ホルンフェルス	8.9	6.25	1.05	54.77	
	45	不明	835	C－6	3a	砂岩	6.5	5	1.3	80	
	46	磨石	657	D－7	3a	砂岩	8.2	2.7	2.2	80	
	47	石皿	551	6T	3a	砂岩	15.3	9.9	3.85	1200	



第171図　Ⅲ層石器出土状況図

第６章　小結

縄文時代早期の土器（Ⅰ類土器）は細片のみ12点出土した。微隆起突帯のある文様や形態から手向山式土器である。手向山式土器は縄文時代早期中葉に比定される押型文土器の終末期に位置付けされる土器である。遺物が出土した７トレンチは，拡張して調査を行ったが周辺から遺物の出土はみられなかった。狭い範囲に集中しており，一個体と思われる。

縄文時代後期と晩期の遺物が Ⅱ層から出土したが，層序による時期の判断はできなかった。遺構は両時期ともみられなかった。

Ⅱ類土器は岩崎上層式土器と思われる。口縁部付近を文様帯として，太い沈線を流線状に施しているのが特色であるが，４は竹管状の工具により太い刺突文が施されている。

Ⅲ類土器は金雲母が多く含まれているため分類したが，口縁部など時期判断できる材料がないため土器型式についてはっきりわからない。

Ⅳ類土器は中岳式土器と思われる。縄文時代後期終末期に位置づけられる土器である。８は口縁部が肥厚し，そこに文様帯をもつ遺物であるが，９は文様帯の部分が非常に狭い。これがバリエーションの違いなのか時期差なのかはっきりしない。時期差とすれば中岳式ではなく晩期の土器の可能性もある。今回の調査においては，細片が多かったため土器全体の形が把握しにくく，土器型式の判断もしにくかった。

Ⅴ類土器は縄文時代後期該当の底部である。後期については，前葉から後葉にかけての土器が出土しているためその所属については判別が難しかった。

類別はしていないが，メンコ形土製品が出土した。メンコ形土製品は後期に多く出土することが知られている。

縄文時代晩期の遺構は検出されず，遺物は深鉢と浅鉢の両方が出土した。

Ⅵ類土器は粗製の深鉢である。内外面ともに板状工具により粗い調整が行われている。

Ⅶ類土器は全体的に外面が板状工具で内面がヘラ状工具により調整がされている。

Ⅷ類土器は精製の浅鉢である。全体的にヘラ状の工具により丁寧な調整が行われている。30は口縁部にリボン状の突起がついている。これは晩期の中でも後葉に位置づけられる黒川式土器の特色である。

Ⅸ類土器は口縁部下に１条の突帯文が巡る。晩期終末期に口縁部がやや張り出し口縁部下に１条の突帯が巡り，それぞれに刻目を施す夜臼式土器といわれる土器がある。Ⅸ類土器は刻目がないだけで形態的には夜臼式土器によく似ている。黒川式土器と夜臼式土器との間に存在する土器ではないかと思われる。

Ⅹ類土器は，晩期土器の底部である。全体的に張り出す底部である。42は形態を異にする土器である。

石器に関しては，時代の所属ははっきりしない。また，出土した遺物についても剥片類が多く，明確に石器であるという遺物は少なかった。

谷ヶ迫遺跡は全体的に出土した遺物は細片が多く，またローリングを受けたような遺物も多かった。遺物の出土した地形が谷へ落ちていく斜面であったためと考えられる。このことから遺跡は台地上に立地していたものと思われる。遺跡が存在していたであろうと考えられる台地は，後世の開発により大きく削平されていて，場所によっては表土直下にシラスがあるという場所もあった。

縄文時代後期前葉から縄文時代後期終末までの土器が多くみられた。途中で断絶の時期もあったようであるが，長い期間遺跡が存在していたようである。

Ⅷ まとめ

1 旧石器時代

15か所のブロックから，三稜尖頭器を主体とする石器群が出土した。石器組成は小型三稜尖頭器を中心とするほぼ単純組成であり，当該期の石器群の内容を知る上で貴重な資料である。ここでは，主体となる小型三稜尖頭器およびその関連資料について，若干の検討を行っておきたい。

本遺跡で出土した小型三稜尖頭器は，石材によって若干の変異がみられるものの，主軸長30㎜～40㎜程度のものが多い。関連資料については調整剥片などが散見されるが，遺跡内に素材剥片の生産を示す大型の剥片や石核，接合資料はみられない。素材剥片の生産は遺跡外で行われ，遺跡内には素材剥片を搬入して石器製作が行われたものと考えられる。調整剥片にはやや大ぶりなものもみられるが，調整剥片や製品のサイズを考慮すると12の資料が素材剥片となる可能性が高い。

製品のサイズについては，12の素材剥片や2の未製品，調整がいびつでそのまま放棄された可能性が高い4などが主軸長45㎜～50㎜程度，全体形を復元可能なもので製作の最終段階や使用によって破断したと考えられる1や38～41が主軸長40㎜～45㎜程度，完形品のまま残されている22，23，37が主軸長30㎜～35㎜程度となり，各資料が属する段階によって一定の規格性を抽出できる。三稜尖頭器のリダクションに直接関連する接合資料が十分に得られていないこともあり確証は得られないが，三稜尖頭器のライフサイクルの中でリダクションを繰り返し，徐々に小型化する過程を示すものとして興味深い。中でも主軸長40㎜～45㎜程度の資料が小型三稜尖頭器の機能的な標準サイズと考えられ，完形のまま遺棄されたり小型で矮小化されたために加工が放棄される主軸長30㎜～35㎜の資料についてはライフサイクルの末端に位置づけられるものと評価しておきたい。このことは，先端部が欠損する32や先端部もしくは基部のみの破断資料のサイズを考慮しても矛盾しない。

また，これらの小型三稜尖頭器石器群に共伴する可能性があ る資料として，10，25と36の接合資料が挙げられる。10は素材を縦に利用する台形石器で裏面には平坦剥離が施されている。25は二次加工剥片である。36に含まれるナイフ形石器は，幅広の剥片の縁辺を折断し側縁と基部に二次加工を施したもので形態的には細身長身を呈する。10，36は第2ブロック，25は第11ブロックからの出土であり，第11ブロックでは黒曜石Ⅰ類の三稜尖頭器（1）が出土している。第2ブロックと第11ブロックは接合資料（33）を共有し，台形石器（12）が黒曜石Ⅱ類を素材とするなど，何らかの関連性が考えられる。これらの関係を積極的に評価すれば，小型三稜尖頭器と10の台形石器，25の二次加工剥片，36に含まれるナイフ形石器に共伴関係を認めうる。厳密な意味で三稜尖頭器石器群との共伴関係が認められる資料は現時点では少なく，小型三稜尖頭器とナイフ形石器等の共伴関係を検討する基礎資料としても期待される。

2 縄文時代

縄文時代早期の石材について述べる。Ⅴ層・Ⅵ層から3222点の石材が出土している。チャートが2406点出土し，最も多い。次に多いのが黒曜石で363点出土している（淀姫産類似黒曜石171点，上青木・桑ノ木津留産類似黒曜石139点，三船産類似黒曜石23点，上牛鼻産類似黒曜石21点，姫島産類似黒曜石5点，腰岳産類似黒曜石4点）。県外産と県内産の黒曜石の割合はほぼ半々である。以下安山岩166点，玉随128点，頁岩109点である。上記のチャート，黒曜石，安山岩，玉随，頁岩はほとんどが石鏃製作に伴うフレーク・チップと考えられる。次に多いのが砂岩の27点である。磨石，敲石，砥石，台石に利用されている。以下数の多い順に列挙すると，ホルンフェルスが13点，水晶5点，花崗岩4点，凝灰岩1点である。花崗岩は磨石，敲石，台石に利用されている。凝灰岩は台石に利用されている。それ以外は石鏃製作に伴うフレーク・チップと考えられる。なお，曽於市財部町大川原にチャートの原産地が知られる。

次に各エリアごとにブロックの特徴を述べる。1エリアには2か所のブロックが認められる。第1ブロックはＯＢ6と安山岩を中心としている。石鏃を1点伴う。吉田式もしくは塞ノ神式土器と分布が重なる。安山岩の分布はやや東側にずれる。第2ブロックはチャートとＯＢ6を中心としている。石鏃を1点伴う。撚糸文系土器と分布が重なる。2エリアには11か所のブロックが認められる。第3ブロックはチャートを中心としている。石鏃を4点伴う。また，口縁部が直行する石坂式土器と分布が重なる。第4ブロックはチャート・玉随・安山岩を中心としている。石鏃を8点伴う。第5ブロックはチャートを中心としている。石鏃を3点伴う。第6ブロックはチャート・安山岩を中心としている。石鏃を2点伴う。第7，8，9ブロックはチャートを中心としている。石鏃をそれぞれ4点，6点，2点伴う。第10ブロックは玉随とチャートを中心としている。石鏃を1点伴う。第11，12，13ブロックはチャートを中心としている。それぞれ石鏃を2点，2点，4点伴う。また，この区を中心として黒曜石が点在する。なお，第10～14ブロックは，加栗山式，吉田式土器と分布が重なる。3エリアには，ブロックは認められない。磨石が多く出土し，1，2，4エリアとは場の性格が異なる。4エリアには5か所のブロックが認められる。第14ブロックはチャートを中心としている。石鏃を1点伴う。第15ブロックはチャートを中心としている。第16ブロックは頁岩，チャート，安山岩等を中心としている。第17ブロックは頁岩，チャート，ＯＢ6を中心としている。石鏃を10点伴う。第18ブロックはチャート，安山岩，頁岩を中心としている。石鏃を6点伴う。第14～第18ブロックは概ね石坂式土器と分布が重なる。

加速器分析研究所

年代測定結果報告書

1）年代値の算出には，Libbyの半減期5568年を使用しています。

2）BP年代値は，1950年からさかのぼること何年前かを表しています。

3）付記した誤差は，次のように算出しています。
複数回（通常は４回）の測定値についてχ^2検定を行い，通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い，測定値が１つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。

4）δ^{13}Cの値は，通常は質量分析計を用いて測定しますが，ＡＭＳ測定の場合に同時に測定されるδ^{13}Cの値を用いることもあります。
δ^{13}C補正をしない場合の同位対比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は，いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{14}C = [(^{14}As - ^{14}A_R)/^{14}A_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}C = [(^{13}As - ^{13}A_{PDB})/^{13}A_{PDB}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで，^{14}As：試料炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)s$
または $(^{13}C/^{12}C)s$

$^{14}A_R$：標準現代炭素の14C濃度：$(14C/12C)_R$
または $(^{14}C/^{13}C)_R$

δ^{13}Cは，質量分析計を用いて試料炭素の^{13}C濃度（$^{13}As = ^{13}C/^{13}C$）を測定し，PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として，それからのずれを計算します。

但し，IAAでは加速器により測定中に同時に$^{13}C/^{12}C$も測定していますので，標準試料の測定値との比較から算出したδ^{13}Cを用いることもあります。この場合には表中に〔加速器〕と注記します。

また，Δ^{14}Cは，試料炭素が$\delta^{13}C = -25.0$(‰)であるとしたときの^{14}C濃度（^{14}AN）に換算した上で計算した値です。(1)式の^{14}C濃度を，δ^{13}Cの測定値をもとに式のように換算します。

$$^{14}A_N = {}^{14}As \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000))^2$$

（^{14}Asとして$^{14}C/^{12}C$を使用するとき）

または

$$= {}^{14}As \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000))$$

（^{14}Asとして$^{14}C/^{13}C$を使用するとき）

$$\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - ^{14}A_R)/^{14}A_R] \times 1000 \quad (‰)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については，海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭素ガス中の濃度と異なるため，同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合，同位体補正をしないδ^{14}Cに相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

^{14}C濃度の現代炭素に対する割合のもう１つの表記として，pMC（percent Modern Carbon）がよく使われており，Δ^{14}Cとの関係は次のようになります。

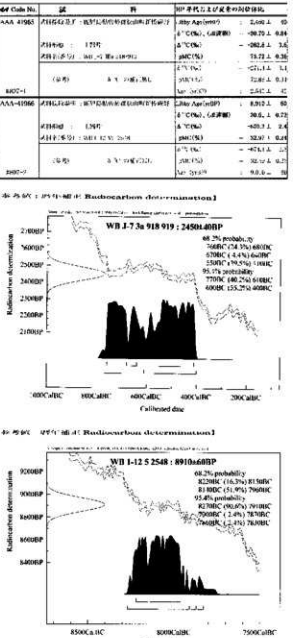
$$\Delta^{14}C = (pMC/100 - 1) \times 1000 \quad (‰)$$

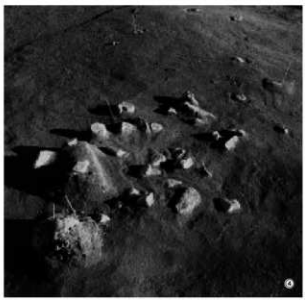
$$pMC = \Delta^{14}C/10 + 100 \quad (\%)$$

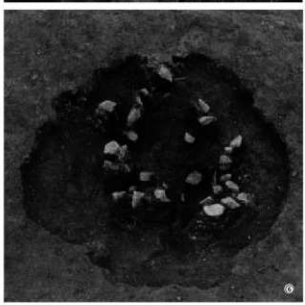
国際的な取り決めにより，このΔ^{14}CあるいはpMCにより，放射性炭素年代（ConventionalRadiocarbonAge：yrBP）が次のように計算されます。

$$T = -8033 \times \ln[(\Delta^{14}C/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln(pMC/100)$$

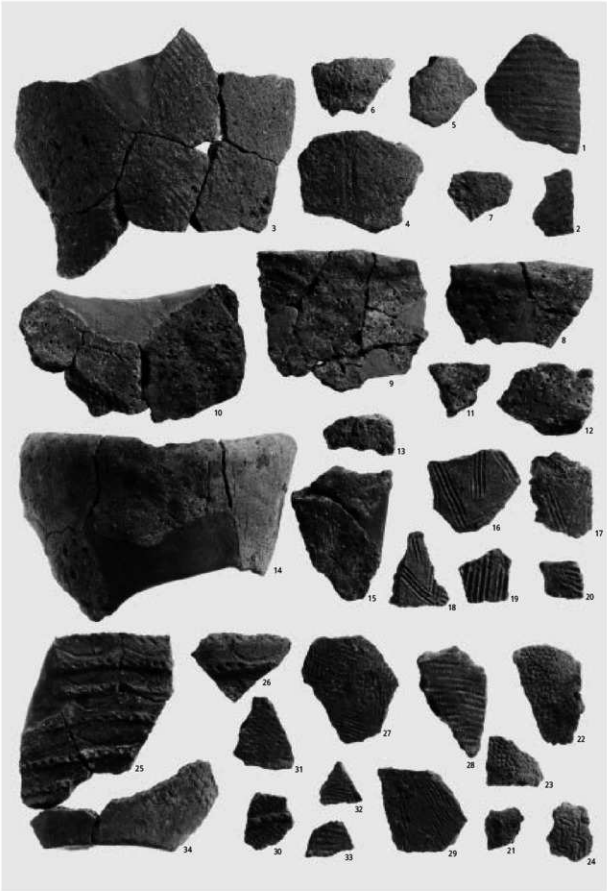






①１号集石
②２号集石
③３号集石
④４号集石
⑤５号集石
⑥１号土坑

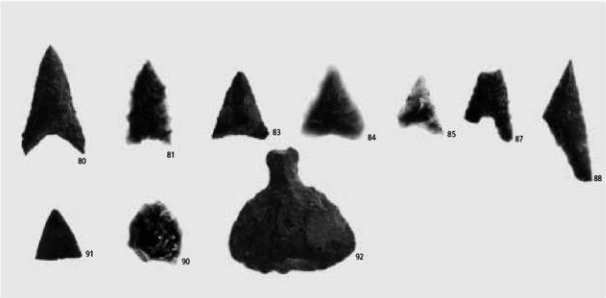
図版２　山ノ田遺跡Ｂ地点



縄文時代土器(1)

縄文時代土器(2)

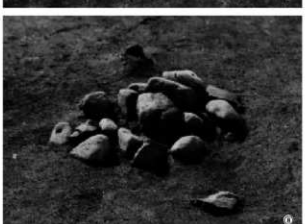
図版４　山ノ田遺跡Ｂ地点



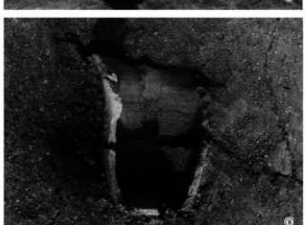
縄文時代石器

①遺跡遠景
②ＸＩ層ブロック２，３
③調査風景
④２号礫群
⑤ＸＩ層ブロック４

図版６　蕨野Ｂ遺跡

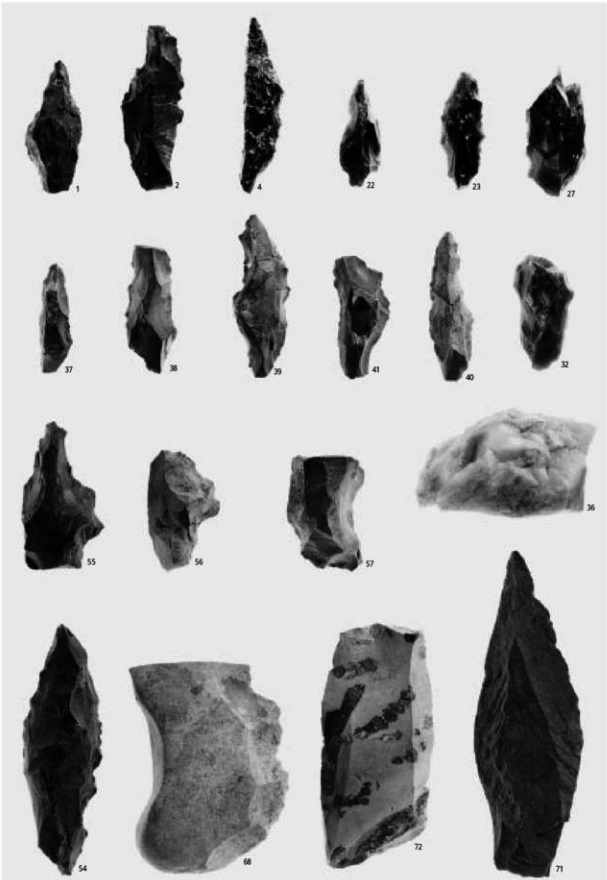


①３号集石
②４号集石
③10号集石
④11号集石
⑤13号集石
⑥14号集石
⑦15号集石
⑧16号集石（１段目）

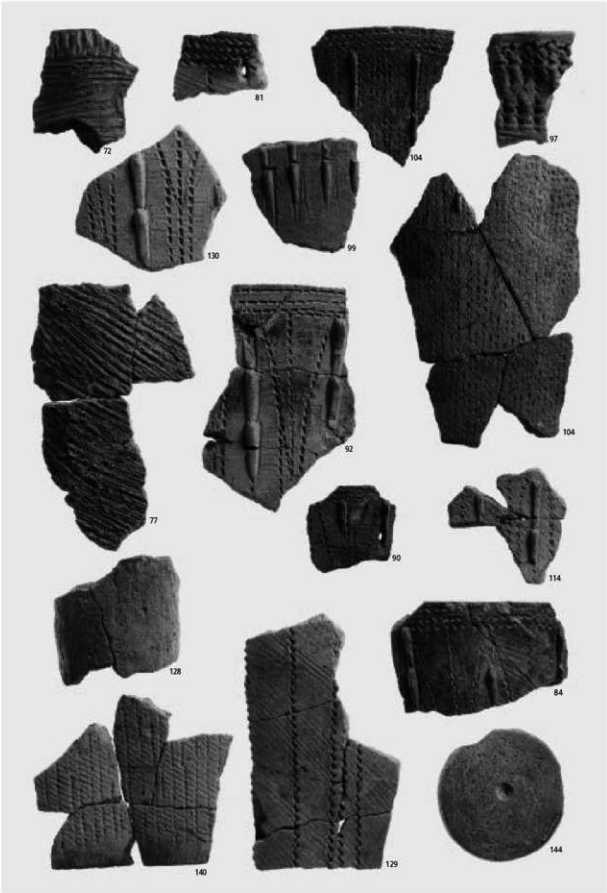


①16号集石（２段目）
②18号集石
③22号集石
④24号集石
⑤29号集石
⑥Ⅵ層遺物出土状況
⑦Ⅴ・Ⅵ層遺物出土状況
⑧土器出土状況

図版８　蕨野Ｂ遺跡

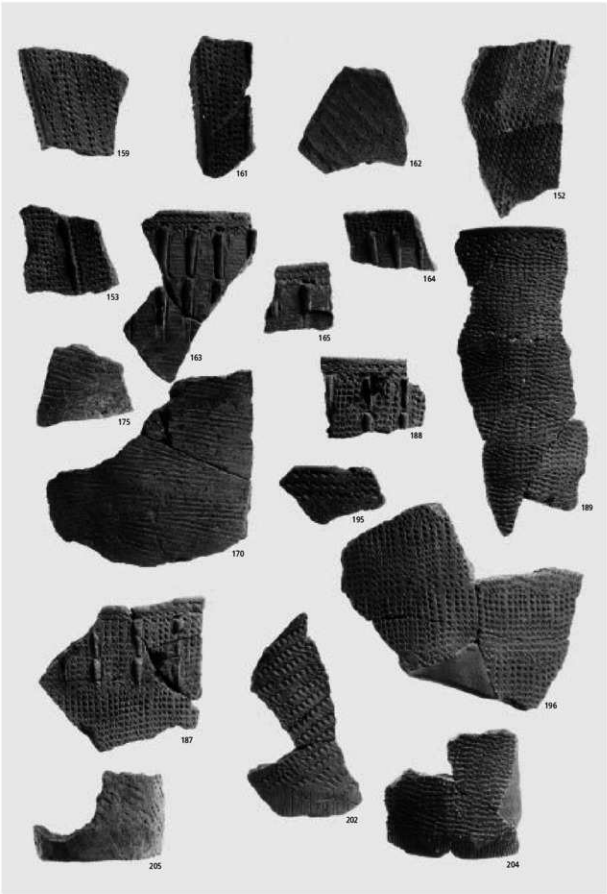


旧石器時代石器

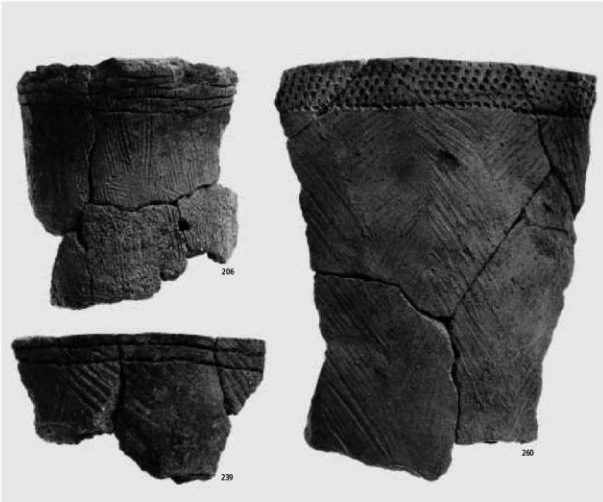


縄文時代土器(1)

図版10　蕨野Ｂ遺跡

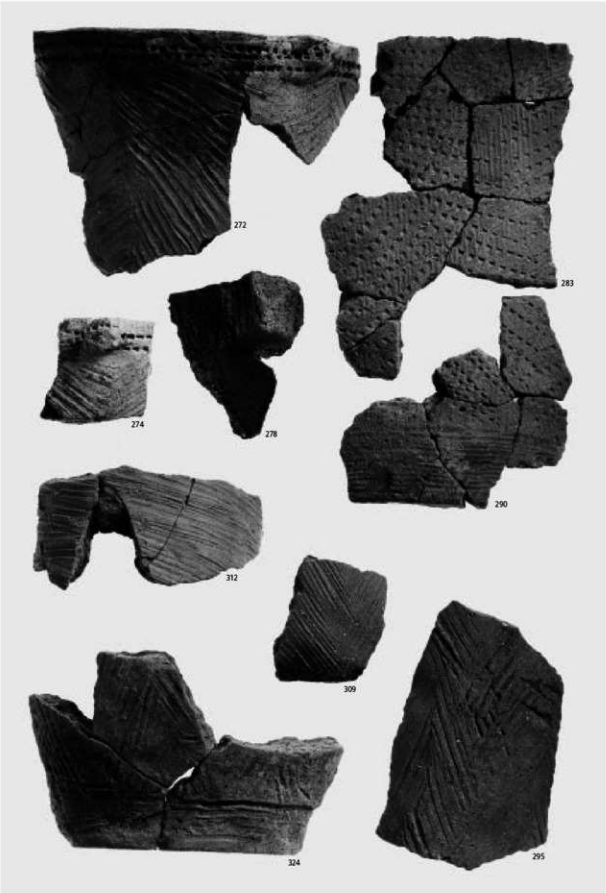


縄文時代土器(2)



縄文時代土器(3)

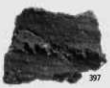
図　　版



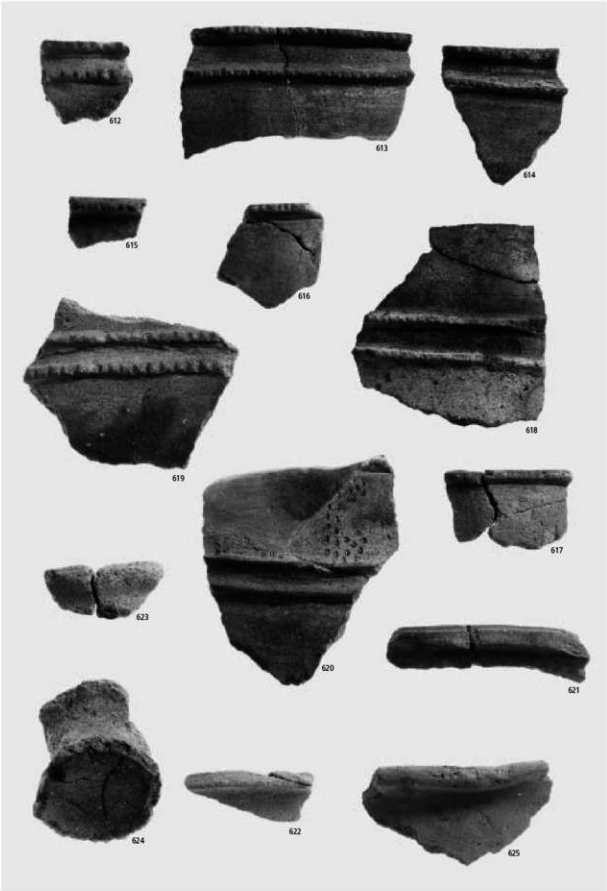
縄文時代土器(4)

縄文時代土器(5)

図版14　蕨野Ｂ遺跡

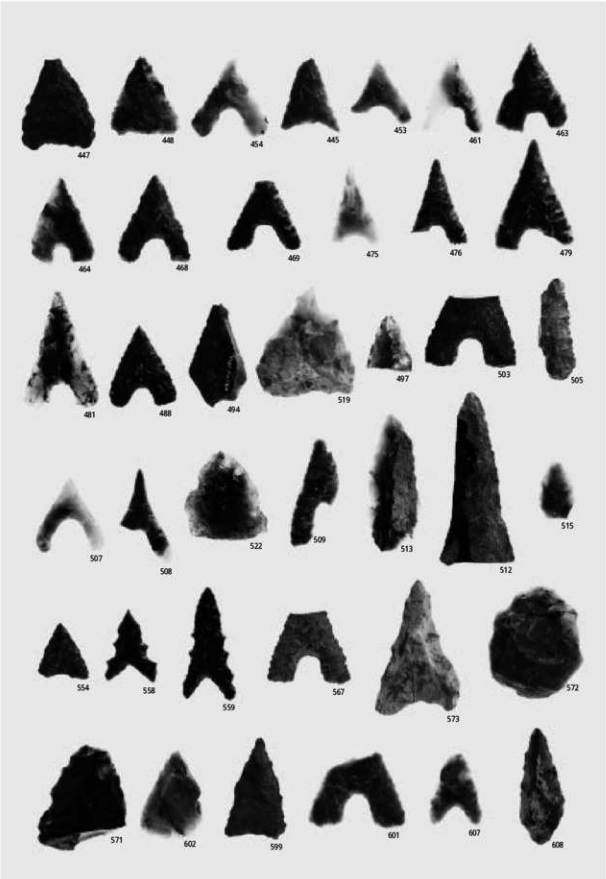


縄文時代土器(6)

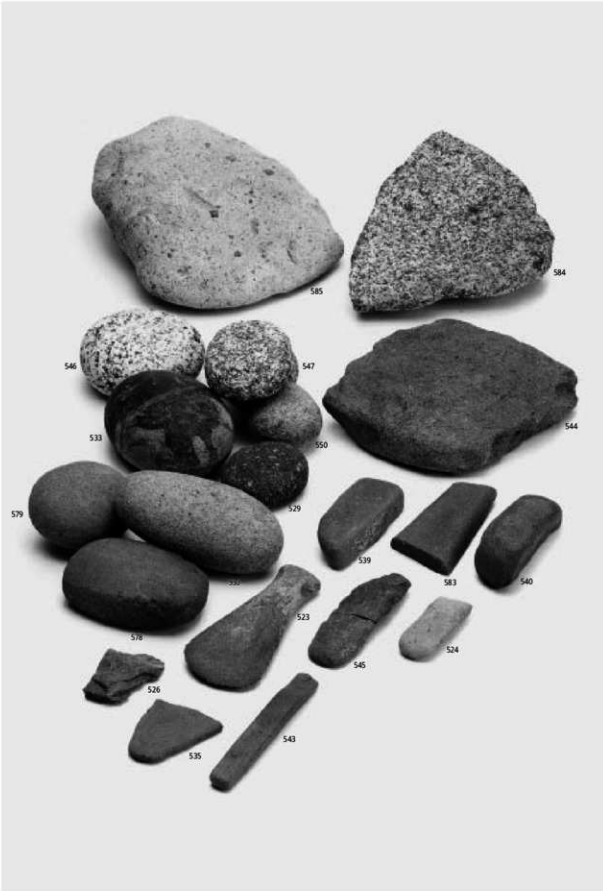


弥生時代・古代土器

図版16　蕨野Ｂ遺跡

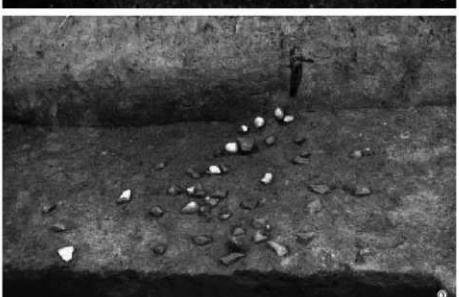


縄文時代石器(1)

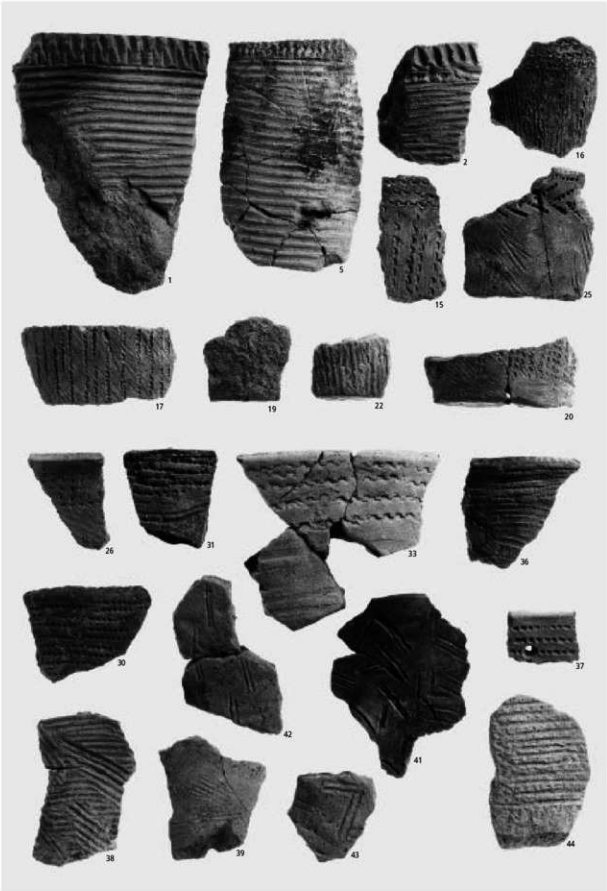

585
584
546
547
533
550
544
579
529
539
583
540
523
578
524
545
526
543
535

縄文時代石器(2)

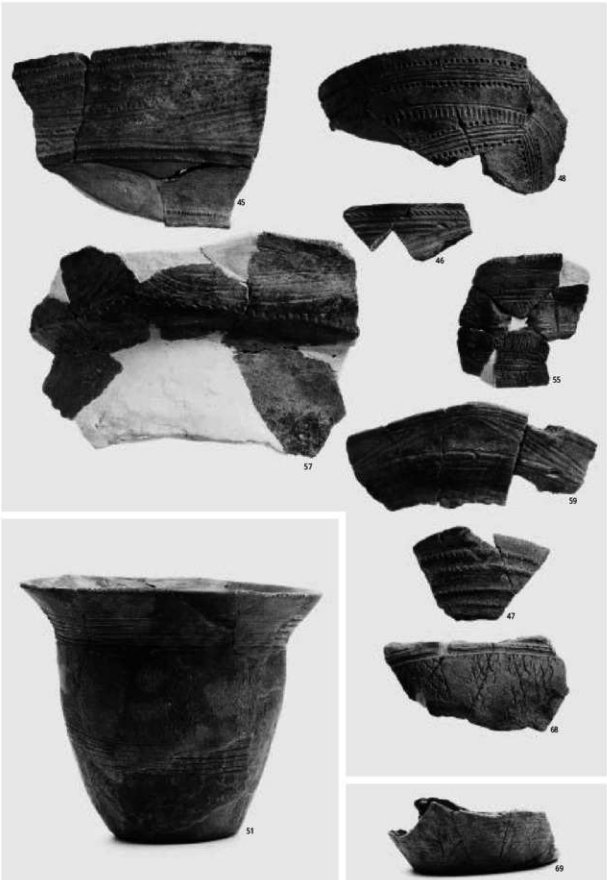
図版18　松ヶ尾遺跡



①３号集石
②６号集石
③８号集石



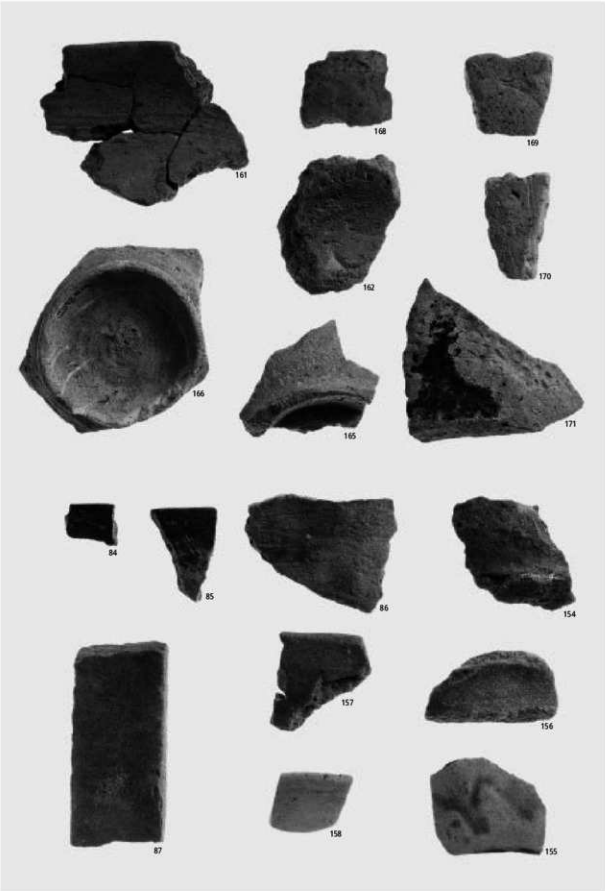
縄文時代土器(1)



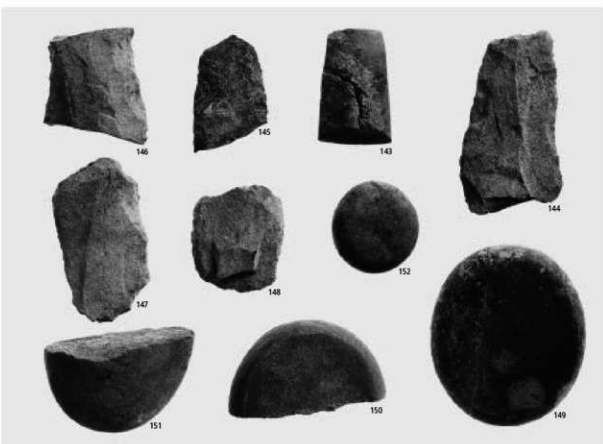
縄文時代土器(2)

縄文時代土器(3)

図版22　松ヶ尾遺跡

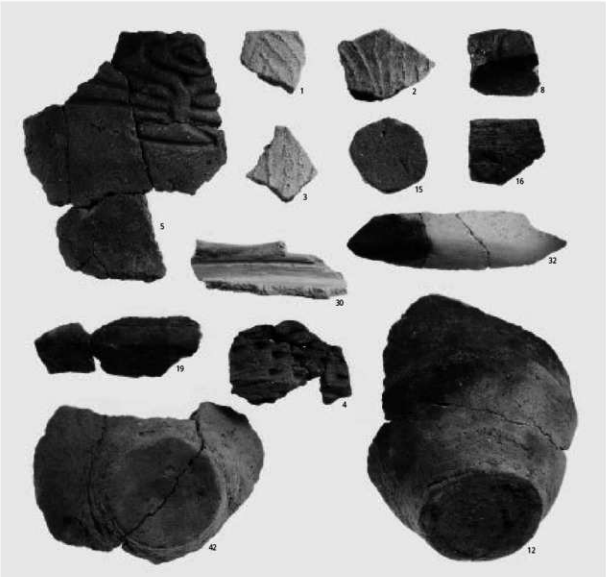


古代以降土器・石器



縄文時代石器

図版24　谷ヶ迫遺跡



縄文時代土器・石器

あ と が き

山ノ田遺跡は，初めて現場運営を任された遺跡であった。毎朝，１日の段取りを考えて発掘調査に臨んだが，自分の段取りどおりにうまくいったことはあまりなかった。現場は，掘り下がっていくにしたがい新たな姿をあらわし，しばし計画は変更を余儀なくされた。発掘調査は，瞬時の的確な判断が必要とされ，大きな責任を感じた。それ以上に，遺跡が徐々に姿をあらわしていくその瞬間に立ち会えることができたことは，この上ない幸せであった。また，真冬の調査で，非常に寒く，作業員さんたちが毎朝，たき火を焚いて出迎えてくれたことを思い出す。朝もやの中，たき火のまわりで暖をとる光景は縄文時代を彷彿とさせるものであった。

整理・報告書作成作業を一人で担当するのも初めてであった。何度か迷走しかけたが，まわりの先輩や同僚の方々の協力や助言，そして作業員さんたちの後押しに助けられた。現在の私の力量では体裁を整えるだけで精一杯であったが，本報告書の資料が広く活用されれば幸いに思う。

今回この発掘調査報告書を発刊するにあたり，発掘調査から報告書刊行まで関わったすべての方々に厚くお礼を申し上げます。

整理・報告書作成従事者（平成18年度）

大田佳代子　　川路加代子　　川畑裕美子　　郷田千秋

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（109）

山ノ田遺跡B地点　蕨野B遺跡
松ヶ尾遺跡　谷ヶ迫遺跡

発行日　2007年３月

発　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899－4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号

印　刷　株式会社あすなろ印刷
〒899－0041　鹿児島市城西2－2－36
ＴＥＬ（099）250－7033